世界はうつくしいと

長田 弘

うつくしいものの話をしよう。
いつからだろう。ふと気がつくと、
うつくしいということばを、ためらわず
口にすることを、誰もしなくなった。
そうしてわたしたちの会話は貧しくなった。
うつくしいものをうつくしいと言おう。
風の匂いはうつくしいと。渓谷の
石を伝わってゆく流れはうつくしいと。
午後の草に落ちている雲の影はうつくしいと。
遠くの低い山並みの静けさはうつくしいと。
きらめく川辺の光はうつくしいと。
おおきな樹のある街の通りはうつくしいと。
行き交いの、なにげない挨拶はうつくしいと。
花々があって、奥行きのある路地はうつくしいと。
雨の日の、家々の屋根の色はうつくしいと。
太い枝を空いっぱいにひろげる
晩秋の古寺の、大銀杏はうつくしいと。
冬がくるまえの、曇り日の、
南天の、小さな朱い実はうつくしいと。
コムラサキの、実のむらさきはうつくしいと。
過ぎてゆく季節はうつくしいと。
さらりと老いてゆく人の姿はうつくしいと。
一体、ニュースとよばれる日々の破片が、
わたしたちの歴史と言うようなものだろうか。
あざやかな毎日こそ、わたしたちの価値だ。
うつくしいものをうつくしいと言おう。
幼い猫とあそぶ一刻はうつくしいと。
シュロの枝を燃やして、灰にして、撒く。
何ひとつ永遠なんてなく、いつか
すべて塵にかえるのだから、世界はうつくしいと。

作者　**長田 弘**　一九三九（昭和一四）――二〇一五（平成二七）
福島県出身。詩人。
著書　詩集「深呼吸の必要」「心の中にもっている問題」など。
出典　「世界はうつくしいと」

国語 3



光村図書

言葉を味わう

各単元の扉には、一日のさまざまな時間帯を表す言葉を示している。言葉の豊かさや美しさを味わおう。



1 深まる学びへ
黎明【れいめい】



2 視野を広げて
朝【あさ】



3 言葉とともに
白昼【はくちゅう】



4 状況の中で
日盛り【ひざかり】



5 自らの考えを
昼下がり【ひるさがり】



6 いにしえの心を受け継ぐ
黄昏【たそがれ】



7 価値を生み出す
夜半【よわ】



8 未来へ向かって
東雲【しののめ】

国語 3 目次

世界はうつくしいと 詩 …… 長田弘 …… 6
学習の見通しをもとう …… 9
思考の地図 …… 11
この教科書で学習する皆さんへ／主体的な学びのために …… 14

1 深まる学びへ

握手 小説 …… 井上ひさし …… 16
[聞く] 意見を聞き、適切さを判断する …… 29
説得力のある構成を考えよう スピーチで心を動かす …… 32
学びて時に之を習ふ——「論語」から 漢文・解説 …… 38
季節のしおり 春 …… 42

2 視野を広げて

作られた「物語」を超えて 論説 …… 山極寿一 …… 44
思考のレッスン 具体化・抽象化 …… 52
論理の展開を意識して書こう グラフを基に小論文を書く …… 54

3 言葉とともに

俳句の可能性 俳句・解説 …… 宇多喜代子 …… 62
俳句の創作教室 …… 神野紗希 …… 66
俳句を味わう 俳句 …… 68
言葉の釣り糸を垂らす 随筆 …… いしいしんじ …… 69
語彙を豊かに 時代や世代による言葉の変化 …… 74

漢字に親しもう1 …… 28
文法への扉1 「走って」いるのは誰？ …… 31
言葉1 相手や場に応じた言葉遣い …… 36
漢文の訓読 …… 41

漢字1 熟語の読み方 …… 58
漢字に親しもう2 …… 60

言葉2 和語・漢語・外来語 …… 72

4 状況の中で

挨拶——原爆の写真によせて 詩 …… 石垣りん …… 100
故郷 小説 …… 魯迅／竹内好訳 …… 104
[推敲] 論理の展開を整える …… 120
聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る …… 124

言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語 …… 122
漢字2 漢字の造語力 …… 126

5 自らの考えを

複数の意見を読んで、考えよう ——正解が一つに決まらない課題と向き合う 論説 …… 真鍋淑郎・伊勢武史・堅達京子 …… 130
考えを効果的に伝えよう 多角的に分析して批評文を書く …… 136

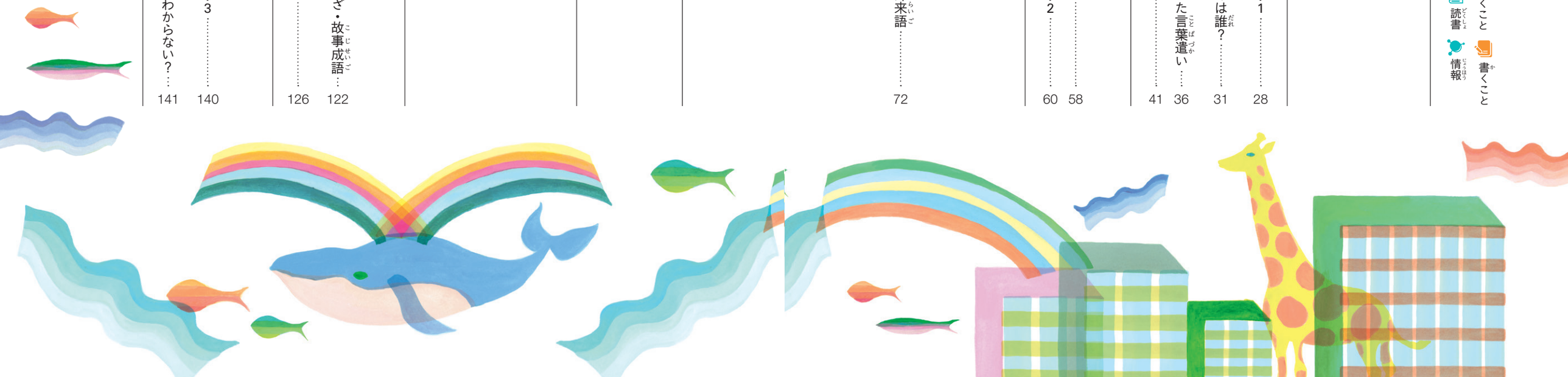
漢字に親しもう3 …… 140
文法への扉2 「ない」の違いがわからない？ …… 141

聴きひたる 初恋 詩 …… 島崎藤村 …… 142
季節のしおり 秋 …… 144

情報×SDGs …… 76
実用的な文章を読もう …… 78
報道文を比較して読もう …… 84
情報整理のレッスン 情報の信頼性 …… 86

いつも本はそばに …… 88
読書を楽しむ 読書活動 …… 90
「私の一冊」を探しにいこう 読書 …… 94
羊と鋼の森 …… 宮下奈都 …… 97
読書案内 本の世界を広げよう …… 98
コラム ためになるってどんなこと？ …… 森絵都 …… 100
季節のしおり 夏 …… 104

話すこと・聞くこと　書くこと　読むこと　読書　情報



6 いにしえの心を受け継ぐ

和歌の世界 古典・解説 …… 146
音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序 古文・音読 …… 148
君待つと ――万葉・古今・新古今 古文 …… 150
夏草 ――「おくのほそ道」から 古文 …… 156
つながる古典 古典・解説 …… 166
古典名作選 古文・漢文 …… 168

7 価値を生み出す

それでも、言葉を 論説 …… 172
［話し合い（進行）］話し合いを効果的に進めよう …… 183
季節のしおり 冬 …… 185
合意形成に向けて話し合おう 課題解決のために会議を開く …… 186

いつも本はそばに

本は世界への扉 読書 …… 190
天、共に在り …… 196
極夜行 …… 198
読書案内 本の世界を広げよう

8 未来へ向かって

温かいスープ 随筆 …… 202
アラスカとの出会い 随筆 …… 206
律儀な桜 随筆 …… 214
わたしを束ねないで 詩 …… 216
三年間の歩みを振り返ろう 冊子にまとめて、発表会をする …… 220

初日 詩 …… 228

学びを深める

文法 一、二年生の復習 …… 230
文法1 文法を生かす …… 233
文法2 文法のまとめ …… 240
小学校六年生で学習した漢字一覧 …… 242

国語の力試し

…… 247

資料編

「学びのカギ」一覧 文学的な文章を読むために …… 256
「学びのカギ」一覧 説明的な文章を読むために …… 258
「学びのカギ」一覧 豊かに表現するために …… 260
発想を広げる ――表現テーマ例集 …… 262
グラフの見方／引用・出典 …… 265
話し合いの方法 …… 267
二つの悲しみ …… 268
高瀬舟 …… 272
古典芸能の世界 ――歌舞伎・浄瑠璃 …… 284
古典・近代文学の名作 …… 286
日本文学の流れ …… 292
郷土ゆかりの作家・作品 …… 298
［発展］文語の活用 …… 302
常用漢字表について …… 304
三年生で学習した漢字 …… 306
三年生で学習した音訓 …… 317
常用漢字表 …… 318
常用漢字表 付表 …… 332
［索引］学習のための用語一覧 …… 334
ICT活用のヒント …… 337

今道友信 …… 202
星野道夫 …… 206
角田光代 …… 214
新川和江 …… 216
中村哲 …… 190
角幡唯介 …… 196
鷲田清一 …… 172
松尾芭蕉 …… 156
池田瑛子 …… 224
杉山龍丸 …… 268
森鷗外 …… 272

漢字3 …… 155
和歌の表現技法 …… 155
漢字のまとめ …… 180
漢字に親しもう4 …… 182
俳句と俳諧 …… 164
漢字に親しもう5 …… 226



学習の見通しをもとう

一年間でどんな学習をし、どんな力を身につけるかを見通そう。他教科やSDGsとの関連も意識しよう。

■ 知識・技能／思考力・判断力・表現力

※重点的に学習する内容を濃い色で示した。



聞く・話す・聞く	聞く	教材	29	知識・技能	情報の信頼性	思考・判断・表現	判断して聞く	関連	全教科（全）
	主張・提案	説得力のある構成を考えよう	32						
	対話・質問	スピーチで心を動かす							
	話し合い（進行）	聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る	124		言葉遣い				
	議論	話し合いを効果的に進めよう	183		具体・抽象				
	発表	合意形成に向けて話し合おう	186		具体・抽象				
		課題解決のために会議を開く							
		三年間の歩みを振り返ろう	220		文章の種類				
		冊子にまとめて、発表会をする							
書く	小論文	論理の展開を意識して書こう	54	知識・技能	意見・根拠	思考・判断・表現	集める・整理する	関連	全
		グラフを基に小論文を書く							
	批評	考えを効果的に伝えよう	136		具体・抽象				
		多角的に分析して批評文を書く							
	推敲	論理の展開を整える	120		意見・根拠				
	報道文	報道文を比較して読もう	78		情報の信頼性		情報整理		社会・総合 15
	創作（俳句）	俳句の創作教室	66		語感・語彙				
	小論文	論理の展開を意識して書こう	54				組み立てる		
		グラフを基に小論文を書く					論理の展開		
	批評	考えを効果的に伝えよう	136		具体・抽象		組み立てる		
		多角的に分析して批評文を書く							
	推敲	論理の展開を整える	120		意見・根拠				
	報道文	報道文を比較して読もう	78		情報の信頼性		情報整理		
	創作（俳句）	俳句の創作教室	66		語感・語彙				
	小論文	論理の展開を意識して書こう	54				組み立てる		
		グラフを基に小論文を書く					論理の展開		
	批評	考えを効果的に伝えよう	136		具体・抽象		表現する		
		多角的に分析して批評文を書く							
	推敲	論理の展開を整える	120		意見・根拠				
	報道文	報道文を比較して読もう	78		情報の信頼性				
	創作（俳句）	俳句の創作教室	66		語感・語彙				
	小論文	論理の展開を意識して書こう	54						
		グラフを基に小論文を書く							
	批評	考えを効果的に伝えよう	136		具体・抽象	

編集	三年間の歩みを振り返ろう 冊子にまとめて、発表会をする	220	
文章の種類			
構成の工夫			
書写・総合			

■知識・技能

言葉	文法	文法 一、二年生の復習	228
		文法への扉1 「走って」いるのは誰?	31
		→ 文法1 文法を生かす	230
		文法への扉2 「ない」の違いがわからない?	141
		→ 文法2 文法のまとめ	233
	言葉	言葉1 相手や場に応じた言葉遣い	36
		言葉2 和語・漢語・外来語	72
		語彙を豊かに 時代や世代による言葉の変化	74
		言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語	122
		語彙ブック 関 書写	247
	漢字	漢字1 熟語の読み方	58
		漢字2 漢字の造語力	126
		漢字3 漢字のまとめ	180
		漢字に親しもう1〜5	28・60・140・182・226
情報	思考のレッスン	具体化・抽象化	52
	情報×SDGs 12 15	実用的な文章を読もう	76
		報道文を比較して読もう	78
	情報整理のレッスン	情報の信頼性	84
古典	漢文・解説	学びて時に之を習ふ ——「論語」から	38
	漢文	漢文の訓読	41
	古典・解説	和歌の世界	146
	古文・音読	古今和歌集 仮名序	148
	古文	君待つと——万葉・古今・新古今 関 書写	150
	古文	和歌の表現技法	155
	古文	夏草——「おくのほそ道」から 関 書写	156
	古文・漢文	古典名作選	168
読書	古典・解説	つながる古典	166
	古文	俳句と俳諧	164
	読書活動	読書を楽しむ 関 書写	86
	読書	「私の一冊」を探しにいこう	88
	読書案内	本の世界を広げよう 1 4 9 10 11 16 17	94・198
	コラム	ためになるってどんなこと?	97
	読書	本は世界への扉 関 書写	190
言語文化	漢文・解説	学びて時に之を習ふ ——「論語」から	38
	漢文	漢文の訓読	41
	古典・解説	和歌の世界	146
	古文・音読	音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序	148
	古文	君待つと——万葉・古今・新古今 関 書写	150
	古文	和歌の表現技法	155
	古文	夏草——「おくのほそ道」から 関 書写	156
	古典・解説	俳句と俳諧	164
	古文・漢文	古典名作選	168
読書	古典・解説	つながる古典	166
	古文	俳句と俳諧	164
	読書活動	読書を楽しむ 関 書写	86
	読書	「私の一冊」を探しにいこう	88
	読書案内	本の世界を広げよう 1 4 9 10 11 16 17	94・198
	コラム	ためになるってどんなこと?	97
	読書	本は世界への扉 関 書写	190
論説・随筆・実用文・報道文	論説	作られた「物語」を超えて	44
	随筆	言葉の釣り糸を垂らす	69
	実用文	実用的な文章を読もう	76
	報道文	報道文を比較して読もう	78
	論説	複数の意見を読んで、考えよう ——正解が一つに決まらない課題と向き合う	130
	論説	それでも、言葉を	172
	随筆	アラスカとの出会い	206
	漢文・解説	学びて時に之を習ふ ——「論語」から	38
古典	古文	君待つと——万葉・古今・新古今	150
	古文	夏草——「おくのほそ道」から	156
読書	読書	羊と鋼の森	90
	読書	天、共に在り／極夜行	190
文学	詩	世界はうつくしいと	教材
	小説	握手	16
	俳句・解説	俳句の可能性	62
	俳句	俳句を味わう	68
	詩	挨拶——原爆の写真によせて	100
	小説	故郷	104
	詩	初恋	142
	随筆	温かいスープ	202
	随筆	律儀な桜	214
	詩	わたしを束ねないで	216
	詩	初日	224
論説・随筆・実用文・報道文	論説	作られた「物語」を超えて	44
	随筆	言葉の釣り糸を垂らす	69
	実用文	実用的な文章を読もう	76
	報道文	報道文を比較して読もう	78
	論説	複数の意見を読んで、考えよう ——正解が一つに決まらない課題と向き合う	130
	論説	それでも、言葉を	172
	随筆	アラスカとの出会い	206
古典	漢文・解説	学びて時に之を習ふ ——「論語」から	38
	古文	君待つと——万葉・古今・新古今	150
	古文	夏草——「おくのほそ道」から	156
読書	読書	羊と鋼の森	90
	読書	天、共に在り／極夜行	190
読む	知識・技能	語感・語彙	世界はうつくしいと
		語感・語彙	握手
		語感・語彙	俳句の可能性
		語感・語彙	俳句を味わう
		語感・語彙	挨拶——原爆の写真によせて
		語感・語彙	故郷
		語感・語彙	初恋
		語感・語彙	温かいスープ
		読書	律儀な桜
		語感・語彙	わたしを束ねないで
		語感・語彙	初日
		情報の信頼性	複数の意見を読んで、考えよう ——正解が一つに決まらない課題と向き合う
		文章の種類	実用的な文章を読もう
		具体・抽象	作られた「物語」を超えて
		語感・語彙	言葉の釣り糸を垂らす
		読書	それでも、言葉を
		読書	アラスカとの出会い
		言語文化	学びて時に之を習ふ ——「論語」から
		言語文化	君待つと——万葉・古今・新古今
		言語文化	夏草——「おくのほそ道」から
		読書	羊と鋼の森
		読書	天、共に在り／極夜行
思考・判断・表現	捉える	展開のしかた	16
		人物像	62
	読み深める	表現の評価	62
		表現の評価	68
		表現の評価	100
		批判的に読む	104
		表現の評価	142
		批判的に読む	202
		表現の評価	214
		論理の展開・表現の評価	216
		表現の評価	224
	考えをもつ	考えを深める	語感・語彙
		考えを深める	語感・語彙
		考えを深める	語感・語彙
		考えを深める	語感・語彙
		考えを深める	語感・語彙
		作品を批評する	読書
		考えを深める	読書
		考えを深める	読書
		考えを深める

思考の地図 ——思考の旅に出かけよう

場面や目的に応じてさまざまな思考法（考え方）を使い、課題を解決したり自分の考えを深めたりしていこう。

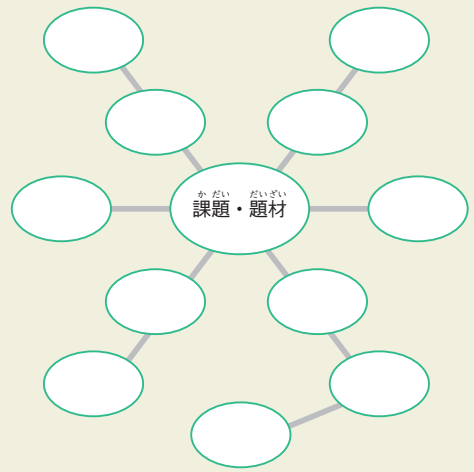
思考を広げる



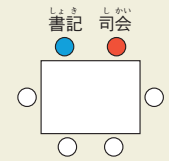
- どのように情報を集めようか。
- テーマはこれでよいだろうか。
- 新しいアイデアを出したいな。

広げる　**思い出す・振り返る**

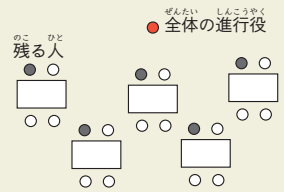
◆マッピング
思いついた考えや物事をつないで広げていく。



◆ブレーンストーミング
アイデアを広げるための話し合い。
186ページ　267ページ



◆ワールド・カフェ
アイデアを広げるための話し合い。一つのテーマについて、メンバーを替えながら話し合う。
267ページ



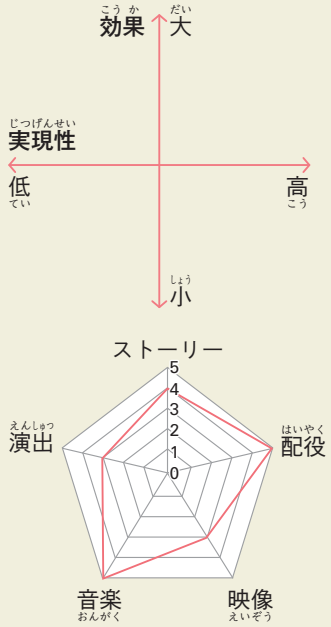
思考を整理する



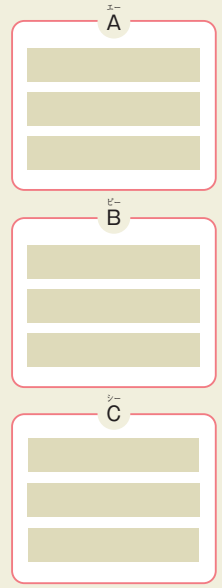
- どんな方法で情報を整理しよう。
- 図式化すると、自分の考えが整理されるな。
  みんなで考えを共有することもできる。

比較する・分類する

◆軸
軸を設けて、物事の程度や度合いなどを示す。
187ページ



◆分類
共通点などに注目してグループに分ける。
187ページ

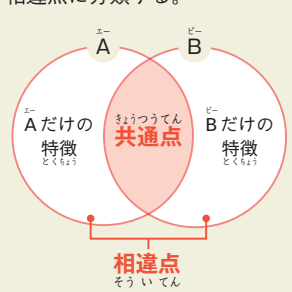


◆観点
目的に合った「観点」を決め、表に整理する。
82ページ　134ページ　138ページ

	観点❶	観点❷	観点❸
A			
B			
C			

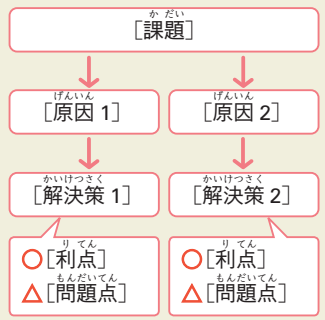
（比較するもの：A・B・C）

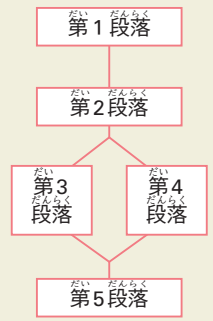
◆共通点・相違点
複数の物事の特徴を、共通点と相違点に分類する。

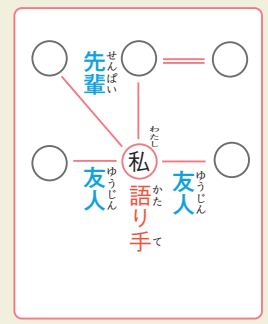


順序立てる・関係づける

◆順序・流れ・関係
物事の順序や流れ、関係などを矢印や囲みなどを用いて表す。







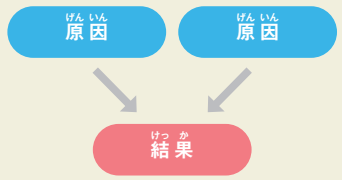
思考を深める



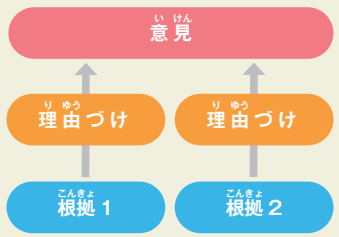
- 情報の関係をつかむ力が大事だ。
- 場面や目的に合った思考法を使えるようになりたいな。

分析する・吟味する

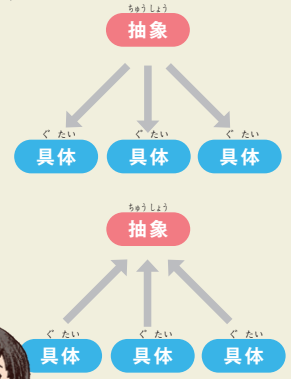
◆原因と結果
話や文章の中に含まれる原因と結果の関係を理解する。
135ページ



◆意見と根拠
意見を裏づけるための、より適切な根拠について吟味する。
55ページ



◆具体と抽象
話や文章の中に含まれる具体と抽象の関係を理解して使う。
51ページ　52ページ　179ページ





この教科書で学習する皆さんへ

この教科書を使う皆さんが、学習や振り返りをする際に役立つ教科書の構成を説明している。効果的に学習を進めるために活用しよう。

教科書の構成

本編

1 深まる学びへ
2 視野を広げて
3 言葉とともに
情報×SDGs
いつも本はそばに
4 状況の中で
5 自らの考えを
6 いにしえの心を受け継ぐ
7 価値を生み出す
いつも本はそばに
8 未来へ向かって

学びを深める

文法・漢字
国語の力試し
語彙ブック

資料編

本編

思考力・判断力・表現力

- 「話すこと・聞くこと」の学習。
- 「書くこと」の学習。
- 「読むこと」の学習。

知識・技能

- 情報　情報と情報との関係、情報の整理などについて学ぶ教材。
- 読書　読書に親しみ、考えを広げたり深めたりする教材。
- 言葉・漢字・文法　「文法への扉」は、巻末の「文法」と共に学習しよう。

資料編

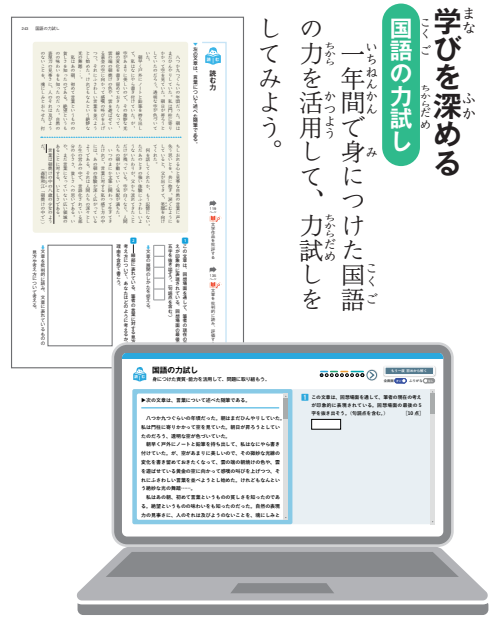
本編の学習を支える資料。必要に応じて活用しよう。

資料編デジタル

学びを深める

国語の力試し

一年間で身につけた国語の力を活用して、力試しをしてみよう。



語彙ブック

ぴったりの表現を見つけるための語彙一覧。学習や日常生活の中で、いつでも活用しよう。





主体的な学びのために

ここでは、見通しをもって、主体的に学習に取り組むときに役立つ教科書の機能を説明している。教科書を有効に活用し、自分の学びを深めていこう。



見通しをもつ

「学習活動」と「目標」を確認し、学習の見通しをもとう。

実行する・試行錯誤する

資料編「学びのカギ」一覧（256〜261ページ）やデジタル資料「学びの地図」では、学習の全体像が見通せる。

振り返る

学んだことを観点ごとに振り返り、自分の言葉でまとめよう。

振り返る
- 知る　□「知識・技能」
- 読む　□「思考・判断・表現」
- つなぐ　□「主体的に学習に取り組む態度」

学びのカギ

「学びのカギ」で、学習のポイントや、前後の学習とのつながりを確かめよう。

資料編「学びのカギ」一覧（256〜261ページ）やデジタル資料「学びの地図」では、学習の全体像が見通せる。

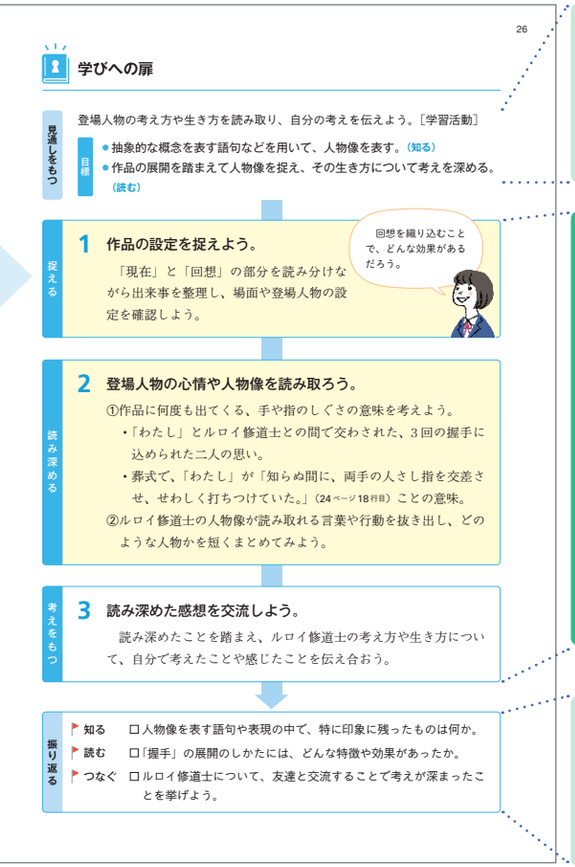
言の葉ポケット

言葉の観点から学びを深め、自分の言葉を増やしていこう。

学習のポイント



学習の流れ



主な記号など

- **新出漢字・新出音訓**
  漢 中学校で初めて学習する漢字。
  音訓 中学校で初めて学習する漢字の音訓。
- **注意する語句**　次の活動をしてみよう。
  意 意味を調べる。　文 短文を作る。
  類 類義語を調べる。　対 対義語を調べる。
  関 関連語句を確認する。
- **関連する学習**
  000ページ 関連する教材や資料のページ。
- **ICT機器（パソコン・タブレット）の活用**
  音声や映像を使用した学習。



教材冒頭の「学習の流れ」の中に、ICTを活用すると効果的な学習場面を示した。詳しい内容は、パソコンマークなどに表示。

二次元コードから、学習の参考となる資料を読み取ることができる。

※インターネットの環境によっては、通信料が発生する場合があるので注意しよう。

デジタル資料目次

※ICTの活用場面や二次元コードの一覧は、「ICT活用のヒント」（337ページ）を参照。

書体について

書籍などで広く使われる書体。この教科書では、手書きの文字に近づけた特別な明朝体を使用。

明朝体	教科書体	ゴシック体
永	永	永
手書きの文字に近い書体。この教科書では、新出漢字欄、付録の漢字表などで使われている。	強調したい部分に使われる書体。この教科書では、教材名や見出しなどに使われている。	

続けてみよう

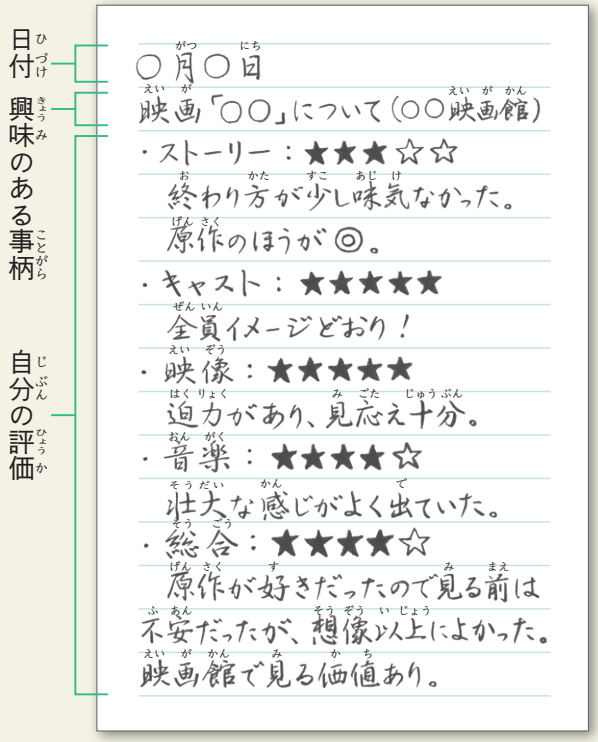


興味のある事柄や心に残る言葉に出会ったら、書き留めておこう。次の例を参考に、一年間、記録を続け、折に触れて紹介し合おう。

「私の評価」メモ

▼小論文・批評文や読書会などの題材に。

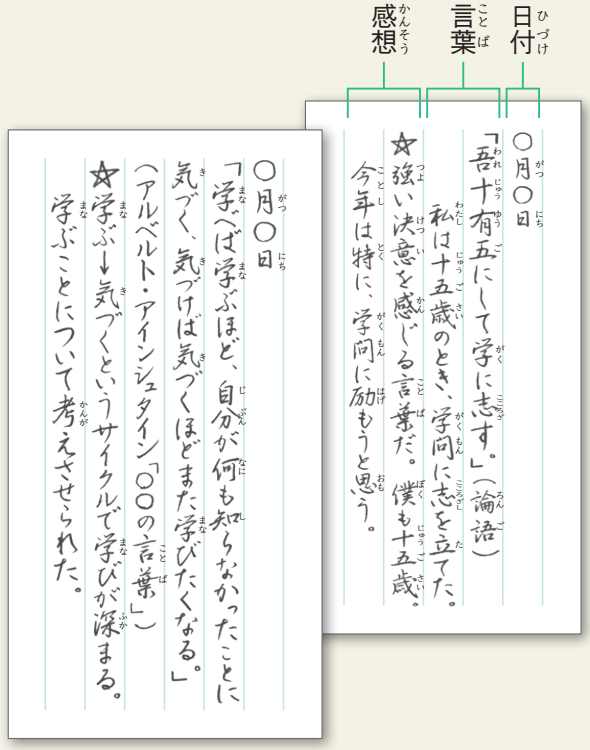
小説や映画、広告、テレビ番組、音楽、料理などから、興味や関心のある事柄を取り上げ、自分なりに評価したり、友達と意見を伝え合ったりしてみよう。



アンソロジー

▼作品集は発表したり読み合ったりするとよい。

心に残る詩や文章に出会ったら、一節を選んで書き留めよう。書きためたら、テーマを決めて自分なりの作品集（アンソロジー）を編んでみよう。



1 深まる学びへ

表現の豊かさを味わい、生き方を考える

握手 小説 …… 井上ひさし

漢字に親しもう1

［聞く］意見を聞き、適切さを判断する

文法への扉1 「走って」いるのは誰？

説得力のある構成を考えよう

スピーチで心を動かす

言葉1 相手や場に応じた言葉遣い

学びて時に之を習ふ

――「論語」から 漢文・解説

漢文の訓読

季節のしおり 春



時を表す言葉1 黎明 | 明け方。夜明け。

握手

井上 ひさし

読む

登場人物の考え方や生き方を読み取り、自分の考えを伝えよう。［学習活動］

目標

- 抽象的な概念を表す語句などを用いて、人物像を表す。
- 作品の展開を踏まえて人物像を捉え、その生き方について考えを深める。

上野公園に古くからある西洋料理店へ、ルロイ修道士は時間はもうとうに散って、葉桜にはまだ間があって、そのうえ動物毒になるぐらいすいている。椅子から立って手を振って居所を「呼び出したりしてすみませんね。」と達者な日本語で声をかけながら、こっちへ寄ってきた。ルロのは第二次大戦直前の昭和十五年の春、それからずっと日本暮年季が入っている。

「今度故郷へ帰ることになりました。カナダの本部修道院で畑しましょう。さよならを言うために、こうして皆さんに会ってくでした。」

ルロイ修道士は大きな手を差し出してきた。その手を見て思丘天使園の子供たちの間でささやかれていた「天使の十戒」を学三年の秋から高校を卒業するまでの三年半、わたしはルロイ修道士が園長を務める児童養護施設の厄介になっていたが、そこには幾つかの「べからず集」があった。子供の考え出したものであるから、べつにたいしたべからず集ではなく、「朝のうちに弁当を使うべからず（見つかると、次の日の弁当がもらえなくなるから）。」、「朝晩の食事は静かに食うべからず（ルロイ先生は、園児がにぎやかに食事をしているのを見るのが好きだから）。」、「洗濯場の手伝いは断るべからず（洗濯場主任のマイケル先生は気前がいいから、きっとバター付きパンをくれるぞ）。」といった式の無邪気な代物で、その中に、「ルロイ先生とうっかり握手をすべからず（二、三日鉛筆が握れなくなっても知らないよ）。」というのがあったのを思い出して、それで少しばかり身構えたのだ。この「天使の十戒」が、さらにわたしの記憶の底から、天使園に収容されたときの光景を引っ張り出した。

風呂敷包みを抱えて園長室に入っていったわたしを、ルロイ修道士は机越しに握手で迎えて、

「ただいまから、ここがあなたの家です。もう、なんの心配もいりませんよ。」

と言ってくれたが、彼の握力は万力よりも強く、しかも腕を勢いよく上下させるものだから、こっちの肘が机の上に立ててあった聖人伝にぶつかって、腕がしびれた。

10 ・ ・ ・ ・ ・ 5 ・ ・ ・ ・ ・

1 **上野公園** 東京都台東区にある、日本最初の公立公園。桜の名所で、園内には動物園や博物館などがある。

1 **修道士** キリスト教の宗派の一つであるカトリックで、清貧・貞潔・服従の三つの誓いを立てて修行する人。

6 **第二次大戦** 一九三九年にヨーロッパで始まった第二次世界大戦のこと。日本は一九四一（昭和一六）年に参戦した。

5 **達者** 意

7 **年季が入る** 意

（16ページ）

12 **十戒** キリスト教などにおける十か条の戒め。

13 **児童養護施設** 保護者のいない児童など、養護を必要とする者を入所させ、その生活を保障する施設。

（17ページ）

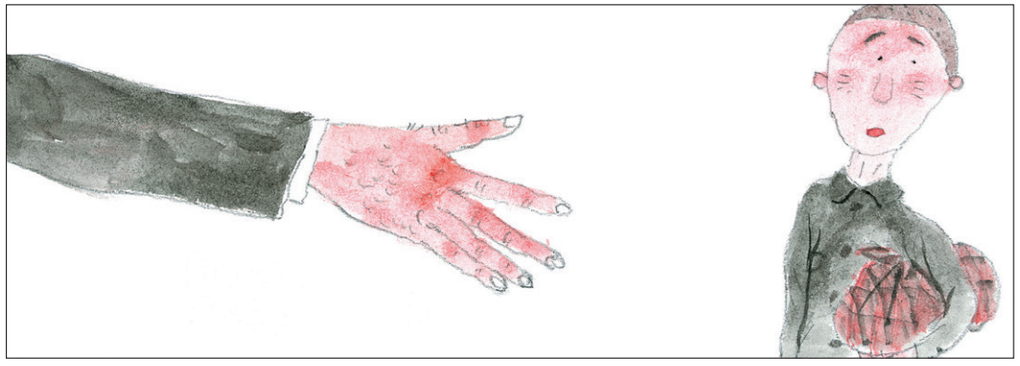
20 **聖人伝** キリスト教の聖人の伝記。カトリック教会では、殉教者など特に信仰が深く、徳の高い人物に「聖人」の称号が与えられた。

7 **気前がいい** 意

6 **濯** 漢 タク

洗濯場

9 **代物**（しろもの） 訓



20 ・ ・ ・ ・ ・ 15 ・ ・ ・ ・ ・ 10 ・ ・ ・ ・ ・ 5 ・ ・ ・ ・ ・

だが、顔をしかめる必要はなかった。それは実に穏やかな握手だった。ルロイ修道士は病人の手でも握るようにそっと握手をした。それから、このケベック郊外の農場の五男坊は、東京で会った、かつての収容児童たちの近況を熱心に語り始めた。だが、彼のてのひらはもうギチギチとは鳴らない。あの頃はよく鳴ったのに。園長でありながら、ルロイ修道士は訪問客との会見やデスクワークを避けていた。そのために、彼の手はいつも汚れが運ばれてきた。ルロイ修道士の前にはプレーンオムレツが置かれた。

「おいしそうですね。」

ルロイ修道士はオムレツの皿をのぞき込むようにしながら、両のてのひらを擦り合わせる。舎にいて、子供たちの食料を作ることに精を出していた。そのたいてのひらは、擦り合わせるたびにギチギチと鳴ったものだった。

「先生の左の人さし指は、相変わらず不思議なかっこうをしている。」

フォークを持つ手の人さし指がぴんと伸びている。指の先の爪は潰れており、鼻くそを丸めたようなものがこびりついている。正常な爪はもう生えてこないのである。あの頃、ルロイ修道士の奇妙な爪について、天使園にはこんなうわさが流れていた。日本にやって来て二年もしないうちに戦争が始まり、ルロイ修道士たちは横浜から出帆する最後の交換船でカナダに帰ることになった。ところが日本側の都合で、交換船は出帆中止になってしまったのである。そして、連れていかれたところは丹沢の山の中。戦争が終わるまで、ルロイ修道士たちはここで荒れ地を開墾し、みかんと足柄茶を作らされた。そこまではいいのだが、カトリック者は日曜日の労働を戒律で禁じられているので、ルロイ修道士が代表となって監督官

2 **ケベック** カナダ南東部の都市。
4 **プレーンオムレツ** 野菜や肉などを入れずに、溶いた卵だけをバターで焼いた料理。
16 **交換船** 交戦国が、互いに在留民や捕虜を交換するために派遣する船。
18 **丹沢** 神奈川県北西部から、静岡・山梨両県の一部にまたがる丹沢山地のこと。

9 **精を出す** 文
15 **奇妙** 意

1 漢 **穏** オン おだやか
8 漢 **鶏** ケイ にわとり
13 漢 **爪** つめ つま
19 漢 **墾** コン
20 漢 **監** カン
20 漢 **督** トク

穏やか
鶏舎
爪
開墾
監督官
監督官

に、「日曜日は休ませてほしい。その埋め合わせは、他の曜日にきっとする。」と申し入れた。すると監督官は、「大日本帝国の七曜表は月月火水木金金。この国には土曜も日曜もありやせんのだ。」と叱りつけ、見せしめに、ルロイ修道士の左の人さし指を木づちで思い切りたき潰したのだ。だから気をつけろ。ルロイ先生はいい人にはちがいないが、心の底では日本人を憎んでいる。いつかは爆発するぞ。……しかし、ルロイ先生はいつまでたっても優しかった。それればかりかルロイ先生は、戦勝国の白人であるにもかかわらず敗戦国の子供のために、泥だらけになって野菜を作り鶏を育てている。これはどういうことだろう。

「ここの子供をちゃんと育ててから、アメリカのサーカスに売るんだ。だからこんなに親切なんだぞ。あとでどっと元をとる気なんだ。」というううわさも立ったが、すぐ立ち消えになった。おひたしや汁の実になった野菜がわたしたちの口に入るところを、あんなにうれしそうに眺めているルロイ先生を、ほんの少しでも疑っては罰が当たる。みんながそう思い始めたからである。

「日本人は先生に対して、ずいぶんひどいことをしましたね。交換船の中止にしても国際法無視ですし、木づちで指をたたき潰すに至っては、もうなんて言っていいか。申し訳ありません。」

ルロイ修道士はナイフを皿の上に置いてから、右の人さし指をぴんと立てた。指の先は天井を指してぶるぶる細かく震えている。また思い出した。ルロイ修道士は、「こら。」とか、「よく聞きなさい。」とか言う代わりに、右の人さし指をぴんと立てるのが癖だった。

「総理大臣のようなことを言ってはいけませんよ。だいたい、日本人を代表してものを言ったりするのは傲慢です。それに、日本人とかカナダ人とかアメリカ人といったようなものがあると信じてはなりません。一人一人の人間がいる、それだけのことですから。」

（18ページ）

19 **足柄茶** 丹沢山地のある神奈川県足柄上郡などを産地とする茶。
20 **戒律** 宗教上、人が守るべきものとして定められているおきて。

（19ページ）

2 **月月火水木金金** 元は戦前の海軍で使われていた言葉で、土曜も日曜も返上して訓練に励むという意味。戦時中に、勤労礼賛、勤務強制の言葉として一般に広まった。
13 **国際法** 国家間の合意に基づいて成立し、国家間の関係を規律する法。

2 漢 **帝** テイ
7 漢 **泥** (デイ) どろ
19 漢 **傲** ゴウ

大日本帝国
泥
傲慢

「わかりました。」

わたしは右の親指をぴんと立てた。これもルロイ修道士の癖で、かった。「よし。」「最高だ。」と言う代わりに、右の親指をぴんと立てる。そのことも思い出したのだ。

「おいしいですね、このオムレツは。」

ルロイ修道士も右の親指を立てた。わたしは、はてなと心の中で首をかしげた。おいしいと言うわりには、ルロイ修道士に食欲がない。ラグビーのボールを押し潰したようなかっこうのプレーンオムレツは、空気を入れればそのままグラウンドに持ち出せそうである。ルロイ修道士はナイフとフォークを動かしているだけで、オムレツをちっとも口へ運んではいないのだ。

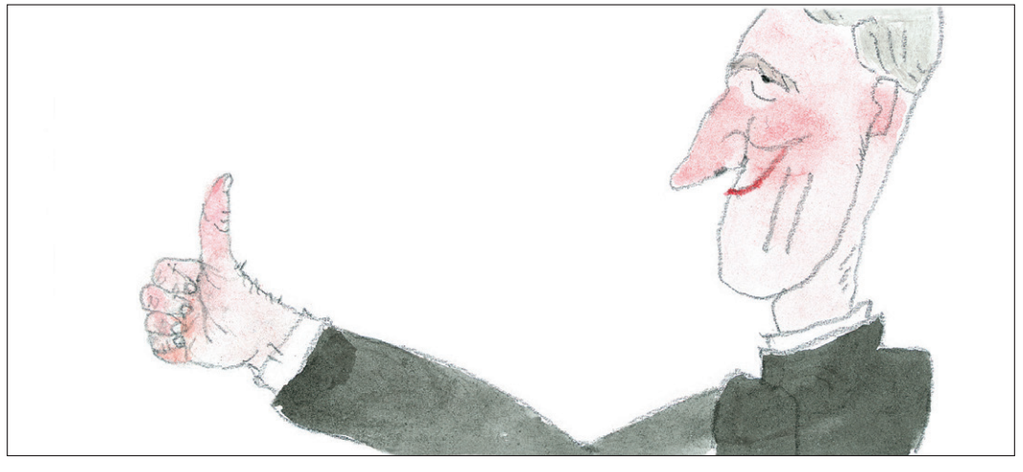
「それよりも、わたしはあなたをぶったりはしませんでしたか。あなたにひどい仕打ちをしませんでしたか、もし、していたなら、謝りたい。」

「一度だけ、ぶたれました。」

ルロイ修道士の、両手の人さし指をせわしく交差させ、打ちつけている姿が脳裏に浮かぶ。これは危険信号だった。この指の動きでルロイ修道士は、「おまえは悪い子だ。」とどなっているのだ。そして次には、きっと平手打ちが飛ぶ。ルロイ修道士の平手打ちは痛かった。

「やはりぶちましたか。」

ルロイ修道士は悲しそうな表情になって、ナプキンを折り畳む。食事はもうおしまいなのだろうか。



「でも、わたしたちは、ぶたれてあたりまえの、ひどいことをしでかしたんです。高校二年のクリスマスだったと思いますが、無断で天使園を抜け出して東京へ行ってしまったのです。」

翌朝、上野へ着いた。有楽町や浅草で映画と実演を見て回り、夜行列車で仙台に帰った。そして待っていたのがルロイ修道士の平手打ちだった。「あさっての朝、必ず戻ります。心配しないでください。捜さないでください。」という書き置きを、園長室の壁に貼りつけておいたのだが。

「ルロイ先生は一月間、わたしたちに口をきいてくれませんでした。ほうがこたえましたよ。」

「そんなこともありましたねえ。あのときの東京見物の費用は、どうやってひねり出したんです。」

「それはあのとき白状しましたが……。」

「わたしは忘れてしまいました。もう一度教えてくれませんか。」

「準備に三か月はかかりました。先生からいただいた純毛の靴下だの、つなぎの下着だのを着ないでとっておき、駅前の闇市で売り払いました。鶏舎から鶏を五、六羽持ち出して、焼き鳥屋に売ったりもしました。」

ルロイ修道士は改めて両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつける。ただしあの頃と違って、顔は笑っていた。

「先生はどこかお悪いんですか。ちっとも召しあがりませんね。」

「少し疲れたのでしょう。これから仙台の修道院でゆっくり休みます。カナダへたつ頃は、前のような大食らいに戻っていますよ。」

（20ページ）

7 ……（の）わりに 文

（21ページ）

3 **有楽町や浅草** 共に東京都内の地名。当時は、劇場や映画館などが並んでいた。

14 **闇市** 正規の販路や価格によらずに商品売買を行う市場。第二次世界大戦直後の混乱期に、日本各地で開かれていた。

8 こたえる 意

5 漢 捜 ソウ さがす

捜す

「だったらいいのですが……。」
「仕事はうまくいっていますか。」
「まあまあといったところです。」
「よろしい。」
ルロイ修道士は右の親指を立てた。
「仕事がうまくいかないときは、この言葉を思い出してください。『困難は分割せよ。』あせってはなりません。問題を細かく割って、一つ一つ地道に片づけていくのです。ルロイのこの言葉を忘れないでください。」
冗談じゃないぞ、と思った。これでは、遺言を聞くために会ったようなものではないか。そういえば、さっきの握手もなんだか変だった。「それは実に穏やかな握手だった。ルロイ修道士は病人の手でも握るようにそっと握手をした。」というように感じたが、実はルロイ修道士が病人なのではないか。元園長は何かの病にかかり、この世のいとまごいに、こうやって、かつての園児を訪ねて歩いているのではないか。
「日本でお暮らしになっていて、楽しかったことがあったとすれば、それはどんなことでしたか。」
先生は重い病気にかかっているのでしょう、そして、これはお別れの儀式なのですねときこうとしたが、さすがにそれははばかられ、結局は、平凡な質問をしてしまった。
「それはもう、こうやっているときに決まっています。天使園で育った子供が世の中へ出て、一人前の働きをしているのを見るときがいっとう楽しい。何よりもうれしい。そうそう、あなたは上川君を知っていますね。上川一雄君ですよ。」

12 いとまごい 意
17 平凡 対 へいぼん
6 音 分割（ブンカツ）
9 音 遺言（ユイゴン）

もちろん知っている。ある春の朝、天使園の正門の前に捨てられていた子だ。捨て子は春になるとぐんと増える。陽気がいいから、発見されるまで長くかかってもまいという、母親たちの最後の愛情が春を選ばせるのだ。捨て子はたいてい姓名がわからない。そこで、中学生、高校生が知恵を絞って姓名をつける。だから、忘れるわけはないのである。
「あの子は今、市営バスの運転手をしています。それも、天使園の前を通っている路線の運転手なのです。そこで、月に一度か二度、駅から上川君の運転するバスに乗り合わせることがあるのですが、そのときは楽しいですよ。まずわたしが乗りますと、こんな合図をするんです。」
ルロイ修道士は右の親指をぴんと立てた。
「わたしの癖をからかっているんですね。そうして、わたしに運転の腕前を見てもらいたいのでしょうか、バスをぶんぶん飛ばします。最後に、バスを天使園の正門前に止めます。停留所じゃないのに止めてしまうんです。上川君はいけない運転手です。けれども、そういうときがわたしにはいっとう楽しいのですね。」
「いっとう悲しいときは……？」
「天使園で育った子が世の中に出て結婚しますね。子供が生まれます。夫婦の間がうまくいかなくなる。別居します。離婚します。やがて子供が重荷になる。そこで、天使園で育った子が、自分の子を、またもや天使園へ預けるために長い坂をとぼとぼ上ってやって来る。それを見るときがいっとう悲しいですね。なにも、父子二代で天使園に入ることはないんです。」
ルロイ修道士は壁の時計を見上げて、
「汽車が待っています。」

3 漢 姓（セイ／ショウ）
姓名（セイメイ）
9 腕前 関 うでまえ
腕が立つ
腕によりをかける
腕を振るう

と言い、右の人さし指に中指をからめて掲げた。これは「幸運を祈る」「しっかりおやり」という意味の、ルロイ修道士の指言葉だった。

上野駅の中央改札口の前で、思い切ってきいた。

「ルロイ先生、死ぬのは怖くありませんか。わたしは怖くてしかたがありませんが。」

かつて、わたしたちがいたずらを見つかったときにしたように、ルロイ修道士は少し赤くなって頭をかいた。

「天国へ行くのですから、そう怖くはありませんよ。」

「天国か。本当に天国がありますか。」

「あると信じるほうが楽しいでしょうが。死ねば、何もないただむやみに寂しいところへ行くと思うよりも、にぎやかな天国へ行くと思うほうがよほど楽しい。そのために、この何十年間、神様を信じてきたのです。」

わかりましたと答える代わりに、わたしは右の親指を立て、それからルロイ修道士の手をとって、しっかりと握った。それでも足りずに、腕を上下に激しく振った。

「痛いですよ。」

ルロイ修道士は顔をしかめてみせた。

上野公園の葉桜が終わる頃、ルロイ修道士は仙台の修道院でなくなった。まもなく一周忌である。わたしたちに会って回っていた頃のルロイ修道士は、身体中が悪い腫瘍の巣になっていたそうだ。葬式でそのことを聞いたとき、わたしは知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた。

村上豊・絵

16 一周忌 ここでは、なくなって一年後の命日のこと。

9 むやみに 文

4 漢 怖 フ こわい …… 怖い

16 漢 忌 キ（いむ）（いまわしい） …… 一周忌

17 漢 腫 シュ はれる はらす …… 腫瘍

17 漢 瘍 ヨウ …… 腫瘍

18 漢 葬 ソウ（ほうむる） …… 葬式





作者 **井上ひさし** 一九三四（昭和九）――二〇一〇（平成二二）

山形県出身。小説家・劇作家。

著書 小説「ブンとフン」「四十一番の少年」、戯曲「父と暮せば」など。

出典 「ナイン」

広がる読書

「ブンとフン」井上ひさし



「新釈 遠野物語」井上ひさし



漢字の練習

119ページ 文学の批評

27ページ 展開のしかた

学びのカギ

展開のしかたを捉える

その展開を選んだ、作者の意図とは？

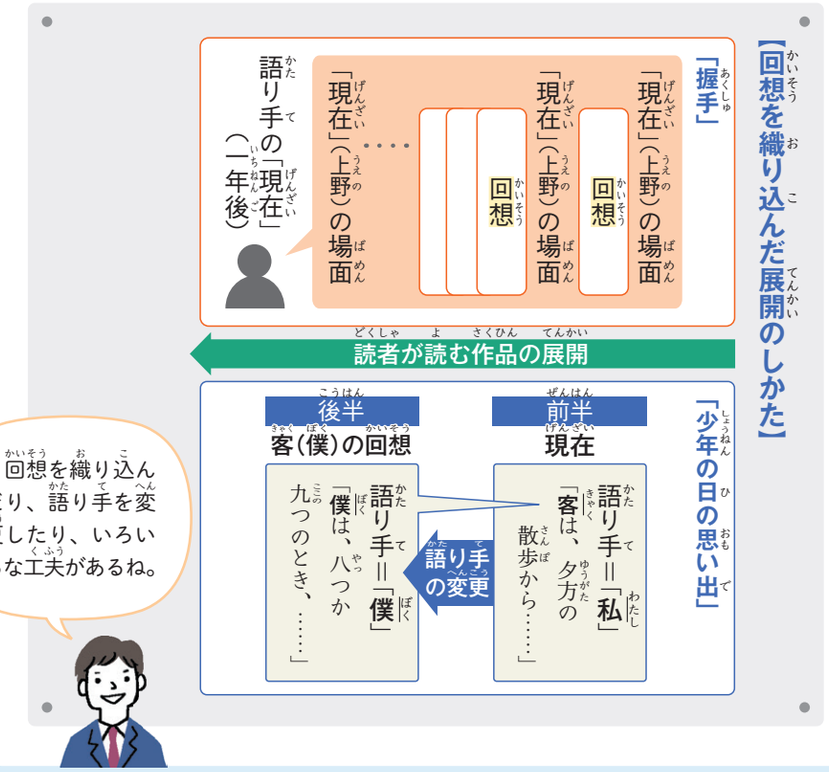
- 物語や小説は、時間の順序どおりに展開するとは限らない。回想を織り込むなど、多様な工夫がなされる。
- 展開を工夫することで、出来事の印象を強めたり、次の展開への期待を高めたりすることができる。
- 展開のしかたの目的や意図を考えることで、作品の理解が深まる。

256ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

【学習で用いる言葉】

回想　登場人物が以前に経験したことを、後から振り返って語ること。回想には、その出来事を語っているときの語り手の気持ちが表れている。



言の葉ポケット

読み取った人物像を、抽象的な概念を表す語句などで表現し、友達と伝え合おう。

学びへの扉

見通しをもつ

登場人物の考え方や生き方を読み取り、自分の考えを伝えよう。［学習活動］

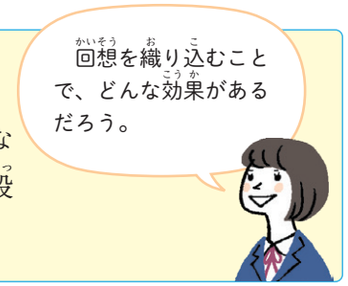
目標

- 抽象的な概念を表す語句などを用いて、人物像を表す。（知る）
- 作品の展開を踏まえて人物像を捉え、その生き方について考えを深める。（読む）

捉える

1 作品の設定を捉えよう。

「現在」と「回想」の部分を読み分けながら出来事を整理し、場面や登場人物の設定を確認しよう。



読み深める

2 登場人物の心情や人物像を読み取ろう。

①作品に何度も出てくる、手や指のしぐさの意味を考えよう。

- 「わたし」とルロイ修道士との間で交わされた、3回の握手に込められた二人の思い。
- 葬式で、「わたし」が「知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた。」（24ページ18行目）ことの意味。

②ルロイ修道士の人物像が読み取れる言葉や行動を抜き出し、どのような人物かを短くまとめてみよう。

考えをもつ

3 読み深めた感想を交流しよう。

読み深めたことを踏まえ、ルロイ修道士の考え方や生き方について、自分で考えたことや感じたことを伝え合おう。

振り返る

- 知る　□人物像を表す語句や表現の中で、特に印象に残ったものは何か。
- 読む　□「握手」の展開のしかたには、どんな特徴や効果があったか。
- つなぐ　□ルロイ修道士について、友達と交流することで考えが深まったことを挙げよう。

漢字に親しもう 1

・は中学校で学習する音訓 317ページ

1 新しく習う漢字 306ページ

次の――線部の熟語を読もう。【漢字の読み（社会）】

① 報酬を受け取る。［　　］
② 提案が却下される。［　　］
③ どの派閥にも入らない。［　　］
④ 賠償金を支払う。［　　］
⑤ 裁判所が管轄する区域。［　　］
⑥ 速やかに大臣を更迭する。［　　］
⑦ 文化勲章を授かる。［　　］

2

次の□に合う漢字を下の□から選び、四字熟語を作ろう。また、できた四字熟語を読もう。【四字熟語】

① 順風□□［　　］
② 情状□□［　　］
③ 深山□□［　　］
④ 換骨□□［　　］

幽谷・奪胎・満帆・酌量

3

次の――線部は〈水〉が部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。【同じ部首の漢字】

① 沙汰［　　］　② 漏電［　　］
③ 濁流［　　］　④ 湾岸［　　］

新しく習う音訓

4

次の――線部の漢字を、（　）内の読みとの違いに注意して読もう。【同じ漢字の読み】

① 包丁を研ぐ。（研磨）［　　］
② 呉服を商う。（商売）［　　］
③ 己の姿を省みる。（自己）［　　］
④ 公の施設を利用する。（公共）［　　］
⑤ 技の美しさを競う。（競技）［　　］

新出漢字

28 酬 シュウ　28 却 キャク　28 賠 バイ
28 鞄 カツ　28 迭 テツ　28 勲 クン　28 幽 ユウ　28 胎 タイ　28 閥 バツ
28 酌 シャク（くむ）　28 沙 サ　28 汰 タ　28 漏 ロウ もる もらす
28 濁 ダク にごる　28 湾 ワン　28 呉 ゴ

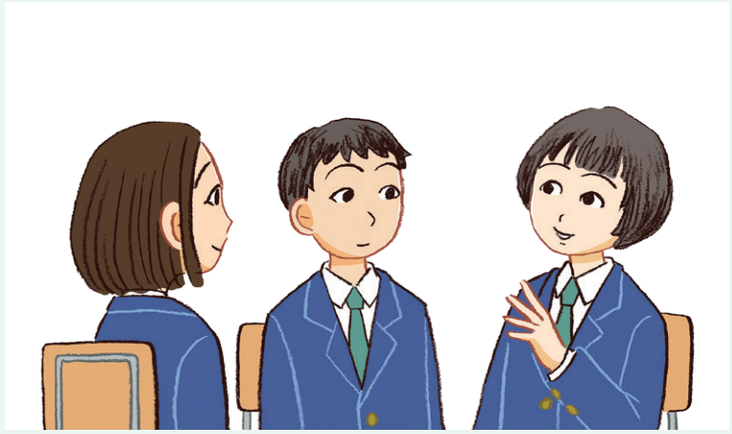
漢字一覧表

話す 聞く

［聞く］

意見を聞き、適切さを判断する

意見を聞くときには、その適切さを判断することが大切だ。多様な考えをもつ聞き手を想定しているか、また、根拠となる情報は信頼できるかといった観点を確かめながら聞こう。



▼二次元コードの音声を聞こう

スピーチの会に向けて、グループで練習をしている。坂本さんの練習相手になったつもりでスピーチを聞き、下の問題に取り組もう。

台本は30ページ

やってみよう

1 坂本さんの意見や根拠が適切かどうか、判断しよう。

［聞き取りメモの例］

意見・根拠	適切さ	
［意見］中学生は全員、ボランティア活動をするべきだ	△	「全員」「するべき」→……
［根拠 1］ボランティアの体験……	…	……
［根拠 2］ボランティア活動に参加したい中学生は	…	……

2 坂本さんの練習相手になったつもりで、スピーチをよりよくするための助言を考えよう。

［坂本さんのスピーチ］

私は、中学生は全員、ボランティア活動をするべきだと考えます。

先週、私は祖母に誘われ、初めて町の清掃ボランティア活動に参加しました。公園にも道端にも、たくさんのごみが落ちていることに驚き、問題を実感しました。十年前から活動する祖母は、「若い参加者が少なく、活動の継続が難しい。」と話していました。この経験から、私は、中学生も地域に関心をもち、社会のために行動するべきだと考えるようになったのです。

インターネットで調べたところ、ボランティア活動に参加したいという中学生は、年々増えているようです。私の友達もみんな、興味をもっています。しかし、実際に参加したことがある人は、ほとんどいません。

興味があるにもかかわらず、ボランティア活動に参加しないのは、間違っているのではないでしょうか。中学生は全員、休日をボランティア活動にあてて、地域の問題を実感し、よりよい社会を実現するために行動するべきだと考えます。

［適切さを判断した例］

▼**意見**…△
「全員」「するべき」というのは、極端な意見。

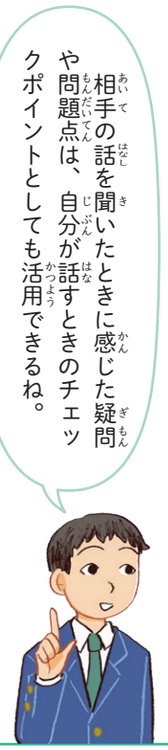
▼**根拠1**…○
説得力のある実体験。根拠を意見に結び付ける「理由づけ」も適切。

▼**根拠2**…△
情報の出典が示されていない。

▼**意見**…△
「間違っている」は一面的な意見。「全員、休日をボランティア活動にあてて」という提案も、多様な立場や考えが想定されていない。

意見を聞き、適切さを判断するために

- 話し手の意見と根拠、その結び付き（「理由づけ」）を聞き取る。
  - ・話し手は、どのような意見をもっているか。
  - ・意見の根拠として何を挙げ、それを意見にどう結び付けているか。
- 多様な考えをもつ聞き手を想定した意見かどうか確かめる。
  - ・一面的なものの見方や、極端な意見に陥っていないか。
  - ・聞き手の知識や経験などを想定して、自分の意見をわかりやすく伝えようとしているか。
- 根拠として示された情報の適切さや信頼性を評価する。
  - ・話し手は、聞き手が公正に考え、判断するために必要な情報を適切に示しているか。
  - ・情報の出典を示しているか。
  - ・情報の正確性や公平性に疑わしい点はないか。
  - ・自分の意見に合うよう、情報を都合よく解釈していないか。

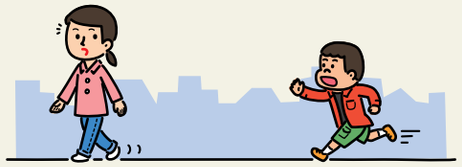


文法への扉 1

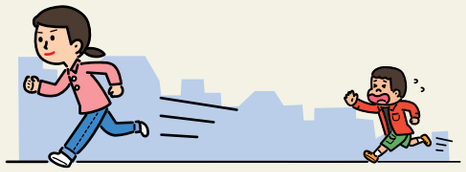
「走って」いるのは誰？

「弟は走って先に出かけた姉を追いかけた。」という文章から、異なる場面を想像したAさんとBさん。どうして左のような食い違いが生じたのだろう。

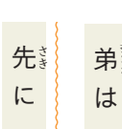
Aさん



Bさん



文法ワーク



構造上、この文は二通りに解釈できるが、文節の関係を整理し、意味のまとまりを明確にすれば、食い違いが生じにくくなる。

このように、文法的な観点から表現を見直すことは、日常生活のさまざまな場面で活用できる。「文法1 文法を生かす」を読んで、これまでに学習してきた文法の知識を、表現や読解に生かすポイントを身につけよう。

文法1
文法を生かす
（230～232ページ）

1 文法を生かして伝え合う
- 1 文節・連文節の対応
- 2 意味のまとまり
- 3 呼応の副詞

2 文法を生かして読み味わう

説得力のある構成を考えよう

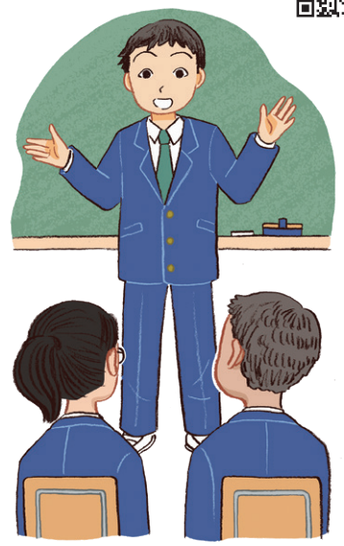
スピーチで心を動かす

聞き手の心に届くスピーチは、人々の価値観や行動に影響を与える力になる。ここでは、社会生活の中から自分が訴えたいことを見つけ、話の組み立てを工夫して、クラス全体に向けたスピーチをしよう。

262ページ 発想を広げる

話す・聞く

表現テーマ例集



目標
- 情報の信頼性を確かめる。（知る）
- 聞き手を説得できるように話の構成を考え、場の状況に応じて自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫する。（話・聞）

集める・整理する

1 話題を決め、情報を集める

- 社会生活の中から話題を選ぶ。
- 話題に関する情報を、信頼性を確かめながら集め、取捨選択する。

組み立てる

2 話の構成を考える

- 聞き手の立場や関心などを踏まえ、どういう展開で話せば説得できるかを考えながら構成を練る。
- 構成メモを作り、友達と助言し合う。

伝え合う

3 スピーチの会を開く

- 状況に応じた表現を工夫しながら、2～3分でスピーチをする（録画する）。
- 聞き手は感想や質問を伝える。

共有する

4 交流する ICT

- 録画したものを見返し、構成や話し方について、よい点や改善点を伝え合う。

振り返る 35ページ

生かす
- 日常　委員会の魅力を後輩に語る。
- 将来　会社の新入社員に仕事のやりがいを語る。

221ページ 学びの展望　187ページ 合意形成　124ページ 質問　33ページ 構成の工夫

学びのカギ

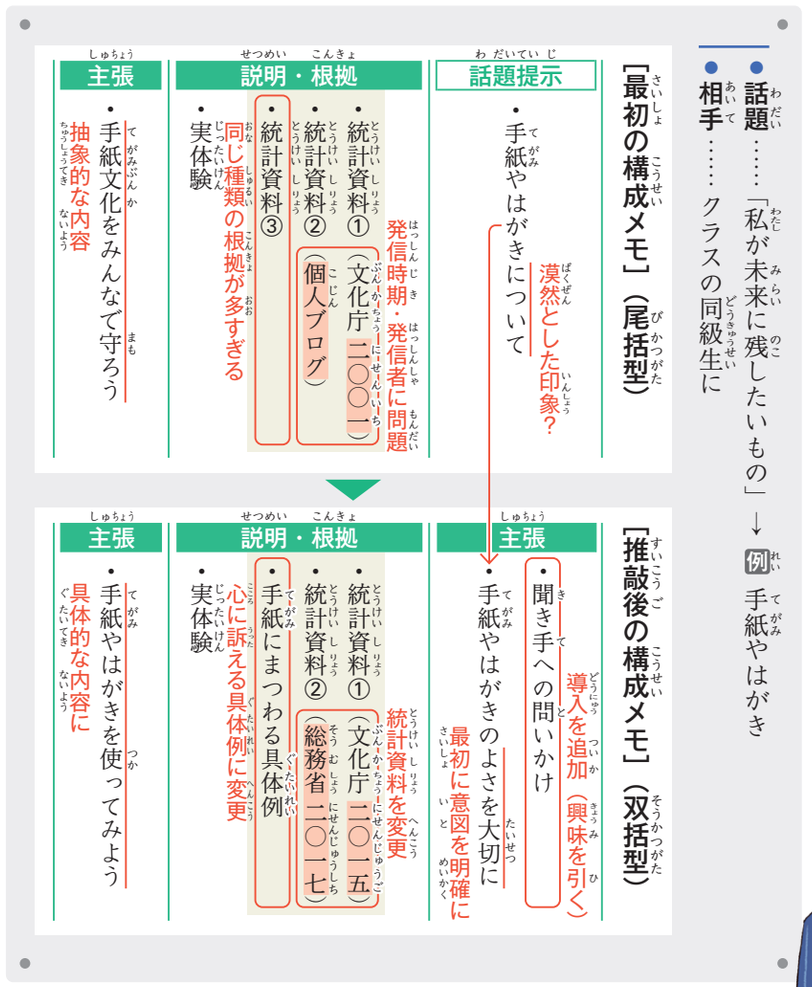
相手を説得するために構成を工夫する

- 自分が訴えたい内容について、聞き手がどの程度、知識や関心をもっているのかを想定して、構成を考える。
- 多様な考えをもつ聞き手を説得できるように、数値、具体例、実体験など、提示する情報の順序を入れ替えながら、話の構成を工夫する。
- 信頼性の高い情報を選ぶ。
  - ［発信者・出典］情報源は信用できるか。発信時期は適切か。
  - ［調査方法］調査対象の選択や数に問題はないか。
- 種類の異なる複数の根拠を提示する。

260ページ 「学びのカギ」一覧

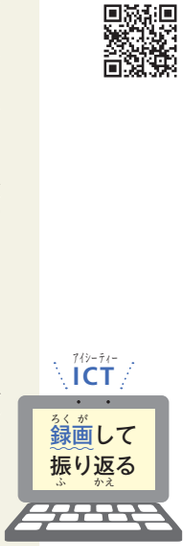
学びの地図





■スピーチをする





337 ページ

録画を見返し、話の構成や話し方について、助言し合おう。

主張

離れて住む祖父母や知り合いと連絡を取るとき、電子メールやSNSを使う人はいますか。❶たくさんの人が使っていますね。手間がかかりませんし、相手にすぐに届くのも便利なところです。

❷ほとんどいないようでは、手紙やはがきを書く人はいますか。❸僕は、この手紙やはがきのよさをもっと大切にすべきだと思うのです。

説明・根拠

統計資料が示す現状

❹二〇一五年度に文化庁が行った「国語に関する世論調査」では、手紙を用いてやり取りをしている人は、全世代で約十二パーセントしかいませんでした。また、❹二〇一七年の総務省の調査によると、手紙やはがきの利用頻度が❺一年前よりも減った人の割合は、約三十パーセントに上ります。❻手紙文化が危機にひんしている今こそ、手紙やはがきを皆さんにお勧めしたいのです。

具体例

明治時代の終わり頃、アメリカで研究をしていた医学者の野口英世宛てに、母親のシカが送った❽手紙が残っています。読み書きの機会がほとんどなかったシカですが、「早く来てください。待っています。」と繰り返し、「一生の頼みであります」と必死に訴えています。

実体験

この手紙を受け取った数年後、英世は十五年ぶりに母との再会を果たしました。送り手の思いが、文字に託されてまっすぐ相手に伝わる。これが、手紙やはがきの魅力です。

このエピソードを知ってからというもの、僕は県外に住む祖母に、はがきで近況報告をするようになりました。❾「手書きのメッセージがうれしい。」と、はがきをリビングに飾ってくれているそうです。

主張

❿手紙やはがきよりも速くて手軽なコミュニケーションツールが、幾らでもある現代。だからこそ、ひと手間かかる、そしてずっと手元に残る手紙やはがきでやり取りするうれしさは、格別なのではないでしょうか。⓫ぜひ皆さんも、何気ない日常のひとこまを知らせるときに、手紙やはがきを使ってみてください。



話し方

＝間を取る

❶挙手を促す。
❷状況に応じて表現を変える。
❸異なる考えをもつ聞き手にも共感してもらえるように語りかける。
❹信頼性を確かめた情報を提示する。
❺数値は正しくゆっくりと。
❻離れた場所にいる聞き手とも、目を合わせながら訴える。
❼聞き手に十分に伝わっていないと感じたら、資料などを示して補足する。
❽手紙の写真などを提示してもよい。
❾手紙の送り手としての喜びも伝わるよう、にこやかに。
❿主張に入るときは、間の長さや声の調子を変えて。
⓫聞き手全体に視線を向けながら。

言の葉ポケット

話の一部を強調したいとき
→効果的な一言を使う
● やはり……（予想どおり）
● ……べき（義務）
● ……しか（限定）
● ……こそ（限定）
● ……に上る（程度の多さ）
● 実は……（本当は）
● なんと……（驚き）

話の内容が聞き手に十分に伝わっていないと感じたとき
→言い換える・補足する
● 他にも……という例があります。
● ……とは、……ということでもあります。
● つまり、……ということです。
● ……ともいえます。

達人からのひと言

伝えたいことに自分自身が心から納得していれば、言葉は熱をもち、その熱こそが聞いている人を動かします。

国谷裕子さん（ジャーナリスト）



振り返る

- 知る　□ どのような方法で、情報の信頼性を確かめたか。
- 話す・聞く　□ 話の構成や表現の中で、相手を説得できるように工夫したのはどの部分か。
- つなぐ　□ 友達のスピーチを聞き、説得力という観点で、今後に生かしたいと思ったことを挙げてみよう。

言葉 1

相手や場に応じた言葉遣い

次のA・Bのように、同じ事柄を伝える場合でも、私たちは、相手や場に応じて、表現を使い分けている。





相手や場に応じた言葉遣い

敬語を使う必要があるのは、目上の人と話すときだけではない。相手との間柄や、公私の別を踏まえて、その場にふさわしい言葉遣いを選ぶ必要がある。

相手との間柄

例

親しい相手の場合

- 図書館には、どうやって行けばいいの。

初対面の相手の場合

- 図書館への行き方をご存じですか。

どのような場か

例

私的な場

- 今日は来てくれて、本当にありがとう。

公的な場

- 本日はお集まりいただき、まことにありがとうございます。

どのような表現が適切であるかは、伝える手段（直接話す、電話で話す、手紙を書くなど）や、話題（重要な相談、雑談など）によっても異なる。

相手や場に応じた表現の選び方

相手や場にふさわしい表現を選ぶためには、何に気をつければよいだろうか。

適切な場面で敬語を使う

敬語を使うことは、相手や場への配慮を示す最も基本的な方法だ。いっぽうで、親しい人にはかえってよそよそしい印象を与えることもあるため、適切な使い分けが必要である。

表現を工夫して、相手や場への配慮を示す

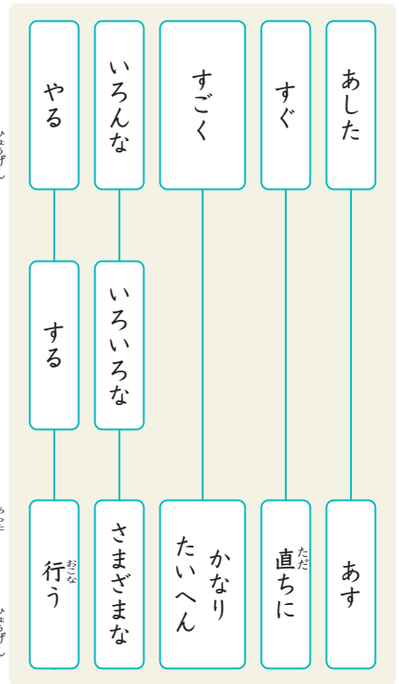
敬語を使わずに、表現を工夫することで、相手や場への配慮を示すこともできる。左の二つの例を比べてみよう。



言葉の選択に気を配る

同じ内容でも、選ぶ言葉によって相手に与える印象は変わる。相手や場に応じて、適切な言葉を選ぼう。

例



やってみよう

次の内容を、学校の文化祭の来場者に、校内放送で伝える場合には、どのような表現をすればよいだろうか。

今日の十一時から、体育館で吹奏楽部が演奏するんだ。小さい子からお年寄りまで、いろんな年代の人が楽しめるプログラムになっているから、よかったら来て。

学びて時に之を習ふ——「論語」から

「論語」の中から生活に生かしていきたい言葉を選んで伝え合おう。［学習活動］

読む

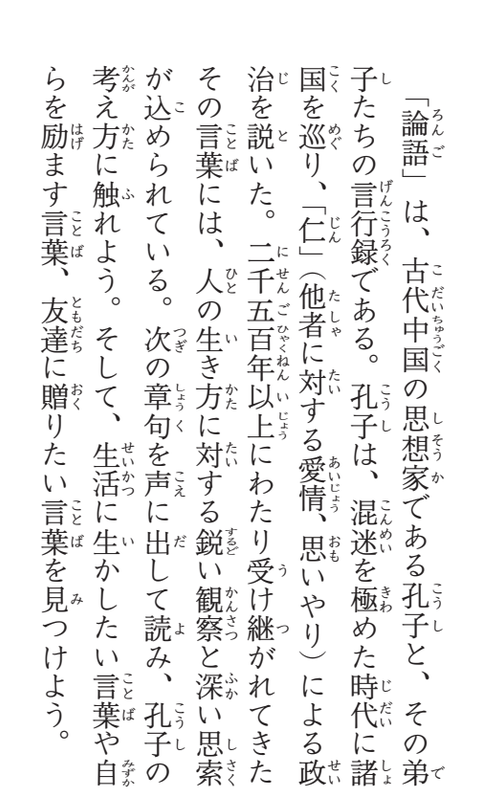
「論語」朗読音声

目標

- 歴史的背景に注意して「論語」を読み、長く受け継がれてきた名言に触れる。
- 人間の生き方についての孔子の考え方を、自分たちと関連づけて考える。

「論語」は、古代中国の思想家である孔子と、その弟子たちの言行録である。孔子は、混迷を極めた時代に諸国を巡り、「仁」（他者に対する愛情、思いやり）による政治を説いた。二千五百年以上にわたり受け継がれてきたその言葉には、人の生き方に対する鋭い観察と深い思索が込められている。次の章句を声に出して読み、孔子の考え方に触れよう。そして、生活に生かしたい言葉や自らを励ます言葉、友達に贈りたい言葉を見つけよう。

子曰はく、「学びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。朋遠方より来たる有り、亦楽しからずや。人知らずして慍みず、亦君子ならずや。」と。



1 **孔子** 前五五？―前四七九　中国古代の思想家。その思想は「論語」によって後世に伝えられ、中国のみならず、日本の学問や思想にも大きな影響を及ぼした。
9 **子**　教養や徳の高い人に対する敬称。「論語」では、孔子を指す。

子曰はく、「学而時習レ之、不二亦説一乎。有下朋自二遠方一来上、不二亦楽一乎。人不レ知而不レ慍、不二亦君子一乎。」（学而）

先生がおっしゃるには、「学んで、機会があるたびに復習し、体得する。なんとうれしいことではないか。友人が遠くから訪ねてくる。なんと楽しいことではないか。世の中の人が認めてくれなくても不平や不満を抱かない。それでこそ君子ではないか。」と。

子曰はく、「故きを温めて新しきを知れば、以て師たるべし。」と。（為政）

先生がおっしゃるには、「過去の学説や事例に習熟して、新しい意味を得ることができるようになれば、師となる資格があるだろう。」と。

子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し。」と。（為政）

先生がおっしゃるには、「学んだだけで自分で考えなければ、明確には理解できない。自分で考えただけで学ぶことがなければ、独断に陥って危うい。」と。

（38ページ）

9 **亦……ずや**　なんと……ではないか。
11 **慍みず**　「慍らず」「慍らず」という読み方もある。
11 **君子**　徳の高い、理想的な人格者。
2 訓 **極める**（きわめる）
3 漢 **巡**（ジュン　めぐる）……巡る

（39ページ）

3 **学而**　篇の名称。「為政」「雍也」も同じ。各篇の初めの二字または三字（「子曰はく」で始まるものは、その部分を除く）から。
7 **温めて**　「温ねて」という読み方もある。
11 **罔し**　ここでは、学んだことがぼんやりしていて、はっきり理解できていない状態を指す。
11 **殆し**　ここでは、自分の考えに頼って独断に陥ることを指して、危ないと述べている。
14 訓 **危うい**（あやうい）

子曰はく、「之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」と。

子曰、「知レ之者、不レ如二好レ之者一。好レ之者、不レ如二楽レ之者一。」（雍也）

このムこれヲものハ　ずトしカたのシムこれヲものニ　このムこれヲものハ　ずトしカこのムこれヲものニ

先生がおっしゃるには、「それを知っているだけの者は、それを好む者には及ばない。それを好む者は、それを楽しむ者には及ばない。」と。

孔子と弟子たち

孔子と弟子との対話形式で書かれた「論語」。その問答からは、個性豊かな弟子たちの人柄もうかがえる。約三千人いたとされる弟子の中でもよく登場するのが、顔淵、子貢、子路の三人である。それぞれの人生が凝縮された弟子たちの質問にも注目すると、「論語」がより身近に感じられるだろう。



孔子が認めた徳の高い人格者
顔淵



弁舌にたけた外交の達人
子貢



誠実な心をもつ武勇の士
子路

出典　「論語」　原文は、「論語」（新釈漢文大系　1）による。

1 ……に如かず　……に及ばない。かなわない。

広がる読書

「声に出して読みたい論語」
齋藤　孝



「老子・荘子」
野村茂夫



漢字の練習

漢文の訓読

漢字だけで書かれた中国の文章（漢文）を、日本語として読むことを訓読という。

訓読の方法

漢字だけで書かれた原文（白文）に、送り仮名や句読点、読む順序を表す返り点を補い、日本語として読めるようにする。古典の言葉・仮名遣いを用いる。

- **送り仮名**……漢字の送り仮名だけでなく、助詞・助動詞などを補う。歴史的仮名遣いを用いる。訓読のときは、漢字の右下に片仮名で小さく書く。
- **返り点**……読む順序を表す記号。漢字の並びを日本語の語順に入れ替えるときに使う。
- **句読点**……「、」「。」など。原文の句や文の切れ目に補う。

返り点の種類

- **レ点**＝下の一字から、すぐ上の一字に返って読む。

学 ③ 而 ② 不レ 思 ④ 則 ⑤ 罔。 思 ⑥ 而 ⑧ 不レ 学 ⑦ 則 ⑨ 殆 ⑩。

（ざレバまなビテもすなわチくらシ　おもヒテざレバまなバすなわチあやうシ）

- **一・二点**＝二字以上を隔てて、上に返って読む。

学 ① 而 ② 時 ④ 習レ 之 ③、不 ⑦ 二 亦 ⑤ 説一 乎 ⑥。

（まなビテ　ときニならフこれヲ　ずまたよろこバシからや）

- **上・下点**＝一・二点を挟み、さらに返って読む。

有下 朋 ① 自二 遠 ④ 方一 来上、不 ⑦ 二 亦 ⑤ 楽一 乎 ⑥。

（ありともよりえんぽうきタルずまたたのシからや）

- **レ点**＝一点とレ点を組み合わせたもの。レ点に従って読んでから二点に返る。

温レ 故 ② 而 ① 知レ 新 ③、可 ④ 二 以 ③ 為レ 師 ⑤ 矣 ⑥。

（あたメテふるキヲ　しレバあたらシキヲ　ベシもッテたルし　なお、「温故而知新」の「而」や、「可以為師矣」の「矣」などのように、白文にあっても訓読するときには読まない文字を置き字という。置き字は、書き下し文にする際には省く。

季節のしおり 春

あなたが春を感じるものは、何だろうか。雪を解かす春風、花の香り、朧月夜……。作品に描かれた情景の中に、春を感じてみよう。

春風や闘志いだきて丘に立つ

高浜虚子

行春や鳥啼魚の目は泪

松尾芭蕉

東風吹かばにほひをこせよ梅花
主なしとて春を忘るな

菅原道真

春宵一刻直千金
花に清香有り月に陰有り

蘇軾「春夜」より

春の気象にまつわる言葉

- 春雷……三月頃に鳴る雷。春の到来を告げる。「春の雷」ともよばれる。
- 朧月……春の夜に、柔らかくかすんで見える月。
- 風光る……春の日差しの中を、そよ風が吹き渡る様子。



2

視野を広げて

問題意識をもち、社会に視野を広げる

作られた「物語」を超えて

論説

山極寿一

思考のレッスン　具体化・抽象化

論理の展開を意識して書こう

グラフを基に小論文を書く

漢字1　熟語の読み方

漢字に親しもう2



時を表す言葉❷　朝 | 夜が明けてからしばらくの間。

作られた「物語」を超えて

山極 寿一

読む

論理の展開を捉え、筆者の主張について考えたことをまとめよう。［学習活動］

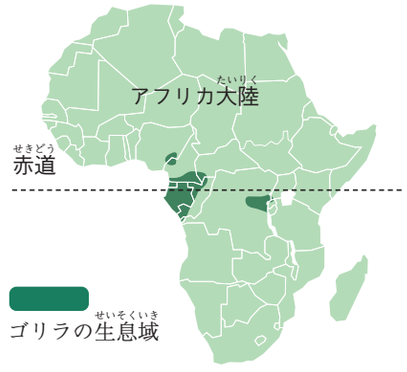
目標

- 論理の展開における、具体と抽象の関係を捉える。
- 論説の特性を踏まえて読み、論理の展開のしかたを捉える。

私たちは、野生動物の行動を誤解することがよくある。かつて敵対的な行動を取らせ、それを人間に都合がいいように解釈してきたからである。いわば、人間が作った「物語」である。このような「物語」は動物と見なした。それは、二足で立ち上がり、てのひらで交互に胸をたたくドラミングとよばれる行動を、戦いを宣言していると解釈したからだった。ドラミングをするゴリラのオスを見て、襲われる恐怖におびえた探検家たちは銃の引き金を引いてゴリラを撃ち殺したのである。

私が研究しているゴリラはその格好の例である。十九世紀の中頃にアフリカで初めてゴリラに出くわしたヨーロッパの探検家たちは、ゴリラをとても凶暴で好戦的な動物と見なした。それは、二足で立ち上がり、てのひらで交互に胸をたたくドラミングとよばれる行動を、戦いを宣言していると解釈したからだった。ドラミングをするゴリラのオスを見て、襲われる恐怖におびえた探検家たちは銃の引き金を引いてゴリラを撃ち殺したのである。

かつてライオンやトラを凶暴な動物、キツネやタヌキをずる賢い動物と見なしていた。そう見えるのは、人間が彼らを追い詰めて敵対的な行動を取らせ、それを人間に都合がいいように解釈してきたからである。いわば、人間が作った「物語」である。このような「物語」は動物と見なした。それは、二足で立ち上がり、てのひらで交互に胸をたたくドラミングとよばれる行動を、戦いを宣言していると解釈したからだった。ドラミングをするゴリラのオスを見て、襲われる恐怖におびえた探検家たちは銃の引き金を引いてゴリラを撃ち殺したのである。



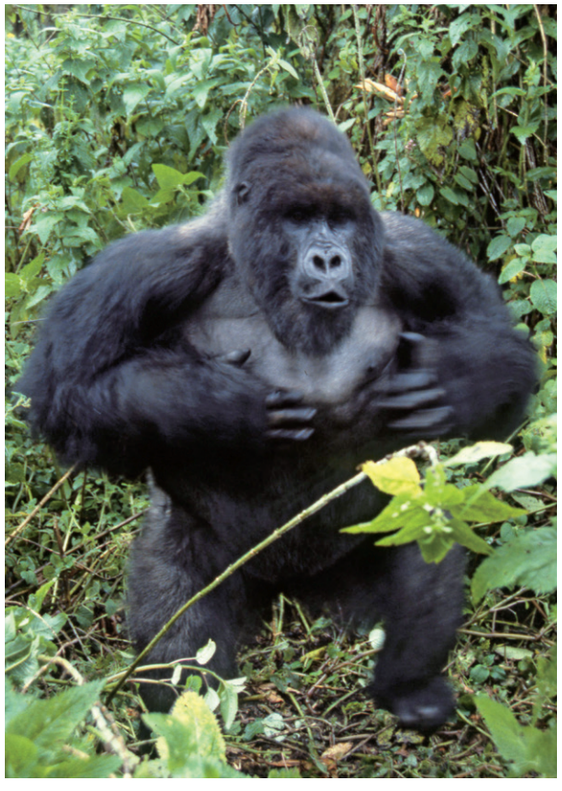
13 漢 銃 ジュウ
1 漢 凶 キョウ

銃 凶暴

やがて、ゴリラをモデルにした「キング・コング」という映画が製作されて世界の人気をさらい、人々はますますゴリラを暴力の権化、戦い好きな怪物と見るようになった。

私がアフリカで野生のゴリラを研究するようになったのは、もう五十年ほど前のことだ。まだゴリラは暴力的で恐ろしい動物と考えられていた。しかし、ゴリラの群れの中に入ってじっくり観察できるようになると、このイメージは人間によって作られたもので、大きな間違いであることがわかってきた。

ゴリラの群れは十頭前後で、背中の毛が白いシルバーバックとよばれるリーダーのオスを中心に、数頭のメスや子供たちが寄り集まってできている。ドラミングは二つの群れが出会ったときによく起きる。どちらの群れからもシルバーバックが出てきて胸をたたき、辺りの草を引きちぎり、小走りに突進して地面をたたく。近くで見ていると、とても勇壮で迫力満点だ。探検家たちが恐れをなしたのも無理はないと思う。しかし、こういうときはめったに戦いにはならない。オスたちは少し離れてにらみ合い、しばらく胸をたたき合うと、何事もなかったかのように別れていくのだ。





上 ゴリラの調査地の一つであるヴィルンガ火山群（筆者撮影）
左 ドラミングをするオスのゴリラ（筆者撮影）
動画

16 漢 壮 ソウ
16 勇壮 意
3 権化 意
1 「キング・コング」 文明社会で大暴れするゴリラの怪物、キング・コングを描いた映画。一九三三年に製作されたアメリカの映画を基に世界中でさまざまな作品が作られた。

勇壮 壮

シルバーバックがドラミングをするのは群れどうしが出会ったときばかりではない。ゴリラの一日は、みんなでいっしょに旅をしながら食物を探し歩き、満腹になったら寄り集まって休むことの繰り返しである。それは天候にも左右される。激しく雨が降れば、それぞれ木の陰や草むらに潜り込む。雨があがってみんなが木陰から出てくると、シルバーバックがドラミングをする。「さあ、出発しよう。」とみんなに呼びかけているのだ。まった、ときどきメスや子供たちが食べ物や休み場所を取り合ってけんかをする。悲鳴が上がり、ゴッゴッと非難する声が聞こえる。すると真っ先にシルバーバックが飛んでいって、いがみ合っているゴリラたちを制止する。そんなとき、ドラミングがとても効果的だ。シルバーバックが胸をたたくと、みんな静まりかえるからだ。メスや子供たちもドラミングをすることがある。不満を感じると胸や木の幹をたたく。子供たちの間で追いかけっこが始まると、先に走った子供が誘いかけるように胸をたたいたり、時には木に登って代わる代わる胸をたたき合ったりすることもある。

このように、ドラミングはゴリラにとって相手に負けないことを示す自己主張であったり、呼びかけであったり、不満や誘いかけであったりいろいろな意味をもつことがわかる。私たち人間どうしが距離をおいて声をかけ、互いの気持ちを伝え合うように、ゴリラは胸をたたいて自分の気持ちを表したり、相手に誘いかけたりするのである。

それを十九世紀の探検家が戦いの宣言と誤解して、「ゴリラは好戦的で凶暴な動物だ」という「物語」を作り出したことによって、ゴリラは悲惨な運命をたどることになった。密林の奥に潜む戦い好きな怪物をしとめようとするハンターたちの標的になり、多くのゴリラが命を落とした。さらに、その怪物をひと目見たいと思う人々の期待に応えるため、野生のゴリラたちは捕まえられて欧米の動物園へ送られた。扱いやすい子供のゴリラたちを捕らえようとする人間たちによって、子供を守るために立ちはだかった大人のゴリラたちが射殺された。しかも、凶暴な性格をもつと思われたために、頑丈な檻の中に鎖でつながれることが多かったのである。野生での平和な群れ生活が紹介されて、動物園でも群れで暮らすことができるようになったのは二十世紀の終わりに近づいてからの話である。

ゴリラのドラミングに対する誤解が広まったのは、人間がある印象を基に「物語」を作り、それを仲間に伝えたがる性質をもっているからだ。いつの頃からか人間は言葉を発明して、自分が体験したことを語ることができるようになった。そのおかげで、人間は多くの知識を共有できるようになった。自分が体験していない地震や火事の出来事を人から聞くことによって、適切な対処の方法を知ることができる。まだ見たことのない動物と出会ったらどうすればいいか、それを知っている人から学ぶことができる。言葉は人間の社会に知識を蓄積し、新しい技術や工夫をもたらして、人間が飛躍的に発展する道を開いた。しかし一方で、言葉には自分の体験を脚色したり誇張したりする力もある。実際には見ていないことを、あたかも体験したかのように語ることもできるのだ。それは人の口から口へ、またたくうちに広がっていく。最初の話が誤解によって作られていると、その間違いに気がつかないうちに、それが社会の常識になってしまうことがよくあるのだ。

こうした誤解に基づく「物語」は、人間の社会にも悲劇をもたらす。何気ない行為が誤解


子供のゴリラのドラミング


シルバーバックと子供たち（筆者撮影）

凶暴な動物だ」という「物語」を作り出したことによって、ゴリラは悲惨な運命をたどることになった。密林の奥に潜む戦い好きな怪物をしとめようとするハンターたちの標的になり、多くのゴリラが命を落とした。さらに、その怪物をひと目見たいと思う人々の期待に応えるため、野生のゴリラたちは捕まえられて欧米の動物園へ送られた。扱いやすい子供のゴリラたちを捕らえようとする人間たちによって、子供を守るために立ちはだかった大人のゴリラたちが射殺された。しかも、凶暴な性格をもつと思われたために、頑丈な檻の中に鎖でつながれることが多かったのである。野生での平和な群れ生活が紹介されて、動物園でも群れで暮らすことができるようになったのは二十世紀の終わりに近づいてからの話である。

ゴリラのドラミングに対する誤解が広まったのは、人間がある印象を基に「物語」を作り、それを仲間に伝えたがる性質をもっているからだ。いつの頃からか人間は言葉を発明して、自分が体験したことを語ることができるようになった。そのおかげで、人間は多くの知識を共有できるようになった。自分が体験していない地震や火事の出来事を人から聞くことによって、適切な対処の方法を知ることができる。まだ見たことのない動物と出会ったらどうすればいいか、それを知っている人から学ぶことができる。言葉は人間の社会に知識を蓄積し、新しい技術や工夫をもたらして、人間が飛躍的に発展する道を開いた。しかし一方で、言葉には自分の体験を脚色したり誇張したりする力もある。実際には見ていないことを、あたかも体験したかのように語ることもできるのだ。それは人の口から口へ、またたくうちに広がっていく。最初の話が誤解によって作られていると、その間違いに気がつかないうちに、それが社会の常識になってしまうことがよくあるのだ。

こうした誤解に基づく「物語」は、人間の社会にも悲劇をもたらす。何気ない行為が誤解

4 漢 欧 オウ
1 漢 惨 サン（ザン）（みじめ）
16 脚色 意
14 蓄積 意

欧米 オウ
悲惨 サン

され、それがうわさ話として人から人へ伝わるうちに誇張されて、周りに嫌われてしまうことがある。まだ、同じ言葉で話し合い、誤解を解くことができる間柄なら、大きな悲劇に発展することを抑えることができる。だが、言葉や文化の違う民族の間では、誤解が修復されないまま「物語」が独り歩きをして敵対意識を増幅しかねない。私がゴリラの調査で訪れていた当時のルワンダやコンゴなどでも、紛争が絶えず、肌で戦いを感じる機会が何度もあった。今でも世界各地で争いや衝突が絶えないのは、互いに相手を悪として自分たちに都合のよい「物語」を作りあげ、それを世代間で継承し、果てしない戦いの心を抱き続けるからだ。どちらの側にいる人間も、その「物語」を真に受け、反対側に立って自分たちを眺めてみることをしない。

アフリカの森で暮らすゴリラの調査を通じて、私は人間の、自然や動物、そして人間自身を見る目がいかに誤解に満ちているかを知ることができた。その誤解を解くためには、相手の立場に立って、一つ一つの行動にどんな意味があるかを考えることが必要である。人から伝え聞いた「物語」と実際に自分が向かい合っている現象とを照らし合わせ、これまでの常識を疑ってみる態度も必要となる。「物語」によって作られた常識の陰に、しいたげられている生き物や人間がいないか、意味を取り違えて排除していることがないか、思いを巡らすことが大切だと思う。

ドラミングが戦いの宣言だという「物語」の誤解を超えた先には、「ゴリラが人間とは別の表現を用いて平和を保っている」という私にとって新しい価値をもつ豊かな世界が広がっていた。体の仕組みや能力の違う動物の視点に立つためには、その動物が暮らしている自然をよく知ることが必要になる。同じように、この地球に生きるさまざまな人々に起きている

5 **ルワンダ**　ルワンダ共和国。首都キガリ。アフリカ大陸中央部に位置する。一九六二年ベルギーより独立。独立後も紛争が繰り返し起き、一九九四年の「ルワンダ大虐殺」では約百日間に八十万～百万人の犠牲者が出たといわれる。現在では、「アフリカの奇跡」とよばれるほどの復興を遂げ、治安も回復している。

5 **コンゴ**　コンゴ民主共和国（旧ザイール）。首都キンシャサ。アフリカ大陸中央部に位置する。一九六〇年ベルギーより独立。一九九八年に起きた内戦は、近隣諸国も加わり国際紛争へ発展した。二〇〇三年に内戦は終結したが、その後も不安定な情勢が続いている。

4 **増幅**　意

5 漢 **紛**　フン　まぎれる　まぎらす　まぎらわしい

紛争　フンソウ



群れで平和に暮らすゴリラ

「物語」の真実を知るためには、その人々が暮らしている文化や社会をよく理解することが必要であろう。

話を作り、伝える能力は、言葉をもった人間に多くの仲間と交流できる世界をもたらした。そのおかげで、人間は見知らぬ人々と出会ってもすぐに受け入れることができるし、遠く離れた場所で起こった出来事をいっしょに喜び、悲しむこともできる。現代はさまざまな文化や社会で暮らす人々が国境を越えて行き交う時代である。だからこそ、自分勝手な独りよがりな解釈を避け、常識を疑うこと、何より自分を相手の立場に置き換えて考えてみる視点が重要である。作られた「物語」を超えて、その向こうにある真実を知ろうとすることが、新しい世界と出会うための鍵なのだ。



筆者　**山極寿一**　一九五二（昭和二七）――　東京都出身。人類学、霊長類学者。

著書　「家族進化論」「暴力はどこからきたか」「ゴリラ」「スマホを捨てたい子どもたち」「人生で大事なことはみんなゴリラから教わった」など。

出典　筆者インタビュー　本書のための書きおろし。

広がる読書



「ゴリラは語る」山極寿一



「言葉はなぜ生まれたのか」岡ノ谷一夫

漢字の練習

179ページ 自分の意見をもつ
135ページ 批判的に読み評価する
51ページ 論理の展開

学びのカギ

論理の展開を捉える

筆者の思考の筋道をたどる。

- 論理の展開とは、結論や主張を導くための、筋道の通った考えの進め方のことである。
- 論理の展開を捉えるときには、文章を構成するそれぞれの部分が、どのような関係で結び付き、どのように主張や結論を支えているのかを考えるとよい。

例 原因と結果／意見と根拠／具体と抽象　など

258ページ 「学びのカギ」一覧

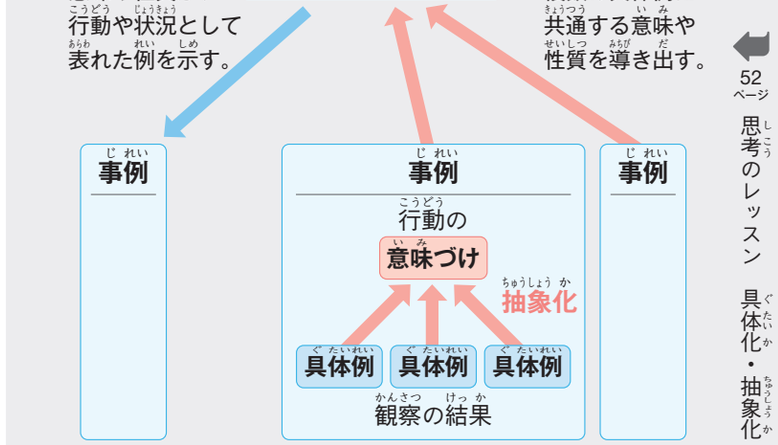
学びの地図

【学習で用いる言葉】

論説　自分の立場を明確にして、物事が理にかなっているかどうかを論じた文章。

【論理の展開を捉える】

具体と抽象を行き来することで説得力をもたせる論理展開



52ページ 思考のレッスン 具体化・抽象化

言の葉ポケット

一般に、「物語」という言葉はどんな意味や文脈で使われるだろう。新聞や本から探し、筆者の使い方と比べよう。

学びへの扉

見通しをもつ

論理の展開を捉え、筆者の主張について考えたことをまとめよう。［学習活動］

目標

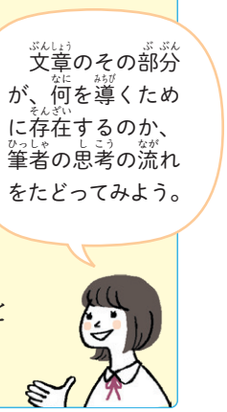
- 論理の展開における、具体と抽象の関係を捉える。（知る）
- 論説の特性を踏まえて読み、論理の展開のしかたを捉える。（読む）

捉える

1 論理の展開を捉えよう。

①次の点に着目して、ゴリラの事例の概要を捉えよう。
- ゴリラについて、作られた「物語」とは何か。
- その「物語」は、どんな経緯で作られたか。
- ゴリラの観察を通してわかったことは何か。

②次の点に着目して、論理の展開を捉えよう。
- 筆者は、ゴリラの事例（具体）を基に、人間に共通するどのような性質（抽象）を導いているか。
- その性質は、人間の社会にどんな状況をもたらすと述べているか。



読み深める

2 筆者の主張を捉えよう。

筆者は、作られた「物語」を超えて真実を知るために、どうすべきだと主張しているか。筆者の主張を要約しよう。

考えをもつ

3 筆者の主張について考え、文章にまとめよう。

筆者が指摘する人間の性質について、思い当たる事例を一つ挙げ、今後どのようなことを意識していきたいか簡潔にまとめよう。

振り返る

- 知る　□この文章の中で、具体と抽象の関係にあるものは何か。
- 読む　□論理の展開を捉えるときには、どんな点に着目すると効果的か。
- つなぐ　□今後、自分が意見文を書く際に、論理の展開に説得力をもたせるために活用できそうな工夫を一つ挙げよう。

情報

思考のレッスン 具体化・抽象化

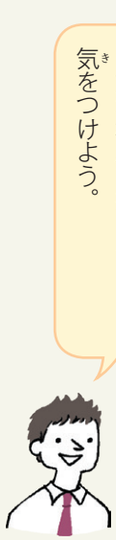
情報整理のレッスン 情報の信頼性 84ページ

■具体と抽象の関係に注意して読む

「作られた『物語』を超えて」は、ゴリラの事例を基に、人間の勝手な解釈で「物語」が作り出されてしまうことの危険性を論じていた。

このように、説明的な文章では、筆者の主張や意見（抽象）に対して、複数の事例や根拠（具体）を挙げて解説することが多い。

これまでに説明的な文章で学習してきた用語の中にも、具体と抽象の関係と捉えられるものがある。



抽象
・まとめ
・要旨
・主張・意見

具体
・事例
・根拠

■具体と抽象の関係に注意して書く

文章を書いたり話したりするときには、抽象的な話題を具体的な内容に広げたり、具体的なエピソードを抽象化してまとめたりするとよい。





チェックポイント

文章を読んだり書いたりするときには、次のことに気をつけよう。

- ☑ 文章や話の中で、具体と抽象の関係がどのように示されているか。
- ☑ 話題がどの程度抽象的で、どの程度具体的であるか。

■具体と抽象の関係にある論理の展開

［抽象から具体への展開］

結論や意見を示したうえで、具体の説明をする。

具体への展開を示す言葉

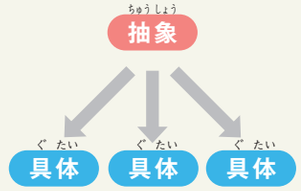
- 例えば、……。
- 具体的には……。
- ○○には、□□や△△がある。

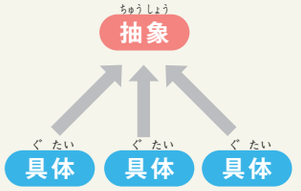
［具体から抽象への展開］

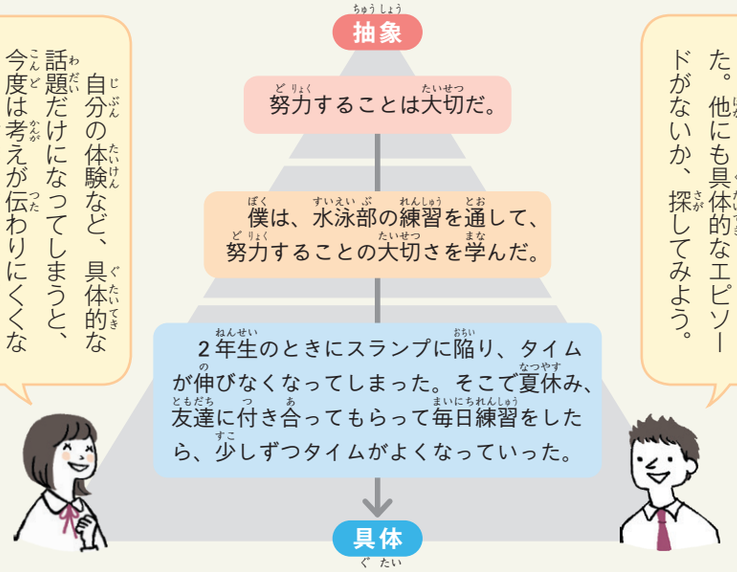
複数の事例や根拠を基に、結論や意見を述べる。

抽象への展開を示す言葉

- つまり、……。
- このように、……。
- 以上のことから、……。
- これらの結果から、……。







問題1 ▼ 山田さんは、犬と猫との違いについて、自分の経験を基に三つの具体例を挙げた。

①～③をまとめる文として、どんなものが考えられるだろうか。

① 私の家で飼っている犬は、姉の言うことなら何でも聞くが、私の言うことは聞かない。

② 私の家で飼っている犬は、誰かが二階に物を取りに行くときにもついてくる。猫は、自分の好きなときにしか二階には行かない。

③ 私の家で飼っている犬は、ボールを投げるとすぐ取りに行く。猫は、ボールを投げても、気が向かなければ無視する。

問題2 ▼ 次の言葉の意味を、「例えば」という言葉を使って、具体例を挙げながら説明してみよう。

① 平和
② 新鮮
③ 温和
④ 圧倒される

書く

論理の展開を意識して書こう

グラフを基に小論文を書く

資料を踏まえて意見を書くときには、情報を的確に読み取り、それを基に考えたことを論理的に表現する力が必要である。ここでは、課題に沿って情報を読み取り、文章の構成や論理の展開を意識して、小論文を書こう。

262ページ 発想を広げる

書くことのミニレッスン



目標
- 意見と根拠の関係について理解を深める。（知る）
- 読み取った情報を基に、論理の展開を意識して構成を考え、説得力のある文章を書く。（書く）

集める・整理する

1 課題に沿って材料を集める 56ページ

- 課題を正確に理解し、示された資料を読み解く（ここでは56ページの課題）。
- 読み取った事実と、その解釈やそれを基に考えたことを材料として書き出す。

組み立てる

2 構成や内容を考える

- 軸となる意見を決め、適切な根拠を選ぶ。
- 多様な読み手を説得できるよう、論理の展開を考え、文章の構成を工夫する。

表現する

3 小論文を書く

- 規定の文字数を守り、考えがわかりやすく伝わるよう表現を工夫して書く。

共有する

4 交流する

- 友達と文章を読み合い、論理の展開などについて助言し合う。

振り返る 57ページ

生かす
- 日常　アンケート結果から情報を読み取り、それを基に自分の意見をもつ。
- 将来　資料を引用し、説得力のある企画書を書く。

221ページ 学びの展望
137ページ 論理や表現
55ページ 論理の展開

学びのカギ

論理の展開を考える

- 意見や主張を導くための、論理の展開（筋道の通った考えの進め方）を明確に示すことで文章の説得力が高まる。
- 論理の展開を考えるときは、意見と根拠、意見と根拠を結び付ける「理由づけ」は何かを整理する。
  - 軸となる意見を決める。意見そのものや論理の展開に、独自性を出せるものが望ましい。
  - 正確で客観的な事実を根拠とする。
  - 意見と根拠を結び付ける「理由づけ」を考える。無理のない「理由づけ」は意見の説得力を高める。

260ページ 「学びのカギ」一覧

学びの地図

課題
どうすれば中学生の読書量を増やすことができるか。資料1～3（56ページ）の中から、一つ以上の資料を活用して、自分の考えを述べる。

【軸となる意見】
資料1・2から
電子書籍を活用する

資料3から
話題のテレビドラマや映画の原作を、学校図書館で紹介する

資料1・3から
……

【論理の展開の例】

根拠	理由づけ	意見
資料1から 小学生と比べて読む本の冊数が少ない	生活が多忙になる／電子書籍は空き時間に読書ができる	中学生の読書量を増やすために、電子書籍の活用を提案する
資料2から 中学生は電子書籍への関心が高い	電子書籍の利用をきっかけに、読書の価値に目覚める	

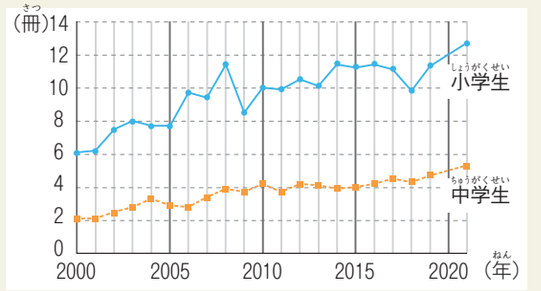


■グラフを読み取る

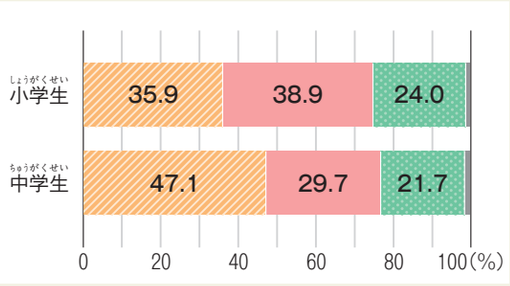
265ページ グラフの見方／引用・出典

【課題】どうすれば中学生の読書量を増やすことができるだろうか。資料1～3の中から、一つ以上の資料を活用して、自分の考えを四百～五百字程度でまとめよう。

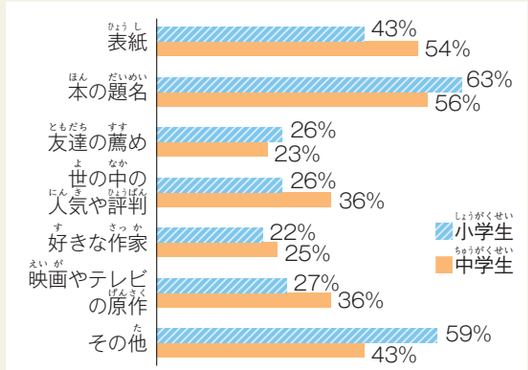
資料1
5月1か月間の平均読書冊数の推移
※2020年は調査中止



資料2
電子書籍の利用経験



資料3
本を読む主なきっかけ



資料1～3
全国学校図書館協議会他「学校読書調査」を基に作成。
(資料1：第46回から第66回調査、資料2・3：第66回調査)

■問いを立て、考えを深める

資料を分析する問い
・(グラフの場合)数値の比較から何がいえるか／わかる問題点は何か。
・資料が示す現状の背景として、どのようなことが考えられるか。
自分の考えを深める問い
・資料が示す現状を、どう捉えるか。
・どのような解決策が、考えられるか。
根拠・具体例を考える問い
・そのように考える根拠は何か。
・具体的な事例はあるか。

言の葉ポケット 252ページ 語彙ブック

論を展開するときの表現
●○○に基づいて……。
●この背景には……がある。
●具体的には／例えば……という事例がある。
●いっぽう、○○という視点から考えると、……。
●このように／以上のことから、……。

【小論文の例】

結論	本論	序論

私は、中学生の読書量を増やすために、電子書籍の活用を提案する。

資料1から見て取れるように、中学生は小学生と比べて読む本の冊数が少ない。これは、中学生になると、読書量が低下するということを意味する。一般に、部活動や自主学習に時間を割かれる中学生は、小学生より多忙である。読書量低下の要因として、読書にまとまった時間を割きにくいという事情があるのではないか。その点、電子書籍は、スマートフォンやタブレットでいつでも手軽に本を選び、読むことができる。少ない空き時間も活用できるため、忙しい中学生に適した読書の方法といえる。

また、資料2によると、電子書籍を「読んだことがある」または「読んだことはないが読んでみたい」と答えた中学生は全体の約八割に上り、電子書籍への関心の高さがうかがえる。興味のある媒体の使用は、読書そのものへの心理的ハードルを下げる。それをきっかけに読書の価値に目覚め、継続的な読書へと導かれる人も多いはずだ。

以上のことから、電子書籍の活用は、中学生の読書量を増やすための有効な手段だと考える。

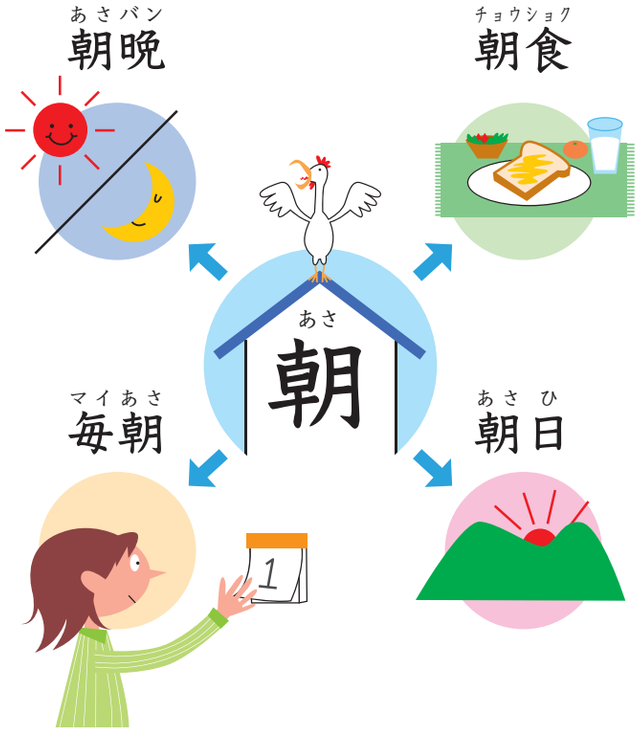
▼提案・自分の考え
・私は、○○を提案する。(提案)
▼資料1の分析→解決策の提示
・資料○○から見て取れるように、(資料の読み取り、事実)
・○○は□□と比べて、(比較)
・これは、○○ということを意味する。(解釈)
・一般に、(一般論)
・○○の要因として、(原因・要因)
・その点、(観点の提示)
・○○といえる。(意見)
▼資料2の分析→解決策の提示
・全体の○割に上る。(数値＝事実＋判断)
・○○がうかがえる。(解釈)
・○○はずだ。(意見)
▼まとめ
・以上のことから、(結論)

振り返る
- 知る □資料から得たどのような情報を根拠とし、どのように意見と結び付けたか。
- 書く □説得力のある小論文を書くために、論理の展開をどのように工夫したか。
- つなぐ □友達と文章を読み比べ、説得力のある資料の活用のしかたについて考えよう。

漢字1

熟語の読み方

漢字の読みには音と訓があり、熟語は、次のように音と訓をさまざまに組み合わせて読む。
（音は片仮名、訓は平仮名で表している。）



音と音　訓と訓

熟語は、上の漢字が音読みなら下の漢字も音読み、また、上の漢字が訓読みなら下の漢字も訓読みになることが多い。

音と音	訓と訓
着陸（チャク・リク）　整頓（セイ・トン）	着物（き・もの）　長袖（なが・そで）
鳥獣（チョウ・ジュウ）　頒布（ハン・プ）　など	外堀（そと・ぼり）　枕元（まくら・もと）　など

重箱読み　湯桶読み

熟語の上下の漢字を、音と訓を組み合わせて読むものもある。

「重箱」は、「重」を音、「箱」を訓で読む。このように、上の漢字を音、下の漢字を訓で読むことを**重箱読み**という。

重箱読み
仕事（シ・ごと）　茶釜（チャ・がま）
両脇（リョウ・わき）　別棟（ベツ・むね）　など

また、「湯桶」は、「湯」を訓、「桶」を音で読む。このように、上の漢字を訓、下の漢字を音で読むことを**湯桶読み**という。

15　10　5

湯桶読み
夕刊（ゆう・カン）　手本（て・ホン）
荷物（に・モツ）　枠内（わく・ナイ）　など

特別な読み方

熟語の中には、漢字一字ごとに音や訓で読むのではなく、一つのまとまりとして特別な読み方をするものがある。この特別な読み方を**熟字訓**とよぶ。

332ページ 常用漢字表 付表

熟字訓	
明日（あす）　今年（ことし）　五月雨（さみだれ）	
白髪（しらが）　梅雨（つゆ）　吹雪（ふぶき）　など	

複数の読み方をする熟語

- **年月**（ネン・ゲツ／とし・つき）
- **明日**（ミョウ・ニチ／あす）
- **上手**（うわ・て）……彼のほうが一枚上手だ。
  （かみ・て）……舞台の上手に立つ。
  （じょうず）……姉は上手な字を書く。

「年月」や「明日」は、いずれの読み方でも同じ意味を表すが、「上手」は、読み方によって意味が異なる。このような熟語は、文脈に注意して読もう。

15　10　5

練習問題

●は中学校で学習する音訓　317ページ

1 次の――線部の熟語を読もう。そのうち、重箱読み・湯桶読みの熟語を見つけよう。

① 峡谷を探検する。
② 千潟にすむ生物。
③ 喪中のはがき。
④ 藍色の反物を贈る。
⑤ 川の浅瀬を渡る。
⑥ 錦絵の展覧会。
⑦ まっすぐで純粋な瞳。
⑧ 国王に謁見する。
⑨ 繭玉を飾り付ける。
⑩ 錠前を取り付ける。
⑪ 患者を治療する。
⑫ 碁石を並べる。

2 次のアは音で、イは熟字訓で読もう。

① ア 甲乙　イ 乙女
② ア 崩壊　イ 雪崩
③ ア 治金　イ 鍛冶
④ ア 硫酸　イ 硫黄

新出漢字

58	枕（まくら）	58	釜（かま）	58	脇（わき）	58	獣（ジュウ・けもの）
59	藍（ラン・あい）	59	瀬（せ）	59	錦（キン・にしき）	58	頒（ハン）
59	繭（ケン・まゆ）	59	患（カン・わずら-う）	59	碁（ゴ）	59	乙（オツ）
59	治（ヤ）	59	硫（リュウ）				
58	頓（トン）	58	棟（トウ・むね・（むな））	59	粋（スイ・いき）	58	袖（シュウ・そで）
59	瞳（ドウ・ひとみ）	59	枠（わく）	59	峡（キョウ）	58	堀（ほり）
59	謁（エツ）						

漢字一覧表

漢字に親しもう２

新しく習う漢字 306ページ

1 次の――線部の言葉を読もう。【漢字の読み（日常生活）】

① 都内某所で撮影が行われる。［　　］
② 洗剤がよく泡立つ。［　　］
③ 友達と親睦を深める。［　　］
④ 同僚と昼食を取る。［　　］
⑤ 炭には臭いを消す効果がある。［　　］
⑥ 紙幣を硬貨に両替えする。［　　］

2 次の□に合う漢字を〈　〉から選ぼう。【同じ音読みの漢字】

① ソウ〈槽・遭〉
(ア) □難　(イ) □水

② コン〈懇・墾〉
(ア) □談　(イ) □開

③ ホ〈哺・捕〉
(ア) □獲　(イ) □乳類

④ ケン〈険・倹〉
(ア) □約　(イ) 冒□

⑤ ハク〈伯・舶〉
(ア) □仲　(イ) □来

3 次の――線部は〈人〉が部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。【同じ部首の漢字】

① 偉人［　　］　② 僧侶［　　］
③ 模倣［　　］　④ 偽装［　　］

新しく習う音訓 317ページ

・は中学校で学習する音訓

4 次の――線部の読みの違いに注意して、それぞれの熟語を読もう。【複数の音読み】

① 発端［　　］　発言［　　］
② 宗家［　　］　宗派［　　］
③ 実兄［　　］　兄弟［　　］
④ 石高［　　］　宝石［　　］
⑤ 出納［　　］　納得［　　］

新出漢字

60 某 ボウ
60 泡 ホウ あわ
60 睦 ボク
60 僚 リョウ
60 幣 ヘイ
60 槽 ソウ
60 懇 コン（ねんごろ）
60 哺 ホ
60 臭 シュウ くさい・におう
60 倹 ケン
60 舶 ハク
60 偉 イ えらい
60 僧 ソウ
60 侶 リョ
60 倣 ホウ（ならう）
60 偽 ギ いつわる（にせ）

漢字一覧表

3 言葉とともに

表現を楽しみ、言葉の世界の奥深さを知る

俳句の可能性　俳句・解説 …… 宇多喜代子

俳句の創作教室 …… 神野紗希

俳句を味わう　俳句

言葉の釣り糸を垂らす　随筆 …… いしいしんじ

言葉2　和語・漢語・外来語

語彙を豊かに　時代や世代による言葉の変化



時を表す言葉❸　白昼 | 昼のさなか。真昼。日中。

俳句の可能性

宇多 喜代子

読む

好きな俳句を選び、表現のしかたを評価して、鑑賞文を書こう。［学習活動］

目標

- 俳句の表現意図による語句の使い分けに着目し、語感を磨く。
- 俳句の作者の表現意図を考え、表現のしかたを評価する。

どの子にも涼しく風の吹く日かな

飯田龍太

この句には、「どの子」とは誰なのか、風の吹いている場所はどこなのか、過去のことなのか、現在のことなのか、時間は午前なのか午後なのか、そのような説明が何も書かれていない。わかっているのは、季節が夏であること、子供が複数いること、その子たちに涼しい風が分け隔てなく吹いているということだけである。

俳句が散文や報道記事などと違うのは、省略されている部分を、読む人の自由な解釈で補って鑑賞できるというところである。この句を読んで、「どの子にも」とは自分のことだ、と思う人もあるだろうし、校庭の木陰でクラスメイトとくつろいでいるときのことだと思う人もあるだろう。幼児の頃、海辺で遊んだ体験を思い出す人もあるだろう。

そんな想像をかきたてる個々別々の言葉を一つにつないでいるのが、五・七・五という「定型」と、「涼し」という夏を表す言葉、すなわち「季語」である。詳しい説明を省略する俳句には、一句の柱となる言葉に「季語」を用い、それを五・七・五という「定型」で表現するという基本的な約束がある。この約束を「有季定型」といい、俳句という韻文を支える大きな力となっている。「涼し」が夏の季語であることを知るには「歳時記」を繰ればよい。



飯田龍太　一九二〇―二〇〇七　山梨県出身。俳人。句集に「百戸の谿」「忘音」「涼夜」「山の影」「遅速」などがある。

6 **散文**　決まった形式や音のリズムをもたない普通の文章。

10 かきたてる　文

いくたびも雪の深さを尋ねけり

正岡子規

雪が激しく降っている。重い病気で寝ている子規が、僅かに見える障子の穴からその様子を見ている。どのくらい積もったのか、確かめることができない子規は、病室を出入りする人に、積雪の様子を幾度も尋ねる。今、くるぶしくらいまで積もったよ、とか、膝が埋まるくらいになったよ、などと聞き、庭や道路や公園に積もった雪景色を想像する。

降る雪のことを詳しく説明したくても、「定型」という制約の中では全部言い尽くせない。そこを補うために工夫された方法の一つに「切れ字」がある。例えば、冒頭の句で、これ以上は言えないという断念を表しているのが、最後の「かな」であり、子規の句の「けり」である。次に、「切れ字」を用いずに一句を完成させた俳句を紹介しよう。



正岡子規　一八六七―一九〇二　愛媛県出身。歌人・俳人。句集に「寒山落木」などがある。

友岡子郷　一九三四―二〇二三　兵庫県出身。俳人。句集に「遠方」「葉風夕風」などがある。

1 **韻文**　短歌や俳句など、一定の形式や音のリズムをもった文章。

2 **歳時記**　季節の言葉をまとめた本。俳句では季語を分類し、解説や例句を付けたものをいう。

9 **切れ字**　俳句の中で句の切れ目に使う言葉。「や」「かな」「けり」など。

10 断念　意

15 感性　意

6 漢 膝　ひざ

膝

跳箱の突き手一瞬冬が来る

友岡子郷

初冬の体育館で体育の跳び箱練習をしている瞬間を、カメラに捉えたと思えばいい。跳び箱に手を突いて空中に飛び上がった。その一瞬、宙で触れた澄んだ大気に、「冬だ。」と感じたのだ。「跳箱の突き手一瞬」と「冬が来る」ことは無関係だが、作者の感性は、この二つを一つにすることで、初冬のきりっとした季節感を出すことに成功している。

「一瞬」を「冬」という長い時間につなぐことができるように、とが表現できるところに、俳句の可能性が秘められている。

たんぽぽのぽぽと絮毛のたちにけり

この句を声に出してみるといい。「ぽぽ」というときの唇の丸い形と声の響きが、たんぽぽの丸い絮毛の軽やかな様子をよく表していることに気づくだろう。声に出して読むことで言葉が生き生きしてくるのも、韻文の特徴の一つである。その特徴をさらに生かしたのが次の句だ。

分け入つても分け入つても青い山

種田山頭火

放浪の俳人とよばれた山頭火は、一人で全国を行脚する旅に出た。繰り返した言葉のリズムが、山道をひたすら進む歩調に重なり、読者を共に歩いているかのような調子に誘い込む。この句は五・七・五の定型をはみ出しており、季語もない。このような自由な音律の俳句を「自由律俳句」とよび、季語のない俳句を「無季俳句」とよんでいる。約束が多くて、俳句は難しいと思われるかもしれないが、ここに取り上げた俳句には特別なものは一つも出てこない。涼しい風、雪、跳び箱、たんぽぽ、歩くことなど、私たちの身近なものばかりだ。関心をもてば、教室の窓から見える雲も、風に揺れる草木も、道端の小石も虫も、友達や家族も、みな俳句の主役になってくれる。

俳句を作るとき、うまく作ろうと思わなくても、目を留めたものに「こんにちは。」という挨拶の気持ちが伝われば、その気持ちはおのずと俳句となる。気に入った風景をカメラで撮るような気軽な感覚で自由に俳句を作ってほしい。できあがった俳句は、その瞬間の気持ちを鮮やかに映し出した、作者だけの大切な記録となるだろう。



筆者　**宇多喜代子**　一九三五（昭和一〇）―　山口県出身。俳人。
著書　句集「夏の日」「夏月集」「象」、講義録「女性俳人の系譜」、随筆「名句十二か月」など。
出典　本書のための書きおろし。

学びへの扉

見通しをもつ

好きな俳句を選び、表現のしかたを評価して、鑑賞文を書こう。［学習活動］

目標

- 俳句の表現意図による語句の使い分けに着目し、語感を磨く。（知る）
- 俳句の作者の表現意図を考え、表現のしかたを評価する。（読む）

捉える

1　俳句の特徴を確認しよう。

①リズムや言葉の響きに注意して、それぞれの俳句を朗読しよう。
②俳句の決まり事や形式を確認しよう。

読み深める

2　筆者の評価のしかたを捉えよう。

それぞれの俳句に描かれた情景や心情と、筆者が着目した表現、その表現の効果として筆者が考えたことをまとめよう。

考えをもつ

3　好きな俳句を選び、鑑賞文を書こう。

①本文や「俳句を味わう」（68ページ）から好きな句を選ぼう。
②表現の意図を考え、表現のしかたを評価して、200字程度の鑑賞文を書こう。

振り返る

- 知る　□俳句の表現意図や目的に対して、特に効果的だと感じた語句は何か。
- 読む　□友達の鑑賞文を読んで、新しく気づいた表現の魅力や工夫は何か。
- つなぐ　□表現のしかたの中で、俳句の創作に生かせそうなことを挙げてみよう。

広がる読書



「部活で俳句」今井聖

漢字の練習

加藤楸邨　一九〇五―一九九三　東京都出身。俳人。句集に「寒雷」「まぼろしの鹿」などがある。



種田山頭火　一八八二―一九四〇　山口県出身。俳人。句集に「草木塔」などがある。



8 **行脚**　僧が修行のために諸国を巡り歩くこと。また、ある目的で諸地方を旅すること。

10 **音律**　音の調子。ここでは、言葉のリズムについていっている。

俳句の創作教室

248ページ 語彙ブック

「私」の感じ方を確かめよう

Ⓐ 夏が好き［　　］夏が好き

Ⓑ［　　］

夏のどんなところが好きですか。ⒶⒷどちらかの形で、［　　］に、好きだと思う理由を入れてみましょう。

例 夏が好き海がまぶしく光るから

例 屋上で友が手を振る夏が好き

「私」の気持ちに言葉を与えよう

小説やドラマのようにせりふを考え、気持ちにフィットする季語を合わせましょう。チューリップなら明るい、トマトなら元気、檸檬なら爽やか……。季語のイメージを生かしてみましょう。つぶやき、投げかけ、命令……、話し言葉だと、身近な印象が出ますね。

例 夜空より君が好きだよ ＋ ほら檸檬

例 トマト切る ＋ 方程式が解けなくて



みんなが思う「夏」よりも、実は私はこんな「夏」が好きだよ、という瞬間を、自然の様子や生活の場面から探してみてね。

神野紗希さん

季語（植物）

［春］桜、チューリップ、ヒヤシンス、たんぽぽ、土筆
［夏］向日葵、薔薇、トマト、バナナ、さくらんぼ
［秋］桃、梨、林檎、葡萄、檸檬、コスモス
［冬］蜜柑、寒椿、ポインセチア、落葉、冬木の芽

季語の中に「私」を探そう

心引かれる生き物を季語の中から選んでください。そして、その生き物のどんなしぐさにぐっとくるか、「私」がその生き物ならどんな場所で何をしたいか、詠んでみましょう。

例 真っ白なタオルに眠る子猫かな

例 狼や草原どこまでも駆ける



生き物が自分の分身になって、俳句の中で生きてくれます。

季語（生き物）

［春］蝶、蜂、燕、子馬、子猫
［夏］蟻、蛍、かたつむり、子鹿、蟬、海月、金魚
［秋］鹿、猪、蓑虫、渡り鳥、こおろぎ、小鳥
［冬］鯨、兎、狼、白鳥、鷹、冬雀

句会を開こう

作った俳句を持ち寄って、次のような手順で句会を開いてみましょう。

① 一人一句ずつ、俳句を提出する。

② 作者がわからないよう、名前を伏せた状態で、クラス全員が作った俳句の一覧を作る。

③ 気に入った句を一人五句ずつ選び、投票する。このとき、自分が作った句は選ばないようにする。

動画

④ 投票数の多い句を発表する。

⑤ 司会者を決めて、それぞれの俳句のよいと思ったところなどを話し合う。その後、作者を明らかにする。

［感想を交流するときの観点の例］

- その季語を選んだ理由。
- オリジナリティーや発見。
- 言葉のリズムのよさ。



筆者 **神野紗希** 一九八三（昭和五八）――
愛媛県出身。俳人。
著書 句集「星の地図」「すみれそよぐ」など。

広がる読書



「俳句部、はじめました」
神野紗希

俳句を味わう

バスを待ち大路の春をうたがはず
ちるさくら海あをければ海へちる

萬緑の中や吾子の歯生え初むる
山越える山のかたちの夏帽子

いなびかり北よりすれば北を見る
※金剛の露ひとつぶや石の上

冬菊のまとふはおのがひかりのみ
星空は無音の※瀑布鯨飛ぶ

咳をしても一人

石田波郷
高屋窓秋
中村草田男
桂信子
橋本多佳子
川端茅舎
水原秋櫻子
神野紗希
尾崎放哉

●それぞれの俳句に表現されている季節や情景、作者の思いなどを捉え、朗読してみよう。

石田波郷　一九一三―一九六九
愛媛県出身。俳人。句集に「酒中花」などがある。

高屋窓秋　一九一〇―一九九九
愛知県出身。俳人。句集に「石の門」などがある。

中村草田男　一九〇一―一九八三
中国の福建省生まれ。俳人。句集に「火の島」などがある。

桂信子　一九一四―二〇〇四
大阪府出身。俳人。句集に「樹影」などがある。

橋本多佳子　一八九九―一九六三
東京都出身。俳人。句集に「海燕」などがある。

川端茅舎　一八九七―一九四一
東京都出身。俳人。句集に「華厳」などがある。

※金剛＝ダイヤモンドのこと。

水原秋櫻子　一八九二―一九八一
東京都出身。俳人。句集に「葛飾」などがある。

※瀑布＝滝のこと。特に、規模の大きなもの。

尾崎放哉　一八八五―一九二六
鳥取県出身。俳人。句集に「大空」などがある。

言葉の釣り糸を垂らす

いしい しんじ

僕たちは普段、いろんなものに取り囲まれて暮らしています。テレビだったり、自転車だったり、動物だったり、目玉焼きだったり。

こういうものは、目に見えます。そしてすぐにその名前を言うことができます。お茶だな、とか、本だな、とか、赤いペンだな、とか。名前がついていて、目に見えるからです。学校の作文や、大人が日常で書く文章などは、こういう目に見える言葉で書くことが多いようです。

でも、それだけじゃなくって、僕たちは生まれてからずっといろんなものを見てきています。聞いてきています。いろんな記憶がたまっています。それらは記憶の奥底に沈んでいる。名もなく、目にも見えないから、普段の言葉でつかめないわけです。奥のほうで溶け合わさっているんです。

そこに、釣り糸みたいに言葉を垂らしてあげる。例えば、「楽しかった誕生日」とか「好きな漫画」、「飼っていた動物」「おばあちゃんの癖」とか。身近な、親しみのある言葉がよく効くようですけど。

すると、不思議なことに、この溶けた記憶、忘れてしまったと思っているものが言葉の周りにくっついてきます。本当に、釣りみたいに。そして、この言葉が、それぞれの記憶に形を与え、光を当て、だんだんと見えるようにしてくれる。消えてしまった、と思い込んでいた情景が、音や匂い、奥行きをもった記憶として、育っていきます。それを、日常の意識の上に、そおっと引き上げてみる。

こんなこと覚えていたのか、とか、こんなこと思ってたんだな、とか、次々に出てきます。これは、実は過去のことだけではなくて、日頃からなんとなく思っているけど言葉になっていない気持ちとか、まだ起きていない出来事、未来からも、形にならないものが集まってくるんです。それでどんどん広がっていく。

自分の中に、言葉にならないもやもや、ざわつき、透明な何かがこんなにも豊かに眠っている、その可能性と広がり。

目標

●感覚や概念を表す語句・表現の幅を広げる。
●文章に表れた筆者のものの見方や考え方について考える。

読む

筆者ならではの語彙や表現のしかたに着目し、筆者のものの見方や考え方について考えよう。［学習活動］

こうした実験をすると、自分の中が、びっくりするくらい深くて広いんだっていうことがわかります。大人も子供も、言葉を使って、自分の奥底を探ることができるんです。

小説を書くというのは、これと全く同じことで、意識の上のほうの、目に見えている言葉、これだけで私は書いてます、と言う小説家はいるかもしれないけど、たぶん、そればっかりということはないでしょう。昔読んだ本、昨日食べたパン、将来いっしょにどこかに旅行に行きたいなというイメージ、そういう目に見えないもやもやが、心の奥から意識の上へ、浮かび上がったり沈んだりする繰り返しのうちに、徐々に目に見える文章というものができてきます。

言葉を書くということは、世の中にある、見える言葉をいろいろとつなぎ合わせて、人に読ませるための文章を作るだけじゃない。普段からも、誰かに手紙を書いたり、メッセージを送ったりしますね。そういうとき、不意に、自分の中へ、ある言葉が沈んでいくことがある。自分の中に眠っているけれども、日常の暮らしでは気づいていない何か、それをざっと集めて、大きくすることが、言葉にはできるんですね。

言葉とは、過去・現在・未来の記憶を引っ掛ける、釣り針みたいなものです。何もないと思っていたのに、実はこんなにいっぱい沈んでいたのか、と、ある言葉を自分の中に浸すだけで、ふわっと内側からわかってきます。

僕が勧めたいのは、どんなことについても、自分の中に言葉を垂らしてみること。すると、ほぼ必ず、それまでの自分が思ってもみなかった何かがくっついてきてくれます。

遊びの瞬間でも、仲のいい誰かとご飯を食べているときでも、夫婦二人で黙って散歩しているときも、試みに、ある言葉を自分の中にすっと垂らすと、自分の中から、それまでになかった光が差し、外にあふれてくる。ひょっとして、こういうことは、生きていていちばん大事なことなんじゃないか、と僕は思います。自分の中にある、眠っているものをかき立てながら生きていくというのは。

僕たちはずっと言葉を使って、言葉を交わして、言葉でいろんなものを自分の中へ収めていきます。それはいつしか、言葉の形をほどいて、意識の水底へ、ゆっくりと沈んで目に見えなくなります。でも、それは消えないんですよ。目に見えない、言葉になっていない記憶や未来からの光が、実は僕たちの生を底から支えている。「書く」ことは、自分の本当の生を、言葉の形で取り戻すことにほかならないのです。

新出漢字 題 釣（チョウ）

漢字の練習



筆者 **いしいしんじ** 一九六六（昭和四一）――
大阪府出身。小説家。
著書 「麦ふみクーツェ」「プラネタリウムのふたご」など。
出典 「書こうとしない『かく』教室」を、本書のために書き改めたもの。

学びへの扉

見通しをもつ

筆者ならではの語彙や表現のしかたに着目し、筆者のものの見方や考え方について考えよう。［学習活動］

目標
- 感覚や概念を表す語句・表現の幅を広げる。（知る）
- 文章に表れた筆者のものの見方や考え方について考える。（読む）

捉える

1 題名の意味を捉えよう。

「言葉の釣り糸を垂らす」とは、どうすることで、それによってどんな効果があるかを、まとめよう。

読み深める

2 筆者のものの見方や考え方について考えよう。

①本文の例（69ページ上段14～16行目）を参考に、「言葉の釣り糸」を垂らす「実験」をしてみよう。そこにくっついてきた記憶や考えを、200字程度でまとめよう。

②筆者は、「書く」ことを、どのような行為だと考えているだろうか。「実験」をしてわかったことや、最後の一文を手がかりにして、グループで話し合おう。

考えをもつ

3 文章を読んでよいと思ったところを話し合おう。

筆者のものの見方・考え方や、その伝え方、表現のしかたにおいて、よいと思ったところを話し合おう。

振り返る

- **知る** □筆者が文章の中で用いた語句・表現の中で、印象に残ったものは何か。
- **読む** □筆者のものの見方・考え方に対する自分の考えは、「実験」の前後でどのように変化したか。
- **つなぐ** □今後、文章を書くときに取り入れてみたいと感じた、筆者の提案や考え方を挙げてみよう。

言葉2 和語・漢語・外来語

次の（　）に補う言葉として、あなたは「速さ」「速度」「スピード」のどれを選ぶだろうか。それぞれの言葉が使われる場面や語感に着目して、選んだ理由を説明しよう。

投球の（　）を計測する。



和語

もともと日本で使われていた語を**和語**（大和言葉）という。普通、平仮名で書かれたり、漢字の訓読みで表されたりする。和語には、「山」「来る」「大きい」など、基本的な語が多い。

和語は、親しみやすく意味を捉えやすいので、日常会話でよく用いられる。

例 言葉・侍・宵・滝つぼ・桑畑・面影・少し・もし・だけ

漢語

漢字の音読みで読まれる語を**漢語**という。漢語には、中国で作られて日本に入ってきた語と、日本で作られた語がある。なお、「ぼく」（僕）のように、平仮名で書かれていても、音読みする語であれば漢語である。

漢語は、硬い語感をもつ傾向があり、抽象的な意味を表す語も多い。社会制度や専門的な知識を表す語など、ニュースや新聞などでよく使われる。

例 生活・言語・訴訟・債権・破綻・年俸・隠蔽・進捗

外来語

漢語以外で、外国語から日本語に取り入れられた語を**外来語**という。多くは、明治期以降に欧米から新しい事物と共に取り入れられた語で、現在も次々に新しいものが生まれている。外来語は、外国から入ってきた物の名前や学問の用語、新しい感覚などを表すのに使われ、新鮮さや軽快な印象を与える効果もある。なかには、「ジーパン」のように日本で作られた語（和製英語）もある。普通、外来語は片仮名で書かれるが、「てんぷら」「金平糖」など、外来語の意識が薄くなっているものは平仮名や漢字で書かれる場合もある。

例 ボタン・ピザ・イクラ・メモ・シンプル・バリアフリー・プログラム・リサイクル

混種語

和語・漢語・外来語の組み合わせでできた語を**混種語**という。

例 花火大会・卸売り業（和語＋漢語）
古タイヤ・右サイド（和語＋外来語）
レポート用紙・インスタント食品（外来語＋漢語）

生活に生かす

和語・漢語・外来語を使い分けよう

ある事柄を和語・漢語・外来語で言い表せる場合には、相手や場面に応じて適切な語を選ぼう。

例えば、新しい物や考え方を示す外来語は、聞き慣れない人にとっては意味を推測しづらいことが多い。その場合には、和語や漢語で言い換えると理解しやすくなるだろう。

- セキュリティー ⬇ 安全・防犯のための設備
- ショートカット ⬇ 近道・簡単な方法

ただし、外来語・和語・漢語の意味は完全に一致するわけではない。また、与える印象が異なる点にも注意が必要である。

言い換える際には、伝えたい内容をよく考えたうえで語を選び、必要ならば、説明を補足しよう。

新出漢字

72 侍（ジ・さむらい）
72 訟（ショウ）
72 蔽（ヘイ）
72 債（サイ）
72 捗（チョク）
73 卸（おろす・おろし）
72 綻（タン・ほころびる）
72 宵（ショウ）
72 俸（ホウ）
72 滝（たき）
72 桑（ソウ・くわ）

漢字の練習

語彙を豊かに
時代や世代による言葉の変化

言葉は、時の移り変わりとともに変化する。そのため、同じ言葉を使っても、相手によっては、言いたいことがうまく伝わらないことがある。言葉の変化について理解し、相手に応じた言葉を選べるようにしよう。

1 言葉の変化について知ろう

言葉は、時代や世代によって変化する。言葉の意味を正しく理解したり、相手に応じた言葉を選んだりするために、言葉の変化について知ろう。

これまでに読んだ本や世代の異なる人との会話を手がかりに、現在とは意味や使い方が異なる言葉を探してみよう。



語感を磨く

時代による変化を知る

［意味の変化］ 例「をかし（おかしい）」の意味の変化

約1000年前

「をかし」の主な意味
- 趣がある。風情がある。
- 興味深い。

清少納言「枕草子」
雨など降るもをかし。

現代

「おかしい」の意味
- 滑稽だ。変だ。
- 疑わしい。

意味
雨などが降るのも趣がある。

世代による変化を知る

［よび名の変化］





［表すものや意味の広がり］

例「さくさく」の意味の広がり



物事がはかどる様子



食べ物をかんだときの歯切れのよい軽快な音

語感を磨く

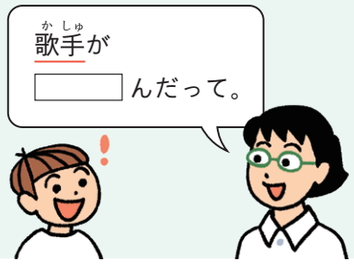
和語・漢語・外来語の使い分け

相手の世代に合わせて、言葉を言い換えるときには、特に「和語・漢語・外来語」の使い分けに注意するとよい。

72ページ

和語・漢語・外来語





2 相手に合わせて、言葉を選ぼう



自分の思いや考えを的確に伝えるためには、相手に合わせて、適切な言葉を選ぶことが大切だ。話す相手を自由に設定し、左の文章をわかりやすく言い換えてみよう。

例
- 祖父母を誘う場合
- 地域の児童館で、小学生に参加を呼びかける場合

など

来月、駅のそばのスタジアムでライブがあるよ。この町にゆかりのあるアーティストが一堂に会するんだって。夏季休暇中だし、僕は行くつもりだけど、みんなもどう。オフィシャルサイトはもうオープンしているから、詳しいことはネットで見てみて。こんな機会めったにないから、今から待ち遠しいね。

情報×SDGs

情報

実用的な文章を読もう

私たちの身の回りには、広告、商品などの説明資料、取扱説明書、パンフレット、行政機関からのお知らせなど、さまざまな種類の実用的な文章がある。必要に応じて適切に情報を読み取り、生活に生かすにはどうすればよいか考えよう。

やってみよう

青田市に引っ越してきた高橋さんは、ごみの分別のしかたがわからず、困っている。

❶ 青田市では次の物をどう捨てるか、A・Bから読み取ろう。

捨てるもの

- ペットボトル（キャップ・ラベル付き）
- 割れた茶わんのかけら
- バドミントンのラケット（金属製）
- フライ返し（金属製・持ち手はプラスチック製）

読み取る観点

- 何に分別するか
- いつ出すか
- どこに出すか
- その他の注意点



❷ 実用的な文章には、他にどんなものがあるだろう。具体的な例を一つ挙げ、その実用的な文章を読むときには、どんなことに注意して読めばよいか、考えてみよう。



A 資源の分別に関するウェブページ（青田市）

https://www.city.aota.lg.jp/kurashi/bunbetsu/shigen/2022/

資源の分別について

- 火曜日の朝８時までに、地域の収集所に出してください。
- 下記の種類ごとに分け、中身の見える袋に入れてください。

1 資源プラスチック

- 識別マーク（右）を目安に分別してください。
- 識別マークがない場合も、プラスチックのみでできた製品や、大部分がプラスチックでできた製品は、資源プラスチックに分別できます。
- プラスチックが一部使われている製品でも、大部分が他の素材（金属など）の場合、資源プラスチックには分別できません。大部分を占める素材のほうに分別してください。
- 汚れているものは軽くすすぎ、乾かしてください。汚れが落とせないものは、可燃ごみに分別してください。
- 家電製品は資源プラスチックに分別できません。大きさによって、不燃ごみか粗大ごみのどちらかに分別されます。詳しくは、それぞれの処分方法をご確認ください。

2 ペットボトル

- 識別マーク（右）があるものが対象です。
- 軽くすすぎ、キャップとラベルを外してください。
- 汚れが落とせないものは可燃ごみとしてください。
- キャップ・ラベルは上記の 1 に分別してください。

3 瓶・缶

B 分別に関するポスター（青田市）

資源とごみの分け方・出し方　○○年４月１日現在（青田市）

出し方の基本ルール

- 品目ごとの収集日を守り、朝８時までに地域の収集所に出してください。
- 中身の見える袋に入れてください。串などのとがった物や、割れ物、刃物を捨てるときは、新聞紙や購入したときのケースに包み、「キケン」と書いて、袋には入れずに出してください。

可燃ごみ

回収日：**毎週水曜日・土曜日**

例
- 生ごみ
- 古紙に分別できない紙ごみ（紙くず、ティッシュなど）
- 草木、生花
- 革製品
- ゴム製品
- 汚れが落とせないプラスチック製品　など

不燃ごみ

回収日：**第１・第３木曜日**

例



資源

回収日：**毎週火曜日**

例



粗大ごみ

- 家具などの大きなごみ（おおむね 30cm 以上）が粗大ごみです。
- エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、乾燥機は、法律でリサイクルするよう定められています。詳しくは、製品を購入した店舗や、買い替えた店舗にお問い合わせください。
- 粗大ごみの収集は申し込み制で有料です。希望される方は、受付センターのウェブサイトから申し込んでください。

URL: https://www.city.aota.lg.jp/kurashi/…

エスディージーズ
× SDGs

12 つくる責任 つかう責任

つくる責任
つかう責任

情報

報道文を比較して読もう

次のA・Bは、奄美・沖縄の世界自然遺産登録から一年後の状況について報じた新聞記事である。二つの記事を比べて読み、内容を整理して、気づいたことや考えたことを文章にまとめてみよう。

記事A（2022年7月27日）

世界自然遺産1年 経済効果 コロナ禍が逆風

鹿児島県と沖縄県の「奄美大島、徳之島、沖縄島北部、西表島」の4島が国内5件目の世界自然遺産に登録されて26日で1年がたった。観光客増による経済効果が見込まれたが、新型コロナウイルス禍で伸び悩む。多様な自然の魅力を多くの人に発信し、どう次世代に継承するかも課題だ。

マングローブ林や常緑樹林の中に、絶滅の危機にひんする95種の動植物が息づく唯一無二の生態系。豊かな自然が評価され、4島の約4万3千ヘクタールは世界自然遺産となった。コロナ禍で経済効果は足踏み状態だが、地元は環境保全の意識を高め、観光との両立を模索する。

遺産登録を追い風と見込み、奄美群島の振興計画で、年間延べ100万人の宿泊客を目標に掲げていた鹿児島県。2019年には91万人に達したが、コロナ禍を受け20年は60万人まで落ち込んだ。医療体


新緑に覆われた沖縄本島北部の森

奄美・沖縄 保全と観光どう両立

制が脆弱な離島では感染への警戒感が強く、PRが難しかったことも逆風になった。

希少種の事故死

「結果的にツアー客が殺到しなかったのはよかった面もある」。奄美大島でエコツアーを行う奄美ネイチャーセンターの代表は打ち明ける。観光客が自然遺産地域に立ち入り、動植物に影響が出るのを心配していた。コロナ禍で来島者が激減した2年間を準備期間と捉え、「客が増えても分散して自然観察ができるよう、ガイド先の候補を探している」。

観光需要増に伴う生態系へのダメージは登録前から懸念材料だった。国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産委員会は登録にあたり、希少種の交通事故死の対策や、沖縄県・西表島における観光客の上限設定など四つの課題を指摘。政府に今年12月までの報告を求めた。

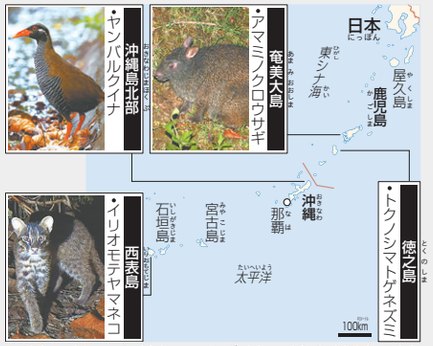
環境省によると、21年に死んでいるのが見つかった絶滅危惧種アマミノクロウサギは計174匹で過去最多。道路脇に動物侵入防止ネットを張るなどしたが、同省奄美野生生物保護センターは「事故はなかなか減らない」と危惧。21年秋から、夜間に山あいの道を走る車の数を制限するルールも試行された。

「量より質」目標

地域の危機感も強い。奄美では官民連携で、自然遺産地域への立ち入り人数を制限。講習を修了した認定ガイドの同行を求めるルールを整備した。西表島でも昨年、観光客の管理や希少種保護を目的に、竹富町と観光団体などが「西表財団」を設立した。

貴重な自然を守り、いかに「持続可能な観光」を実現するか。鹿児島県PR観光課は「一過性の盛り上がりにせず『量より質』の観光を目ざす。自然や文化をじっくり味わってもらい、現地での消費行動にもつなげたい」とした。


道路脇に張られた動物侵入防止ネットと、絶滅危惧種アマミノクロウサギ＝5月、鹿児島・奄美大島



4島の主な固有種（鹿児島・奄美大島、徳之島、沖縄・沖縄島、西表島）

エスディージーズ×SDGs

15 陸の豊かさも守ろう



記事B（2022年8月3日）

奄美・沖縄 世界自然遺産登録1年

「観光公害対策」

世界自然遺産に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」（鹿児島県、沖縄県）が登録されて7月26日で1年となった。貴重な生態系を守るために重要視されるのがオーバーツーリズム（観光公害）対策。各島は外来植物の侵入や、希少動物の事故を防ぐさまざまな取り組みを始めている。

◆外来植物の侵入防ぐ

7月中旬、「山原」とよばれる沖縄島北部の国頭村。「比地大滝遊歩道」の一角に、ピンク色の花を付けた外来種・オジギソウが広がっていた。ここは、登録エリアを保護するためにその周辺に設けられた「緩衝地帯」。「油断すると、どんどん広がる。生態系に影響が出てしまってからでは手遅れなんです」。ガイドの上開地広美さん（36）が観光客二人に説明した。

外来植物は登録エリア内にも「侵入」を始めている。上開地さんは特定外来生物のつる性植物「ツルヒヨドリ」が繁殖しているのを見つけ、昨年、観光関係者らといっしょに駆除した。在来植物にからみ付いて枯らしたり、生育場所を奪ったりするため、在来植物を食べていた昆虫が減るなど生態系に影響を及ぼすおそれがある。

要因の一つとみられるのが、エコツーリズム人気による島外観光客の増加だ。県の推計では、北部3村への観光客数は2009年の約32万人から14年には約59万人に急増した。環境省によると、植物は靴底や車のタイヤに付くなどして無意識に持ち込まれるケースがあるという。

世界遺産登録を受け、国頭村は今年度、比地大滝など観光地2か所で本格的に外来植物・アマミノクロウサギなどの交通事故死（ロードキル）対策を強化。昨年10月、登録エリアにある奄美市の3市道で夜間通行を予約制にするなどの通行規制を始めた。野生生物を観察する際は、速度を10キロ以下に落とすよう求める新ルールも定めた。

奄美大島と徳之島でのアマミノクロウサギの交通事故死は昨年、過去最多の73件となっており、環境省奄美群島国立公園管理事務所は「ルールの周知徹底とともに、侵入防止柵や減速帯の設置なども必要。世界遺産を守るために地道に取り組んでいきたい」と話す。



山原の自然の魅力を語りながら外来植物の課題も伝えるガイドの上開地さん（右）

生態系保護へ

市道の夜間通行には予約が必要なことなどの通行規制と生き物観察のルールを知らせる看板（奄美市住用町で）



物の駆除に取り組む予定で、村環境保全課は「登録エリアに広がらないよう抑えていきたい」と話す。

昨年の登録前後の時期は新型コロナウイルス禍で沖縄への観光客は激減していたが、今年に入って村内でも徐々に戻りつつある。上開地さんは「森や散策路に入る際は事前に靴底の汚れを落とすなど、沖縄に来る一人一人が『持ち込まないこと』を心がけてほしい」と訴える。

◆客数制限や道路規制

観光と自然保護の両立には外来種の問題の他にも課題がある。国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）は登録にあたり、▽沖縄県・西表島の観光客を減少させる措置▽（4島の）絶滅危惧種の交通事故死を減らす取り組み――などを求め、今年12月までに結果や進捗状況を報告するよう日本政府に要請した。そのため、各島では国と地元が一体となり、急ピッチで対策を進める。

4島で最も開発が進んでいない西表島は、豊かな自然を目当てに07年には過去最多の約40万人が訪れ、その後も30万人前後で推移した。オーバーツーリズムが指摘され、コロナ禍前から島民生活への影響なども考慮し、1日当たりの観光客数の上限を1230人とする対策が取られていた。

今年1～5月はコロナ禍の前年同期に比べて82%増の約7万3000人にまで回復。沖縄県などは新たな「観光管理計画」を策定中で、計画案にはさらに上限を30人減らし、希少生物が生息する観光地の入域者数の上限も盛り込んだ。有識者の意見を踏まえ、来年2月に策定する予定だ。

奄美大島では特別天然記念

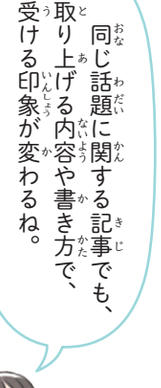
やってみよう

1 下に示した観点を参考に78～81ページの記事A・Bを比較し、表に整理しよう。

2 1で整理したことを基に、記事について気づいたことや考えたことを三百字程度でまとめよう。

3 報道文を読むときには、どんなことに気をつけるとよいだろうか。1・2や、次のページの「達人の視点」を参考に、考えてみよう。





観点	報じられている事実	記者の立場が読み取れる記述	記事から読み取れる記者の立場
記事A	・観光客の減少 ・…… ・外来種の侵入状況 ・……	・「保全と観光　どう両立」 ・「観光客増による経済効果……伸び悩む。」 ・…… ・「生態系保護へ　『観光公害対策』」 ・「貴重な生態系を守るために……」 ・……	この記事は、［　　］を重視する立場から書かれている。
記事B			この記事は、［　　］を重視する立場から書かれている。

達人の視点



池上 彰さん
（ジャーナリスト）

新聞記事は、どれを読んでも大差ないと思っていませんか。ところが新聞社によって、受ける印象は異なることがあります。記事AもBも、世界自然遺産に登録されてから一年たった現状を伝えています。どちらも観光と自然保護をどう両立させるかという課題を取り上げていますが、内容は異なります。

記事Aは鹿児島県の奄美群島を取材し、世界遺産に登録されて大勢の観光客が来るだろうとの地元の期待に反し、コロナ禍で経済効果は期待ほどではなかったという事実から書き始めています。落胆を感じさせる内容です。

いっぽう、記事Bでは、沖縄県国頭村を取材し、外来植物の侵入を防ぐ取り組みを紹介していますが、こちらはコロナ禍の前年同期に比べ観光客が増えてきていると書いています。さて、観光客は減ったままなのか、増加に転じているのか。心配なのはアマミノクロウサギへの影響です。記事Aでは百七十四匹、記事Bでは七十三件と、異なる数字が取り上げられていますが、いったいなぜこのような違いがあるのでしょうか。どの数字を取り上げるかで、受ける印象は異なります。記事を書いた記者は何を言いたいのか、注意深く読み比べてみましょう。

広がる読書



「池上彰の新聞勉強術」
池上 彰
新聞を読みこなし、確かな情報を得るためにはどうすればよいのか。筆者流の技を解説した一冊。



「その情報はどこから?」
猪谷千香
情報の海におぼれることなく、自分に必要かつ正しい情報を選ぶために大切なこととは。

新出漢字

80 昆（コン）	77 串（くし）
81 措（ソ）	77 刃（ジン）
81 請（セイ）（シン）（こう）うける	79 需（ジュ）
81 柵（サク）	

漢字の練習

情報整理のレッスン

情報の信頼性

思考のレッスン 具体化・抽象化

52ページ

情報の信頼性

本やインターネット、新聞、テレビなどさまざまなメディアが伝える情報は、全て編集されている。このような情報に接するときには、事実として正しいか、裏づける根拠はあるかなど、情報の信頼性を確かめることが重要だ。

ここでは、情報の信頼性を吟味するためのポイントを学習しよう。





これまでにも、出典を基に情報の信頼性を確かめる方法は学んだよね。具体的に、何を確認すればいいんだっけ。

いつ・誰が・何のために

情報に接するときには、まず、次の三つの観点で、基本的な信頼性を確かめよう。

チェックポイント

- いつ……発行日・発信日を確認。
  - 原則 ○新しいデータ ↕ △古いデータ
    - →書籍は奥付等で発行年月日を確認する。ウェブサイトは随時更新されるため、発信日と更新日を確認する。
- 誰が……発行者・発信者を確認。
  - 原則 ○記名 ↕ △匿名
    - ○複数名による確認 ↕ △単独
    - ○公的機関 ↕ △営利団体、個人
- 何のために……発信の意図・目的を推測。
  - 原則 ○報告・報道など ↕ △広告
    - →客観的・中立的な内容か（背景に宣伝などの意図がないか）を確認する。



この情報の信頼性を、チェックポイントに示された観点で吟味してみよう。

また、さらに信頼性の高い情報を得るにはどうすればよいか、考えてみよう。

問題1 ▼岡本さんは、夕方から花火大会に行く予定である。朝から弱い雨が続いているため、花火大会が開催されるかどうかを、SNSで「青空町　花火大会　雨」と検索して調べたところ、次の情報を見つけた。

事実とその述べ方

同じ事実でも、情報の発信者がそれをどのように受け止め、編集し、伝えるかによって、受け取る側の印象も変わってくる。

左は、あるスポーツ選手の記者会見の様子を報じた新聞記事の一部である。二つの記事を基に、客観的事実と思われる出来事を抽出しよう。そのうえで、発信者がどのような意図をもって報じたか考えてみよう。

A

○○選手、質疑に応じず

出席した取材陣から追及の声が上がったが、○○選手は平然とその声を無視した。そして会見が終わるやいなや、笑いながら頭を下げ、逃げるようにその場を立ち去った。

B

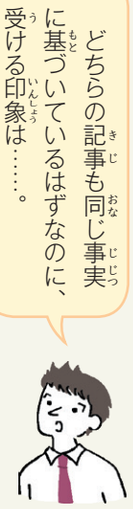
○○選手、沈黙を守る

群がったマスコミから罵声を浴びせられても、○○選手は固く沈黙を守った。会見が終わると、トレードマークの笑顔を浮かべて一礼し、さっそうとその場を後にした。

チェックポイント

- 客観的事実を抽出する。
  - 複数の情報を比較し、共通部分のみ取り出す。
- 発信者の意見や解釈が入った表現を、客観的な表現に置き換えてみる。
- 発信者の立場や意図を推測する。
  - 言葉の選び方や構成から、発信者がどのような意図をもって情報を伝えているかを推測する。





どちらの記事も同じ事実に基づいているはずなのに、受ける印象は……。

問題2 ▼次の記事ア・イを読み、事実と思われることは何か、考えてみよう。また、述べ方によって、受ける印象がどのように異なるかも考えてみよう。

ア

○○百貨店、8月売上高 前年比3割減

売上改善を懸けて実施された大規模セールも振るわず、いまだに以前のようなにぎわいは戻っていない。がらんとしたエントランスには、従業員の挨拶だけがこだましていた。

イ

○○百貨店の売上高 前月比9%改善

広々としたエントランスには、従業員の活気ある挨拶が響き渡る。売上改善のために実施された大規模セールが功を奏して、徐々に以前のようなにぎわいが戻りつつあった。

いつも本はそばに

読書活動

読書を楽しむ

本を読み終えたら、読書ノートに記録を残し、友達に紹介したり、感想を伝え合ったりしよう。本との出会いを通して、読書ライフを豊かにしていこう。

本を紹介する「私の一冊」を紹介しよう

1 紹介する一冊を決める

読書記録を見返して、「私の一冊」を決める。どの本を選び、どんな内容を伝えたいのかを考えよう。

［「私の一冊」の例］
- 何かのきっかけになった本
- 深く影響を受けた本
- 話の展開がおもしろい本
- 魅力的な登場人物が出てくる本

2 「私の一冊」として選んだ理由を考える

どうしてその本を「私の一冊」として選んだのか、理由を考える。本のどこに魅力があるのか、本からどんな影響を受けたのかなど、具体的にノートに書き出してみよう。

3 紹介し合う

ペアやグループになり、「私の一冊」を紹介し合う。一人三分で発表し、質疑応答を二分行う。役割を交代しながら進めよう。

質問をするときは、一問一答で終わらないように、相手の話を受けて、さらに話を広げたり、深めたりしよう。

感想を交流する ブックレビューを書こう

ブックレビューとは、一冊の本の内容や魅力などを評価することである。左の例を参考にブックレビューを書こう。

①グループごとに本を決め、本を評価する観点を話し合う。
②観点ごとに、個人で★を付けて評価し、感想を書く。
③★の数を基に、グループで本の評価や感想を交流する。

「吾輩は猫である」
夏目漱石

登場人物の魅力	★★★
文章のリズム	★★★
読みやすさ	★★☆

人間社会を鋭く風刺した長編小説。猫の視点からユーモアたっぷりに語られる、登場人物たちの人間模様に引き込まれた。

［本を評価する観点の例］
設定・構成…題名、登場人物、世界観、場面の展開など
表現……文体、語り、情景描写、挿絵など
その他……感動、難易度、お薦め度など

読書ライフを楽しむために 三年間の読書を振り返り、これからの読書について考えよう

読書記録などを振り返りながら、中学校に入ってから、いつ、どのような本を読んできたかを思い出そう。

これまでの読書傾向を分析し、気づいたことをまとめてみよう。また、分析したことを参考にしながら、これから読んでみたい本を書き出しておこう。

中学校３年間の読書を振り返って

■心に響いた本 ベスト３

①「楽隊のうさぎ」中沢けい
吹奏楽部のみんなと読んだ思い出の１冊。

②「眠れなくなる宇宙のはなし」佐藤勝彦
宇宙の魅力に引きつけられ、夢中で読み進めた。

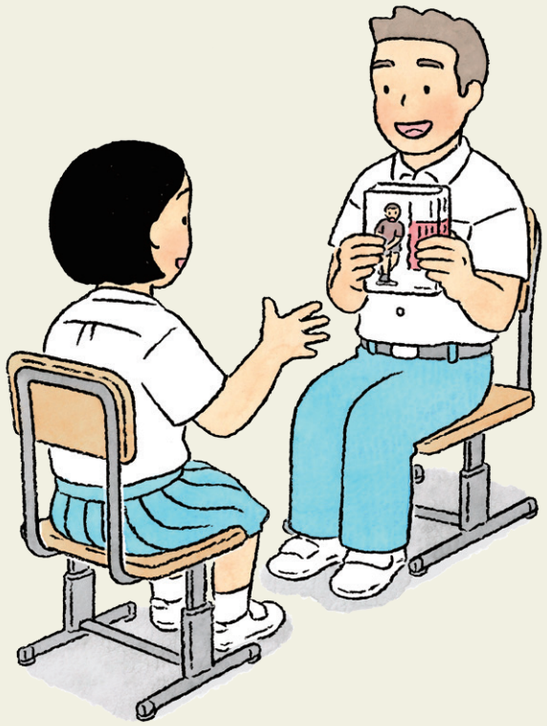
③「綾瀬はるか『戦争』を聞く」
語り継ぐことの大切さについて深く考えさせられた。

■私の読書の好み
同年代の登場人物が出てくる小説が好きで、○○という作家の本は全部読んだ。

■これから読みたい分野
科学読み物→読書記録には、たくさん「読みたい本」を挙げてきたのに、結局あまり読んでこなかった。

■本の見つけ方
友達に薦められた本を読むことが多かった。

■本の読み方
平日は、朝の読書の時間、休みの日は夕食後に本を読む。好きな作家の本を繰り返し読むことが多い。



読書

「私の一冊」を探しにいこう

何かおもしろい本を読みたい。そんなとき、あなたはどのような方法で本を探すだろう。ここでは小説「羊と鋼の森」を例に、さまざまな本の探し方を見てみよう。

●文庫本の裏表紙の紹介文から



高校生のとき、偶然ピアノ調律師の板鳥と出会って以来、調律に魅せられた外村は、念願の調律師として働き始める。ひたすら音と向き合い、人と向き合う外村。個性豊かな先輩たちや双子の姉妹に囲まれながら、調律の森へと深く分け入っていく——。一人の青年が成長する姿を温かく静謐な筆致で描いた感動作。　解説・佐藤多佳子

●書店や図書館の展示、ポップ、パンフレットから







●書評から



羊と鋼の森　宮下奈都

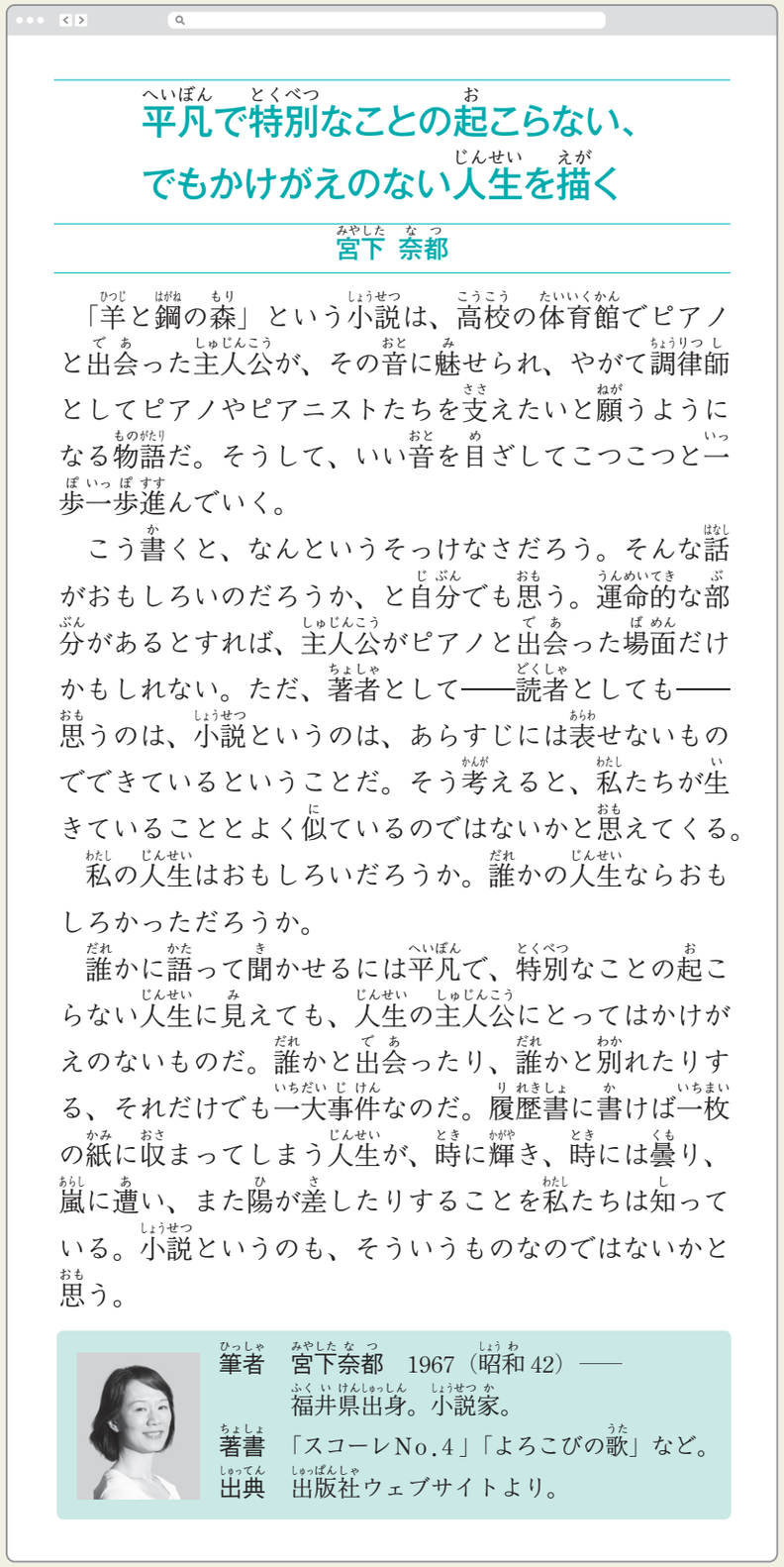
★★★★★
○○○○

○○○○年○月○○日

表紙と題名に引かれて手に取った。主人公の外村が、ピアノの調律師として成長していく物語。静かで淡々とした展開だが、美しい描写や温かい世界観にぐいぐい引き込まれた。文章から、匂いや音が立ち上がってくるような感覚を味わったのは初めてかもしれない。外村が感じ取った音が、彼の感情、その場の景色や空気も含めて伝わってくる。ずっと手元に置いて、何度でも読み浸りたくなる１冊だ。

●著者の言葉から本を知る

本によっては、新聞や雑誌、ウェブサイトなどで、特集ページが組まれることもある。著者のインタビューや寄稿文などが掲載されることも多い。



平凡で特別なことの起こらない、でもかけがえのない人生を描く

宮下 奈都

「羊と鋼の森」という小説は、高校の体育館でピアノと出会った主人公が、その音に魅せられ、やがて調律師としてピアノやピアニストたちを支えたいと願うようになる物語だ。そうして、いい音を目ざしてこつこつと一歩一歩進んでいく。

こう書くと、なんというそっけなさだろう。そんな話がおもしろいのだろうか、と自分でも思う。運命的な部分があるとすれば、主人公がピアノと出会った場面だけかもしれない。ただ、著者として——読者としても——思うのは、小説というのは、あらすじには表せないものでできているということだ。そう考えると、私たちが生きていることとよく似ているのではないかと思えてくる。

私の人生はおもしろいだろうか。誰かの人生ならおもしろかっただろうか。

誰かに語って聞かせるには平凡で、特別なことの起こらない人生に見えても、人生の主人公にとってはかけがえのないものだ。誰かと出会ったり、誰かと別れたりする、それだけでも一大事件なのだ。履歴書に書けば一枚の紙に収まってしまう人生が、時に輝き、時には曇り、嵐に遭い、また陽が差したりすることを私たちは知っている。小説というのも、そういうものなのではないかと思う。

筆者　宮下奈都　1967（昭和42）——
福井県出身。小説家。
著書　「スコーレNo.4」「よろこびの歌」など。
出典　出版社ウェブサイトより。

● 実際に冒頭を読んでみる

羊と鋼の森

宮下 奈都

森の匂いがした。秋の、夜に近い時間の森。風が木々を揺らし、ざわざわと葉の鳴る音がする。夜になりかける時間の、森の匂い。

問題は、近くに森などないことだ。乾いた秋の匂いを嗅いだのに、薄闇が下りてくる気配まで感じたのに、僕は高校の体育館の隅に立っていた。放課後の、人気のない体育館に、ただの案内役の一生徒としてぽつんと立っていた。

目の前に大きな黒いピアノがあった。大きな、黒い、ピアノ、のはずだ。ピアノの蓋が開いていて、そばに男の人が立っていた。何も言えずにいる僕を、その人はちらりと見た。その人が鍵盤を幾つかたたくと、蓋の開いた森から、また木々の揺れる匂いがした。夜が少し進んだ。僕は十七歳だった。

そのとき教室に残っていたから、というだけの理由で僕は担任から来客を案内するよう頼まれた。高二の二学期、中間試験の期間中で、部活動もない。生徒たちは早く下校することになっていた。昼間からひとり暮らしの下宿に帰るのは気が進まなくて、図書室で自習しようかと思っていたところだった。

「悪いな、外村。」

先生は言い足した。

「職員会議なんだ。四時に来ることになってるから、体育館に案内してくれればそれでいいから。」

はい、と返事をした。普段から何かを頼まれることは多かった。頼みやすいのか、断らなさそうに見えるのか。暇そうにも見えたのだろう。確かに、僕は時間を持て余していた。

するべきことが思いつかなかった。したいこともない。このままなんとか高校を卒業して、なんとか就職口を見つけて、生きていければいい。そう思っていた。

頼みごとをされることは多かったけれど、大事なことを頼まれるわけではなかった。大事なことはちゃんと大事な誰かがやってくれる。どうでもいいようなことを頼まれるのはどうでもいいような人間だ。その日の来客もきっとどうでもいい部類の客なんだろう、と僕は思った。

そういえば、体育館に案内するよう頼まれただけだ。どんな客が来るのか聞かされていなかった。

「誰が来るんですか。」

教室から出ていこうとしていた担任は、僕を振り返り、調律師だよ、と言った。

調律という言葉に聞き覚えがなかった。空調を直しに来るんだろうか。だとしたら、どうして体育館なんだろうと思ったが、それも別にどうでもいいようなものだった。

放課後の教室で、翌日の試験科目である日本史の教科書を読んで一時間ほど潰した。四時少し前に職員玄関へ行くと、その人は既に来ていた。茶色のジャケットを着て、大きなかばんを提げ、職員玄関のガラス戸の向こうに背筋を伸ばして立っていた。

「空調の方ですか。」

内側から戸を開けながら僕はきいた。

「江藤楽器の板鳥です。」

楽器？　では、この年配の男性は僕が迎えるはずの客ではないのかもしれない。担任に名前をきいておけばよかった。

「窪田先生から、今日は会議が入ったとお聞きしています。ピアノさえあればかまいませんから。」

その人はそう言った。窪田というのは僕に来客を案内するよう言いつけた担任だった。

「体育館にお連れするよう言づかっているのですが。」

来客用の茶色いスリッパを出しながらきくと、

「ええ、今日は体育館のピアノを。」

ピアノを、どうするのだろう。そう思わなくもなかったけれど、それ以上のことに特に興味はなかった。

「こちらです。」

先に立って歩きだすと、その人はすぐ後ろをついてきた。かばんが重そうだった。ピアノの前まで連れていったら、それで帰るつもりだった。

その人は、ピアノの前に立つと四角いかばんを床に置き、僕に会釈をした。これでもういいです、ということだと思った。僕も会釈をし、踵を返した。いつもならバスケ部やバレー部で騒がしい体育館が静かだった。高い窓から夕方の陽が差し込んでいた。

体育館からつながる廊下に出ようとしたとき、後ろでピアノの音がした。ピアノだ、とわかったのは振り向いてそれを見たからだ。そうでなければ、楽器の音だとは思わなかっただろう。楽器の音というより、何かもっと具体的な形のあるものの立てる音のような、ひどくなつかしい何かを表すもののような、正体はわからないけれども、何かとてもいいもの。それが聞こえた気がしたのだ。

その人は振り向いた僕にかまわず、ピアノを鳴らし続けた。弾いているのではなく、幾つかの音を点検するみたいに鳴らしているのだった。僕はしばらくその場に立っていて、それからピアノの方へ戻った。

僕が戻ってもその人は気にしなかった。鍵盤の前から少し横にずれて、グランドピアノの蓋を開けた。蓋――僕にはそれが羽に見えた。その人は大きな黒い羽を持ち上げて、支え棒で閉まらないようにしたまま、もう一度鍵盤をたたいた。

森の匂いがした。夜になりかけの、森の入り口。僕はそこに行こうとして、やめる。すっかり陽の落ちた森は危険だからだ。昔、森に迷い込んで帰ってこられなくなった子供たちの話をよく聞かされた。日が暮れかけたら、もう森に入っちゃいけない。昼間に思っているより、太陽の落ちる速度は速い。

気がつくと、その人は床に置いた四角ばったかばんを開けていた。見たことのないさまざまな道具が入っていた。この道具を使ってピアノをどうするんだろう。ピアノで何をするんだろう。きいてはいけないと思った。きくという行為は、責任を伴う。きいて、答えてもらったら、もう一度こちらから何かを返さなくてはいけない気がした。質問は僕の中で渦を巻くのに、形にはならなかった。たぶん、返すものを何ももっていないからだ。

ピアノをどうするんですか。ピアノをどうしたいんですか。あるいは、ピアノで何をするんですか、だろうか。いちばんききたいのが何だったのか、そのときの僕にはわからなかった。今も、まだわからない。きいておけばよかったと思う。あのとき、形にならないままでも、僕の中に生まれた質問をそのまま投げてみればよかった。何度も思い返す。もしもあのとき言葉が出てきていたなら、答えを探し続ける必要はなかった。答えを聞いて納得してしまえたのなら。

僕は何もきかず、邪魔にならないよう、ただ黙ってそこに立って見ていた。

通っていた小さな小学校にも、中学校にも、ピアノはあったはずだ。ここにあるようなグランドピアノではなかったけれど、どんな音が出るのか知っていたし、ピアノに合わせて歌ったことだって何度もあった。

それでも、この大きな黒い楽器を、初めて見た気がした。

少なくとも、羽を開いた内臓を見るのは初めてだった。そこから生まれる音が肌に触れる感触を知ったのももちろん初めてだった。

森の匂いがした。秋の、夜の。僕は自分のかばんを床に置き、ピアノの音が少しずつ変わっていくのをそばで見ていた。たぶん二時間余り、時がたつのも忘れて。

秋の、夜、だった時間帯が、だんだん狭く限られていく。秋といっても九月、九月は上旬。夜といってもまだ入り口の、湿度の低い、晴れた夕方の午後六時頃。町の六時は明るいけれど、山あいの集落は森に遮られて太陽の最後の光が届かない。夜になるのを待って活動を始める山の生き物たちが、すぐその辺りで息を潜めている気配がある。静かで、温かな、深さを含んだ音。そういう音がピアノからこぼれてくる。

新出音訓

88 鋼（はがね）

91 提げる（さげる）

続きはこちら



羊と鋼の森

宮下奈都

ピアノの調律師になった僕は、奥深い調律の世界の入り口に立ったばかり。個性豊かな先輩調律師たちや、お客さんとの出会いにより、青年は一人前の調律師へ成長していく。

漢字の練習

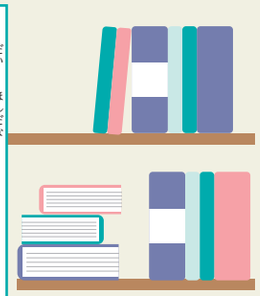
読書案内

本の世界を広げよう



本の本

本にまつわるあれこれ



10代の本棚

あさのあつこ 編著

多様な分野で活躍する十三人が、十代の頃の読書体験を振り返る。



ぼくの宝物絵本

穂村弘

夢や楽しさが詰まった絵本の魅力を、絵本好きの筆者が解説。



高校図書館デイズ

成田康子

高校生たちが、本を通して図書館司書に語った「彼ら」の物語。



その本は

又吉直樹 ヨシタケシンスケ

珍しい本の話を集めよ。王の命令に応えて、二人の男が語りだす。



世界の不思議な図書館

アレックス・ジョンソン 北川玲 訳

象、木の上、冷蔵庫。本さえあれば、そこはみんなの図書館になる。



本の世界をめぐる冒険

ナカムラクニオ

五十か国以上を旅した筆者が教える、本の起源や知られざる歴史。



読書の価値

森 博嗣

昔は読書が嫌いだった筆者が語る、本選びのたった一つの原則。



戦場の秘密図書館

マイク・トムソン 小国綾子 編訳

シリア内戦下、図書館はいかにして造られ、人々の希望となったか。



小説は君のためにある

藤谷 治

小説には、「君が君について考えるヒント」があると筆者は語る。



みて、ほんだよ！

リビー・グリーソン 谷川俊太郎 訳

その本のページをめくると、見慣れた町並みは姿を変え……。



268ページ「二つの悲しみ」「高瀬舟」



近代文学

挑戦してみよう



伊豆の踊子

川端康成

二十歳の青年が伊豆を旅する途中で旅芸人の一行と出会う。明るく清純な踊り子に心引かれた青年は孤独から解放されていく。



小さき者へ・生れ出づる悩み

有島武郎

父は、母を失った子供たちに語りかける。限りない愛を込めて。



羅生門・鼻

芥川龍之介

男は羅生門で会った老婆の姿に、自分の生き延びる道を見いだす。

吾輩は猫である

夏目漱石

猫が観察した人間世界を、皮肉めいた口ぶりでユーモラスに描く。



友情

武者小路実篤

杉子に恋をした野島は、熱い思いを親友の大宮に相談するが……。



清兵衛と瓢箪・小僧の神様

志賀直哉

瓢箪を愛する少年は誰にも理解されず……。表題作を含む短編集。



文豪ナビ 夏目漱石

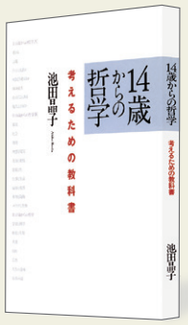
作品の名場面から評伝まで。文豪漱石の新たな魅力を発見しよう。





思考

「考えること」を考える



14歳からの哲学

池田晶子

私って何？ 世界って何？ 善悪の判断基準は？ 目の前に広がる世界と向き合い、考え抜いて自分なりの判断力を鍛えよう。



ひとり

吉本隆明

十五歳の不安や迷いに、思想家が答える。迷ってあたりまえ、と。

カラフル

森 絵都

天使と現世へ戻った「ぼく」。真という少年として生き直すことに。



解きたくなる数学

佐藤雅彦 大島 遼 廣瀬隼也

ケーキやチーズを家族で分けるには？ 日常で出会う数学の問題。



自分で考えよう

ペーテル・エクベリ 枇谷玲子 訳

歴史上の哲学者と共に、身の回りのあたりまえを疑ってみよう。



学ぶこと 思うこと

加藤周一

社会を変える出発点は「思うこと」。そして、もっと「学ぶこと」。



パパラギ

岡崎照男 訳

約百年前、南の島に住むツイアビが語った「真の豊かさ」とは。





スポーツ
感動がここに

一瞬の風になれ　全三巻　佐藤多佳子



もっと速く。陸上部で、リレーに青春をかける少年たちの日々。

新スポーツスーパースター伝1　リーチ マイケル



十五歳で来日し、ラグビーに人生をかけたマイケルの成長の物語。

リバウンド　エリック・ウォルターズ　小梨 直訳



それぞれに悩みを抱える二人の少年。出会いが起こす化学反応。

古代オリンピックへの旅　長田亨一



古代オリンピックの遺跡を訪ね、込められた理念に思いをはせる。



科学
不思議な世界を体感

博士の愛した数式　小川洋子



「私」が家政婦として派遣されたのは、記憶障害のある博士の家。

科学の考え方・学び方　池内 了



歴史を遡りながら、科学的な考え方とこれからの科学を論じる。

気がつけば動物学者三代　今泉忠明



おもしろいと楽しいが研究の原点。動物学者三代の、探求の足跡。

解剖学教室へようこそ　養老孟司



体を知ることは人を知ること。解剖学から人という存在に迫る。



言葉
言葉の森へ出かけよう

春や春　森谷明子



「夕焼雲でもほんたうに好きだつた」。俳句に懸ける青春を描く。

ふしぎなことば　ことばのふしぎ　池上嘉彦



日本語を見つめ直すと、たくさんの「ふしぎ」が見えてきた。

働きたくないイタチと言葉がわかるロボット　川添 愛



ロボット作りを目ざすイタチたちが、人工知能の言語能力に迫る。

言の葉連想辞典



柔らかな雰囲気のイラストに導かれて、語彙が豊かになる一冊。

私の一冊

戸村飯店 青春100連発　瀬尾まいこ

中華料理店を営む家に生まれた戸村兄弟。性格も見た目も正反対な二人の成長を描く。





青春があふれている作品ですね。人生で大事にしたい一冊に出会えたなと思います。

上白石萌音
1998年
鹿児島県出身。
俳優。

私のおすすめ

自分でも書いてみよう

コラム

ためになるってどんなこと？

森 絵都

私はかつて、あまり本を読まない中学生でした。「読書は大事。」「本はためになる。」などと言われても、何がどう大事なのか、ちっともピンときませんでしたし、ためになる、なんて考え方自体、ひどく分別くさいと思っていました。

本を読むより、友達と遊んだほうがいい。一人でいるより、誰かといたい。そうやって読書に背中を向けていたのです。それでいて、白状すると、当時の私はたとえ誰かといっしょにいても、一人でいるような気分になることがよくありました。

本当の心を人に見せるのが難しかった、あの頃。友達付き合い。勉強。恋。親との関係。私には多くの悩みがありましたが、誰に対しても、それをうまく言葉にして打ち明けることができませんでした。本当の心だからこそ、見せるのが怖かったのかもしれません。そんなとき、一人で沈み込む代わりに、本の一冊でも手にしていたら、と今となっては思うのです。

それが若い世代へ向けられたものであればなおのこと、小説に登場する人物というのは、なにかしら自分と似た悩みを抱えているものです。そして自分と同じように、それをうまく解決できずにジタバタしたり、立ち尽くしたりしている。ささいなことで人から傷つけられたり、傷つけてしまったり。

もしもあなたが本の中で心から共鳴できる誰かと出会ったら、それは、自分の外側ではなく、内側に友達を作ったということです。あなたと共に悩み、答えを求めてくれる強力な味方。彼らはあなたに思いも寄らない考え方を示したり、見たことのない風景を見せてくれたりするでしょう。あなたを揺さぶり、笑わせ、泣かせ、未知なるときめきを与えてくれることでしょう。

「読み終えて本を閉じたとき、前とは違う自分がいる。凝り固まっていた心が開け、新しい目で世界と向き合える。」ためになるってそういうことかなと、今の私は思います。

「そんな経験したことない。」「読書なんて退屈なだけ。」もしもあなたがそう思うなら、それはまだ自分にぴったりの一冊と出会っていないだけかもしれません。合わない本を無理して読むよりは、図書室にある本を片っ端からめくってみてはどうでしょう。本は無限にある。あなたを楽しませ、内側から支えてくれる一冊との出会いがきっと待っています。



筆者　森 絵都　一九六八（昭和四三）――
東京都出身。小説家。
著書　「カラフル」「ＤＩＶＥ!!」など。
出典　本書のための書きおろし。

季節のしおり 夏

あなたが夏を感じるものは、何だろうか。青々と茂る木々、夜明けの月、夕立の後の虹……。作品に描かれた情景の中に、夏を感じてみよう。

虹立ちて忽ち君の在る如し

高浜虚子

夏の夜はまだよひながら明けぬるを
雲のいづこに月やどるらむ

清原深養父

滝落ちて群青世界とどろけり

水原秋櫻子

夏の気象にまつわる言葉

- 雲の峰……積乱雲のことで、入道雲や雷雲ともいう。
- 驟雨……突然降りだして、しばらくたつとやむ雨。にわか雨や夕立ともいう。
- 星涼し……夏の夜に涼しげな光を放つ星。

4 状況の中で

多様な状況の中で生きる人の姿に思いをはせ、考えを深める

挨拶——原爆の写真によせて［詩］……石垣りん

故郷［小説］……魯迅／竹内好訳

［推敲］論理の展開を整える

言葉3　慣用句・ことわざ・故事成語

聞き上手になろう　質問で相手の思いに迫る

漢字2　漢字の造語力



時を表す言葉④　日盛り　｜　一日のうち、日が盛んに照る頃。

挨拶——原爆の写真によせて

石垣りん

読む

表現に着目して詩を読み、社会について考えたことを伝え合おう。［学習活動］

目標

- 語句の辞書的な意味や語感を踏まえて、文脈上の意味や効果を考える。
- 詩の表現の効果を評価し、現代社会の状況と重ね合わせながら考えを深める。

あ、
この焼けただれた顔は
一九四五年八月六日
その時広島にいた人
二五万の焼けただれのひとつ

すでに此の世にないもの

とはいえ
友よ

向き合った互の顔を
も一度見直そう
戦火の跡もとどめぬ
すこやかな今日の顔
すがすがしい朝の顔を

その顔の中に明日の表情をさがすとき
私はりつぜんとするのだ

地球が原爆を数百個所持して
生と死のきわどい淵を歩くとき
なぜそんなにも安らかに
あなたは美しいのか

しずかに耳を澄ませ
何かが近づいてきはしないか
見きわめなければならないものは目の前に
えり分けなければならないものは
手の中にある
午前八時一五分は
毎朝やってくる

一九四五年八月六日の朝
一瞬にして死んだ二五万人の人すべて
いま在る
あなたの如く　私の如く
やすらかに　美しく　油断していた。



作者　**石垣りん**　一九二〇（大正九）――二〇〇四（平成一六）　東京都出身。詩人。
著書　詩集「私の前にある鍋とお釜と燃える火と」「表札など」「略歴」「やさしい言葉」、随筆「ユーモアの鎖国」「焔に手をかざして」など。
出典　「石垣りん詩集」

注意する語句

101 すがすがしい 文
101 りっぜん 意
101 きわどい 意
102 見きわめる 意
102 油断 意

学びへの扉

見通しをもつ

表現に着目して詩を読み、社会について考えたことを伝え合おう。［学習活動］

目標

- 語句の辞書的な意味や語感を踏まえて、文脈上の意味や効果を考える。（知る）
- 詩の表現の効果を評価し、現代社会の状況と重ね合わせながら考えを深める。（読む）

捉える

1 「顔」が象徴しているものを捉えよう。

詩の中で繰り返し出てくる「顔」が、それぞれ誰の、どのような様子を表しているのか考えよう。

読み深める

2 表現の効果を評価しよう。

①第６連にある「午前八時一五分は／毎朝やってくる」という表現の意味と、その効果を考えよう。

②第７連にある「やすらかに　美しく　油断していた。」とは、どういうことか。「油断」という語句の意味や語感を踏まえて考えよう。

考えをもつ

3 自分の意見を述べよう。

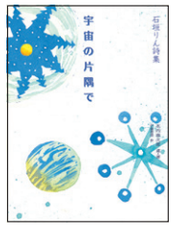
作者は、この詩を通して、誰に、どのようなことを伝えようとしたのだろう。現代社会の状況と重ね合わせながら、自分の意見を述べてみよう。

振り返る

- 知る　□特に心に迫ってきた語句・表現には、どのようなものがあったか。
- 読む　□作者の思いや訴えを表すうえで、特に効果的だと感じた表現はどれか。
- つなぐ　□詩を読み深めるための新たな視点や気づきをくれた、友達の意見を書き留めておこう。

広がる読書

「宇宙の片隅で」石垣りん



故郷

魯迅（ルウ・シュン）
竹内好 訳

読む
登場人物の考え方や行動を批判的に読み、作品を批評しよう。［学習活動］

目標
- 人の生き方や社会との関わり方を考えるうえでの、読書の意義を理解する。
- 作品を批判的に読み、時代や社会の中で生きる人間の姿について考える。

厳しい寒さの中を、二千里の果てから、別れて二十年にもなる故郷へ、私は帰った。もう真冬の候であった。そのうえ、故郷へ近づくにつれて、空模様は怪しくなり、冷たい風がヒューヒュー音を立てて、船の中まで吹き込んできた。苫の隙間から外をうかがうと、鉛色の空の下、わびしい村々が、いささかの活気もなく、あちこちに横たわっていた。覚えず寂寥の感が胸に込み上げた。

ああ、これが二十年来、片時も忘れることのなかった故郷であろうか。私の覚えている故郷は、まるでこんなふうではなかった。私の故郷は、もっとずっとよかった。その美しさを思い浮かべ、その長所を言葉に表そうとすると、しかし、その影はかき消され、言葉は失われてしまう。やはりこんなふうだったかもしれないという気がしてくる。そこで私は、こう自分に言い聞かせた。もともと故郷はこんなふうなのだ——進歩もないかわりに、私が感じるような寂寥もありはしない。そう感じるのは、自分の心境が変わっただけだ。なぜなら、今度の帰郷は決して楽しいものではないのだから。

今度は、故郷に別れを告げに来たのである。私たちが長いこと一族で住んでいた古い家は、今はもう他人の持ち物になってしまった。明け渡しの期限は今年いっぱいである。どうしても旧暦の正月の前に、住み慣れた古い家に別れ、なじみ深い故郷をあとにして、私が今暮らしを立てている異郷の地へ引っ越さねばならない。

明くる日の朝早く、私は我が家の表門に立った。屋根には一面に枯れ草のやれ茎が、折からの風になびいて、この古い家が持ち主を変えるほかなかった理由を説き明かし顔である。いっしょに住んでいた親戚たちは、もう引っ越してしまった後らしく、ひっそり閑としている。後から、八歳になる甥のホンル（宏児）も飛び出した。

母は機嫌よかったが、さすがにやるせない表情は隠し切れない。茶をついでくれなどして、すぐ引っ越しの話は持ち出さない。で、離れた所に立って、じっと私の方を見つめていた。

だが、とうとう引っ越しの話になった。私は、あちらの家はもう借りてあること、家具も少しは買ったこと、あとは家にある道具類をみんな売り払って、その金で買い足せばよいこと、などを話した。母もそれに賛成した。そして、荷造りもほぼ終わったこと、かさばる道具類は半分ほど処分したが、よい値にならなかったこと、などを話した。

「一、二日休んだら、親戚回りをしてね、そのうえでたつとしよう。」と、母は言った。

「ええ。」

「それから、ルントウ（閏土）ね。あれが、いつも家へ来るたびに、おまえのうわさをしては、しきりに会いたがっていましたよ。おまえが着くおよその日取りは知らせておいたから、今に来るかもしれない。」

1 **二千里の果て**　中国の一里は、約五百メートル。ここでは、はるかに遠く離れた所、の意。（魯迅の故郷は浙江省紹興だが、彼は当時北京に住んでいた。）

3 **苫**　スゲやカヤなどの草で編んだ、粗いむしろのようなもの。舟や小屋に掛けて雨露を防ぐ。

4 **わびしい** 意

5 **込み上げる** 文

11 **心境** 意

（104ページ）

13 **一族で住んでいた**　中国では、近代に入ってからも大家族制度が残っていて、大きな家に家長を中心として数家族が同居しているところもあった。

（105ページ）

2 **旧暦**　中国は一九一二年に太陽暦を採用したが、民間では、旧暦（太陰暦）を使う習慣が残っていた。

4 **やれ茎**　折れて干からびた茎。

9 **やるせない** 文

6 漢 **閑** カン

ひっそり閑 カン

このとき突然、私の脳裏に不思議な画面が繰り広げられた——紺碧の空に、金色の丸い月が懸かっている。その下は海辺の砂地で、見渡すかぎり緑のすいかが植わっている。その真ん中に、十一、二歳の少年が、銀の首輪をつるし、鉄の刺叉を手にして立っている。そして、一匹の「チャー」（猹）を目がけて、ヤッとばかり突く。すると「チャー」は、ひらりと身をかわして、彼の股をくぐって逃げてしまう。

この少年がルントウである。彼と知り合ったとき、私もまだ十歳そこそこだった。もう三十年近い昔のことである。その頃は、父もまだ生きていたし、家の暮らし向きも楽で、私は坊ちゃんでいられた。ちょうどその年は、我が家が大祭の当番に当たっていた。この祭りの当番というのが、三十何年目にただ一回順番が回ってくるとかで、ごく大切な行事だった。正月に、祖先の像を祭るのである。さまざまの供物をささげ、祭器もよく吟味するし、参詣の人も多かったので、祭器をとられぬように番をする必要があった。私の家には、「マンユエ」（忙月）が一人いるだけである。〔私の郷里では、雇い人は三種類ある。年間通して決まった家で働くのが「チャンネン」（長年）、日決めで働くのが「トアンクン」（短工）、自分でも耕作するかたわら、年末や節季や年貢集めのときなどに、決まった家へ来て働くのが「マンユエ」とよばれた。〕一人では手が足りぬので、彼は、自分の息子のルントウに祭器の番をさせたいが、と私の父に申し出た。

父はそれを許した。私もうれしかった。というのは、かねてルントウという名は耳にしていたし、同じ年頃なこと、また、閏月の生まれで、五行の「土」が欠けているので、父親がルントウ（閏土）と名づけたことも承知していたから。彼は、わなをかけて小鳥を捕るのがうまかった。

4 **チャー** 穴熊に似た動物。（「猹」という字は、魯迅の造字。）
14 **節季** 盆と暮れなど、年に数回ある決算期のこと。
18 **閏月** 旧暦の平年は三百五十四日なので、季節とのずれを調節するために、数年おきに、ある月を繰り返す。この繰り返された月をいう。
18 **五行の「土」が欠けている** 生まれた年・月・日・時の四つに干支を当てたものを、「八字（パーツー）」という。その八字の中に五行（木・火・土・金・水）の土に属する干（戊・己）も支（丑・辰・未・戌）も含まれていないこと。

1 漢 紺 コン
14 かたわら 文
紺碧 コンペキ

それからというもの、来る日も来る日も新年が待ち遠しかった。新年になればルントウがやって来る。待ちに待った年末になり、ある日のこと、母が私に、てくれた。飛んでいってみると、彼は台所にいた。艶のいい丸顔で、かぶり、きらきら光る銀の首輪をはめていた。それは父親の溺愛ぶりを示すもので、どうか息子が死なないようにと神仏に願をかけて、その首輪でつなぎ止めてあるのだ。彼は人見知りだったが、私にだけは平気で、そばに誰もいないとよく口をきいた。半日もせずに、私たちは仲よくなった。

そのとき何をしゃべったかは、覚えていない。ただルントウが、城内へ来ていろいろ珍しいものを見たと言って、はしゃいでいたことだけは記憶に残っている。

明くる日、鳥を捕ってくれと頼むと、彼は、

「だめだよ。大雪が降ってからでなきゃ。おいらとこ、砂地に雪が降るだろ。そうしたら、雪をかいて、少し空き地をこしらえるんだ。それから、大きな籠を持ってきて、短いつっかい棒をかって、屑籾をまくんだ。そうすると、小鳥が来て食うから、そのとき遠くの方から、棒に結わえてある縄を引っ張るんだ。そうすると、みんな籠から逃げられないんだ。何だっているぜ。タオチー（稲鶏）だの、チアオチー（角鶏）だの、はとだの、ランペイ（藍背）だの……。」

それからは雪の降るのが待ち遠しくなった。

ルントウはまた言うのだ。

「今は寒いけどな、夏になったら、おいらとこへ来るといいや。おいら、昼間は海へ貝殻拾いに行くんだ。赤いのも、青いのも、何でもあるよ。『鬼おどし』もあるし、『観音様の手』

8 **城内** 人の多く集まっている町の中。中国では町全体が城壁で囲まれていた。
15 **タオチー** チアオチー、ランペイと共に、畑を荒らす小鳥。

3 漢 艶 エン つや
艶 つや
4 漢 溺 デキ おぼれる
溺愛 デキアイ
14 訓 結わえる ゆわえる



もあるよ。晩には、父ちゃんとすいかの番に行くのさ。おまえも来いよ。」

「どろぼうの番？」

「そうじゃない。通りがかりの人が、喉が渇いて、すいかを取って食ったって、そんなの、おいらとこじゃ、どろぼうなんて思やしない。番をするのは、穴熊や、はりねずみや、チャーさ。月のある晩に、いいかい、ガリガリって音がしたら、チャーがすいかをかじってるんだ。そうしたら、手に刺叉を持って、忍び寄って……。」

そのとき私は、その「チャー」——今でも見当はつかない——というのがどんなものか、見当もつかなかった。小犬のような、そして獰猛な動物だという感じがした。

「かみつかない？」

「刺叉があるじゃないか。忍び寄って、チャーを見つけたら突くのさ。あん畜生、利口だから、こっちへ走ってくるよ。そうして、股をくぐって逃げてしまうよ。なにしろ、毛が油みたいに滑っこくて……。」

こんなにたくさん珍しいことがあろうなど、それまで私は思ってもみなかった。海には、そのような五色の貝

16 漢 畜 チク

畜生 チクショウ

殻があるものなのか。すいかには、こんな危険な経歴があるものなのか。私はすいかといえば、果物屋に売っているものとばかり思っていた。

「おいらとこの砂地では、高潮の時分になると『跳ね魚』がいっぱい跳ねるよ。みんな、かえるみたいな足が二本あって……。」

ああ、ルントウの心は神秘の宝庫で、私の遊び仲間とは大違いだ。こんなことは、私の友達は何も知ってはいない。ルントウが海辺にいるとき、彼らは私と同様、高い塀に囲まれた中庭から四角な空を眺めているだけなのだ。

惜しくも正月は過ぎて、ルントウは家へ帰らねばならなかった。別れがつらくて、私は声を上げて泣いた。ルントウも台所の隅に隠れて、嫌がって泣いていたが、とうとう父親に連れてゆかれた。その後、彼は父親にことづけて、貝殻を一包みと、美しい鳥の羽を何本か届けてくれた。私も一、二度何か贈り物をしたが、それきり顔を合わす機会はなかった。

今、母の口から彼の名が出たので、この子供の頃の思い出が、電光のように一挙によみがえり、私はやっと美しい故郷を見た思いがした。私はすぐこう答えた。

「そりゃいいな。で——今、どんな？　……。」

「どんなって……、やっぱり、楽ではないようだが……。」そう答えて、母は戸外へ目をやった。

「あの連中、また来ている。道具を買うという口実で、その辺にある物を勝手に持ってゆくのさ。ちょっと見てくるからね。」

母は、立ち上がって出ていった。外では、数人の女の声がしていた。私は、ホンルをこちらへ呼んで、話し相手になってやった。字は書ける？　よそへ行くの、うれしい？　などなど。

6 漢 塀 ヘイ

10 ことづける 意

塀 ヘイ

「汽車に乗ってゆくの？」
「汽車に乗ってゆくんだよ。」
「お船は？」
「初めに、お船に乗って……。」
「まあまあ、こんなになって、ひげをこんなに生やして。」不意に甲高い声が響いた。
びっくりして、頭を上げて見ると、私の前には、頬骨の出た、唇の薄い、五十がらみの女が立っていた。両手を腰にあてがい、スカートをはかないズボン姿で足を開いて立ったとこ
ろは、まるで製図用の脚の細いコンパスそっくりだった。
私はどきんとした。
「忘れたかね。よくだっこしてあげたものだが。」
ますますどきんとした。幸い、母が現れて口添えしてくれた。
「長いこと家にいなかったから、見忘れてしまってね。おまえ、覚えているだろ。」と、私に向かって、「ほら、筋向かいのヤン（楊）おばさん……豆腐屋の。」
そうそう、思い出した。そういえば子供の頃、筋向かいの豆腐屋に、ヤンおばさんという人が一日中座っていて、「豆腐屋小町」とよばれていたっけ。しかし、その人ならおしろいを塗っていたし、頬骨もこんなに出ていないし、唇もこんなに薄くはなかったはずだ。それに一日中座っていたのだから、こんなコンパスのような姿勢は、見ようにも見られなかった。
その頃うわさでは、彼女のおかげで豆腐屋は商売繁盛だとされた。たぶん年齢のせいだろうか、私はそういうことにさっぱり関心がなかった。そのため見忘れてしまったのである。と
ころがコンパスのほうでは、それがいかにも不服らしく、蔑むような表情を見せた。まるで、

7 スカートをはかないズボン姿 ズボン（裤子）の上にひだのあるスカート（裙）を着けるのが、当時の中国女性の一般的な服装であった。労働のときなどは「スカートをはかないズボン姿」になった。

15 豆腐屋小町 原文は「豆腐西施」。西施は古代中国の美女。日本では、平安時代の歌人小野小町が絶世の美女とされたことから、美しい女性のことを「――小町」ということがあった。それを訳語として当てたもの。

20 不服 類 不服气
20 蔑む 意 蔑视
16 漢 塗 トる 涂抹
塗る 涂

フランス人のくせにナポレオンを知らず、アメリカ人のくせにワシントンを知らぬのを嘲るといった調子で、冷笑を浮かべながら、
「忘れたのかい。なにしろ身分のあるお方は目が上を向いているからね……。」
「そんなわけじゃないよ……僕は……。」私はどぎまぎして、立ち上がった。
「それならね、お聞きなさいよ、シュン（迅）ちゃん。あんた、金持ちになったんでしょ。持ち運びだって、重くて不便ですよ。こんながらくた道具、邪魔だから、あたしにくれてしまいなさいよ。あたしたち貧乏人には、けっこう役に立ちますからね。」
「僕は金持ちじゃないよ。これを売って、その金で……。」
「おやおや、まあまあ、知事様になっても金持ちじゃない？　現におめかけが三人もいて、お出ましは八人かきのかごで、それでも金持ちじゃない？　ふん、だまそうたって、そうはいきませんよ。」
返事のしようがないので、私は口を閉じたまま立っていた。
「ああ、ああ、金がたまれば財布のひもを締める。財布のひもを締めるからまたたまる……。」コンパスは、ふくれっつらで背を向けると、ぶつぶつ言いながら、ゆっくりした足どりで出ていった。行きがけの駄賃に、母の手袋をズボンの下へねじ込んで。
その後、近所にいる親戚が何人も訪ねてきた。その応対に追われながら、暇をみて荷ごしらえをした。そんなことで四、五日潰れた。
ある寒い日の午後、私は食後の茶でくつろいでいた。表に人の気配がしたので、振り向いてみた。思わずあっと声が出かかった。急いで立ち上がって迎えた。
来た客はルントウである。ひと目でルントウとわかったものの、そのルントウは、私の記

1 嘲る 意 嘲笑
2 冷笑 関 苦笑・微笑・失笑
7 漢 乏しい 贫乏 貧乏人
13 音 財布（サイフ） 钱包
15 漢 駄 ダ 驮 駄賃 驮钱

憶にあるルントウとは似もつかなかった。背丈は倍ほどになり、昔は黄ばんだ色に変わり、しかも深いしわが畳まれていた。目も、彼うに、周りが赤く腫れている。私は知っている。海辺で耕作するるせいで、よくこうなる。頭には古ぼけた毛織りの帽子、身には薄るぶる震えている。紙包みと長いきせるを手に提げている。その手のいい、丸々した手ではなく、太い、節くれだった、しかもひび割でである。

私は、感激で胸がいっぱいになり、しかしどう口をきいたものやひと言、

「ああルンちゃん――よく来たね……。」

続いて言いたいことが、後から後から、数珠つなぎになって出かね魚、貝殻、チャー……。だが、それらは、何かでせき止められたるだけで、口からは出なかった。

彼は突っ立ったままだった。喜びと寂しさの色が顔に現れた。唇がなかった。最後に、うやうやしい態度に変わって、はっきりこう言った。

「旦那様！　……。」

私は身震いしたらしかった。悲しむべき厚い壁が、二人の間を隔ててしまったのを感じた。

私は口がきけなかった。

彼は後ろを向いて、「シュイション（水生）、旦那様にお辞儀しな。」と言って、彼の背に隠れていた子供を前へ出した。これぞまさしく三十年前のルントウであった。いくらか痩せ

8 思案 意
15 うやうやしい 意
16 漢 旦 タン ダン
16 漢 那 ナ
旦那様 ダンナ様
13 はにかむ 意 （113ページ）

て、顔色が悪く、銀の首輪もしていない違いはあるけれども。「これが五番目の子でございます。世間へ出さぬものですから、おどおどしておりまして……。」

母とホンルが二階から下りてきた。話し声を聞きつけたのだろう。

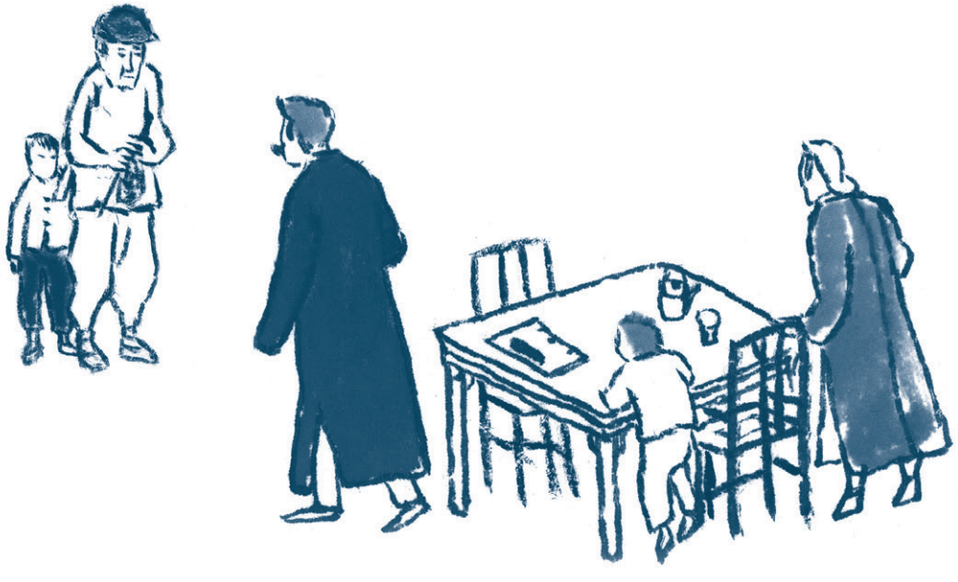
「御隠居様、お手紙は早くにいただきました。全く、うれしくてたまりませんでした、旦那様がお帰りになると聞きまして……。」と、ルントウは言った。

「まあ、なんだってそんな他人行儀にするんだね。おまえたち、昔は兄弟の仲じゃないか。昔のように、シュンちゃん、でいいんだよ。」と、母はうれしそうに言った。

「めっそうな、御隠居様、なんとも……とんでもないことでございます。あの頃は子供で、何のわきまえもなく……。」そして、またもシュイションを前に出してお辞儀させようとしたが、子供ははにかんで、父親の背にしがみついたままだった。

「これがシュイション？　五番目だね。知らない人ばかりだから、はにかむのも無理ない。ホンルや、あちらでいっしょに遊んでおやり。」と、母は言った。

言われて、ホンルはシュイションを誘い、シュイションもうれしそうに、そろって出ていった。母はルントウに席を勧めた。彼はしばらくためらった後、ようやく腰を下ろした。長ぎせるをテーブル



に立て掛けて、紙包みを差し出した。

「冬場は、ろくなものがございません。少しばかり、青豆の干したのですが、自分とこのですから、どうか旦那様に……。」

私は、暮らし向きについて尋ねた。彼は首を振るばかりだった。

「とてもとても。今では六番目の子も役に立ちますが、それでも追っつけません……世間は物騒だし……どっちを向いても金は取られほうだい、決まりも何もせん……作柄もよくございません。作った物を売りに行けば、何度も税金を取られて、元は切れるし、そうかといって売らなければ、腐らせるばかりで……。」

首を振りどおしである。顔にはたくさんのしわが畳まれているが、まるで石像のように、そのしわは少しも動かなかった。苦しみを感じはしても、それを言い表すすべがないように、しばらく沈黙し、それからきせるを取り上げて、黙々とたばこをふかした。

母が都合をきくと、家に用が多いから、明日は帰らねばならぬと言う。それに昼飯もまだと言うので、自分で台所へ行って、飯をいためて食べるように勧めた。

彼が出ていった後、母と私とは彼の境遇を思ってため息をついた。子だくさん、凶作、重い税金、兵隊、匪賊、役人、地主、みんな寄ってたかって彼をいじめて、でくのぼうみたな人間にしてしまったのだ。母は、持っていかぬ品物はみんなくれてやろう、好きなように選ばせよう、と私に言った。

午後、彼は品物を選び出した。長テーブル二個、椅子四脚、香炉と燭台一組、大秤一本。その他、わら灰もみんな欲しいと言った。（私たちのところでは、灰は砂地の肥料になる。）私たちが旅立つとき来て船で運ぶ、と言った。

夜はまた世間話をした。とりとめのない話ばかりだった。明くる日の朝、彼はシュイションを連れて帰っていった。

それからまた九日して、私たちの旅立ちの日になった。ルントウは朝から来ていた。シュイションは連れずに、五歳になる女の子に船の番をさせていた。それぞれに一日中忙しくて、もう話をする暇はなかった。客も多かった。見送りに来る者、品物を取りに来る者。夕方になって、私たちが船に乗り込む頃には、この古い家にがてら品物を取りに来る者、見送りあった大小さまざまのがらくた類は、すっかり片づいていた。

船はひたすら前進した。両岸の緑の山々は、たそがれの中で薄墨色に変わり、次々と船尾に消えた。

私といっしょに窓辺にもたれて、暮れてゆく外の景色を眺めていたホンルが、ふと問いかけた。

「伯父さん、僕たち、いつ帰ってくるの。」

「帰ってくる？　どうしてまた、行きもしないうちに、帰るなんて考えたんだい。」

「だって、シュイションが僕に、家へ遊びに来いって。」

大きな黒い目をみはって、彼はじっと考え込んでいた。

私も、私の母も、はっと胸をつかれた。そして、話がまたルントウのことに戻った。母はこう語った。例の豆腐屋小町のヤンおばさんは、私の家で片づけがやって来たが、おととい、灰の山から碗や皿を十個余り掘り出した。あれこれ議論の末、それはルントウが埋めておいたにちがいない、灰を運ぶとき、いっしょに持ち帰れるから、という結論になった。ヤンおばさんは、この発見を手柄顔に、「犬じらし」（これは私たちのと

15 **兵隊、匪賊、役人、地主**　当時の中国で、民衆の敵とされていた代表的なもの。「匪賊」は、集団で略奪などを行う盗賊。

18 **香炉と燭台**　香をたくのに用いる容器と、ろうそくを立てる台。いずれも祭具。

6 物騒 意

14 境遇 意

15 寄ってたかって 意

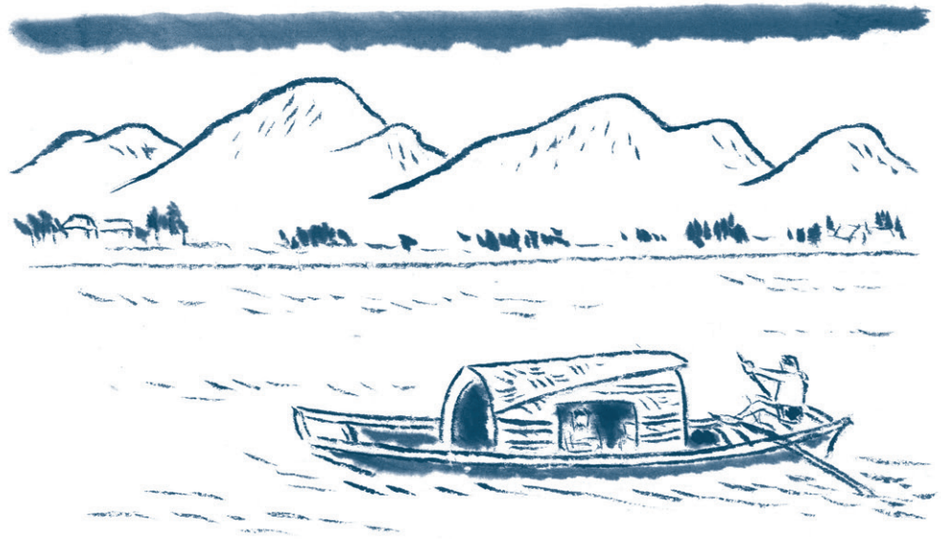
14 漢 遇（グウ）　境遇

18 漢 炉（ロ）　香炉

1 とりとめのない 意

16 胸をつかれる　関 胸が締めつけられる　胸がすく　胸に迫る

8 漢 墨（ボク・すみ）　薄墨色



ころで鶏を飼うのに使う。木の板に柵を取り付けた道具で、中に食べ物を入れておくと、鶏は首を伸ばしてついばむことができるが、犬には（犬はできないのである。）をつかんで飛ぶように走り去った。纏足用の底の高い靴で、よくもと思うほど速かったそうだ。

古い家はますます遠くなり、故郷の山や水もますます遠くなる。だが名残惜しい気はしない。自分の周りに目に見えぬ高い壁があって、その中に自分だけ取り残されたように、気がめいるだけである。すいか畑の銀の首輪の小英雄の面影は、元は鮮明このうえなかったのが、今ではなんやりしてしまった。これもたまらなく急にぼんやりしてしまった。これもたまらなく悲しい。

母とホンルとは寝入った。

私も横になって、船の底に水のぶつかる音を聞きながら、今、自分は、自分の道を歩いているとわかった。思えば私とルントウとの距離は全く遠くなったが、若い世代は今でも心が通い合い、現にホンルはシュイションのことを慕っ

5 纏足 昔の中国の風習で、女性の足が大きくならないように、幼時から布を固く巻き付けておくこと。ここでは、そうして小さくした足のこと。

8 名残惜しい 意
10 気がめいる 関 気がもめる／気が置けない／気が気でない

（117ページ）
3 打ちひしぐ 意
4 野放図 意
8 漢 崇 スウ
3 漢 麻 マ・あさ

麻痺
崇拝

ている。せめて彼らだけは、私と違って、互いに隔絶することのないように……とはいっても、彼らが一つ心でいたいがために、私のように、むだの積み重ねで魂をすり減らす生活を共にすることは願わない。また、ルントウのように、打ちひしがれて心が麻痺する生活を共にすることも願わない。希望をいえば、彼らは新しい生活をもたなくてはならない。私たちの経験しなかった新しい生活を。

希望という考えが浮かんだので、私はどきっとした。たしかルントウが香炉と燭台を所望したとき、私は、相変わらずの偶像崇拝だな、いつになったら忘れるつもりかと、心ひそかに彼のことを笑ったものだが、今私のいう希望も、やはり手製の偶像にすぎぬのではないか。ただ、彼の望むものはすぐ手に入り、私の望むものは手に入りにくいだけだ。

まどろみかけた私の目に、海辺の広い緑の砂地が浮かんでくる。その上の紺碧の空には、金色の丸い月が懸かっている。思うに希望とは、もともとあるものともいえないし、ないものともいえない。それは地上の道のようなものである。もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。

赤羽末吉・絵

10 5



作者 **魯迅** 一八八一――一九三六 本名周樹人。
中国の小説家。中国近代文学の礎を築いた。
著書 小説「阿Q正伝」「狂人日記」、雑感集「而已集」、散文詩集「野草」、文学史「中国小説史略」など。



訳者 **竹内 好** 一九一〇（明治四三）――一九七七（昭和五二） 長野県出身。中国文学者・評論家。
著書 「魯迅」「国民文学論」など。
出典 「魯迅文集 第一巻」

広がる読書

「故郷／阿Q正伝」
魯迅 藤井省三 訳



「山椒大夫・高瀬舟」
森鷗外



漢字の練習

119ページ 文学の批評
27ページ 展開のしかた

学びのカギ

文学作品を批評する

文学作品を批評するために。

- 文学作品を批評するときには、描かれた内容をそのまま受け入れるのではなく、批判的な視点をもって読むことが大切だ。
- 文学を批判的に読むには、登場人物の言動の意味や人物像、作品の展開や表現の効果などを吟味したり、登場人物と自分の価値観を比較したりして、作品を客観的に評価するとよい。

256ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

【学習で用いる言葉】

批評　作品などについて、その特性や価値などを論じたり評価したりすること。

文学作品を批評するときの観点の例

人物の生き方や描かれ方	語り手の思いや考え方	時代や社会背景	構成や場面の展開	表現の効果や語句の使い方	主題（テーマ）
・登場人物の生き方や考え方に共感や納得ができるか。 ・その人物が登場する意図は何か。	・語り手以外の立場から作品を読むとどうか。	・時代や社会背景を踏まえて、自分ならどうするか。 ・現代社会に通じる問題はあるか。	・構成や場面の展開にはどんな工夫があるか。	・作者の工夫を感じる表現や語句の使い方はあるか。	・作者の伝えたいメッセージは何か。 ・作品に普遍性はあるか。

言の葉ポケット

作品から色彩を表す言葉を抜き出し、そこに込められた意味や作品に与える印象を考えよう。（例「紺碧」「金色」など）

学びへの扉

見通しをもつ

登場人物の考え方や行動を批判的に読み、作品を批評しよう。［学習活動］

目標

- 人の生き方や社会との関わり方を考えるうえでの、読書の意義を理解する。（知る）
- 作品を批判的に読み、時代や社会の中で生きる人間の姿について考える。（読む）

捉える

1 作品の設定を捉えよう。

①「私」と他の登場人物との関係を整理してみよう。
②時や場所、人物に着目して、場面に分けよう。



読み深める

2 場面や登場人物の設定に着目して読み深めよう。

①回想の場面と現在の場面とを比べ、描写の変化を抜き出そう。
・ルントウ　・ヤンおばさん
②ルントウと再会した場面で「私」が感じた「悲しむべき厚い壁」（112ページ17行目）とは何か、考えよう。
③最後の場面で「私」が考える「新しい生活」や「希望」とはどのようなものか。「私」とルントウ、ホンルとシュイションの関係などを踏まえて考えよう。

考えをもつ

3 読み深めたことを基に、作品を批評しよう。

この作品のもつ特性や価値について、「学びのカギ」を参考に、観点を決めて批評してみよう。



振り返る

- 知る　□生き方や社会を考えるうえで、読書にはどんな意義があると感じたか。
- 読む　□作品を読んで、納得や共感ができたこと、できなかったことは何か。
- つなぐ　□現代の日本とは異なる時代や状況を描いた小説を読む際、自分の考えをもつために必要だと思う観点を挙げてみよう。

書く

［推敲］

論理の展開を整える

書くことのミニレッスン

森さんは、方言の必要性を感じていない人を説得するために、方言を守る意義を主張する意見文を書いた。

方言を守ることの必要性

三年一組　森　勇紀

❶ユネスコの調査によると、現在、世界では約二千五百の言語や方言が消滅の危機にあり、その中には日本の方言も幾つか含まれていて、私は、方言をその危機から救い、守ることが必要だと考える。そう考える理由は二つある。

第一に、方言には、物事を生き生きと表現する力があるからだ。例えば、富山県では、「きときと」という言葉が使っている。主にとれたての魚に対して使う言葉で、新鮮さ、生きのよさなどを表す。❸それと、その語感からは、輝くような様子や、鮮度を誇らしく思う気持ちも伝わってくる。❹

第二に、方言には、人々をつなぐ力があるからだ。❺言語学者の木部暢子氏は、方言はその地域の人々の心を和ませ、人と人との距離感を縮める力を持っている（□ページ）と述べている。東日本大震災の後には、「けっぱれ東北」「がんばっぺ宮城」など、方言を使ったスローガンがいっぱい見られた。❻「けっぱれ」という言葉は、東北地方だけでなく、北海道でも使われている。共通語でなく、その地方の方言を使うことによって、困難を共に乗り越えようという気持ちが共有される。方言に励まされた人も多かったのではないだろうか。

❼だから、私は方言を守りたいと考える。

A（エー）

文章を推敲するための原稿用紙の使い方

危機一髪（ばつ）とは、髪の毛一本ほどの僅かな差のところまで危機が迫る状態を表わす。

- 文字の修正
- 文字の追加
- 文字の削除

1 語句・表現や叙述のしかたを見直し、文章を整えよう。

- ☑ 適切な語句を選んでいるか。
  - 文章に合わせて、❸、❻を適切な語に書き換えよう。
- ☑ 主語・述語の対応は正しいか。
  - 主語と適切に対応するように、❷を書き改めよう。
- ☑ 引用のしかたは適切か。
  - 次の情報を踏まえて、引用部分全体（❺）を適切な形に書き改めよう。

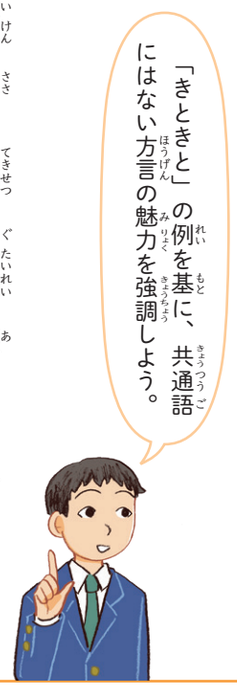
引用元の本……「じゃって方言なおもしとか」（書名）□□社、○○○○年

264ページ　グラフの見方／引用・出典

2 目的や読み手に合わせて、表現や論理の展開を整えよう。

- ☑ 事実と意見を整理して書いているか。
  - ❶を、事実を表す文と考えを表す文の二つに分けよう。
- ☑ 目的や読み手に合った内容や表現になっているか。
  - 方言の必要性を感じていない人を説得するために、❹に想定される反論と、それに対する意見を加筆しよう。

これに対して、［想定される反論］という意見があるかもしれない。しかし、方言には、［意見］。



- ☑ 意見を支える適切な具体例を挙げているか。
  - Aから、論理の展開に直接関わらない具体例（一文）を探し出して削除しよう。
- ☑ 読み手を説得できるような結論の示し方になっているか。
  - 上の文章は、双括型（意見→根拠→意見）で書かれている。最終段落が、「文章全体をまとめた主張」となるように、❼を百字程度で書き改めよう。（❼の文は、残しても削除してもよい。）

3 読み手からの助言を踏まえて、確かめよう。

書き改めた文章を友達と読み合い、よい点や、改善点を出し合おう。

言葉3

慣用句・ことわざ・故事成語

「腕を上げる」「腕を磨く」「腕が鳴る」といった表現は、言葉どおりの意味から離れて、別の意味を表している。

このように、私たちが日頃使う言葉の中には、古くから一まとまりで決まった意味を表すものがたくさんある。



慣用句

二つ以上の言葉が結び付いて、もともとの言葉の意味とは別の意味を表すものを、**慣用句**という。慣用句には、次のように身近な物事に関係のある言葉を使ったものが多い。

体や心に関係のある言葉を使った慣用句

- 頭が下がる……人の行いなどに敬服する。
- 胸を張る……自信に満ちた態度を取る。
- 心に刻む……忘れないようにしっかりと覚えておく。

衣食住に関係のある言葉を使った慣用句

- 棚に上げる……わざと知らないふりをして問題にしない。
- 襟を正す……気持ちを引き締めて真面目な態度になる。

動植物に関係のある言葉を使った慣用句

- すずめの涙……とても少ない量のたとえ。
- 花を持たせる…相手を立てて手柄を譲る。

また、「ピリオドを打つ」（物事を終わりにする。）など、外来語を使った慣用句もある。

▼次の慣用句を使って短文を作ろう。

- 肩の荷が下りる　・心を砕く　・眉に唾を付ける

250ページ 語彙ブック

ことわざ・故事成語

古くから世間で言いならわされてきた、生活上の知恵や教訓が込められた言葉を**ことわざ**という。ことわざは、誰もが理解できるようなたとえで表されたものが多い。

また、中国の古典に由来し、歴史的な事実や言い伝えを基に作られた言葉を**故事成語**とよぶ。

ことわざ

- 猿も木から落ちる
  その道に熟練した人でも、時には失敗するというたとえ。
- 転ばぬ先のつえ
  失敗しないように、しっかりと準備をしておくことのたとえ。

故事成語

- 背水の陣
  「史記」（中国の歴史書）の中の一節。
  後戻りできない覚悟で物事に取り組むこと。
- 温故知新
  「論語」の中の孔子の言葉。
  昔の事柄に学んで新しい知識を得ること。

▼次のことわざや故事成語の意味を調べよう。

- 灯台下暗し　・ひょうたんから駒が出る
- 虎穴に入らずんば虎子を得ず　・三顧の礼

生活に生かす

慣用句やことわざなどの使い方に注意しよう

先人の言語感覚や知恵が込められた慣用句やことわざ、故事成語は、適切に使うことによって、表現の幅が広がる。しかし、次の例のように、本来とは異なる意味で解釈されることもある。

（□は本来の意味、■は本来とは異なる意味。）使うときには、誤解が生じないように、語句の意味や相手の受け取り方に注意しよう。

- 気が置けない
  □ 遠慮の必要がなく、気軽に付き合うことができる。
  ■ 油断ができず、用心して付き合わなければならない。
- 情けは人のためならず
  □ 人への親切は、巡り巡ってやがて自分に返ってくる。
  ■ 人に情けをかけることは、その人のためにならない。

また、慣用句やことわざの中には、時代に合わなくなったものや、相手を不快にさせるものもあるので注意しよう。

新出漢字

122 砕（サイ くだ・く・だ・ける）	123 駒（コマ）	122 唾（ダ つば）	123 猿（エン さる）
123 虎（コ とら）	123 顧（コ かえりみる）		
123 虎穴（コケツ）			

漢字の練習

話す 聞き

聞き上手になろう

質問で相手の思いに迫る

聞き上手な人は、相手の話の展開を予測しながら聞き、話の流れを捉えて、その思いに迫っていく。ここでは「私を作ったもの」をテーマに対談を行おう。

対談をする

目標
- 相手や場に応じた適切な言葉遣いを選ぶ。（知る）
- 相手の話の展開を予測しながら聞き、質問で話を引き出す。（話・聞）

1 対談の準備をする

話し手（1名）、聞き手（1名）、聴衆（1～2名）を決め、役割ごとに準備をする。

2 対談を行う

1回5～7分程度で対談を行う。役割は順に交代する。

3 学習を振り返る

それぞれの役割から、対談を通して気づいたことや考えたことを出し合う。

学びのカギ

質問で相手の思いに迫る

- 相手の立場に寄り添い、興味をもって聞く。
- 話の内容を自分の知識や経験などと結び付け、話の展開を予測しながら聞く。
- 相手の反応や表情に注意し、さまざまな角度から質問することで、相手の人柄や価値観に迫る。
- 用意した質問にとらわれず、臨機応変な質問をし、話を広げたり深めたりする。

260ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図



1 対談の準備をする

［話し手］
- 聞き手に話題を伝える。
- 特に話したいことを決めておく。

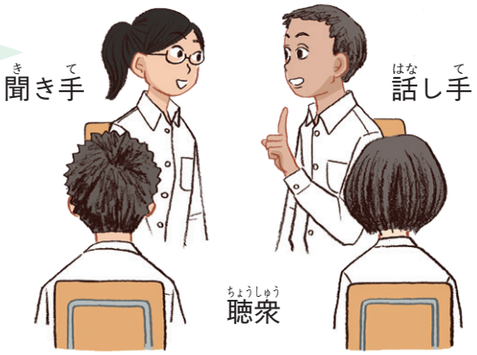
［聞き手］
- 話題について調べ、質問を考える。

2 対談を行う

［聞き手］
- 話題を選んだ意図や具体的なエピソードを聞き出し、相手の内面に迫る。
- 自分の感想や体験を交えて返答することで、さらに相手の話を引き出す。
- 聴衆も楽しめるように意識する。

［話し手］
- 質問に答える形で話す。特に話したい内容について質問されたら、そのことを伝えてから話す。

［聴衆］
- 対談の様子を観察し、最後に講評する。



［相手の思いに迫る質問］
- 具体化する
「具体的にはどういうことか、教えてください。」
- 他の言葉で言い換える
「つまり、……ということですか。」
- 価値づける
「あなたにとって、○○とは何ですか。」

［対談の例］

高橋（聞き手）　三谷さんの「私を作ったもの」は、「サッカー」だそうです。つまり、所属しているサッカー部が三谷さんを作ったということですか。

三谷（話し手）　部活動もありますが、それよりも、サッカーと出会ったことで今の自分があるということです。

高橋　サッカーとの出会いはいつですか。

三谷　幼稚園のときです。父が地元のサッカークラブに連れていってくれたのが始まりでした。

高橋　へえ、幼稚園からですか！（聴衆の方を見ながら）どうりで上手なわけですね。そんな三谷さんにとって、サッカーの魅力とは何ですか。

三谷　その質問を待っていました。サッカーの魅力は、一点の重みと、仲間とその一点を目ざして一体になる楽しさだと思うんです。

高橋　「一点の重み」。かっこいいですね。具体的にはどういうことか、教えてください。

三谷　例えば、他のスポーツには、一度に何点か入るものもありますよね。でも、サッカーは一度に一点しか入らないし、コートが広くてゴールも決まりにくいぶん、その一点が重いんです。だからこそ、……。（後略）

漢字2

漢字の造語力

幕末から明治時代にかけて、西洋からさまざまな書物が日本に入ってきた。当時の知識人たちは、西洋の学問や文化を取り入れようと、それらの書物の翻訳に取り組んだ。しかし、西洋の書物には、それまでの日本にはない事柄や考え方を表す語も多かった。そこで、知識人たちはその翻訳のために、新しい言葉を考え出した。



翻訳語

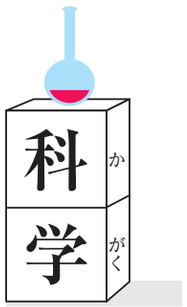
漢字は一字一字が意味をもち、熟語として組み合わせることでさまざまな意味を表すことができる。このような漢字の造語力を用いて、数多くの翻訳語が作られた。

例えば、「society」という語は、当初、「仲間」「交際」などさまざまに訳されていた。しかし、後に、人々の集まりという意味を表す「社」と「会」を組み合わせた「社会」という熟語に翻訳され、それが定着した。

次のような抽象的な意味を表す熟語も、この時代に西洋の書物から翻訳され、やがて定着したものである。

例
- 芸術……[英語] art
- 科学……[英語] science
- 文化……[英語] culture







新しい語

社会や生活の変化によって、新しい事柄や考え方、制度が生まれると、それらを表す新しい語が必要になる。

そのような新しい語の中には、漢字を組み合わせたり、既にある熟語を組み合わせたりして作られたものも多い。

例
- 中食……店で調理済みの食品を買い、家に持ち帰って食べること。「外食」に対していう。「ちゅうしょく」と読むこともある。
- 公助……災害発生時などに、役所や警察、消防などの公的な機関によって行われる援助。「自助」「共助」と共に用いられる。
- 猛暑日……一日の最高気温が三十五度以上の日。「夏日」（二十五度以上）、「真夏日」（三十度以上）に加えて用いられるようになった。

また、熟語を組み合わせて作られた長い熟語は、主な意味を表す漢字だけを残して、省略して示すこともある。

例
- 国連……[元の語] 国際連合
- 最高裁……[元の語] 最高裁判所
- 衆院選……[元の語] 衆議院議員総選挙

練習問題

●は中学校で学習する音訓 317ページ

1 次の熟語の意味として合うものを下から選んで、――線で結ぼう。

① 理性 ●
② 倫理 ●
③ 普遍 ●
④ 契約 ●
⑤ 利潤 ●
⑥ 猶予 ●

- 人としてあるべき生き方や道徳。
- 物事を決行する時を先に延ばすこと。
- 物事を筋道立てて考え、判断する能力。
- 全てのものに当てはまること。
- 売買や貸し借りの約束を交わすこと。
- 企業などが得る利益。

2 次の――線部の熟語の意味を、熟語を構成している漢字や熟語に注意して考えよう。

〈例〉少子高齢化→少子・高齢・化

① 食品の消費期限を確かめる。
② 議会は民主主義の中枢である。
③ 産業廃棄物を処分する。
④ 日本の食料自給率を会議の議題に上せる。
⑤ 生物多様性を維持する取り組みを支持する。
⑥ 国の重要無形文化財である歌舞伎を鑑賞する。

3

次の――線部の熟語を読み、その類義語を後から選ぼう。

① 休憩を取り、体力の消耗を抑える。
② 他人に隷属することをよしとしない。
③ 事実を克明に描いた戯曲。
④ 侮辱を受けて激怒する。
⑤ あの作品は、他の凡庸な作品とは一線を画する。
⑥ 暴君が国外へ放逐される。
⑦ 政治家は庶民の訴えに耳を傾けるべきだ。
⑧ 不祥事を起こした委員の罷免要求が出される。
⑨ 政府によって反乱が鎮圧される。

ア 制圧　イ 恥辱　ウ 丹念　エ 追放　オ 免職
カ 大衆　キ 平凡　ク 消費　ケ 従属

4

次の熟語の対義語になるように、□に入る漢字を選ぼう。また、それぞれの熟語を読もう。

① 静脈 ↔ □脈　② 既知 ↔ □知　③ 漸増 ↔ 漸□
④ 閉鎖 ↔ □放　⑤ 隆起 ↔ 陥□　⑥ 叙情 ↔ 叙□
⑦ 逮捕 ↔ 釈□　⑧ 令嬢 ↔ 令□　⑨ 特殊 ↔ □遍
⑩ 合併 ↔ 分□　⑪ 確信的 ↔ 懐□的

〈事放疑開減普息没動離未〉

5

四字熟語になるように、（　）に合う言葉を〈　〉から選ぼう。また、できた四字熟語を読もう。

① 戸籍（　）　② 満場（　）
③ 和洋（　）　④ 綱紀（　）

〈一致　折衷　粛正　謄本〉

6

次の語句の意味を調べ、短い文を作ろう。

① 机上の空論　② 胸算用　③ お蔵入り
④ 筆舌に尽くしがたい　⑤ 耳目を集める
⑥ 未曽有　⑦ 面目を施す　⑧ 値千金
⑨ 津津浦浦（津々浦々）　⑩ 助太刀

新出漢字

127 廃 ハイ すたれる すたる	128 侮 ブ あなどる	128 祥 ショウ	128 叙 ジョ	128 懐 カイ ふところ なつかしい なつかしむ なつく なつける	127 遍 ヘン	
127 伎 キ	128 辱 ジョク はずかしめる	128 罷 ヒ	128 逮 タイ	128 籍 セキ	128 謄 トウ	
127 契 ケイ ちぎる	128 庸 ヨウ	128 鎮 チン しずめる しずまる	128 嬢 ジョウ	128 衷 チュウ	128 曽 ソウ	
128 耗 モウ コウ	128 隷 レイ	128 漸 ゼン	128 殊 シュ こと	128 粛 シュク	128 津 シン つ	
127 猶 ユウ	127 枢 スウ	128 併 ヘイ あわせる	128 隆 リュウ	128 庶 ショ	128 克 コク	

漢字一覧表

5 自らの考えを

多様性の中で自分の考えを確立する

複数の意見を読んで、考えよう
――正解が一つに決まらない課題と向き合う 論説

真鍋淑郎・伊勢武史・堅達京子

考えを効果的に伝えよう
多角的に分析して批評文を書く

漢字に親しもう3

文法への扉2 「ない」の違いがわからない？

聴きひたる 初恋 詩

島崎藤村

季節のしおり 秋



時を表す言葉5 昼下がり ｜ 正午を過ぎた頃。

複数の意見を読んで、考えよう
――正解が一つに決まらない課題と向き合う

私たちの社会が直面しているさまざまな課題には、ほとんどの場合、「ただ一つの明白な正解」は存在しない。そのような課題に向き合うためには、誰かの意見をただうのみにするのでなく、一人一人が自分のこととして捉え、批判的に考えることが大切だ。

ここでは、気候変動をはじめとする環境問題に対し、三人の論者が提言を行っている。それぞれの意見を手がかりに、テーマについて掘り下げ、あなた自身がこれからどう向き合っていくかを考えよう。

［テーマ］
環境問題を解決するために、今、何が必要か。

基礎資料
筆者インタビュー

読む

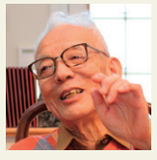
論説の比較を基にグループで討論し、自分の考えをまとめよう。

［学習活動］

目標

- 社会との関わりを支える、読書の効用を理解する。
- 文章を批判的に読み、論理の展開や表現のしかたを評価する。

論者



真鍋淑郎（まなべ しゅくろう）
一九三一（昭和六）――
愛媛県出身。気象学者。
著書「地球温暖化はなぜ起こるのか」など。



伊勢武史（いせ たけし）
一九七二（昭和四七）――
徳島県出身。生態学者、環境科学者。
著書「『地球システム』を科学する」など。



堅達京子（げんだつ きょうこ）
一九六五（昭和四〇）――
福井県出身。テレビプロデューサー。
著書「脱炭素革命への挑戦」など。

出典　三編とも、本書のための書きおろし。



まずは、科学的根拠に基づき、現状や原因を正しく理解すること

真鍋淑郎

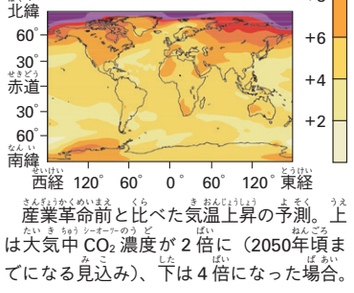
私は、気候の変化をコンピュータで再現する「気候モデル」を使って、地球温暖化について研究してきた。

私が研究を始めた一九五〇年頃には、「気候は安定したもので、一時的・局地的な変化はあっても、人間の活動によって大きく変化することはない」という考えが主流であった。しかし、世界各地の観測データの収集や気候モデルの開発など、地道な研究の積み重ねにより、気候は、大気や海洋など、さまざまな要素が複雑にからみ合ったもので、ささいな変化が急激な変化を引き起こしうることがわかってきた。今や、人間の排出する温室効果ガスが原因で、地球の気候が大きく変化しているということは、疑う余地がない。

産業革命前の千年間ではあまり変動しなかった地球の平均気温は、その後、二〇二〇年までの間に、既に一度ほど上昇している。気候モデルの計算によると、このままでは今世紀中にさらに二度ほど上がり、温暖化は海上よりも陸上で、熱帯よりも北極域で著しく進むと考えられる。

また、温暖化は世界の水の循環にも大きな影響を与える。洪水や干ばつが増え、水資源の豊かな地域と乏しい地域の格差は、さらに広がるだろう。これらの予測は、実際の観測データにも表れ始めている。近年、世界各地で洪水や干ばつをはじめ、酷暑や豪雨など、異常気象による災害が相次いでいる。

温暖化がもたらす被害の大きさは、地域や世代によって異なる。そのため、問題への向き合い方にも温度差があり、今なお、「地球温暖化は起きていない」と主張する人もいる。しかし、問題の認識そのものがずれていると、解決は難しい。まずは、科学的根拠に基づき、現状や原因を正しく理解すること。そのうえで有効な対策を講じることが、問題を解決するための第一歩である。



産業革命前と比べた気温上昇の予測。上は大気中 CO_2 濃度が２倍に（2050年頃までになる見込み）、下は４倍になった場合。



社会全体で解決できる仕組みを作る

伊勢 武史

私は研究者として環境問題に携わっている。しかし、仕事帰りに立ち寄るスーパーで豆腐が十円引きだとちょっとうれしくなるような、ごく普通の市民でもある。そんな私たちが、無理なく納得して環境問題に取り組むために、今、何が必要だろうか。

環境保全というと、ごみ拾いのボランティアやこまめな節電、募金などを思い浮かべる人もいるだろう。これらの取り組みは、確かにすばらしい。しかし、このように個人の良心や自己犠牲に依存する社会では、地球環境は守れないと私は考えている。

では、どうすればよいか。個人に負担を強いるのではなく、社会全体で解決する工夫が必要だ。例えばスーパーで食材を選ぶ際、私たちはなるべく安くておいしいものを選ぶ。あたりまえだ。このような人間の「あたりまえ」を利用して、環境を守る仕組みを作るのだ。つまり、安くておいしいものを選んだら、最も環境によい商品だった、という状況を作り出せばよい。こんな都合のよい状況の実現のために「インセンティブ」という考え方が使える。これは経済学の用語であり、人々の意思決定や行動を変化させる要因のことだ。

例えば、政府が環境によい製品に補助金を出すことで、その製品の価格は安くなり、消費者に人気が出る。逆に、環境に悪い製品には補助金が出ないので、価格が高くなり、あまり売れなくなる。このように、政策決定者がしっかりとインセンティブを実施すれば、「お買い得」みたいな言葉に弱い我々でも環境保全に貢献できる。

とはいえ、「環境に配慮されていなくても、私はこの製品を選びたい。」という人もいるだろう。インセンティブは、そういった意見や行動も否定しない。選択の自由と多様性を維持したうえで、社会全体をエコな方向にもっていこうという考え方なのだ。

環境保全のことを考えるときには、熱意をもって活動に取り組む人々に注目が集まることが多い。だが、世の中にはさまざまな考えをもった人たちがいる。そのような人にも通用するような現実的な仕組みが、環境問題の解決には求められるのではないだろうか。



一人が踏み出す一歩は、実は大きな一歩

堅達 京子

私は長年、テレビ局のプロデューサーとして環境問題をテーマにした番組を制作し、専門家や企業の担当者に取材を重ねてきた。

今、私たちは地球温暖化をはじめとする深刻な気候危機のただ中にいる。科学者たちは、目前に迫る二〇三〇年までに二酸化炭素の量を半減させなければ、温暖化の進行はより早まり、被害が深刻化すると警鐘を鳴らしている。

では、温暖化を止め、地球環境を守るために、私たちに何ができるのだろうか。世界各地で取材を続ける中で、私がたどり着いた答えは、「市民一人一人が行動を起こすこと」だ。

気温の上昇を止めるために、すぐにでも取り組めることは、たくさんある。電気をこまめに消すこと。自転車や公共交通機関を使うこと。木を植えること。マイバッグを持ち歩き、プラスチックなど石油製品の使用を控えること。

だが、そんな小さなことの積み重ねで、本当にこの状況が変わるのかと感じる人もいるだろう。

確かに、個人がこうしたことに取り組むだけでは、温暖化は止まらない。一人一人の直接的な力はとても小さい。しかし、もし膨大な数の個人が一度に行動を起こせば、どうだろうか。国や企業も活動の方針を変えざるをえなくなる。多くの人が行動を起こせば、間接的に世の中を動かす効果があるのだ。

身の回りでも既に変化は現れ始めている。例えば、店舗の電力を一部、再生可能エネルギーに切り替えたり、商品の包装を削減したりする企業が増えている。私たち消費者が、持続可能性に配慮した商品を選ぶようになれば、企業の態度は変化する。一人が踏み出す一歩は、実は大きな一歩なのだ。

どんなに難しい問題の解決も、最初はたった一人が動きだすことから始まる。何より大事なのは、そのとき、「声を上げること」だ。気候危機を食い止めたいという熱意を「声」にして働きかければ、周囲の人々の行動が変わる。それはいつしか大きな流れとなり、企業を変え、社会を変える。一人でも多くの人が、環境問題を自分のこととして捉え、今すぐ行動を起こすことを期待している。

179ページ 自分の意見をもつ
135ページ 批判的に読み評価する
51ページ 論理の展開

学びのカギ

文章を批判的に読み、評価する

自分に問いかけながら読む。

- 文章を批判的に読むとは、内容をそのまま受け入れるのではなく、自分の知識や経験、他の人の考えと比べて、吟味したり検討したりすることを指す。
- 次のような点について吟味・検討し、その適切さやわかりやすさ、有効性などを評価する。
  - 筆者の立場　・論理の展開
  - 情報の信頼性　・叙述の適切さ
  - 筆者のものの見方や考え方
- 複数の文章を比較すると、立場や考え方、述べ方の違いが捉えやすくなる。

258ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

批判的に読み、評価する観点の例

筆者の立場
- 論理の展開に無理や飛躍はないか。
- 賛成・肯定（推進・支持・容認）
- 中立・保留
- 反対・否定（抑止・懐疑）

論理の展開

原因と結果
- 因果関係はあるか（偶然ではないか）。
- 別の要因は考えられないか。

意見と根拠
- 意見を裏づける根拠として適切か。
- 意見と根拠の結び付き（「理由づけ」）に無理はないか。

具体と抽象
- 一般化やまとめ方に無理はないか。
- 具体例は適切か。他の例も示せるか。

情報の信頼性
- 根拠となる事実の正確性・客観性（誰が見ても同じ結果になるか）。
- 示されていない情報はないか。

叙述の適切さ
- 事実と意見を書き分けているか。

ものの見方・考え方
- 自分の知識や経験、他の人の考えと比較して、納得できるか。

漢字の練習

新出漢字
131 循（ジュン）
131 洪（コウ）
131 酷（コク）
131 豪（ゴウ）
132 犠（ギ）
132 牲（セイ）
132 貢（コウ）（ク）（みつぐ）
132 献（ケン）（コン）

新出音訓
131 訓 著しい（いちじるしい）

学びへの扉

見通しをもつ

論説の比較を基にグループで討論し、自分の考えをまとめよう。［学習活動］

目標
- 社会との関わりを支える、読書の効用を理解する。（知る）
- 文章を批判的に読み、論理の展開や表現のしかたを評価する。（読む）

捉える

1 文章の要旨を捉えよう。

3人の筆者は、環境問題を解決するために、今、何が必要だと考えているか。それぞれの提言の要旨をまとめよう。

読み深める

2 文章を比較して評価し、グループで討論しよう。

①観点を決めて文章を比較し、それぞれの特徴を明確に捉えよう。

	観点	真鍋さん	伊勢さん	堅達さん
1	提言の要旨			
2	取り上げている事例			
3				



②提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどを、自分の経験や読書などで得た知識と照合して吟味し、評価しよう。

③三つの提言をどう評価するか、グループで討論しよう。

考えをもつ

3 提言に対する評価を基に、自分の考えをまとめよう。

討論を踏まえ、次の書きだしを参考に、自分の考えをまとめよう。
- 私は、○○さんの提言の□□に説得力を感じた。
- 私は、□□について、○○さんに質問したい。
- 三つの提言から、環境問題の解決に必要なのは□□だと考える。

振り返る
- 知る　□文章を吟味するとき、読書を通して得た知識をどのように役立てたか。
- 読む　□文章を批判的に読み、評価するときに留意すべきことは何か。
- つなぐ　□今回身につけた文章の読み方の中で、次に論説を読むときに役立ちそうだと思うものを書き留めておこう。

考えを効果的に伝えよう

多角的に分析して批評文を書く

書く ミニレッスン

批評文とは、対象とする事柄の特性や価値などについて、根拠をもって論じたり、評価したりした文章である。ここでは、広告などについて、客観的に分析したうえで、論理の展開や表現を工夫して批評文を書こう。

262ページ 発想を広げる

目標
- 具体と抽象の関係について理解を深める。(知る)
- 自分の考えが効果的に伝わるように、表現のしかたや論理の展開を工夫し、助言し合う。(書く)

集める・整理する

1 題材を選ぶ

- 地域社会で見聞きしたことや、新聞、テレビなどのメディアを通して知ったことの中から、関心のある事柄を選ぶ。

組み立てる

2 観点を決めて分析する

- 観点を決めて問いを立て、考えを深める。

3 構成を考える

- 自分の考えをわかりやすく伝えるための、論理展開や表現のしかたを考える。

表現する

4 批評文を書く ICT

- 600 ～ 800 字程度でまとめる。

共有する

5 友達と文章を読み合う ICT

- 批評に有効な観点や表現、論理展開などについて話し合い、互いに助言する。

振り返る 139ページ

生かす
- 日常 友達どうしで本や映画などについて、批評し合う。
- 将来 資料を引用して、レポートを書く。



221ページ 学びの展望 | 137ページ 論理や表現 | 55ページ 論理の展開

学びのカギ

論理の展開や表現を工夫する

- 目的や意図に応じて論理の展開や表現のしかたを工夫することで、わかりやすく自分の考えを伝えることができる。

【論理の展開】
- 「意見と根拠」……意見を述べ、それを裏づける事実を根拠として示す。
- 「具体と抽象」……具体的事実から一般化し、意見の妥当性へと結び付ける。

【表現のしかた】
- 文体（常体・敬体）や文末表現、語句、表現技法などについて検討する。
- 目的に応じて引用する資料を選ぶ。
  - 客観的な数値→統計やアンケートなど
  - 知見に基づいた視点→専門家の言葉
  - 当事者の声→新聞のインタビューなど

260ページ 「学びのカギ」一覧

学びの地図

目的 広告を批評し、その広告の価値を力強く訴える。

【論理の展開】 具体例を複数挙げて、伝えたい内容（抽象）の妥当性を示す。

序論	本論	結論
抽象	具体	抽象
「知ること」の大切さを伝えている	分析 ①キャッチコピー ②写真の構図の効果 ③色使いの効果 引用（当事者の声）	「知ること」の大切さがまっすぐに心に届く

【表現】
- 文体
  - 常体 ［簡潔さ・力強さ］
- 文末表現
  - ……だ／である。［断定］
  - ……なのだ。［強調］
  - ……社会。［体言止め］
- 語句
  - 明らか（である）
  - まっすぐに（心に届く）［力強い語感の語句］
- その他の表現
  - 「知ること」
  - まるで～のように ［強調］［比喩］



[批評文の例]

序論

この広告は、ヘルプマークを例に、社会生活に困難を❶抱えた人々と共生していくうえで、まず「知ること」、適切な知識をもつことの大切さを伝えている。

▶考え・主張
❶広告のねらい

本論

「知らない人」と「知ってくれていた人」の対比が印象的なキャッチコピーは、ヘルプマークを付けた人の立場から❷書かれている。普段、私たちが出会う人のほとんどは、実はよく「知らない人」だ。しかし、マークの意味を知っていれば、❸手を差し伸べることができる。「知ってくれていた人」という表現には、「知らない人」が❹自分の困難を理解し、助けてくれたことへの感謝と心強さがにじむ。このキャッチコピーは、助けを必要とする人の声を通して、適切な知識をもつことの意義を伝えているのだ。

また、広告の写真の構図は、「気づいた人の視点」になっている。❺この構図によって、広告を見た人は、まるで現場に居合わせた当事者のように、使用者の声を受け止めることができる。さらに、白黒を基調とした広告の中で、「ヘルプマーク」だけが赤く色づいている。「相手の困難に気づくために、まずは知ること」という広告に込められた意図が、構図や色使いにも反映されているのだ。

2025年○月○日の□□新聞の投書欄には、「❻マークの存在を知る人が増えれば、利用者は安心して❼外出することができる。」というヘルプマーク使用者の声が掲載された。「知ること」が心強さや安心感につながることは、実際の事例からも明らかである。

▶具体例
❷分析の観点
❸前提
❹解釈
❺分析の観点
❻分析の観点
❼考えの補強（引用）

結論

「知らない人」どうしが共に生きる社会。だからこそ、「知ること」に価値がある。相手の困難に寄り添うために❽知識をもつことが、認め合い、支え合う社会への第一歩だというメッセージが、まっすぐに心に届く広告である。

▶まとめ
❽評価・価値づけ

振り返る

- 知る　□どのような具体例を挙げ、どのように自分の考えと結び付けたか。
- 書く　□自分の考えをわかりやすく伝えるために、どのような工夫をしたか。
- つなぐ　□友達の文章を読み、物事を批評するときに、今後参考にしたいと思った分析の観点や表現の工夫を挙げてみよう。

[題材の例]



中央　助けてくれたのは、知らない人。だけど、知ってくれていた人。

左下
- ヘルプマーク。それは、内部障害や難病、義足や人工関節、妊娠初期の方など、外見からはわからないけれど、助けが必要な方のためのマーク。
- 私は病気を抱えています。めまいをおこすことがあります。横になるなどして、休ませてください。（ヘルプマークの裏面）

右下　知ってください。ヘルプマークのこと。

■分析する
観点ごとに、問いと考えを書き出す

観点	問いと、それに対する自分の考え
キャッチコピー	・「知らない人」とはどのような人か。 →日常生活で出会う見ず知らずの人。
	・「知ってくれていた人」とはどのような人か。 →自分が抱える困難を理解してくれていた人。
写真の構図	・写真の構図にはどのような効果があるか。 →広告を見た人は、現場に居合わせた当事者と同じ視点で、広告の内容を受け止められる。
広告のねらい	・何をいちばん伝えたかったのか。 →社会生活に困難を抱えた人々と共生していくうえで、適切な知識をもつことの大切さ。

言の葉ポケット
252ページ
語彙ブック
批評するときの表現
- ○○というねらいで
- ○○の背景／根底には
- ○○という視点に立つと
- ○○という特徴がある

ICT
文章を共有し、助言する

文章を共有し、分析の観点や論理の展開などについて、助言し合おう。

337ページ

漢字に親しもう３

1 新しく習う漢字 306ページ

次の――線部の言葉を読もう。【漢字の読み（様子・気持ち）】

① 閉塞感を打開する。［　　］
② 激しい葛藤が生じる。［　　］
③ その発言は辛辣だ。［　　］
④ 雨が続き、憂鬱だ。［　　］
⑤ 侮辱を受けて憤慨する。［　　］
⑥ 甚だ遺憾である。［　　］

2

次の――線部に合う熟語を〈　〉から選ぼう。【同音異義語】

① シュウチを感じる。〈周知・羞恥〉［　　］
② イショウを凝らす。〈意匠・衣装〉［　　］
③ テンプのオ。〈添付・天賦〉［　　］
④ 家族をフヨウする。〈扶養・不要〉［　　］
⑤ カモクな人。〈寡黙・科目〉［　　］

3

次の――線部は〈　〉が部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。【同じ部首の漢字】

① 適宜［　　］　② 学生寮［　　］
③ 主宰［　　］　④ 静寂［　　］

新しく習う音訓 ・は中学校で学習する音訓 317ページ

4

次の――線部は都道府県名に使われている漢字である。（　）内の読みとの違いに注意して熟語を読もう。【漢字の読み】

① 滋養（滋賀県）［　　］
② 才媛（愛媛県）［　　］
③ 天井（福井県）［　　］
④ 縄文土器（沖縄県）［　　］

新出漢字

140 塞 サイ ソク ふさぐ ふさがる
140 葛 カツ（くず）
140 藤 トウ ふじ
140 辣 ラツ
140 鬱 ウツ
140 憤 フン（いきどおる）
140 甚 ジン はなはだ はなはだしい
140 羞 シュウ
140 匠 ショウ
140 賦 フ
140 扶 フ
140 寡 カ
140 宜 ギ
140 寮 リョウ
140 宰 サイ

漢字一覧表

文法への扉 2

「ない」の違いがわからない？

①～③の「ない」は、文法上異なる働きをしている。その違いを考えてみよう。

文法ワーク



まず、それぞれの文を単語に分けてみよう。

① 「道・が・わから・ない。」
② 「地図・も・ない。」
③ 「頼り・ない・なあ。」

①・②の「ない」は、それだけで一つの単語だが、③の「ない」は、「頼りない」という形容詞の一部分であることがわかる。

次に、①・②の「ない」の違いを考えよう。それぞれの「ない」を、打ち消しの意味を表す助動詞「ぬ」に置き換えて考えてみる。

① 「道がわからない。」→「道がわからぬ。」
② 「地図もない。」→「地図もぬ。」

①は意味が通るが、②は意味を成さなくなる。このことから、①の「ない」は打ち消しの意味を表す助動詞であることがわかる。②の「ない」は、存在しないという意味を表す形容詞である。

こうした品詞の識別など、これまでに学習した文法の知識を使って、「文法２　文法のまとめ」の練習問題に挑戦しよう。

文法２ 文法のまとめ（233～236ページ）

1 言葉の単位
2 文の組み立て
3 単語の分類
4 自立語
5 用言の活用
6 付属語

聴きひたる

言葉の響きやリズムを味わいながら聴こう。

初恋

島崎 藤村

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり

やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅の秋の実に
人こひ初めしはじめなり

わがこころなきためいきの
その髪の毛にかかるとき
たのしき恋の盃を
君が情に酌みしかな

林檎畠の樹の下に
おのづからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ

朗読音声



作者 **島崎藤村** 一八七二（明治五）――一九四三（昭和一八）
岐阜県）出身。詩人・小説家。七・五調の文語詩で、近代詩の礎を築いた。
著書 詩集「若菜集」「落梅集」、小説「破戒」「春」「夜明け前」など。
出典 「藤村全集 第一巻」

広がる読書

「大人になるまでに読みたい15歳の詩① 愛する」
青木 健編



季節のしおり 秋

あなたが秋を感じるものは、何だろうか。野原に光る白露、爽やかな秋風、鮮やかな曼珠沙華……。作品に描かれた情景の中に、秋を感じてみよう。

つきぬけて天上の紺曼珠沙華

山口誓子

秋たつや雲はながれて風見ゆる

三浦樗良

白露に風の吹きしく秋の野は
つらぬきとめぬ珠ぞ散りける

文屋朝康

秋の気象にまつわる言葉

- 天高し……空気が澄んで、晴れた空が高く感じられること。「天高く馬肥ゆる秋」という表現もある。
- 鰯雲……いわしの群れのように、小さな雲が空一面に広がっている様子。うろこ雲ともいう。
- 星月夜……星が輝き、月が出ているかのように明るい夜。「ほしづくよ」ともいう。

6 いにしえの心を受け継ぐ

作品の背景を想像して読み、古典の心を今に生かす

和歌の世界 古典・解説

音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序 古文・音読

君待つと ——万葉・古今・新古今 古文

和歌の表現技法

夏草 ——「おくのほそ道」から 古文

松尾芭蕉

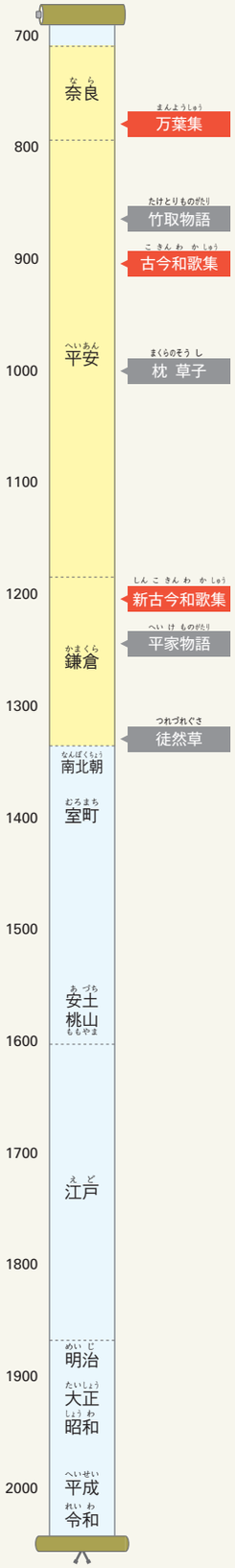
俳句と俳諧

つながる古典 古典・解説

古典名作選 古文・漢文



時を表す言葉 6 黄昏 | 薄暗くなった夕方。夕暮れ。





三十六歌仙の歌人たち（「三十六歌仙図」鈴木其一）

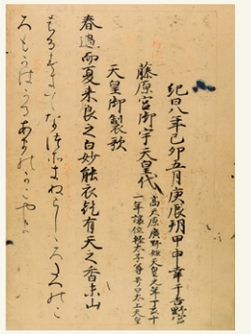
三十六歌仙とは、平安時代中期の歌学者・藤原公任が選んだ、「万葉集」の時代から平安中期までの36人の優れた歌人のこと。ここでは、別々の時代に生きた歌人たちが、一堂に会しているように描かれている。

「古今和歌集　仮名序」の中で紀貫之が挙げている、優れた６人の歌人（僧正遍昭・在原 業平・文屋 康秀・喜撰法師・小野 小町・大伴黒主）を六歌仙という。このうち、僧正遍昭・在原業平・小野小町の３人は、三十六歌仙にも選ばれている。

148ページ 古今和歌集　仮名序

和歌の世界

万葉集



「万葉集」の写本

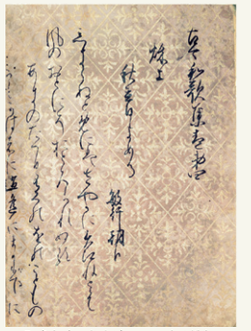
●成立・編者　多くの人々の手を経て編まれた後、奈良時代末期までに大伴家持によって現在の形にまとめられたとみられる。

●収録数　二十巻、約四千五百首。

●特徴　天皇や貴族、兵士、農民など、広い階層の人々の素朴な感動が、力強く歌われている。日本にはもともと文字がなく、当時は、漢字を用いて日本語の発音を表していた（万葉仮名）。

古今和歌集

野に咲く花、流れる雲。今も昔も、人は心打たれたものを言葉に表そうとする。それらは珠玉の連なりとなって、読む者の心に響いてくる。人々が和歌に込めた思いを想像し、いにしえの心と語らおう。



「古今和歌集」の写本

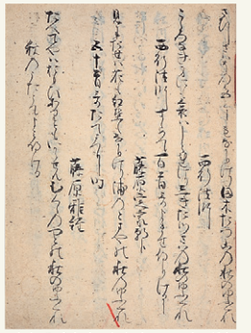
●成立・編者　平安時代初期、醍醐天皇の勅命によって作られた最初の勅撰和歌集（天皇や上皇、法皇の命で作られた和歌集）。撰者は、紀 貫之・凡河内 躬恒・紀友則・壬生 忠岑。

●収録数　二十巻、約千百首。

●特徴　春・夏・秋・冬・恋などの部に分類されて、整然と編集されている。表現に技巧を凝らした、理知的かつ優美な歌が多い。

10

新古今和歌集



「新古今和歌集」の写本

●成立・編者　鎌倉時代初期、後鳥羽上皇の命によって作られた八番目の勅撰和歌集。華やかな貴族文化の復興を目ざして作られた。撰者は、藤原 有家・藤原定家・藤原家隆・藤原雅経・源 通具・寂蓮法師。

●収録数　二十巻、約千九百八十首。

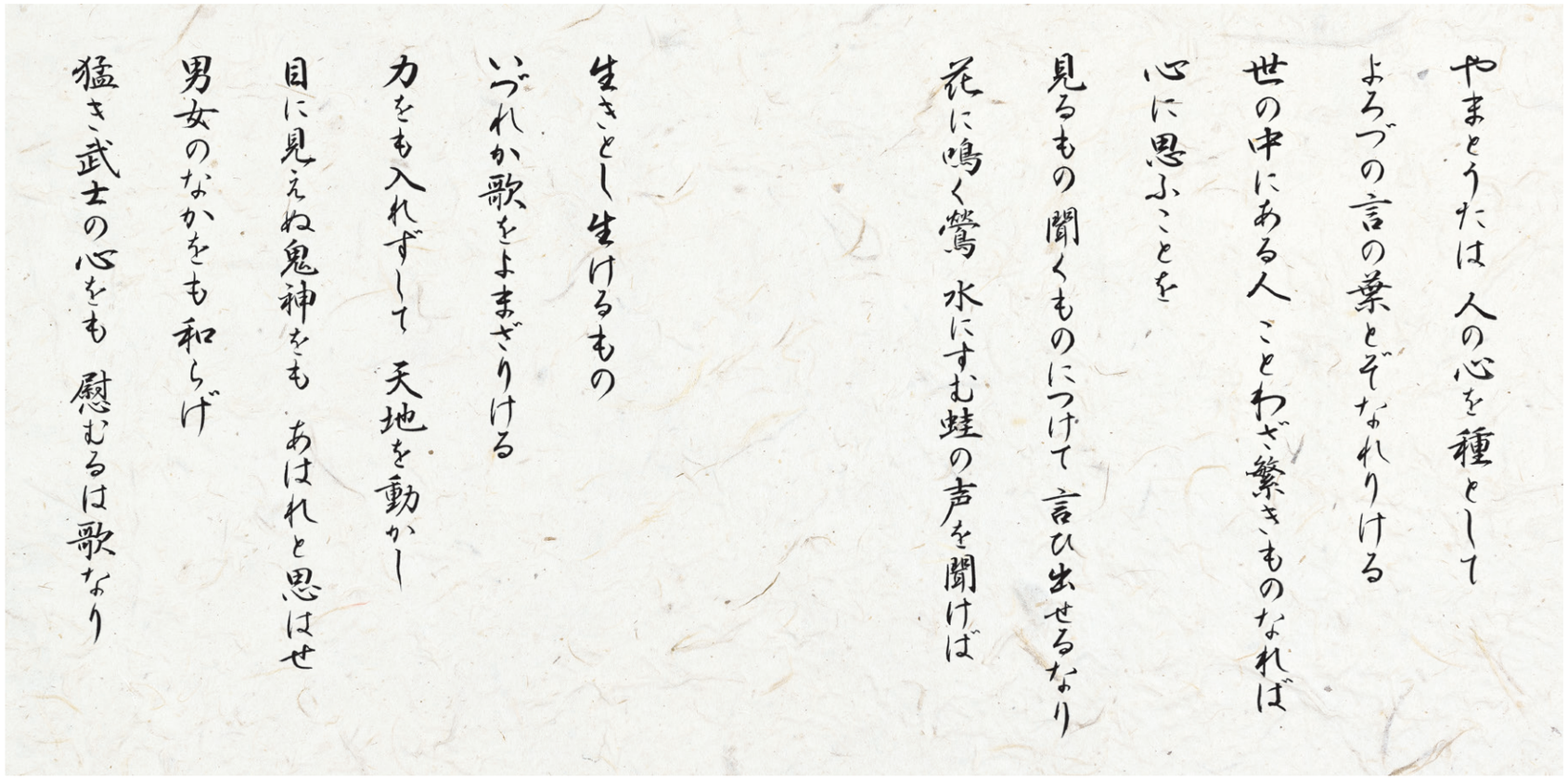
●特徴　実際の風景ではなく、物語的な美の世界や繊細な感情を、多様な技巧を用いて表現した歌が多い。

5

音読を楽しむ

古今和歌集　仮名序

古今和歌集「仮名序」の冒頭には、「和歌」とはどのようなものであるかが植物の種と葉にたとえて述べられている。繰り返し声に出して読み、古文の言葉の響きを味わおう。


やまとうたは 人の心を種として
よろづの言の葉とぞなれりける
世の中にある人 ことわざ繁きものなれば
心に思ふことを
見るもの聞くものにつけて 言ひ出せるなり
花に鳴く鶯 水にすむ蛙の声を聞けば
生きとし生けるもの
いづれか歌をよまざりける
力をも入れずして 天地を動かし
目に見えぬ鬼神をも あはれと思はせ
男女のなかをも和らげ
猛き武士の心をも 慰むるは歌なり

①やまとうたは、②人の心を種として、
よろづの言の葉とぞなれりける。
世の中にある人、ことわざ③繁きものなれば、
心に思ふことを、
見るもの、聞くものにつけて、④言ひ出せるなり。
花に鳴く鶯、⑤水にすむ蛙の声を聞けば、
生きとし生けるもの、
いづれか歌をよまざりける。
力をも入れずして、天地を動かし、
目に見えぬ鬼神をも、あはれと思はせ、
男女のなかをも和らげ、
猛き武士の心をも、慰むるは歌なり。

「仮名序」朗読音声

やまとうたは、人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける。世の中にある人、ことわざ繁きものなれば、心に思ふことを、見るもの、聞くものにつけて、言ひ出せるなり。花に鳴く鶯、水にすむ蛙の声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける。力をも入れずして、天地を動かし、目に見えぬ鬼神をも、あはれと思はせ、男女のなかをも和らげ、猛き武士の心をも、慰むるは歌なり。

やまとうたは、人の心を種として、（そこから芽生えて）種々さまざまの葉になったものだ。この世の中に生きている人々は、さまざまな出来事に関わっているので、心に思うことを、見るもの、聞くものに託して、言い表したのである。花の間に鳴く鶯、清流にすむ河鹿の声を聞くと、生きている全てのものの、どれが歌を詠まないといえるだろうか。力ひとつ入れずに天地の神々の心を動かし、目に見えないもろもろの精霊たちをしみじみとさせ、男女の仲を親しいものとし、勇猛な武人の心をも、和らげるのが歌なのである。

①やまとうた＝和歌のこと。
②人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける＝人の心を種にたとえ、言葉を種から生じる葉にたとえている。
③繁きものなれば＝「繁き」は、回数や数量が多いこと。絶え間がないこと。
④言ひ出せるなり＝ものに託して言い表したのが「歌」なのであるという意。
⑤水にすむ蛙＝「蛙」は今の河鹿（かえるの一種。夏から秋にかけて澄んだ声で鳴く。）を指す。

出典　「古今和歌集」

「仮名序」は、「古今和歌集」の仮名で書かれた序文で、紀貫之（153ページ参照）が書いたとされる。ここは、和歌の本質を植物にたとえて説いた部分であり、この後、撰者たちの和歌についての見解や、「六歌仙」（147ページ参照）とよばれた平安時代初期の六人の和歌の名手など、歌人たちを評した部分、和歌集編集の経緯などを記した部分が続く。他に、漢文で書かれた「真名序」もある。

原文は、「古今和歌集」（新編日本古典文学全集　11）による。

君待つと——万葉・古今・新古今

万葉集

春過ぎて夏来るらし白たへの衣干したり天の香具山

持統天皇

春が過ぎて、夏が来たらしい。真っ白な衣が干してあるよ、天の香具山に。

東の野に炎の立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ

柿本人麻呂

東の方の野にあけぼのの光が見えて、振り返って見てみると、月は西に傾いている。

君待つと我が恋ひ居れば我が屋戸のすだれ動かし秋の風吹く

額田王

あなたのおいでを待って私が恋しく思っておりますと、我が家の戸口のすだれを動かして、秋の風が吹いております。

読む

和歌の世界に親しみ、表現のしかたについて評価しよう。［学習活動］

目標

- 各歌集の歴史的背景や和歌が詠まれた状況に注意し、和歌の世界に親しむ。
- 和歌に詠まれた情景や心情を読み取り、表現のしかたを評価する。

万葉・古今・新古今 朗読音声

持統天皇（じとうてんのう）　六四五―七〇二　第四十一代天皇（女性）。柿本人麻呂をはじめ多くの優れた歌人を見いだし、和歌の発展に貢献した。

香具山（かぐやま）　今の奈良県橿原市の南東部にある山。耳成山・畝傍山と共に大和三山と称される。

柿本人麻呂（かきのもとのひとまろ）　（生没年未詳）　持統・文武両天皇に仕えた宮廷歌人。長歌に優れ、歌聖と称せられる。

額田王（ぬかたのおおきみ）　（生没年未詳）　万葉初期を代表する女性の歌人。叙景歌・叙情歌の両方に優れていた。

題音　古今（コキン）

天地の　分かれし時ゆ　神さびて　高く貴き　駿河なる
富士の高嶺を　天の原　振り放け見れば　渡る日の
照る月の　光も見えず　白雲も　い行きはばかり　時じくそ
雪は降りける　語り継ぎ　言ひ継ぎ行かむ　富士の高嶺は

山部赤人

天地が分かれたときから　神々しく高く貴い、駿河の国にある　富士の高嶺を　広々とした大空に　振り仰いで遠く見やると、空を渡る太陽の姿も隠れ、照る月の光も見えず、白雲もはばまれて行き滞り、時季を定めず雪は降っている。語り継ぎ、言い継いでいこう、この富士の高嶺は。

反歌

田子の浦ゆうち出でて見れば真白にそ富士の高嶺に雪は降りける

山上憶良

田子の浦を通って出て見ると、おお、なんと真っ白に富士の高嶺に雪が降っているよ。

憶良らは今は罷らむ子泣くらむそれその母も我を待つらむそ

山上憶良

私、憶良めは、もう退出いたしましょう。子供が泣いておりましょう。それ、その母親も私を待っていることでしょう。

山部赤人（やまべのあかひと）　（生没年未詳）　奈良時代初期の歌人。叙景歌に優れ、人麻呂と並び称せられる。

天地の……　この歌は長歌の形式を取っている。長歌は五音・七音を繰り返し、最後を多くは七・七音で結ぶ。普通、その後に反歌を詠み添える。

駿河なる　「駿河」は昔の国名。今の静岡県の一部。

い行きはばかり　（富士山に）はばまれて行き滞る。「い」は接頭語。「はばかる」は前進をためらうこと。

時じくそ　助詞「そ」は、後世「ぞ」と発音した。

反歌　長歌の後に添えられ、長歌の意味を要約したり、補足したりする。この反歌は、山部赤人の「天地の……」の長歌に詠み添えられたものである。

田子の浦ゆ　当時の「田子の浦」は、今の静岡県静岡市の東、薩埵峠から富士川の河口にかけての海岸といわれ、今の「田子の浦」の西に位置する。

うち出でて　（視野の開けた、広い所へ）出て。

山上憶良　六六〇―七三三？　奈良時代初期の歌人。壮年の頃、遣唐使の一員として唐に渡る。豊かな学識をもち、社会や人生を歌った。

憶良ら　「ら」は、自分をへりくだっていう接尾語。

今は罷らむ　「今は」は、待ち続けて今こそ、という決意を表す。この歌は、作者が、宴会から退出するときに、たわむれの挨拶の歌として詠んだもの。

それその母も　「それ」は、感動詞のように使われている。その子の母（つまり、自分の妻）も。

6 訓　貴い（とうとい）

多摩川にさらす手作りさらさらに何そこの児のここだ愛しき
　多摩川にさらす手織りの布のように、さらにさらに、なんでこの娘がこんなにもいとしいのか。
　東歌　・・・・・

父母が頭かき撫で幸くあれて言ひし言葉ぜ忘れかねつる
　父母が頭をなでて、無事でいるように、と言った言葉が忘れられない。
　防人歌　5

新しき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事
　新しい年の初めの、正月の今日降る雪のように、もっと積もれ、よいことよ。
　大伴家持　10

出典　「万葉集」　原文は、「萬葉集①・③・④」（新編日本古典文学全集　6・8・9）による。

東歌　東国地方の歌。
多摩川　山梨県東部から東京都の西部・南部を流れて、東京湾に注ぐ川。
さらす手作り　「さらす」は布などを洗い乾かすこと。「手作り」は手織りの布のこと。
防人歌　奈良時代、主に東国地方から徴集され、九州地方の守備に当たった兵士が詠んだ歌の意であるが、防人の家族が作った歌も含めていう。
頭かき撫で　出発の際に作者の頭をなでたことをいう。
幸くあれて　「幸くあれと」の東国方言。
言ひし言葉ぜ　「言葉ぜ」は「言葉そ」の東国方言。
大伴家持　七一八?―七五　奈良時代後期の歌人。「万葉集」の編纂に携わったとされる。「万葉集」には最多の四百七十余首を残している。
新しき……　この歌は「万葉集」の最終歌。
いやしけ　（今日降る雪のように）もっと積もれ。
吉事　よいこと。喜ばしいこと。めでたいこと。

古今和歌集

人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香ににほひける
　人の心は、さあ、どう変わってしまったかわかりませんが、昔なじみの土地では、花が昔のままに香っていることですよ。
　紀貫之　・・・・・

ちはやぶる神世もきかず龍田河韓紅に水くくるとは
　このようなことは神代の話にも聞いたことがない。龍田川の水を美しい紅色に絞り染めにするとは。
　在原業平　10

思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを
　恋しく思い続けながら寝たので、あの方が現れたのでしょうか。夢とわかっていたならば、覚めないでいたでしょうに。
　小野小町　5

出典　「古今和歌集」　原文は、「古今和歌集」（新編日本古典文学全集　11）による。

紀貫之　?―四五?　「古今和歌集」の撰者の一人。平安時代初期の宮廷歌人として早くから活躍し、歌合や歌集などに多くの和歌を残している他、「土佐日記」などの作品も書いている。
人はいさ心も知らず　この歌は、作者が久しぶりに訪れた宿で、そこの主人に詠みかけたもの。「人」は、その相手の主人を指す。主人が、「宿は昔のままにこのようにありますよ。」と言うのに対し、なじみの土地への変わらぬ心を、梅の花に寄せて詠んだもの。
ふるさと　ここでは、かつて来たことのある土地。
花　ここでは、梅の花のこと。
在原業平　八二五―八八〇　平安時代初期の歌人。「六歌仙」（147ページ参照）の一人。恋多き情熱的な歌人として知られ、「伊勢物語」の主人公のモデルとされる。
ちはやぶる　「神」にかかる枕詞。（155ページ参照）
龍田河　竜田川とも。奈良県北西部を流れる川で、紅葉の名所として知られる。
韓紅　鮮やかな濃い紅色。唐紅とも書かれる。
水くくる　ここでは、水を織物に、水面に浮かぶ紅葉をくくり染め（絞り染め）の模様に見立てている。
小野小町　（生没年未詳）　平安時代初期の歌人で「六歌仙」の一人。情熱的な恋の歌が多い。
思ひつつ　ここでは、（恋しいあの方を）思いながら。
人の見えつらむ　（夢に）現れたのだろうか。

新古今和歌集

道の辺に清水流るる柳かげしばしとてこそ立ちどまりつれ

西行法師

道のほとりに清水が流れている、柳の木陰よ。ほんのしばらくと思って、立ち止まったのであったが。（夏歌）

見わたせば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮

藤原定家

見渡すと花も紅葉もないことだ。海辺の苫屋の辺りの秋の夕暮れよ。（秋歌上）

玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることの弱りもぞする

式子内親王

命よ、絶えるならば絶えてしまえ。生きながらえていると、秘めている力が弱ってしまうかもしれないから。（恋歌一）

出典　「新古今和歌集」　原文は、「新古今和歌集」（新編日本古典文学全集　43）による。

西行法師　一一八―一九〇　俗名、佐藤義清。二十三歳のときに出家した。生涯の大半を旅の歌人として送り、その歌に独自の境地を示した。

しばしとてこそ立ちどまりつれ　少しの間（休もう）と思い立ち止まったのだったが（あまりに涼しいので思わず時を過ごしてしまったことだ）、の意。

藤原定家　一一六二―一二四一　「新古今和歌集」の撰者の一人。藤原俊成の子。父と共にこの時代の歌壇の中心人物であった。また、古典研究にも大きな業績を残した。

花も紅葉もなかりけり　（美しい春の）花も、（秋にふさわしい）紅葉も（何一つ）ないことだ。

浦の苫屋　海岸に点在する漁夫の家。「苫屋」は、屋根を苫（スゲやカヤを編んだもの）でふいた粗末な小屋のこと。

式子内親王　一一四九―一二〇一　後白河天皇の皇女。「新古今和歌集」を代表する歌人。

玉の緒　命。ここでは、私の命。

忍ぶることの　ここでは、（恋心を人に知られないように）秘めている力が。

弱りもぞする　ここでは、「忍ぶること」を受けて、秘め切れなくなるかもしれない、の意。

9 漢 緒 おチョ

玉の緒

漢字の練習

学びへの扉

見通しをもつ

和歌の世界に親しみ、表現のしかたについて評価しよう。［学習活動］

目標

- 各歌集の歴史的背景や和歌が詠まれた状況に注意し、和歌の世界に親しむ。（知る）
- 和歌に詠まれた情景や心情を読み取り、表現のしかたを評価する。（読む）

捉える

1 歴史的背景を捉えよう。

「和歌の世界」（146ページ）や「古今和歌集仮名序」（148ページ）を読み、三つの歌集の特徴や歴史的背景をおおまかに捉えよう。

読み深める

2 和歌の表現について話し合おう。

①声に出して和歌を読み、そこに詠まれた情景や心情を、現代語訳を基に想像しよう。
②三つの歌集に収められた和歌を比較し、それぞれの歌集に特徴的な表現やその効果について、気づいたことを話し合おう。

考えをもつ

3 表現のしかたについて評価しよう。

和歌を1首選び、表現のしかたに着目して自分の評価を短くまとめよう。歴史的背景や現代に通じる点にも言及するとよい。

振り返る

- 知る　□和歌の時代に生きた人々と現代の私たちの共通点・相違点は何か。
- 読む　□どのような表現のしかたに着目して和歌を評価したか。
- つなぐ　□友達の考えを聞いて新たに気づいた和歌の魅力を挙げてみよう。

和歌の表現技法

●**枕詞**……多くは五音。「ちはやぶる→神」「ひさかたの→光」「たらちねの→母」のように特定の語句を修飾し、五七調のリズムを整える。現代語訳では省略する。

●**序詞**……ある語句を導く点では枕詞に似ているが、歌ごとに自由に創作する。枕詞より長く、言葉どおりの意味ももつ。「多摩川に」の歌は、序詞「多摩川にさらす手作り」が「さらさらに」を導く。現代語訳は「手織りの布をさらさらとさらすようにさらにさらにいとしい」となる。

●**掛詞**……「聞く―菊」「待つ―松」「眺め―長雨」のように、一つの語に二つ以上の同音の語の意味を重ねる技法をいう。

夏草——「おくのほそ道」から

松尾芭蕉

読む

作者のものの見方や感じ方を捉え、心に響く俳句を発表しよう。［学習活動］

「おくのほそ道」朗読音声

目標

- 作品の歴史的背景に注意して読み、古典の世界に親しむ。
- 文章に表れている作者のものの見方や感じ方について考える。

1

月日は百代の過客にして、行きかふ年も
また旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬
の口とらへて老いを迎ふる者は、日々旅に
して旅をすみかとす。古人も多く旅に死せ
るあり。予もいづれの年よりか、片雲の風
にさそはれて、漂泊の思ひやまず、海浜に
さすらへて、去年の秋、江上の破屋に蜘

月日は永遠に旅を続ける旅人のようなものであり、過ぎ去っては新しくやって来る年もまた旅人に似ている。一生を舟の上で暮らす船頭や、馬のくつわを取って老年を迎える馬子などは、毎日毎日が旅であって、旅そのものを自分のすみかとしている。（風雅の道に生涯をささげた）昔の人々の中にも、旅の途中で死んだ人が多い。私もいつの頃からか、ちぎれ雲のように風に誘われて、あてのない旅に出たい気持ちが動いてやまず、（近年はあちこちの）海岸をさすらい歩き、去年の秋、隅田川のほとりのあばらやに（帰り）、蜘蛛の古巣を払っ

上2 **舟の上に生涯を浮かべ**　舟の上で一生を送ることを、「舟」に縁のある「浮かべ」で表した。

上4 **古人**　李白（七〇一―七六二）・杜甫（七一二―七七〇）・西行（154ページ参照）・宗祇（一四二一―一五〇二）など、人生の大半を旅に過ごしながら詩歌の道を究めた人々。李白・杜甫は中国唐代の詩人。宗祇は室町時代の連歌師。

上7 **去年の秋**　貞享五年（元禄元年・一六八八）八月（旧暦）。

上7 **江上の破屋**　江戸深川（今の東京都江東区の西部）にあった芭蕉庵のこと。

蛛の古巣をはらひて、やや年も暮れ、春立
てる霞の空に、白河の関越えむと、そぞろ
神の物につきて心をくるはせ、道祖神の招
きにあひて、取るもの手につかず、股引の
破れをつづり、笠の緒付けかへて、三里に
灸すゆるより、松島の月まづ心にかかりて、
住めるかたは人に譲りて、杉風が別墅に移
るに、

草の戸も住み替はる代ぞ雛の家

面八句を庵の柱に懸け置く。

蜘蛛の古巣をはらって、やや年も暮れ、春立てる霞の空に、白河の関を越えたいものだと、そぞろ神が乗り移ってただもうそわそわとさせられ、道祖神が招いているようで、何も手につかないほどに落ち着かず、股引の破れたところを繕い、道中笠のひもを付け替え、三里に灸を据える（など旅の支度にかかる）ともう、松島の月（の美しさはと、そんなこと）がまず気になって、今まで住んでいた庵は人に譲り、杉風の別荘に移ったのだが、

草の戸も住み替はる代ぞ雛の家
（元の草庵にも、新しい住人が越してきて、私の住んでいた頃のわびしさとはうって変わり、華やかに雛人形などを飾っている。）

（住んでいるうちに）、しだいに年も暮れ、新春ともなると、霞の立ちこめる空の下で白河の関を越えたいものだと、そぞろ神が乗り移ってただもうそわそわとさせられ、道祖神が招いているようで、何も手につかないほどに落ち着かず、股引の破れたところを繕い、道中笠のひもを付け替え、三里に灸を据える（など旅の支度にかかる）ともう、松島の月（の美しさはと、そんなこと）がまず気になって、今まで住んでいた庵は人に譲り、杉風の別荘に移ったのだが、

草の戸も住み替はる代ぞ雛の家
（元の草庵にも、新しい住人が越してきて、私の住んでいた頃のわびしさとはうって変わり、華やかに雛人形などを飾っている。）
面八句を、（門出の記念に）庵の柱に掛けておいた。

上1 **春立てる霞の空**　「立てる」は、「春が立つ」（立春）と「霞が立ちこめる」の二つの意を兼ねている。

上2 **白河の関**　奥州への関所。今の福島県白河市にあった。

上2 **そぞろ神**　人心を誘惑し、落ち着かせない神。「そぞろ」が「心をくるはせ」に係るとの説も。

上3 **道祖神**　道行く人を守る神。

上5 **三里**　膝の下の外側のくぼみ。灸を据えると、足を丈夫にし、また、万病に効くといわれる。

上6 **松島**　宮城県松島湾一帯の地。日本三景の一つとして知られる。

上7 **杉風**　杉山杉風（一六四七―一七三二）。芭蕉の門人。別荘である「採茶庵」は、芭蕉庵の近くにあった。

上10 **面八句**　二つ折りの懐紙四枚に連句百句を書く際、一枚目の表に記す八句。「草の戸も……」は、その冒頭の句。

下11 漢 **荘**（ソウ）　別荘

下18 訓 **門出**（かどで）

「おくのほそ道」俳句地図





平泉地図



高館から望んだ北上川

● 平泉　5／13

夏草や兵どもが夢の跡 162ページ

卯の花に兼房見ゆる白毛かな 曾良 163ページ

五月雨の降り残してや光堂 163ページ



● 立石寺　5／27

閑かさや岩にしみ入る蝉の声

静かなことだ。ようやく登ってきた山上の寺にただ聞こえるせみの声が、岩にしみ込んでいくように感じられる。



● 那須　4／16・17

野を横に馬牽むけよほととぎす

馬を引いている人よ、私を乗せて那須野を進んできた馬を横に向けてくれ。野の横の方でほととぎすが鳴いたから。

● 深川(江戸)　3／27（旧暦）

草の戸も住み替はる代ぞ雛の家 157ページ

∴：歌枕・名所

芭蕉の旅



▶現代の成人１日の平均歩行距離（参考）

約4.5km

▶１日の平均歩行距離

約30km

▶１日の最長歩行距離　（白石～仙台間）

約50km

▶総歩行距離

約2,400km　北海道稚内～沖縄県那覇間と同じくらい

注　「おくのほそ道」は、必ずしも事実を述べたものではなく、文学的脚色があるとされている。



● 最上川　6／3

五月雨をあつめて早し最上川

梅雨を集めて水かさを増した川の水が、急流となって下っていく。これこそが話に聞いていた最上川なのだなあ。



● 出雲崎　7／4

荒海や佐渡によこたふ天河

日本海の荒波は激しい。佐渡島の上には、牽牛と織女が年に一度出会うという伝説のある天の川が大きく横たわっている。



● 小松　7／24～26

むざむやな甲の下のきりぎりす

いたわしいことだ。昔、年老いた武将（斎藤実盛）が白髪を黒く染めて戦い、うたれたのはこの地である。今は、その兜があった辺りに、きりぎりすが鳴くばかりだ。

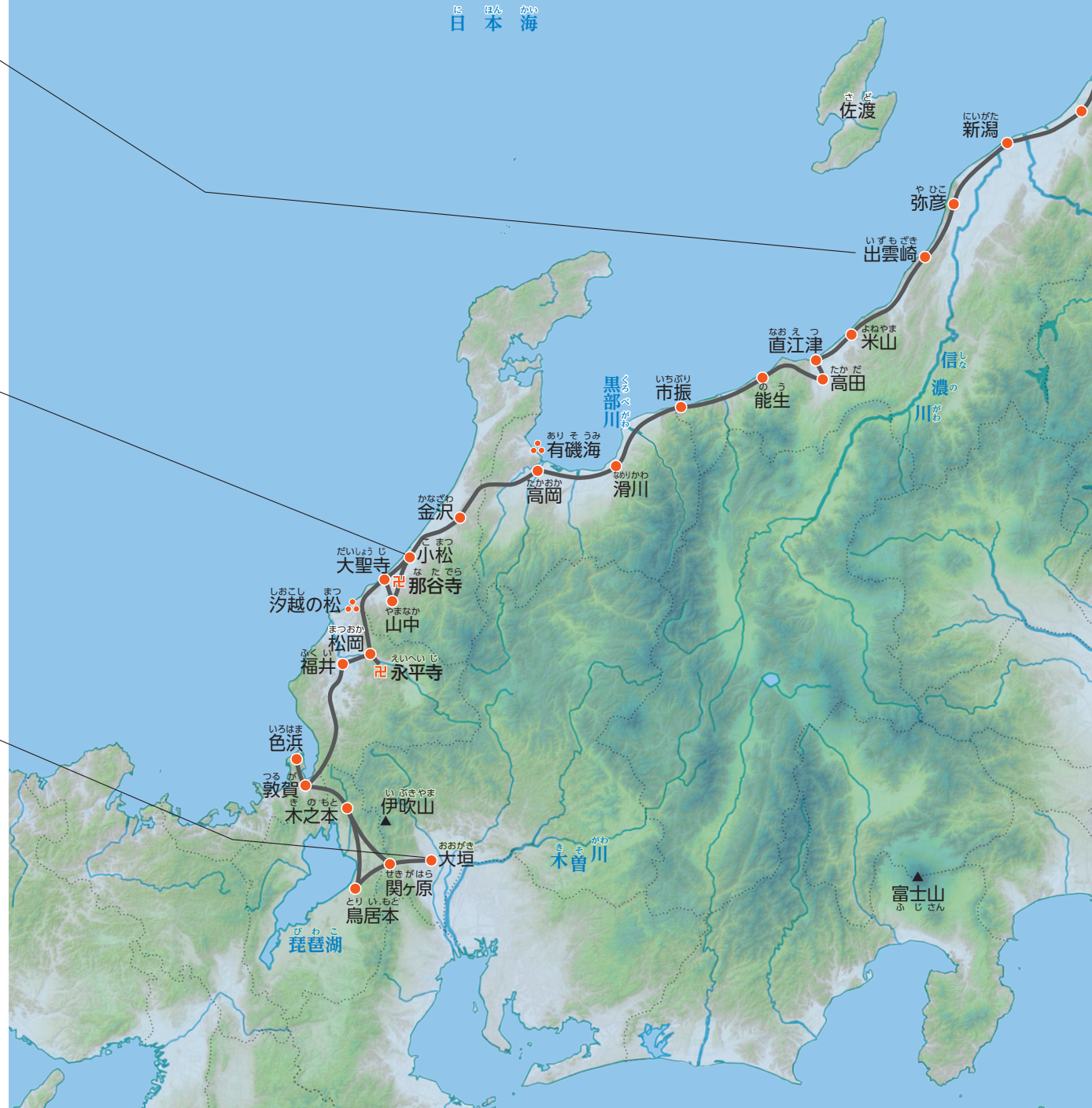


● 大垣　8月下旬～9／6

蛤のふたみにわかれ行く秋ぞ

はまぐりの貝が蓋と身に分かれるように、私たちも二手に別れ、私は遠く伊勢の二見浦に向かっていく。行く秋（晩秋）という寂しい季節の中で。

注
・青字の日付は旅程。深川と大垣（9／6）は出発日。
・「おくのほそ道」の旅での、敦賀から大垣までの経路には諸説ある。ここでは、有力な二つの説を記すこととする。



2

三代の栄耀一睡のうちにして、大門の跡は一里こなたにあり。秀衡が跡は田野になりて、金鶏山のみ形を残す。まづ、高館に登れば、北上川、南部より流るる大河なり。衣川は、和泉が城をめぐりて、高館の下にて大河に落ち入る。泰衡らが旧跡は、衣が関を隔てて南部口をさし固め、夷を防ぐと見えたり。さても義臣すぐつてこの城に籠もり、功名一時の草むらとなる。「国破れて山河あり、城春にして草青みたり」と笠打ち敷きて、時のうつるまで涙を落としはべりぬ。

夏草や兵どもが夢の跡

1 **三代の栄耀** 昔、この地方に勢力を誇った藤原清衡・基衡・秀衡の三代にわたった栄華。
1 **一睡のうちにして** はかなく消え果て、の意。
1 **大門の跡** 奥州藤原氏一族の館、平泉館の南大門（正面）の跡。
1 **一里こなたに** 一里（約三・九キロメートル）も手前に。（平泉館がいかに大きかったかを表現しようとした。）
2 **秀衡が跡** 秀衡の館、伽羅御所のあった辺り。平泉館の中心部。
2 **金鶏山** 平泉館の西方にある小山で、秀衡が平泉鎮護のため黄金造りの雌雄の鶏を埋め、富士山に擬して築いたといわれている。
2 **高館** 源義経の館の跡。平泉館北西の小高い所にある。
3 **北上川……大河なり** （眼下に見える）北上川は、南部地方（今の岩手県盛岡市を中心とする地方）から流れてくる大河である。
3 **和泉が城** 秀衡の三男、和泉三郎忠衡の館。
4 **泰衡** 秀衡の次男。伽羅御所を秀衡から引き継いだ。
4 **衣が関** 高館の西方にあった関所。
5 **南部口** 平泉から南部地方への道の出入り口。
5 **さても** それにしても。
5 **義臣すぐつて** （義経が）忠義の臣をえりすぐって。
6 **功名一時の草むらとなる** 功名を立てたが、それも一時のことで、その跡はただの草むらとなってしまった。
6 **国破れて……草青みたり** 次に掲げる杜甫の「春望」という詩を思い起こしたもの。

卯の花に兼房見ゆる白毛かな

曾良

かねて耳驚かしたる二堂開帳す。経堂は三将の像を残し、光堂は三代の棺を納め、三尊の仏を安置す。七宝散り失せて、玉の扉風に破れ、金の柱霜雪に朽ちて、既に頽廃空虚の草むらとなるべきを、四面新たに囲みて、甍を覆ひて風雨を凌ぎ、しばらく千歳の記念とはなれり。

五月雨の降り残してや光堂



中尊寺金色堂内陣
（岩手県西磐井郡平泉町）

国破れて山河在り、城春にして草木深し。
時に感じては花にも涙を濺ぎ、別れを恨んでは鳥にも心を驚かす。
烽火三月に連なり、家書万金に抵る。
白頭掻けば更に短く、渾べて簪に勝へざらんと欲す。

1 **卯の花**　白い花から白髪を連想したもの。
1 **兼房**　十郎権頭兼房。義経の家臣で、老齢ながら最後まで奮戦してうち死にしたとされる。
2 **曾良**　河合曾良（一六四九―一七一〇）。芭蕉の門人で、この旅に同行していた。
3 **かねて耳驚かしたる**　以前から話に聞いて驚嘆していた。
3 **二堂**　中尊寺の経蔵（経堂）と金色堂（光堂）のこと。
3 **三将**　清衡・基衡・秀衡のこと。「三代」も同じ。（ただし、経堂には、実は文殊菩薩・優塡大王・善財童子の三像が安置されている。）
4 **三尊の仏**　阿弥陀如来・観世音菩薩・勢至菩薩。
4 **七宝**　仏教でいう金・銀・瑪瑙など七種の宝。
4 **玉の扉**　宝玉をちりばめた扉。
5 **既に……なるべきを**　すんでのところで廃墟の草むらとなるはずのところを。
6 **四面新たに囲みて**　鎌倉時代末期の正応元年（一二八八）に光堂を覆う鞘堂が建てられた。
6 **しばらく千歳の記念とはなれり**　（そのおかげで）当分は、千年の昔をしのぶことのできる記念として残っているのである。
8 **降り残してや**　降り残したのであろうか。

漢字の練習

学びへの扉

見通しをもつ

作者のものの見方や感じ方を捉え、心に響く俳句を発表しよう。[学習活動]

目標

- 作品の歴史的背景に注意して読み、古典の世界に親しむ。（知る）
- 文章に表れている作者のものの見方や感じ方について考える。（読む）

捉える

1 声に出して読もう。

芭蕉の思いを想像しながら、声に出して読もう。

- 「草の戸も」の句……春を迎えた「雛の家」の華やかさは、芭蕉の旅立ちへの思いと重ねて読むことできわ立つ。
- 「夏草や」「五月雨の」の句……地の文を読むことで、芭蕉が平泉の地で抱いた思いを想像できる。

読み深める

2 芭蕉のものの見方や感じ方を読み取ろう。

①「1」は、紀行文「おくのほそ道」の冒頭部分である。芭蕉の「旅」についての考えが読み取れる部分を抜き出して、現代の旅がもつ意味と比べてみよう。

②「2」を読み、脚注の歴史的背景などを参考に、芭蕉が高館や光堂で何を見て何を感じたのかを考えよう。



考えをもつ

3 心に響く俳句について発表しよう。

本文や「『おくのほそ道』俳句地図」から心に響く1句を選び、その理由や、どのように心に響いたのかを発表しよう。

振り返る

- 知る　□歴史的背景に注意して読むことで、その場面への理解や印象にどのような変化があったか。
- 読む　□作者のものの見方や感じ方について考えたことは何か。
- つなぐ　□友達の発表の中で、印象に残ったものを挙げてみよう。

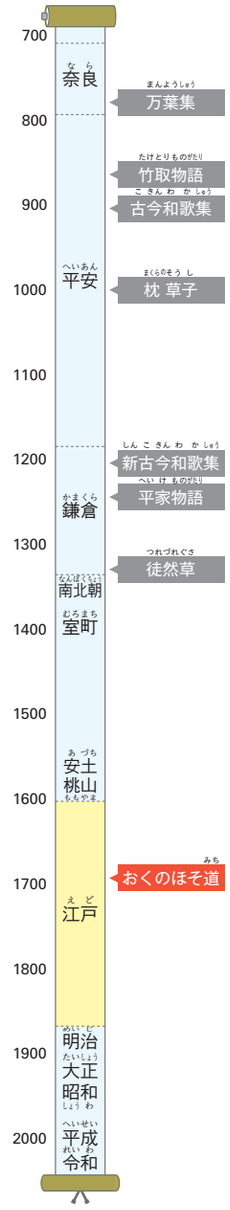
俳句と俳諧

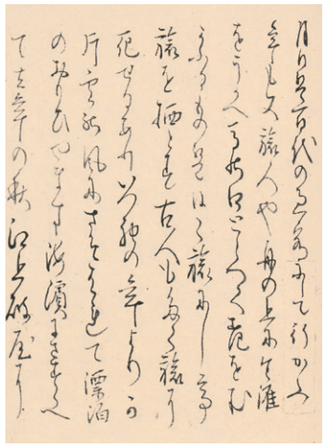
62ページ 俳句の可能性

「俳句」は、江戸時代には「発句」とよばれた。それは、五・七・五の長句と七・七の短句とを交互に連ねて作る「俳諧の連歌」の最初の一句のことであった。「俳諧」とは本来「滑稽」という意味だが、「俳諧」の連歌」を略した言葉としても用いられる。

俳諧の発句は、参加者に最初に示す作品なので、挨拶の気持ちから、季節を表す言葉が織り込まれたといわれる。その伝統は、俳諧に参加する人は、前の句にうまくつながるように工夫しながら次の句を付け足していき、発句に始まる世界が、どのように変化し展開していくかを、互いに楽しんだのである。芭蕉の旅は、各地の人々と俳諧を作り合い、交流を深める旅でもあった。

俳諧は「連句」ともよばれ、今日では、複数の作者で作る珍しい詩の形式として、海外からも注目されている。





「おくのほそ道」（芭蕉自筆）

作者　**松尾芭蕉**　一六四四――一六九四　江戸時代前期の俳人。本名宗房。伊賀国上野（今の三重県伊賀市）の生まれ。高い芸術性をもった蕉風俳諧を創始した。紀行文に「野ざらし紀行」「笈の小文」などがある。

出典　「おくのほそ道」　日本を代表する紀行文の一つ。元禄二年（一六八九）三月から始まった、百五十日を超える大旅行の体験や見聞を記している。原文は、「松尾芭蕉集②」（新編日本古典文学全集71）による。

広がる読書

「おくのほそ道　芭蕉・蕪村・一茶名句集」井本農一他校訂・訳



「写真で読み解く　おくのほそ道大辞典」佐藤勝明監修



つながる古典

私たちに「愛読書」があるように、古典作品の作者たちも、さまざまな書物に親しみ、それらの世界観に思いをはせたり、影響を受けたりしていた。ジャンルや時代を超えた豊かなつながりを感じながら、三年間で出会った古典作品を振り返ろう。

一年 学習した学年
286ページ 古典・近代文学の名作

江戸　室町　鎌倉　平安　奈良　紀元前

物語　軍記物語　日記　随筆　紀行文　和歌　漢文

源氏物語（紫式部）　二年
主人公・光源氏とその一族の人生を描いた長編物語。

平家物語　二年
平泉を訪れ、「平家物語」の中でその活躍が描かれる源 義経の最期に思いをはせた。

更級日記（菅原孝標女）
少女時代の愛読書。
約40年に及ぶ回想日記。

枕草子（清少納言）　二年
一条天皇の中宮・彰子に仕えた。「あはれ」の文学。

方丈記（鴨長明）
人の世の「無常」を記す。

徒然草（兼好法師）　二年
一条天皇の皇后・定子に仕えた。「をかし」の文学。
お手本にした。

おくのほそ道（松尾芭蕉）　三年

新古今和歌集（藤原 定家ら撰）　三年
「古今集」や「源氏物語」の歌を元にした歌（本歌取り）がある。

伊勢物語　二年
主人公の「男」の恋愛模様を描いた歌物語。

竹取物語　一年
「物語の出で来はじめの親」と評した。

土佐日記（紀貫之）
赴任先の土佐から京に帰るまでの旅を記した日記。女性をよそおい、仮名で書かれた。
「古今集」の筆頭撰者であり、「仮名序」も書いた紀貫之は、晩年、「土佐日記」を書いた。

代表的歌人である在原 業平が、「伊勢物語」の「男」のモデルとされる。

古今和歌集（紀貫之ら撰）　三年

万葉集　三年

唐　紀元前

李白、杜甫らを敬愛。

漢詩（孟浩然・李白・杜甫）　二年

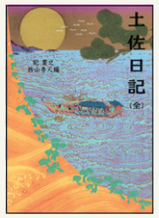
韓非子「矛盾」　一年

論語　三年

広がる読書



「よみたい万葉集」
村田右富実 監修



「土佐日記（全）」
紀貫之　西山秀人 編



「げんじものがたり」
いしいしんじ 抄訳

古典名作選

古典作品は、長い歴史の中で語り継がれ、親しまれてきた。古文と漢文、それぞれの名作を味わおう。



花は盛りに、月は隈なきをのみ、見るものかは。

「徒然草（第百三十七段）」 兼好法師

花は盛りのものだけを、月はかげりのないものだけを見てめでるものだろうか。いや、違う。

是非初心忘るべからず。

「花鏡」 世阿弥

よいことも悪いことも、初めて体験したときのことを忘れてはいけない。

心なき身にもあはれは知られけり
鴫立つ沢の秋の夕暮

「新古今和歌集」 西行法師

情趣を感じる心のない出家の身にも、しみじみとした趣は感じられる。鴫が飛び立つ沢の秋の夕暮れよ。

筒井筒井筒にかけしまろがたけ
過ぎにけらしな妹見ざるまに

「伊勢物語（筒井筒）」

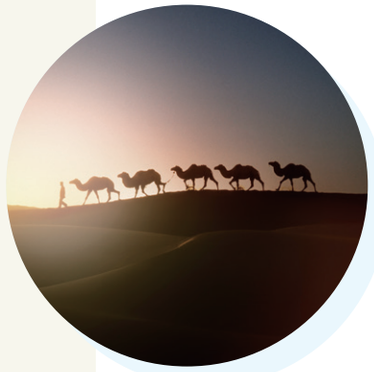
井戸の枠と背比べしていた私の背も、もうその高さを越してしまったようです。あなたを見ない間に。（主人公が、幼なじみの女性に求婚をする場面。）

「雀の子を犬君が逃がしつる、伏籠の中に籠めたりつるものを。」とて、いと口惜しと思へり。

「源氏物語（若紫）」 紫式部

「雀の子を犬君（遊び相手の童女）が逃がしたの。籠に入れておいたのに。」と言って、とても残念そうにしている。（光源氏が生涯愛した女性・紫の上の幼少期の一場面。少女のあどけなさ、愛らしさが伝わる。）







言葉の響きが美しいな。朗読してみよう。

人事を尽くして天命を待つ。

「読史管見」 胡寅

自分の力を出し尽くして、結果は天の運に任せるのがよい。

葡萄の美酒夜光の杯
飲まんと欲すれば琵琶馬上に催す
酔うて沙場に臥すとも君笑ふこと莫かれ
古来征戦幾人か回る

「涼州詞」 王翰

葡萄の酒、夜光の杯。飲もうとすると、馬上から琵琶の音が鳴り響く。砂漠で酔い、倒れ伏しても笑ってくれるな。古来、戦場に出て生きて帰った者が、いったい何人いるのか。明日の命もわからないのだから。

禍ひを転じて福と為す。

「戦国策（燕一）」

わざわいが降りかかってきても、むしろこれを契機として、状況を好転させる。

38ページ 学びて時に之を習ふ
286ページ 古典・近代文学の名作

吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑はず。五十にして天命を知る。

「論語（為政）」

私は十五歳のとき、学問に志を立てた。三十歳になって学問の基礎が確立した。四十歳のときに物事に迷わなくなった。五十歳になって天命を知った。

大器は晩成す。

「老子徳経下」 老子

大きな器は他より遅れてできあがるように、大成する人は成長するのに時間がかかる。



気に入ったものがあればノートに書き写そう。

古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう

古典の文章の中から自分の心に響いた言葉を引用し、身近な人に自分の思いを伝えるメッセージを書こう。

1 古典の言葉を選ぶ

これまで学習した古典の文章や、「季節のしおり」（42・98・144・185ページ）などから、気に入った言葉や心に響いた言葉、誰かに贈ってみたい言葉を選ぼう。

2 贈る相手と目的を考える

どのような状況の、誰に、どのような目的でメッセージを贈るのかを考えよう。

例 部活動で次期キャプテンを務める後輩に、今期キャプテンを務めた立場から、激励のメッセージを贈りたい。

3 文章の種類を選んで書く

自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、言葉の意味と、伝えたい思いとの関連を意識してまとめよう。

例 文章の種類……手紙、物語、随筆　など

4 メッセージを読み、感想を述べ合う

できあがった文章を友達と読み合い、次のような観点で話し合おう。

- 選んだ言葉の意味が、相手の状況や自分の思いにふさわしいものになっているか。
- 選んだ言葉と伝えたい思いとの関連が、適切に表現されているか。

例「万葉集」の和歌を引用して書いた、後輩への手紙の例

富田 理恵 様

私たちのバレーボール部引退まで、いよいよあと一週間ほどになってしまいました。キャプテンのバトンを託すあなたに、「万葉集」の中で私の好きな額田王の歌を贈ります。

熟田津に船乗りせむと月待てば
　潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな

これは、「船出をする時機を待っていたところ、ちょうど潮も満ちてきて絶好の機会が訪れた。まさに今が船出のとき。さあ漕ぎ出そうよ。」という意味の歌です。

キャプテンになるあなたにとっては、今がまさに船出のとき。「今は漕ぎ出でな」です。持ち前の負けん気で、みんなを引っ張っていってください。これからもずっと応援しています。

山川 優子

7

価値を生み出す

人との関わりの中で、新しい価値を創造する

それでも、言葉を

論説

鷲田清一

漢字3　漢字のまとめ

漢字に親しもう4

［話し合い（進行）］話し合いを効果的に進めよう

季節のしおり　冬

合意形成に向けて話し合おう

課題解決のために会議を開く



時を表す言葉7　夜半 | 夜。また、夜更け。

それでも、言葉を

鷲田清一

読む

文章を読み、言葉との向き合い方について自分の意見をもとう。［学習活動］

目標

- 具体的な事例を挙げるなどして、抽象的な概念への理解を深める。
- 筆者の見方・考え方を踏まえ、言葉について自分の意見をもつ。

新聞で毎日、誰かの言葉の一節を紹介するコラムを担当するようになって、ずいぶんたつ。引用する一節を探して、日々、言葉の森をうろついていると、たまに言葉の貯金が増えてうれしくなることもあるが、たいていは乏しくなった米びつの底をさらうときのような心細い気持ちでいる。

そういう思いとは別に、このところ言葉を選ぶことそれ自体がしんどくなる日がある。戦争、感染症、災害、貧困、権勢の不正と、気の塞ぐような記事と同じ紙面に並んで掲載されることも増え、ふと頬が緩むような言葉、気を取り直せるような言葉を取り上げにくいということもある。だが、それ以上に、言葉そのものの惨状にめげそうになっている。

言葉がまるでうぶ毛をなくしたかのように、むき出しで人にぶつかるようになった。言葉が、露骨な差別や捨てぜりふ、居直りとして礫のように投げつけられたり、アリバイや言い逃れ、時に隠れみのとして巧みに操られたりする場面に、路上で、報道で、頻繁に触れる。

同じことの裏返しともいえようが、言葉が現実の前でうなだれる逆の光景もよく目にする。声を上げたところで何も変わらない、聞いてもらえないと、言葉の無力に打ちひしがれ、口をつぐんでしまう人。言葉に何かを託すことをあらかじめ断念した人たち。

言葉の暴力と無力。言葉の横暴と言葉の喪失。一方に言葉であおる人たちがいて、もう一方に言葉の前で身をひく人たちがいる。言葉が両端に裂かれ、イエスかノーか、オール・オア・ナッシングといった、両極端な形でしか出てこない。

私たちはさまざまな言葉に取り囲まれている。本気で何かを訴える、どうしても相手に届いてほしいという切実な思いから発せられるものばかりではない。漠然とした不安のためか、絶えずしゃべりまくる、書き込みをしまくる、時にはため息すら送ってしまう、そんな言葉もあふれるほどある。そしてSNSの普及によって、そうした傾向はいよいよエスカレートしてきている。受け取る側も、自分に向けられた言葉に反射的にメッセージを返してしまう。言葉をいったんのみ込んで、口ごもり、自分なりにその言葉と折り合いをつけようとする、そんなプロセスを経て言葉を返すということがない。

私たちは、言葉が音として届けば、あるいは文字として送られれば、言葉が伝わったかのような錯覚に陥りやすい。「わかり合う」「通じ合う」「触れ合う」、そんな安易な言葉の洪水が、わかってくれて当然という甘えを生み、さらに言葉を通じにくくさせている。理解してほしいという気持ちが高じてくると、理解してもらえないときにはその反動で、「キレる」「ムカつく」といった荒々しい言葉が投げつけ

1 **新聞** 筆者は、二〇一五年から、全国紙で言葉に関するコラムを担当している。
3 **米びつ** 米を入れておく容器。
11 **礫** 小さい石。
12 **アリバイ** ここでは、都合の悪い事実などを打ち消すために示す、もう一つ別の事実や理由。
7 **頬が緩む** 文
8 **惨状** 意
11 **露骨** 類
7 **オール・オア・ナッシング** 全てか無か。中間がないこと。
12 **エスカレート** 物事がしだいに大きくなり、激しさを増すこと。
1 **うなだれる** 文
5 **あおる** 意
14 **折り合いをつける** 文

られる。

しかし、言葉は単なるメッセージの媒体なのではない。言葉には言いたいこと（言葉の意味）だけでなく、言いたいという気持ちも含まれている。それは「言葉の肌理」となって現れる。対話の場でふと何かが腑に落ちるとき、私たちは語りの整合性や合理的根拠によってではなく、むしろその感触や肌理、口調や声によって、相手が本当に言いたい何かに気づかされることが多い。言葉の背景にある体温や手応えに、どれだけ想像力を向けられるかなのだろう。それが言葉の意味だけをむき出しのままぶつけ合うだけになる。

わかりやすさや反応の速さが求められる時代、大量の言葉を前に、じっくり言葉と向き合い思考する時間も、吟味して言葉を選ぶ心の余裕もなくなっている。社会に、隙間という意味での「あそび」がなくなってきている。短絡的な言葉で片づけようとして言葉が先鋭化し、一気に攻撃的になる。法令を遵守しているかいないか、ファクト（事実）かフェイク（でっちあげ）か、ラブ（愛）かヘイト（憎悪）か、大声か沈黙かというふうに、両極端に分かれ、グレイな対応を許さない、そうした社会の余裕のなさが、言葉の二極化の背後にあるように思われてならない。

言葉の二極化は、価値の二極化とも連動している。わかりやすさが善くて、わかりにくさは悪いといった単純な二項対立。現実の社会では、正解がない問いにどう対処していくかを考えることが常に求められるのに、わからないものに、わからないまま向き合い続けるその知的耐性がない。思考停止に陥り、わかりやすい説明にすぐに飛びついてしまう。

14 **グレイ**　グレー。どちらでもない中間的な状態。

12 **遵守** 関 順守・厳守・適応

12 **先鋭(化)** 意

11 **短絡(的)** 意

4 **肌理** 意

4 **腑に落ちる** 文

私自身、このような状況を前にして、言葉の無力さに打ちひしがれることがある。確信をもって言葉を発せないこともある。だが、戦争の足音が遠くから響いてくる今、言葉の無力を前に、ただうなだれてばかりでおれない。歴史をひもとけばすぐにわかることだが、人々をあおることで言葉が戦争を構成してゆくこともあれば、口をつぐむことで人々を戦争へと押しやることもある。だが、口を塞がれても言葉を失っても、それは表現が追い詰められているだけで、言葉の可能性が根こぎにされたわけではない。言葉を失いかけていることを初めて、そしてもっとも痛切に知らせるのも言葉だったし、言葉の無力にうなだれる声をもっとも繊細に伝えてきたのも言葉だった。言葉の制圧に対して、高度な当てこすりやアクロバティックな手法で抵抗してきたのも言葉だった。そしてその最終的な挫折をすら、人は言葉に残し、そのあと何度も反芻した。そういう言葉の力に、一人一人がそれぞれに、紛れもなく支えられてきた。

言葉と思考が二極化したこの時代だからこそ、私は両端の「間」に息づく言葉、多様なグラデーションを許容する言葉のありように注目したい。言葉には独特の厚みがある。含みや曲折、肌理や奥行き、曖昧さや多義性があって、だからこそ心のひだや物事の差異を微細に表現できる。ちゃかしたり皮肉ったり、あるいはかわしたり裏返したりもできる。そういうアイロニーやユーモアに見られる間合いの幅。たためらいや迷い、もたつきをも受け入れる寛容さ。そうした、いきなりぶつかるのでもなく、かといって接触を避けるのでもなく、互いに適切な距離を測りつつ、触れるか触れないかのあわいで探り合う言葉が、今ほど求められているときはないの

17 **アイロニー**　皮肉。風刺。反語。

9 **アクロバティック**　曲芸のようであること。ここでは、普通では考えられないような言動といった意。

9 **当てこすり**　他のことを言いながら、それとなく遠回しに悪口や皮肉を言うこと。

6 **根こぎ**　草木などを根ごと引き抜く意から、全て取ること。根こそぎ。

20 **あわい** 意

18 **寛容** 類

16 **微細** 類

15 **曲折** 意

11 **反芻** 意

3 **ひもとく** 文

ではないか。

私の担当するコラムは、小さな枠の中で、水をまくように言葉のかけらをまく。文脈を丁寧につける紙幅がないため、人によって相反する受け止め方もされよう。ただ、「あれっ？」と引っ掛かるところを大事にしている。一瞬意味のつかめないような表現や逆説、言外に含みや時に毒のあるもの。それらがフックとなって次の思考が始まればいい。

言葉の惨状にめげそうになりながら、私は今日も言葉の森をうろついている。私の見つけた言葉が、まだ見ぬ誰かへの贈り物になり、その人の中で育った言葉が、また他の誰かを支えられたらいいなと思っている。

生駒さちこ・絵



5

フック　物を引っ掛けるための留め金。鉤。ここでは、読み手の興味を引く取っ掛かり、きっかけといった意。

広がる読書

「特別授業3・11君たちはどう生きるか」鷲田清一他



「だんまり、つぶやき、語らい」鷲田清一





筆者　**鷲田清一**　一九四九（昭和二四）――　京都府出身。哲学者。
著書　「『聴く』ことの力――臨床哲学試論」「じぶん・この不思議な存在」「わかりやすいはわかりにくい？　臨床哲学講座」など。
出典　本書のための書きおろし。

筆者が担当するコラムから

ユーモアって、どうにもできない状況に対して唯一できること。

宇多田ヒカル

出口なしの塞がれた状況でも、「これ、なんも変えられないけど、ユーモアでなんとか自分のものにしちゃおうとか、それでオッケーにしよう」といったことがあると、歌手は語る。ユーモアの背後にはその意味で悲痛な叫びがあるが、他方でユーモアはそうした叫びに向けられる《理性の微笑》でもある。あるテレビの音楽番組（２０１６年９月22日）での発言。

2017.12.6

わかるわからないということじゃない価値観がないかな、とさぐってる。

五味太郎

意味や理屈やストーリーで理解するのが知性だとしたら、「山を見てため息つく」のも紛れもなく知性の一つだと、絵本作家は言う。意味から離れて「絵的に考える」。これ、翻って文章についても言え、「論破したり結論出したりっていうのと違う文章の書き方」もきっとあると。対談集『絵本のこと話そうか』（松田素子編）に収められたイラストレーター・黒井健との対談から。

2018.9.22

知識は伸びる手であり、「わかる」というのは結ぶことだ

幸田文

明治の作家、幸田露伴は娘に、本を読んでものが「わかる」ということの意味を訊かれ、「氷の張るようなものだ」と答えた。知識は知識を呼び、それらの先端が伸び、あるとき急に牽きあって結びつく。そうしてこの線に囲まれた水面を氷が薄く蔽う。それが「わかる」ことだと。以後、文はこれをずっと心に留めおく。随想集『幸田文　老いの身じたく』（青木奈緒編）から。

2022.4.8

179ページ 自分の意見をもつ
135ページ 批判的に読み評価する
51ページ 論理の展開

学びのカギ

文章を読んで、自分の意見をもつ

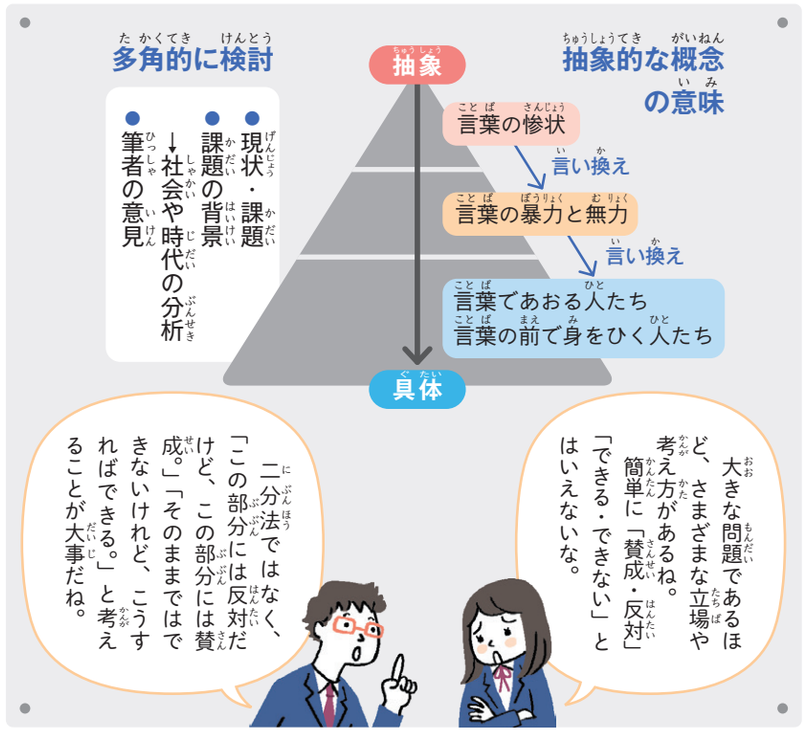
その課題、あなたはどう考える？

社会問題など、大きな課題について論じた文章を読む際は、次の点に留意する。

- ●抽象的な概念の意味を的確に捉える。
  - ・言葉の定義、本来の意味を確かめる。
  - ・筆者独自の表現は、その前後の文脈や言い換えから意味を類推する。
  - ・事例などで具体化して理解を深める。
- ●視点や視座（対象を見る立ち位置）を変え、筆者が提起した課題や提案を多角的に検討する。
- ●筆者の見方に対して、例証（例を挙げて証明すること）や反証（否定する証拠を挙げて反論すること）を試みる。

258ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図



言の葉ポケット

本文から対になっている言葉を抜き出し、意味や関係を確かめよう。また、その言葉が何を説明するために例示されているのか、考えよう。

学びへの扉

見通しをもつ

文章を読み、言葉との向き合い方について自分の意見をもとう。［学習活動］

目標

- ●具体的な事例を挙げるなどして、抽象的な概念への理解を深める。（知る）
- ●筆者の見方・考え方を踏まえ、言葉について自分の意見をもつ。（読む）

捉える

1 言葉に対する筆者の考えを捉えよう。

①次の観点で、本文に線や記号を書き込みながら読もう。

・納得したこと、共感したこと　・わからないこと、疑問に感じたこと

②「もっとよく理解したい。」「さらに掘り下げてみたい。」と感じたところをグループで出し合い、理解を深める課題を決めよう。

例
- ・筆者は言葉のどんな様子を「惨状」（172ページ8行目）といっているか。
- ・「言葉の肌理」（174ページ3行目）とは、どういうことか。
- ・「言葉の二極化は、価値の二極化とも連動している」（174ページ16行目）とは、どういう意味か。
- ・「言葉には独特の厚みがある」（175ページ14行目）とは、どういうことか。

読み深める

2 筆者の見方・考え方に対する理解を深めよう。

1で決めた課題について、言葉の意味を確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら話し合い、理解を深めよう。

考えをもつ

3 言葉との向き合い方について自分の意見をもとう。

筆者が用いた言葉を使って自分の考えをまとめ、発表しよう。

例「言葉の暴力と無力」「言葉の肌理」「言葉の二極化」「言葉の可能性」

振り返る

- 知る　□どのような事例を挙げて、抽象的な概念への理解を深めたか。
- 読む　□筆者の見方・考え方に対する理解を深める中で、自分の考えはどのように深まり、広がったか。
- つなぐ　□自分の考えを発表するときに、わかりやすさや説得力という観点で、納得のいく説明ができたと思う点を挙げてみよう。

漢字3

漢字のまとめ

・は中学校で学習する音訓 317ページ

一年生で学習したこと

漢字の組み立てと部首

1 次の――線部は同じ部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。

①〈木〉梗概・橋桁・桟橋
②〈貝〉貪欲・収賄・購入
③〈心〉悦楽・怨念・慰労
④〈言〉詐欺・訃報・詮索
⑤〈手〉捕獲・拘束・掌握

漢字の音訓

2 次の――線部をアは訓で、イは音で読もう。

①ア 空が紅に染まる。
　イ 紅茶を飲む。
②ア 血眼になって探す。
　イ 眼科に通う。
③ア 氏神様の祭り。
　イ 氏名を記入する。

漢字の成り立ち

3 次の熟語を読み、――線部の漢字に共通する音を答えよう。

①弾劾・該当・骸骨　②抵抗・炭坑・航海

二年生で学習したこと

熟語の構成

4 次の熟語と同じ構成のものを□から二つずつ選ぼう。

①豊富　②表裏　③頭痛　④譲位　⑤軒下

有無	象牙	包含	損得	氷解
船出	融点	握手	嫉妬	解雇

5 次の三字熟語や四字熟語を読み、意味を調べよう。

①式次第　②茶飯事　③一朝一夕
④傍若無人　⑤言語道断　⑥当意即妙

同じ訓・同じ音をもつ漢字

6 次の――線部に合う漢字を〈 〉から選ぼう。

①川に橋をかける。〈掛ける・架ける〉
②うるところが多い講義。〈得る・売る〉
③おい立ちを記す。〈老い・生い・追い〉
④事態をシュウシュウする。〈収集・収拾〉
⑤商品がキョウイ的に売れる。〈脅威・驚異〉

送り仮名

7 次の――線部を〈 〉の漢字を使って書こう。

①自然をおそれる。〈畏〉
②準備に時間をついやす。〈費〉
③夜が明けそめる。〈初〉
④ありがたい言葉をたまわる。〈賜〉
⑤仕事をやめる。〈辞〉

三年生で学習したこと

熟語の読み方

8 次の――線部の熟語を読み、重箱読み・湯桶読みの熟語をそれぞれ答えよう。

①長唄を聴く。
②窮状を強く訴える。
③豚肉をいためる。
④不正を糾弾する。
⑤玩具を与える。
⑥額縁を選ぶ。
⑦中州に渡る。
⑧相手を翻弄する。
⑨麦が黄金色になる。
⑩神主の話を聞く。

9 次のアは音で、イは熟字訓で読もう。

①ア 木刀　イ 竹刀　②ア 店舗　イ 老舗
③ア 凹凸　イ 凸凹　④ア 黄砂　イ 砂利
⑤ア 残念　イ 名残　⑥ア 最短　イ 最寄り

漢字の造語力

10 四字の熟語になるよう、（ ）に合う語句を〈 〉から選ぼう。また、できた熟語を読もう。

①感慨（　）②万有（　）③廃藩（　）
④外科（　）⑤武者（　）⑥近畿（　）
〈修行　引力　無量　置県　手術　地方〉

言葉の学習につなげよう　慣用句・ことわざ・故事成語

次のことわざを読み、意味を調べよう。

①江戸の敵を長崎で討つ　②口は災いの元
③郷に入っては郷に従え　④頭隠して尻隠さず
⑤腹が減っては戦ができぬ　⑥安物買いの銭失い

新出漢字

180	賄	ワイ	まかなう	180	梗	コウ	
180	訃	フ		180	悦	エツ	
180	詮	セン		180	桁	ケタ	
180	拘	コウ		180	怨	エン（オン）	
180	牙	ゲ（ガ）	きば	180	桟	サン	
180	融	ユウ		180	慰	イ	なぐさめる・なぐさむ
180	嫉	シツ		180	掌	ショウ	
180	効	ガイ		180	詐	サ	
180	貪	ドン	むさぼる	181	紛	キュウ	
181	畏	イ	おそれる	181	窮	キュウ	（きわめる）（きわまる）
181	玩	ガン		181	畿	キ	
181	尻	シリ					

漢字一覧表

漢字に親しもう４

1 **新しく習う漢字** 306ページ

次の――線部の言葉を読もう。

①褐色の大地が広がる。［　　］
②湖畔で絵を描く。［　　］
③ろうそくの炎が風に揺れる。［　　］
④亜熱帯の植物に興味をもつ。［　　］
⑤この坂道は勾配が急だ。［　　］
⑥水は百度で沸騰する。［　　］
⑦わしが上空を旋回する。［　　］

【漢字の読み（自然）】

2

次の熟語を読み、構成が同じものを線で結ぼう。

①詠唱［　　］・　・ア緩急
②山麓［　　］・　・イ造幣
③吉凶［　　］・　・ウ苦杯
④募金［　　］・　・エ怠惰

【熟語の構成】

3

次の――線部は〈心〉が部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。

①郷愁［　　］　②哀悼［　　］
③恣意的［　　］　④戦慄［　　］

【同じ部首の漢字】

新しく習う音訓 ・は中学校で学習する音訓 317ページ

4

次の――線部の読みの違いに注意して、アは音で、イは訓で読もう。

①ア守備［　　］　イ子守り［　　］
②ア声援［　　］　イ声色［　　］
③ア寝室［　　］　イ岩室［　　］
④ア耳鼻科［　　］　イ鼻歌［　　］

【漢字の音訓】

新出漢字

182 勾 コウ　182 騰 トウ　182 褐 カツ
182 杯 ハイ・さかずき　182 惰 ダ　182 畔 ハン
182 愁 シュウ・うれえる・うれい　182 旋 セン　182 炎 エン・ほのお
182 悼 トウ・いたむ　182 詠 エイ・よむ　182 亜 ア
182 慄 リツ　182 麓 ロク・ふもと
182 恣 シ

漢字一覧表

話す聞く

［話し合い（進行）］

話し合いを効果的に進めよう

話し合いで合意を形成するためには、多様な考えを認め合いながら、目的に沿って、話し合いを進行することが必要だ。効果的な話し合いの進め方について考えよう。



▼二次元コードの動画を視聴しよう

卒業式の日に、クラスで黒板アートを制作することになった。学級会で出た案を基に、実行委員が何を描くかを決めようとしている。進行役になったつもりで、話し合いの様子を視聴し、下の問題に取り組もう。

台本は184ページ

やってみよう

1 **進行役の最後の発言に続く形で、参加者から出た意見を整理しよう。**

では一度、これまでに出た意見を整理します。

2 **進行役の次の発言は、目的に即した話し合いをするうえで、どのような効果があったか、考えよう。**

- 幾つか案を組み合わせるのは、いいですね。
- この（「クラスでの最後の思い出作りに」という）観点から考えると、どうですか。

［話し合いの様子］

進行役　学級会では、黒板アートの題材として、「担任の先生の似顔絵」「アニメのキャラクター」「寄せ書き」「桜」という四つの案が出ました。今回はこれらの案を基に、具体的に何を描くか、決めましょう。

大竹　黒板の中心に担任の山口先生の似顔絵を描いて、その周りに寄せ書きをするのはどうでしょうか。

進行役　幾つか案を組み合わせるのは、いいですね。

原　それなら、桜の絵も背景に入れてはどうでしょう。卒業式らしい華やかな雰囲気になると思います。

進行役　なるほど、いいですね。ところで、学級会では、今回の黒板アート制作を、「クラスでの最後の思い出作りに」という声がありました。この観点から考えると、どうですか。

森　では、寄せ書きのテーマを「先生や友達に贈る言葉」にしてはどうでしょう。きっと心に残る、いい思い出になります。

原　アニメのキャラクターもぜひ描きましょう。学級会でもたくさん意見が出て、盛り上がりましたよね。

大竹　確かに盛り上がりましたが、主にアニメの内容の話でしたよね。それに、「クラスでの最後の思い出作りに」という観点からも外れます。

進行役　では一度、これまでに出た意見を整理します。……（後略）

話し合いを効果的に進めるために

役割	進行役	全員
効果的な工夫（上記――部分）	**話し合いの初め** ●これまでの話し合いの経緯を確認する。 ●今回の話し合いの目的や条件を確認する。 **話し合いの途中** ●参加者の発言のよい点を取り上げる。 ●必要に応じて、意見を取捨選択したり、結び付けたりするための基準となる見方や考え方を示す。 例「○○という観点から考えると、どうですか。」 ●参加者の意見を整理し、案を絞り込んだり、結び付けたりすることで合意形成につなげる。	●話題や展開、話し合いの中で出てきた観点などを意識して話し合いに参加する。 ●多様な考えを認め合いながら、話し合いを進める。 →互いの立場や考えを認め合う。 →互いの発言を生かしながら話し合う。

季節のしおり　冬

あなたが冬を感じるものは、何だろうか。澄んだ星空、降り積もる雪。厳しい寒さの向こうには、春の気配が待っている。作品に描かれた情景の中に、冬を感じてみよう。

叱られて目をつぶる猫春隣

久保田万太郎

冬の気象にまつわる言葉

- **小春日和**……冬の初めの頃の、春のように暖かく穏やかな天候のこと。そのような日や日差しを小春日という。
- **星冴ゆ**……空気が澄んで星の輝きが増すこと。
- **冬銀河**……冬に見られる天の川のこと。「銀河」は秋の季語だが、「冬銀河」は冬の季語に当たる。

オリオンは高く　うたひ
つゆとしもとを　おとす、
アンドロメダの　くもは
さかなのくちの　かたち。

宮沢賢治「星めぐりの歌」より

国境の長いトンネルを抜けると雪国であつた。
夜の底が白くなつた。

川端康成「雪国」より



話すく聞き

合意形成に向けて話し合おう

課題解決のために会議を開く

社会生活の中で、皆が進む方向性を決めたり、課題を解決したりするには、多様な考えをもつ人々の意見を生かしながら、合意形成を目ざすことが大切だ。ここでは身近な課題について話し合い、よりよい提案にまとめよう。

262ページ 発想を広げる

表現 テーマ例集

目標
- 複数の発言の共通点を見いだすなど、具体的な事例を抽象化して整理する。（知る）
- 多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を目ざす。（話・聞）

集める・整理する

1 議題を決める

・地域社会や学校生活の中から課題を見つけ、クラスで一つ議題を決める。

組み立てる

2 グループで提案を考える

・ブレーンストーミングでアイデアを出す。
・グループごとに提案を一つに絞り込む。

伝え合う

3 全体会議を開く ICT

・司会と書記を決め、クラスで話し合う。
①グループごとに案を発表する。
②提案を分類・整理し、観点を決めて検討する。
③互いの意見を生かし、合意形成を図る。

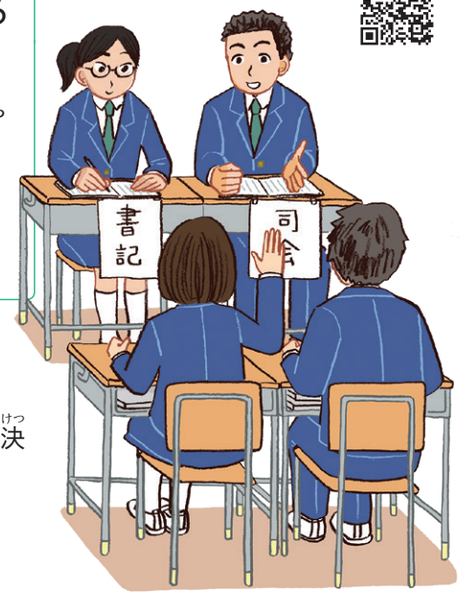
共有する

4 合意形成のポイントを振り返る

・グループやクラスでの話し合いを振り返り、合意形成のために必要なことや改善点を伝え合う。

振り返る 189ページ

生かす
- 日常 卒業文集のタイトルを決める。
- 将来 部署を超えて、会社全体の課題を解決する。



221ページ 学びの展望
187ページ 合意形成
124ページ 質問
33ページ 構成の工夫

学びのカギ

合意を形成する

【提案を分類し、整理する】
- 論点や検討のポイントを可視化して共有する。（下図）
- 提案を検討する観点を決め、座標軸などを使って整理する。（下図①）
- 提案（具体）を共通点で分類し、小見出しを付ける（抽象化）。（下図②）

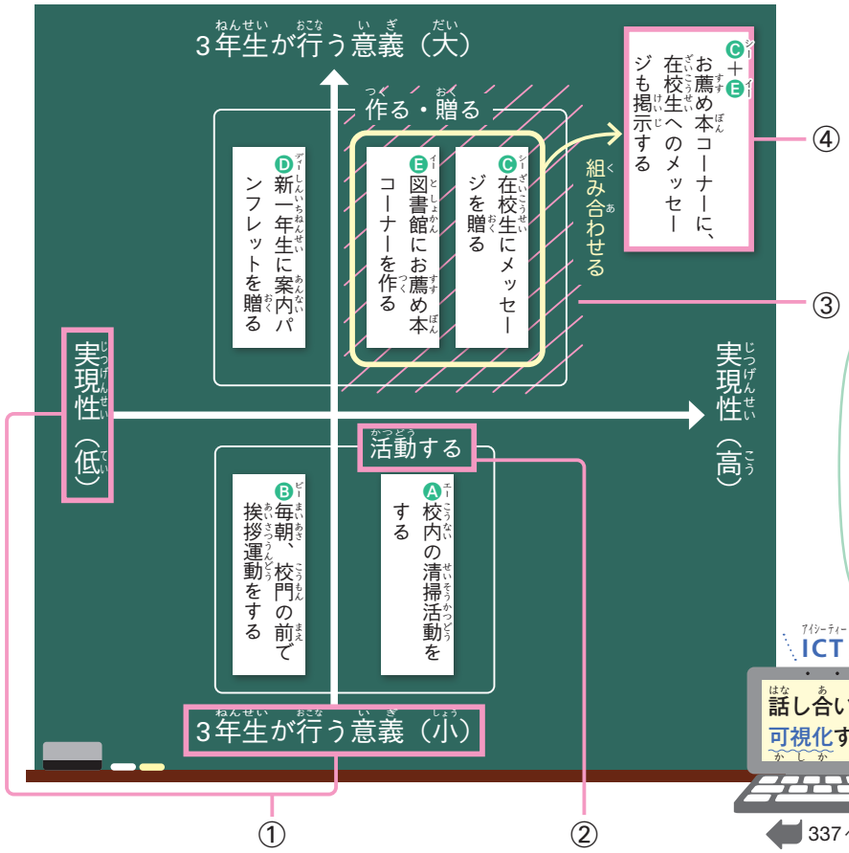
【提案を絞り込み、まとめる】
- 提案を吟味し、取捨選択して、よりよい案に絞り込む。（下図③）
- 互いの意見のよいところを組み合わせて新たに提案する。（下図④）

267ページ 話し合いの方法
260ページ 「学びのカギ」一覧

学びの地図

[各グループの提案を座標軸で整理した例]

議題：もうすぐ卒業する私たちが、学校のためにできること

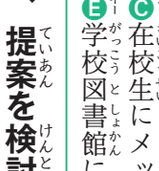


合意形成に向けた話し合いでは、どのようなことに気をつければよいだろう。



337ページ

■会議を開く



議題 もうすぐ卒業する私たちが、学校のためにできること

各グループの提案

活動する　Ⓐ校内の清掃活動をする　Ⓑ毎朝、校門の前で挨拶運動をする

作る・贈る　Ⓒ在校生にメッセージを贈る　Ⓓ新一年生に中学校の案内パンフレットを贈る　Ⓔ学校図書館に三年生のお薦めの本を紹介するコーナーを作る

観点を決めて、提案を検討する

▼「（一、二年生ではなく）三年生が行う意義」という観点から検討する。



司会　どの案も「学校のために」という目的には合っていますが、「もうすぐ卒業する私たち」、つまり「三年生が行う意義」という観点からはどうでしょうか。

▼観点を具体的に示す。



坂本　Ⓒ案やⒹ案のように在校生や新一年生に何かを贈る案は、三年生が行う意義がありますよね。それから、Ⓔ案のお薦め本の紹介コーナーを作る案も、三年間の読書活動のまとめになりますし、後輩にとっても、これから読む本の参考になるという点で意義があると思います。

▼観点に合った案を、根拠を述べながら挙げる。

▼「実現性」という観点から検討する。

Ⓓ案の新一年生にパンフレットを贈る案は魅力的です。

▼他の参加者の立場や意見を踏まえて発言する。



森　ただ、取材・撮影・執筆などで、作成に少し時間がかかりそうです。いっぽう、Ⓒ案のようなメッセージは比較的時間がかからず、取り組みやすいと思います。

▼根拠を具体的に示す。



三谷　Ⓐ案の「校内の清掃活動をする」も、時間を決めて一日だけ取り組めばよいので、実現性は高いと思います。



原　そうですね。でも、「三年生が行う意義」という観点で考えると、Ⓐ案は少し外れている感じがしませんか。

▼観点や目的を確かめ、提案を絞り込む。



森　以上の観点で検討したとき、Ⓒ案の「在校生にメッセージを贈る」、Ⓔ案の「図書館に三年生のお薦めの本を紹介するコーナーを作る」がよいと思いました。

互いの意見を生かして、合意形成を目ざす



原　その二つなら、「みんなで取り組む価値」のあるⒺ案を推します。Ⓒ案のメッセージは個人で贈ることもできますが、Ⓔ案はみんなで取り組んだほうが多様な本を薦められます。



坂本　確かにⒺ案にはみんなで取り組む価値がありますが、Ⓒ案を捨てるのはもったいない気がします。二案を組み合わせ、お薦め本コーナーに在校生へのメッセージも掲示するのはどうでしょうか。それをきっかけに、本に興味のない後輩が、図書館に来るようになるかもしれません。

▼これまでの話し合いの経緯を振り返って話す。

▼合意形成の方法①
吟味し、よりよい案に絞り込む。

▼合意形成の方法②
互いの意見のよいところを組み合わせて新たに提案する。

振り返る

- 知る　□どのような共通点を基に、複数の発言を抽象化したか。
- 話す・聞く　□互いの意見を生かして合意を形成する際に、どのような発言が効果的だったか。
- つなぐ　□合意形成するために、自分が今後大切にしたいと思ったことを挙げてみよう。

言の葉ポケット

提案を検討するとき

- ○○という観点／目的に沿って考えると……。（話し合いの観点や目的を確かめて発言する。）
- ○○という点では共通していますが、□□という点では……。（各案の共通点と相違点を明確にする。）

互いの意見を生かして、合意形成を目ざすとき

- ○○も確かに大切ですが、□□とも考えられませんか。（考える角度を変えて提案する。）
- ○○という点では意見が一致していますね。（合意しやすい一致点を確認する。）
- 両案の○○という方向性を生かして、組み合わせてみるのはどうでしょうか。（異なる意見を組み合わせて新たに提案する。）

いつも本はそばに

読書

本は世界への扉

本は国境を超え、さまざまな状況に生きる人々の姿を伝えてくれる。現地の人々と共に生きる人、遠く離れた国や地域で活動する人たちが捉えた世界を感じてみよう。

天、共に在り

中村 哲

西暦二〇〇〇年、前代未聞の大干ばつに襲われたアフガニスタン。人々の健康は損なわれ、生活の基盤である耕作はできなくなってしまった。荒れ果てた土地を捨て、行き場もなくさまよう人々、収入を得るために傭兵になり、戦争に身を投じる人々……。干ばつは社会情勢にまで悪影響を及ぼしていた。

人々の健康と平和のためには、水不足を解消し、農村での昔ながらの暮らしを取り戻す必要がある。そう考えた医師の中村哲さんは、砂漠化した農地に水路を引くことにした。

ここでは、長年にわたる工事の末、水路が開通する瞬間を描いた文章を読んでみよう。

熱砂のガンベリ沙漠は人を寄せつけない。摂氏五十三度、強烈な陽光と熱風がいかなる生命の営みをも封ずる。沙漠は美しい。一切の人為と修辞を退け、凛と立つ一つの啓示である。

――二〇〇九年八月三日、この無人の荒野で働く四百名の作業員が、最後の力を振り絞って働いていた。二〇〇三年三月の着工から六年五か月、マルワリード用水路は、全長約二十四キロメートルを掘り進め、最終地点に達しようとしていた。広大な沙漠にぽつんと固まる点のような人の群れに、容赦なく熱風と砂塵が襲いかかる。これを恐れていたのだ。予定では酷暑の到来する四月前に終えることになっていたが、予期せぬ難工事で遅れに遅れていた。連日熱射病で倒れる者



水路開通前の干あがった土地（2003年）



水路開通後の様子。農地が回復し、食料を生産できるようになった。樹木も成長し、活気が見られる。（2019年）



開通した水路。護岸のために柳が植樹された。（2009年）

多数、それでも皆は作業の手を休めない。この状態で中断すれば、予定は確実に一年延期される。最終地点があと十数メートルに迫り、作業員の間に気迫がみなぎっていた。

午前十一時五十分、最終地点の護岸造成を指揮していた古参職員が伝えてきた。

「まもなくです。数分でしょう。皆疲れていますが、午前中まではもちこたえます。」

「よし、水を流せ。」

開通が近いとみて、前夜のうちに最終点から五百メートル手前まで満水にしておいたのだ。④土嚢を外すと、たちまちせきを切ったように水があふれ出し、勢いよく終点へと向かった。流水はしだいに速くなり、歩く速さでゆっくりと、しかし確実に水路底を湿らせながら進んでいった。

水を先導するように幅六メートルの水路を歩いていくと、既に施工を終えた作業員たち四百名が両岸に並び、固唾をのんで見守っている。沙漠横断水路二・八キロメートル、取水口から約二十四キロメートルの地点に最後の水門があり、⑤ここから自然洪水路に水が落とされる手はずになっていた。かっきりと正午、水は水門を通過、予定地点へと勢いよく流れた。全線開通だ。

筆者　中村 哲　1946（昭和21）――2019（令和元）　福岡県出身。医師。
著書　「天、共に在り」「アフガニスタンの診療所から」「希望の一滴」など。

注

①アフガニスタン＝アフガニスタン・イスラム共和国。首都カブール。公用語はダリー語、パシュトー語。四十年以上にわたる紛争や、干ばつなどの自然災害の影響により、社会的な混乱が続いている。

②沙漠＝砂漠のこと。砂漠には、細かい砂から成る砂砂漠だけではなく、岩石砂漠や礫砂漠といった、大小の石やその破片から成るものも存在することから、「砂」という字を使わずに、「沙漠」と表記する場合がある。本文中の表記は原典によった。

③摂氏＝温度を測る単位。水が氷になる温度を零度、沸点を百度とする。

④土嚢＝土を詰めた袋。積み上げて、土木工事や水害対策に使われる。

⑤自然洪水路＝洪水によって自然に形成された流路。現地では、近隣の山岳部に降る雨や雪解け水により、洪水が引き起こされることがある。



続きはこちら



天、共に在り

中村 哲

医師としてアフガニスタンに赴いた筆者が、荒れ果てた土地に緑を取り戻すために奔走したのはなぜだったのか。

現地の人々に寄り添い、共に歩んできた三十年間を振り返る。

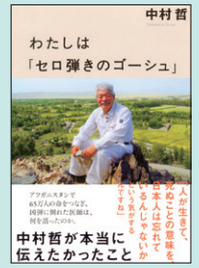
中村哲さんの本

自伝
アフガニスタンの診療所から



私を最初にこの地と結び付けたのは、雄大なカラコルムの自然と私の好きな蝶であった。なにも初めから「海外医療協力」などという大仰な考えがあったわけではない。

インタビュー
わたしは「セロ弾きのゴーシュ」



私たちとしては、まず、病気の予防という意味から始まって、ともかく水がないことには人間生きておれませんから。食べ物がなくても数週間は生き延びられますけれども、水がないと二十四時間と生きられない。だから、まず水だという ことで、総動員して清潔な飲料水を確保するということを始めたのが、二〇〇〇年の七月だったですね。

絵本
カカ・ムラド

ガフワラ
さだまさし 他訳・文



中村先生と村人たちがみんなで掘った用水路に、川から流れ込んだ新鮮な水が通り、村に向かって流れていきます。村人たちはこぞって用水路に駆け寄り、いっしょに水の流れを追いかけました。水かさは時間とともにどんどん増えて、ついにはみんなが見守る中、無事に村に流れ着いたのでした。

随筆・評論（新聞連載）
希望の一滴



「ガンベリ沙漠の緑化など不可能だ」と、多くの職員は考えていた。しかし今、作業する眼下に広大な沙漠が展開する。第二期工事が二年前に始まって以来、「ガンベリへ、ガンベリへ」が私たちの合い言葉となった。初めは冗談交じりに。目前になった今は真剣に、皆が「ガンベリ」を語る。

▼中村さん関連年表

年	出来事
一九七八	登山隊に参加し、アフガニスタンとパキスタンの国境地帯を初めて訪れる。
一九八四	パキスタンの病院に赴任する。
一九九一	アフガニスタン国内に診療所を開設する。
二〇〇〇	干ばつに対処するため、井戸を掘り始める。
二〇〇三	マルワリード用水路の建設を始める。
二〇〇七	マルワリード用水路（第一期）開通。
二〇〇九	マルワリード用水路（第二期）開通。
二〇一九	十二月四日、武装勢力に銃撃され死去（享年七十三）。


農地用の井戸に下りる中村さん（2001年）


開拓地は一面の小麦畑に（2011年）

190ページ 天、共に在り

現在も、中村さんの志を受け継いだ人たちによって、現地での活動が続けられている。

①極夜行

角幡 唯介

極夜の北極圏を、一匹の犬だけを連れて探検する筆者。暗闇と極寒の中を進んだ先に、巨大な②氷河が立ちはだかる。

氷河には僅かな雪しかなく、青い③裸氷がむき出しになっていた。二台の木ぞりを一台ずつに分割して登ったが、滑りやすく、しかもでこぼことした裸氷に苦戦し、重たいそりはなかなか進まない。犬も裸氷では爪がきかず力が入らないらしく、休憩のたびに四肢を投げ出しては寝っ転がり、この行為、全然おもしろくないんですけど、といったふてくされた顔をした。

登高開始から三日目になると氷河上の雪が増え始め、裸氷の凹凸が埋まってペースが少し上がった。天気も快晴無風、テントを出てまもなく月が出た。

月が昇っただけで極夜世界は色のない沈鬱な世界から一転し、壮絶なまでに美しい空間に変わる。それまでの影すら存在しない④モノトニアスな空間が、黄色い光が届いた瞬間、突然、本当に劇的に明るくなって、氷河上の細かい雪のひだに至るまで一気に照らし出され、そこに影ができて、足元のルート状況が明瞭になるのだ。雪や氷が青っぽく色づき、単なる沈黙に包まれた死の空間だったのが、どこか別の惑星にいるかのような幻想的空間に変わる。極夜の旅は宇宙の旅にほかならないと、そう思える瞬間だった。

だが月光の明るさにだまされて痛い目をみることもあった。その日、月光の恩恵を受けた私は⑤ヘッデンを消して二台のそりを分割して尺取虫のようにゆっくり登っていた。月があるときは照明を消したほうが遠くまで見えるので歩きやすい。そのうち雪も増えて登りやすくなり、月光だけの薄明るい状態に目も慣れてさらに視界がよくなったことから、時間がたつうちに登り方が少しずつ大胆になっていった。

もちろん大胆といっても、⑥アメノウズメみたいに裸になって踊りながら登るとかそういうことをしたわけではない。それまではそりを見失わないよう、必ず片方のそりが見える範囲内で動いていたのが、月も明るいので大丈夫だろうと判断し、下に置いたそりが見えない所まで登り、そこにそりを残して下のもう一台を取りに戻るという、ただそれだけのことをしただけの話である。だが、たったそれだけの油断をしたせいで、危うく旅が中止になるところだった。

行動開始から五時間ほどたった頃だった。一台のそりを運んで氷河の斜面に置いた私は、それから二百メートルほど下り、もう一台のそりを取りに戻った。下のそりを見つけて、私と犬は再び登り始めた。だが、途中でいつもの想念癖が出てしまい、もう内容は忘れてしまったが、恐ろしくどうでもいいことを私は考え始めていた。途中でハッと我に返り、やばいやばい、そろそろ前のそりがある所だと気づき、辺りを見回したが、しかし置いたはずの所にそりが全然見つからない。おかしいな、この辺にあるはずなのだが、と思いつつ、そのまま登り続けるうちに、まだ絶対にここまでは来ていないと確信できる平坦な場所に出た。

おかしい、と私は首をひねった。通り過ぎている……。



筆者
角幡唯介 一九七六（昭和五一）――
北海道出身。探検家・ノンフィクション作家。
著書
「空白の五マイル」「雪男は向こうからやって来た」「アグルーカの行方」など。

注
①極夜＝緯度の高い地域で、冬の間、一日中太陽が昇らない状態が続く現象。
②氷河＝地上に降り積もった雪が厚い氷となり、重みで流動するようになったもの。
③裸氷＝上に雪が積もっていない状態の氷。
④モノトニアス＝退屈な。変化のない。
⑤ヘッデン＝頭に着けて周囲を照らす照明。
⑥アメノウズメ＝日本神話に登場する女神。天照大神が天の岩戸に閉じこもったとき、裸になって岩戸の前で踊り、大神を外に誘い出したという。ヘッドライト。

新出漢字
190 摂 セツ

新出音訓
190 損なう（そこなう）

漢字の練習

読書案内

本の世界を広げよう



世界へ

世界と共に生きる

268ページ「二つの悲しみ」「高瀬舟」



フォトジャーナリスト 長倉洋海の眼

長倉洋海

困難な環境下で生きる人々。その強いまなざしに写真で出会う。



緒方貞子——難民支援の現場から

東野 真

国際連合人道支援機関トップとして難民支援を導いた緒方氏の姿。



未来をつくるあなたへ

中満 泉

めまぐるしく変化する国際社会。私たちにできることは何か。



ボクの音楽武者修行

小澤征爾

単身武者修行で得たものとは。世界的指揮者誕生までの軌跡。



恋する文化人類学者

鈴木裕之

国際結婚を通じて見えるのは、「違い」を楽しむ心豊かな世界。



いま生きているという冒険

石川直樹

世界を歩き続けてきた筆者の「旅」を、中学生時代から振り返る。



歴史・時代

歴史の息遣いを感じる



源平の風（白狐魔記 全七巻）

斉藤 洋

平安時代末期。化身術と言葉を身につけたきつねの白狐魔丸は、人の営みを観察し、戦の謎を考え続ける。



鬼の橋

伊藤 遊

舞台は平安時代。妹が落ちた古井戸に吸い込まれ、少年は冥界へ。



日暮らし 上・下巻

宮部みゆき

役人の平四郎と頭脳明晰な弓之助が活躍する時代劇ミステリー。



竜馬がゆく 全八巻

司馬遼太郎

泣き虫だった竜馬が、倒幕の志士として活躍し、凶刃に倒れるまで。



天平の甍

井上 靖

日本に高僧を招くため、遣唐使として海を渡った若き僧らの物語。



砂糖の世界史

川北 稔

砂糖の歴史から、近代史の流れや、古今東西の問題が見えてくる。



本と図書館の歴史

宮木陽子・小谷正子 訳

図書館は、時空を超えて人類の知恵を保存し、共有してきた。

社会

世の中の仕組みとは



ライ麦畑でつかまえて

J・D・サリンジャー 野崎 孝 訳

高校を退学になり、ニューヨークの街をさすらう少年は、大人社会を拒否し、孤独に陥っていく。



14歳からの社会学

宮台真司

社会学という学問を、日常生活と関わる出来事に結び付けて解説。



レモンをお金にかえる法

ルイズ・アームストロング 佐和隆光 訳

レモネードを売る子供のやり取りを通じて、経済の仕組みを学ぶ。



転換期を生きるきみたちへ

内田 樹 編

転換期に生きる中高生に「これだけは伝えたい」知見を集結。



二番目の悪者

林 木林作 庄野ナホコ 絵

無自覚・無意識のうちに「フェイク」を作り出すのはあなたかも。



日本という国

小熊英二

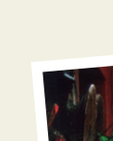
「これから」を考えるために、日本近代史を振り返る。



チョコレート・アンダーグラウンド

アレックス・シアラー 金原瑞人 訳

チョコレートを違法にした政府から、お菓子と自由を取り戻せ！



嵐の大地 パタゴニア

関野吉晴

五万キロメートルを自分の力だけで移動する。長い旅の記録。



謎のアジア納豆

高野秀行

身近な食の探求が文明論にまで発展。雄大なアジア珍道中記。



紙の建築 行動する

坂 茂

優美なホールから仮設住宅まで。「紙の建築」への挑戦は続く。



トットちゃんとトットちゃんたち

黒柳徹子

ユニセフ親善大使の筆者が世界を巡り、出会った子供たちを語る。







挑戦
新しいことを始めよう



アドリブ　佐藤まどか
イタリアの国立音楽院でフルートに打ち込む少年ユージの青春。



はじめて読む科学者の伝記　池田菊苗　清水洋美
苦労の末に、うま味成分を発見し、世に送り出した科学者の伝記。



羽生結弦　未来をつくる　羽生結弦　折山淑美
五輪連覇の偉業を達成した羽生選手の、理想を追求し続ける姿。



不安な時代に踏み出すための「だったらこうしてみたら?」　植松努
自分らしく生きるために、自らに問いかけながら読んでみよう。



恋愛
恋をしたい君へ



with you　濱野京子
あの子を守りたい。中学生の悠人は家族と介護の問題に直面する。



きみの声を聞かせて　小手鞠るい
孤独を抱える葉香は、アメリカに住む少年と、詩と音楽を交換する。



TUGUMI　つぐみ　吉本ばなな
生まれつき病弱な少女つぐみと、彼女を取り巻く人々を描く。



きみが見つける物語　恋愛編　有川浩他
五人の作家が十代の読者に贈る。さまざまな恋の物語。



生き方
未来に羽ばたこう



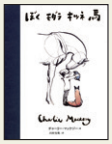
十五歳の残像　江國香織
作家・江國香織の対談集。歌手や詩人二十二人の「十五歳」。



みんなの論語塾　安岡定子
いつでもどこからでも。時空を超えて孔子と対話してみよう。



君たちはどう生きるか　吉野源三郎
「どう生きるか」という問い。主人公のコペル君はどう答えたか。



ぼく モグラ キツネ 馬　チャーリー・マッケジー　川村元気訳
友達どうしの語らいの中に、人生を支える美しい言葉がある。

私の一冊

聞かせてよ、ファインマンさん
R・P・ファインマン　大貫昌子・江沢洋訳
気さくな天才物理学者、科学への道をユーモラスに語る。

物事を突き止めることのおもしろさと奥深さを、私自身この本から学びました。



山崎直子
1970年
千葉県出身。
宇宙飛行士。

私のおすすめ
自分でも書いてみよう

8 未来へ向かって

これまでを振り返り、これからを見つめる

温かいスープ　随筆　今道友信

アラスカとの出会い　随筆　星野道夫

律儀な桜　随筆　角田光代

わたしを束ねないで　詩　新川和江

三年間の歩みを振り返ろう
冊子にまとめて、発表会をする

初日　詩　池田瑛子

漢字に親しもう5



時を表す言葉8　東雲 | 夜明け。明け方。また、明け方に東の空にたなびく雲。

● 文章を読み、国際社会における人と人との関係について、考えを深めよう。

温かいスープ

今道 友信



第二次世界大戦が日本の降伏によって終結したのは、一九四五年の夏であった。その前後の日本は世界の嫌われ者であった。信じがたい話かもしれないが、世界中の青年の平和なスポーツの祭典であるオリンピック大会にも、戦後しばらくは日本の参加は認められなかった。そういう国際的評価の厳しさを嘆く前に、そういう酷評を受けなければならなかった、かつての日本の独善的な民族主義や国家主義については謙虚に反省しなくてはならない。そのような状況であったから、世界の経済機構への仲間入りも許されず、日本人もみじめな時代があった。その頃の体験であるが、国際性とは何かを考えさせる話があるので書き記しておきたい。

一九五七年、私はパリで大学の講師を務めていた。しばらくはホテルにいたが、主任教授の紹介状で下宿が見つかり、訪ねあてたところ、そこの主婦は、私が日本人だと知るや、「夫の弟がベトナムで日本兵に虐殺されているので、あなた個人に何の恨みもないけれど、日本人だけはこの家に入れたくない。理解してください。」と言い、私が下宿するのを断った。しかたなく、大学が見つけてくれた貧相な部屋のホテル住まいをすることになった。

その頃の話である。私は平生は大学内の食堂でセルフサービスの定食を食べていたが、大学と方角の違う国立図書館に調べに行くと決めていた土曜は、毎晩、宿の近くの小さなレストランで夕食を取るほかなかった。その店はぜいたくではないが席も十人そこそこしかない小さな手作りの料理店であった。白髪の母親が台所で料理を作り、娘が接客を受け持ち、二人だけで切り盛りしていた。毎土曜の夕食をそこで取っていたから、二か月もすれば顔なじみになった。

若い非常勤講師の月給は安いから、月末になると外国人の私は金詰まりの状態になる。そこで月末の土曜の夜は、スープもサラダも肉類も取らず、「今日は食欲がない。」などとよけいなことを言ったうえで、いちばん値の張らないオムレツだけを注文して済ませた。それにはパンが一人分付いてくるのが習慣である。そういう注文が何回かあって気づいたのであろう、この若い外国生まれの学者は月末になると苦労しているのではなかろうか、と。



5 **戦後しばらくは** 夏季オリンピックに日本の復帰が認められたのは、一九五二年の第十五回ヘルシンキ大会からである。

7 **独善(的)** 文

2 **ベトナム** 現在のベトナム社会主義共和国のこと。第二次世界大戦が始まった当時はフランスの植民地で、一九四〇年九月以降、日本軍が進駐占領した。

ある晩、また「オムレツだけ。」と言ったとき、娘さんのほうが黙ってパンを二人分添えてくれた。パンは安いから二人分食べ、勘定のときパンも一人分しか要求されないので、「パンは二人分です。」と申し出たら、人さし指をそっと唇に当て、目で笑いながら首を振り、他の客にわからないようにして一人分しか受け取らなかった。私は何か心の温まる思いで、いつも半額の二人前のパンがあった。

その後、何か月かたった二月の寒い季節、また貧しい夜がやって来た。花のパリというけれど、北緯五十度に位置するから、わりに寒い都で、九月半ばから暖房の入る所である。冬は底冷えがする。その夜は雹が降った。私は例によって無理に明るい顔をしてオムレツだけを注文して、待つ間、本を読み始めた。店には二組の客があったが、それぞれ大きな温かそうな肉料理を食べていた。そのときである。背のやや曲がったお母さんのほうが、湯気の立つスープを持って私のテーブルに近寄り、震える手でそれを差し出しながら、小声で、「お客様の注文を取り違えて、余ってしまいました。よろしかったら召しあがってくださいませんか。」と言い、優しい瞳でこちらを見ている。小さな店だから、今、お客の注文を間違えたのではないことぐらい、私にはよくわかる。

こうして、目の前に、どっしりしたオニオングラタンのスープが置かれた。寒くてひもじかった私に、それはどんなにありがたかったことか。涙がスープの中に落ちるのを気取られぬよう、一さじ一さじかむようにして味わった。フランスでもつらいめに遭ったことはあるが、この人たちのさりげない親切のゆえに、私がフランスを嫌いになることはないだろう。いや、そればかりではない、人類に絶望することはないと思う。

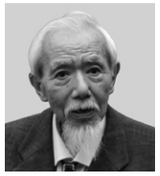
16 **オニオングラタンのスープ** いためたたまねぎ入りのコンソメスープにパンとチーズを加えて、オーブンで焼いた料理。

17 気取られる 意

国際性、国際性とやかましく言われているが、その基本は、流れるような外国語の能力やきらびやかな学芸の才気や事業のスケールの大きさなのではない。それは、相手の立場を思いやる優しさ、お互いが人類の仲間であるという自覚なのである。その典型になるのが、名もない行きずりの外国人の私に、口ごもり恥じらいながら示してくれたあの人たちの無償の愛である。求めるところのない隣人愛としての人類愛、これこそが国際性の基調である。そうであるとすれば、一人一人の平凡な日常の中で、それは試されているのだ。

佐藤泰生・絵





筆者 **今道友信** 一九二二（大正一一）――二〇一二（平成二四）
東京都出身。哲学者。
著書 「自然哲学序説」「エコエティカ」「愛について」「美について」「知の光を求めて」など。
出典 本書のための書きおろし。

7 口ごもる 意

広がる読書

「私、日本に住んでいます」
スベンドリニ・カクチ



● 文章を読み、人との出会いや人生について、考えを深めよう。

アラスカとの出会い

星野 道夫

ブッシュ・パイロットのドン・ロスから電話が入った。

「今、雑誌社からカメラマンが来ている。これから北極圏にカリブーの季節移動を撮りに行くらしい。おまえに情報を聞きたがっているんだ。ちょっとホテルに会いに行ってくれないか。名前はジョージ・モーブリイだ。」

告げられた雑誌名は、自然・地理・民族・歴史を扱う、アメリカで最も権威のある雑誌だった。カメラマンなら、誰もが憧れる雑誌かもしれない。そこのスタッフ・フォトグラファーか。きっと、世界を駆け回っているんだろうな……。そんなことを考えながら、車でダウンタウンのホテルへ向かう途中、ジョージ・モーブリイという名前が、突然、記憶の鐘を小さくたたき始めた。まさか……。でも、確かにそんな名前だった。

車をUターンさせ、家に戻り、本棚から一冊の写真集を引き出した。そのページを見つけるのに時間はかからなかった。なつかしい写真の脇に、小さくジョージ・モーブリイと書かれている。まさかこんな形で会うことになろうとは……。

1 **ブッシュ・パイロット**　辺境を回る飛行士のこと。
2 **カリブー**　北アメリカにすむ野生のトナカイ。
5 **権威** 意
6 **スタッフ・フォトグラファー**　団体や会社の職員として写真を撮る人。
8 **ダウンタウン**　商業地域のこと。



花の咲き乱れる土手で遊ぶ、ホッキョクギツネの子。

十代の頃、北海道の自然に強くひかれていた。その当時読んだ、さまざまな本の影響があったのだろう。あの頃、北海道は僕にとって遠い土地だった。北方への憧れは、いつしかさらに遠いアラスカへと移っていった。だが、現実には何の手がかりもなく、気持ちが募るだけであった。二十年以上も前、アラスカに関する本など日本では皆無だったのだ。

ある日、東京、神田の古本屋街の洋書専門店で、一冊のアラスカの写真集を見つけた。たくさんの洋書が並ぶ棚で、どうしてその本に目が留められたのだろう。まるで僕がやって来るのを待っていたかのように、目の前にあったのである。それから は、学校へ行くときも、どこへ出かけるときも、かばんの中にその写真集が入っていた。手あかにまみれる

9 **二十年以上も前**　この文章が発表されたのは、一九九三年。
8 **募る** 文
10 **皆無** 意
20 **手あかにまみれる** 意



カリブーを撮ること。それが、アラスカでの大きなテーマの一つだった。

だれ送知れ思そ去たとのり　いい家だか

。それは、実に荒涼とした風景

った。人影はないが、一つ一つの

の形がはっきりと見える。いった

どんな人々が、何を考えて生きて

るのだろう。

昔、電車から夕暮れの町をぼんや

眺めているとき、開け放たれた家

窓から、夕食の時間なのか、ふっ

家族の団欒が目に入ることがあっ

。そんなとき、窓の明かりが過ぎ

ってゆくまで見つめたものだった。

して、胸が締めつけられるような

いが込み上げてくるのである。あ

はいったい何だったのだろう。見

らぬ人々が、僕の知らない人生を

っている不思議さだったのかもし

ない。同じ時代を生きながら、そ

人々と決して出会えない悲しさ

その集落の写真を見たときの気持

所んしの落よし沈ら極いび枚だひいほ

ど本を読むとは、ああいうことを

うのだろう。もっとも僕の場合は、

たすら写真を見ていただけなの

が。

その中に、どうしても気になる一

の写真があった。本を手にするた

、どうしてもそのページを開かな

と気が済まないのだ。それは、北

圏のあるイヌイットの村を空か

撮った写真だった。

灰色のベーリング海、どんよりと

む空、雲間からすだれのように差

込む太陽、その中でぽつんと点の

うにたたずむイヌイットの集

……。初めは、その写真のもつ光

不思議さにひきつけられたのかも

れない。そのうちに、僕はだんだ

その村が気にかかり始めていった。

なぜ、こんな地の果てのような場

に人が暮らさなければならないの



春、大きな群れを成して、北極圏へと集まってくるカリブー。

イヌイット　アラスカ北部からカナダ北部、グリーンランドに居住する民族。

9 団欒 意
1 荒涼 意
9 団欒 意
7 どうしても 文
8 気が済む 類
11 どんより 類



ホッキョクグマが、こんな表情を見せることもある。

と宛　は ち　れも訪 ┐け村に誰こ書　思うち

は、それに似ていた。が、僕はど

しても、その人々と出会いたいと

ったのである。

写真のキャプションに、村の名前が

かれていた。シシュマレフ村……。

の村に手紙を出してみよう。でも

に。住所は。辞書を開くと、村長

当たる英語が見つかった。住所は、

の名前にアラスカとアメリカを付

加えるしか方法がない。

あなたの村の写真を本で見ました。

、どんなに拙い文章だったろう。

返事は来なかった。当然だった。

名も住所も不確かなのだから。た

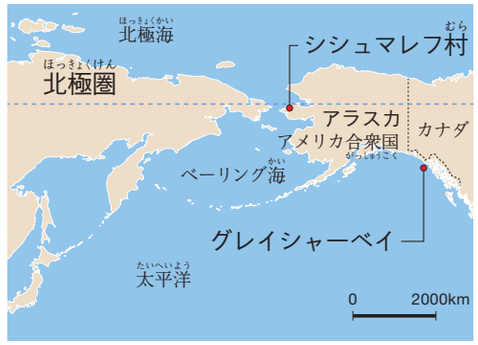
え届いたとしても、会ったことも

20 . . . . . 15 . . . . . 10 . . . . . 5 . . . . .

4 **キャプション**　印刷物の写真や挿絵などに添えられた簡潔な説明文。

17 **拙い**　類

19 **たとえ……としても**　文





19歳の夏、初めてシシュマレフ村を訪れた。

です。人手も必要です。……いつでも来なさい……。」

約半年の準備を経て、僕はアラスカに向かった。幾つも

リング海に浮かぶ集落が見えてくると、本で見続けた写真

どうしていいかわからない思いで、窓ガラスに顔を押しつ

この村で過ごした三か月は、強烈な体験として心の中に

アザラシ猟、トナカイ狩り、太陽が沈まぬ白夜、さまざま

空撮の写真から見下ろしていた村に、今、自分が立ってい

の暮らしの多様性にひかれていった。十九歳の夏だった。

その後、写真という仕事を選び、さまざまな夢を抱いて

七年ぶりにアラスカに戻ってき

しな ┐の郵るい　るな

い人間を世話してくれる者などい

はずがない。

僕は、手紙を出したことも忘れて

った。ところが、半年もたったあ

日、学校から帰ると、一通の外国

便が届いていた。シシュマレフ村

ある家族からの手紙だった。

……。手紙を受け取りました。あ

たが家に来ること、妻と相談しま

た……。夏はトナカイ狩りの季節

の小さな飛行機を乗り換え、ベー

と現実がオーバーラップし、僕は

けていた。

沈澱していった。初めてのクマ、

な村人との出会い……。そして、

ること。この旅を通し、僕は、人

20 . . . . . 15 . . . . . 10 . . . . . 5 . . . . .

13 **オーバーラップ**　一つの場面に他の場面が重なって見えること。

16 **白夜**　夜になっても日が沈まない、あるいは日没から日の出まで薄明るい状態が続くこと。高緯度地帯で夏に見られる。

15 **沈澱**　意

た。今度は短い旅ではない。三年、いや、五年ぐらいの旅になるだろうと思った。時間は矢のように過ぎていった。

アラスカ北極圏を横切るブルックス山脈の、未踏の山や谷を歩いた。グレイシャーベイをカヤックで旅しながら、氷河のきしむ音を聞いた。イヌイットの人々とウミアックをこぎ、北極海にセミクジラを追った。カリブーの季節移動にひかれ、その旅を追い続けた。クマの一年の生活を記録した。数え切れないほどのオーロラを見上げた。オオカミに出会った。さまざまな人の暮らしを知った……。いつのまにか十四年が過ぎていた。それどころか、僕は家を建て、この土地に根を下ろそうとしている。

あのとき、神田の古本屋で、あの本を手にしていなかったら、僕はアラスカに来なかっただろうか。いや、そんなことはない。それに、もし人生を、あのとき、あのとき……とたどっていったなら、合わせ鏡に映った自分の姿を見るように、かぎりなく無数の偶然が続いてゆくだけである。

しかし、確かに僕はあの写真を見て、シシュマレフという村に行った。それからは、まるで新しい地図が描かれるように、自分の人生が動いていったのも事実である。つまり、その写真を撮ったのが、ジョージ・モーブリイだった。

ホテルに着き、部屋を見つけ、ドアをノックした。どんな気持ちで僕が会いに来たのかも知らず、彼は白いひげの中に笑みをたたえて出迎えてくれた。

しばらくカリブーの話をした後、僕は古い写真集を取り出し、これまでのいきさつを彼に話し始めていた。ジョージはじっと僕を見つめながら、耳を傾けてくれた。それがうれしかった。

「そうか……。私の写真が君の人生を変えてしまったんだね……。」

「いや、そういうわけではないんですが……。大きなきっかけとなりました。」

「で、後悔しているかい。」

初老に入ろうとするジョージの目の奥が、優しく笑っていた。

人生はからくりに満ちている。日々の暮らしの中で、無数の人々と擦れ違いながら、私たちは出会うことがない。その根源的な悲しみは、言い換えれば、人と人とが出会うかぎりない不思議さに通じている。



グレイシャーベイをカヤックで旅する。

4 **カヤック**　全長五、六メートルの小舟。一人か二人乗りで、猟などに使う。

4 **ウミアック**　カヤックよりも大型の舟。

6 **オーロラ**　北極・南極地方の夜空に現れる発光現象。

1 矢のよう(に)意
3 未踏 意
4 きしむ 意

3 いきさつ 意
8 後悔 意
10 からくり 意
11 根源(的) 意
8 漢 悔 カイ くいる くやむ くやしい
後悔 カイ

漢字の練習



筆者　**星野道夫**　一九五二（昭和二七）――一九九六（平成八）
千葉県出身。写真家。
著書　「アラスカ　光と風」「森と氷河と鯨」など。
出典　「旅をする木」

広がる読書



「旅をする木」星野道夫

●文章を読み、人と自然、時とともに変わるもの、変わらないものに思いをはせよう。

律儀な桜

角田光代

自分の暮らす東京でしか満開の桜を見たことがないが、国内の各地に、桜の名所はある。公園だったり、川べりだったりする。桜の季節でなくても、桜の木だとすぐわかる。わかったとたん、花を付けていない木々がいっせいに花開くところを思い描く。幻の満開をそんなふうに見た気持ちになって、ぜひとも桜の季節に来たい、来よう、と思うが、一度もそういう場所で花見をしたことがない。

昨年鹿児島に行ったのだが、あと二週間もすれば桜が咲くらしいという時期だった。川沿いにずらりと並ぶ桜が花を付けるという。そのとき乗ったタクシーの運転手さんともやっぱり桜の話になった。「あと十日ばかり遅く来ればよかったね。」と運転手さんは言い、そして「不思議なことに、毎年この時期になると桜は律儀に咲くものだね、何があっても咲くね。」と独り言のように言った。その言葉が心に残り、ことあるごとに思い出す。誰が言ったんだっけ……、と忘れているときもあって、ああ、見ず知らずの運転手さんだったと思い返す。

七年前、二〇一一年四月、私は新聞社の依頼を受けて、東北の太平洋沿岸の町々を歩いた。町がなくなっているのに咲いている桜があった。そのことに私は心底驚いた。青空に映える満開の桜がうつくしいことに衝撃を受けた。自然とはなんと残酷なのだろうと思った。こんなにもかなしい現実のなかで、季節が来れば桜はうつくしさを誇るかのように花開くのだ。

運転手さんが何気なく言った一言は、私にこの光景を思い出させた。本当にそうだ。何があっても桜は咲くし、そのことはあたりまえのことではなくて、とても不思議なことなのだ。

七年前に抱いた、残酷だという感想は、私のなかで少しずつ変わっているらしいと、それもまた運転手さんの言葉で気づかされた。例年より寒かろうが暑かろうが、降雨量が多かろうが少なかろうが、温度が緩むとつぼみが膨らみ、あるときいっせいに花が開く。変わり続けるしかない私たちの暮らしに、そんなふうに変わらないものがあるということは、時に私たちを救うのではないか。そんなふうに思うようになった。

毎年、律儀に桜は咲く。咲くことがわかっているのに、空を覆うように満開になった木を見れば、つい目をみはって立ち止まってしまう。毎年毎年、満開の桜を前に私もこうして律儀にほうけていたい。

6 **昨年** この文章は二〇一八年に書かれた。

12 **二〇一一年……歩いた** 二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災によって、東北地方の太平洋側を中心とする広い地域が被害を受けた。筆者が被災地を訪れたのは、震災発生の翌月のことである。

13 **心底** 文

題 **律儀** 意

13 **ほうける** 意



筆者 **角田光代** 一九六七（昭和四二）――　神奈川県出身。作家。
著書 小説「幸福な遊戯」「キッドナップ・ツアー」「対岸の彼女」「八日目の蟬」、随筆「今日もごちそうさまでした」、訳書「源氏物語」など。
出典 「ベスト・エッセイ２０１９」

広がる読書

「Presents」
角田光代



●詩の中の言葉や表現から作品のもつメッセージを捉え、自分の可能性について考えてみよう。

わたしを束ねないで

新川和江

わたしを束ねないで
※あらせいとうの花のように
白い葱のように
束ねないでください　わたしは稲穂
秋　大地が胸を焦がす
見渡すかぎりの金色の稲穂

わたしを止めないで
標本箱の昆虫のように
高原からきた絵葉書のように
止めないでください　わたしは羽撃き
こやみなく空のひろさをかいさぐっている
目には見えないつばさの音

わたしを注がないで
日常性に薄められた牛乳のように
ぬるい酒のように
注がないでください　わたしは海
夜　とほうもなく満ちてくる
苦い潮　ふちのない水

わたしを名付けないで
娘という名　妻という名
重々しい母という名でしつらえた座に
坐りきりにさせないでください　わたしは風
りんごの木と
泉のありかを知っている風

わたしを区切らないで
，や・いくつかの段落
そしておしまいに「さようなら」があったりする手紙のようには
こまめにけりをつけないでください　わたしは終りのない文章
川と同じに
はてしなく流れていく　拡がっていく
一行の詩



作者　**新川和江**　一九二九（昭和四）――二〇二四（令和六）　茨城県出身。詩人。
著書　詩集「睡り椅子」「ひとつの夏　たくさんの夏」「ローマの秋・その他」「比喩でなく」「海と愛」など。
出典　「新川和江詩集」

※**あらせいとう**＝アブラナ科の多年草。四、五月頃、赤・紫・桃色などの四弁花が房状になって咲く。別名、ストック。

新出漢字

216 稲 トウ いね いな

216 穂 スイ ほ

216 焦 ショウ こげる こがす こがれる（あせる）

漢字の練習

広がる読書

「名づけられた葉なのだから」
新川和江



書く　話す・聞く

三年間の歩みを振り返ろう

冊子にまとめて、発表会をする

あなたの中学校生活は、どのような「学び」の三年間だっただろうか。これまでの歩みを振り返って冊子にまとめ、「これまで」と「これから」の学びについて語り合おう。



目標
- 文章の種類と特徴について理解する。（知る）
- 構成を工夫し、内容を効果的に伝える。（書く）
- 場の状況に応じ、わかりやすく話す。（話・聞）

集める・整理する

1 冊子のテーマを決める

- 印象に残っている学習を思い出し、それらを基に、自分にとっての３年間の学びを総括するテーマを考える。

組み立てる

2 冊子の内容と構成を考える

- テーマを基に収録する記事を決め、それが効果的に伝わる文章の種類を選ぶ。
- 冊子全体と紙面の構成を考える。

表現する

3 冊子を作る

- ３年間の学びを冊子にまとめる。

共有する

4 グループで発表会を開く

- 冊子の内容を紹介し、それと関連させて「これまで」と「これから」の学びについて発表する（各３分）。
- 質疑応答をし、考えを深める（各２分）。

振り返る ← 223ページ

生かす
- 日常　お世話になった人に、思い出をまとめた冊子を送る。
- 将来　自分史エッセイを書く。

221ページ 学びの展望
［書く］260ページ 論理や表現｜論理の展開
［話す・聞く］260ページ 合意形成｜質問｜構成の工夫

学びのカギ

これからの学びを展望する

学びを「振り返る」とはどういうことか、改めて考えよう。
その気づきを日々の学習にも生かし、振り返りの質を高めよう。



大竹さん

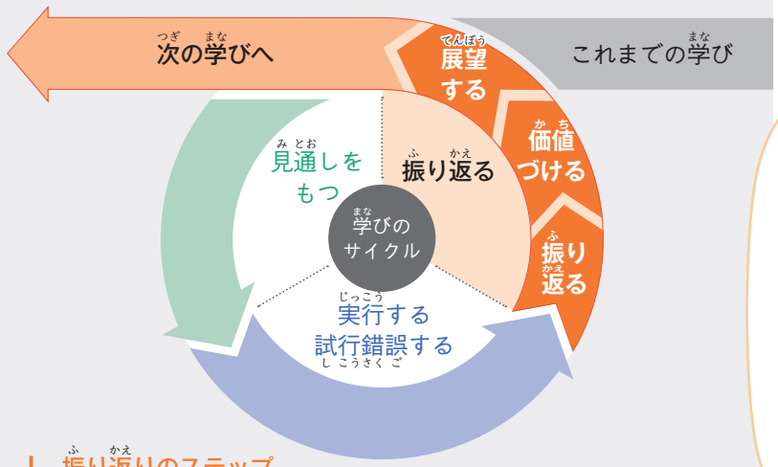
【「これまで」の学びをまとめる】
- 振り返った内容から共通点を見つけ、抽象化することで、「これまで」の学びの意義や価値を考える。
- 次のような点を意識して、言語化する。
  - ・○○を通して身につけた力。
  - ・○○から受けた影響や、考えの変化。
  - ・自分にとって○○の学びとは。

【「これから」の学びに生かす】
- 抽象化した「これまで」の学びを基に、「これから」の見通しをもつ。
  - ・どう学びを深めていきたいか。
  - ・日常生活でどう生かしていくか。
  - ・今後の目標と、達成に向けた行動。

260ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

学びのサイクル



振り返りのステップ

［振り返る］
学習活動を思い起こし、自分が身につけた力を確かめる。

［価値づける］
身につけた力が、他の場面でどう役立っているかを考える。

［展望する］
学んだことを、今後どう生かしていくか、見通しをもつ。

■テーマを決める

印象に残っている学習に共通する点などから、テーマを考える。

例・話し合いの授業で、友達から新たな視点を得られることに喜びを感じた。
・「温かいスープ」が思いやりについて改めて考えるきっかけになった。
⬇テーマ「他者との関わり」



■内容と構成を考える

●内容と文章の種類を考える

内容	目的	種類
中学校生活で出会った忘れられない言葉。困難にぶつかったときに、それらの言葉が自分を支えてくれた。	体験を通して感じたことを伝えたい。	随筆
	気持ちや場面を生き生きと伝えたい。	物語
	根拠をもって物事の特性や価値を伝えたい。	批評文

●紙面構成を考える

・目的に合わせて、記事の分量と文章の構成を考える。
・読み手を引きつける見出しやキャッチコピーを付ける。
・見出しや文章、イラストなどの配置を工夫する。

■冊子を作る

心の支えになった言葉

一年「星の花が降るころに」
大丈夫、きっとなんとかやっていける。
父の仕事の都合で転校することになったとき、新しい学校になじめるか不安だったけれど、……

二年「走れメロス」
「まだ日は沈まぬ。」
部活動の試合で負けそうになったとき、この言葉を自分に言い聞かせることで、……

三年「握手」
「困難は分割せよ。」
理科の自由研究がなかなか思うように進まなかったとき、問題を一つずつ洗い出し、……

「続けてみよう」の記録
知らないことに気づくのが学びの始まりだ。
友達と美術館に行ったとき、知らないことが多くて話についていけず、落ち込んでいたら……



■発表会を開く

［発表の例］

初め	中	終わり
三年間の学校生活の中で、僕はたくさんの心引かれる言葉に出会い、「言葉のもつ力」を実感しました。そこで僕は、（冊子を見せながら）「『言葉』でたどる私の学び」と題して、冊子をまとめました。（間を取り、周囲の反応を見る）	その中でも、いちばん印象に残っているのは、二年生のときに学習した「走れメロス」の（ゆっくりと発声する）「まだ日は沈まぬ。」という言葉です。この言葉を知ってから、僕は、部活動の試合で負けそうになったとき、「いや、まだ日は沈まぬ。」と自分に言い聞かせるようになりました。そうすると、自然に力が湧いてきて、最後まで集中力を切らすことなく、自分の力を最大限に発揮することができました。 このように、僕はこの言葉に何度も助けられ、諦めない姿勢を学びました。（少し大きな声で、強調する）たった一言の言葉との出会いが、物事をすぐに投げ出していた自分を変えてくれたのです。 （意思が伝わるように、元気な声で）言葉には人を動かす力があります。これからも、言葉との出会いを大切にして、新しい自分を見つけていきたいと思います。

［質疑応答の例］



坂本　大竹さんの発表を聞いて、私も自分が出会った言葉を見直そうと思いました。「言葉には人を動かす力があ」ると言っていましたが、その発見をどのように生かしていきたいですか。



大竹　これまでは、本や友達の言葉に自分が支えてもらうばかりでした。しかし、これからは、僕も言葉で誰かを支えていきたいです。落ち込んでいる友達を見かけたときには、恥ずかしがらずに、思いを言葉にして伝えていこうと思います。

言の葉ポケット

学びを総括するとき

●俯瞰してみると／全体を見返すと……。
●以上のことから／このように／総合すると……。
●……という共通点に気づきました。
●……という点で、意義／価値がありました。

振り返る

知る	□文章の種類とその特徴に関する知識をどのように生かしたか。
書く	□記事の内容を効果的に伝えるために、どのように構成を工夫したか。
話す・聞く	□場の状況に応じて話すために、どのようなことに気をつけたか。
つなぐ	□友達の発表を聞いて、気づいたことや、さらに考えが深まったことを挙げてみよう。

初日

池田 瑛子

●詩の中の言葉や表現から、描かれた情景や心情を捉え、その内容について話し合おう。

かすかな響きが走り
風がすばやく
曙をほどいてゆくと
ういういしい光は
ほのかに空をうるませた

くりかえし夜明けは訪れるのに
初めての誕生を待つようだ
胸の底ふかく
陽は射しこむだろう
見失いかけたもののかたちを
鮮やかに浮かびあがらせて



作者 **池田瑛子** 一九三八（昭和一三）――富山県出身。
著書 詩集「嘆きの橋」「母の家」「秋の記憶」「縄文の櫛」「岸辺に」「星表の地図」など。
出典 「池田瑛子詩集」
詩人。

広がる読書

「池田瑛子詩集」
池田瑛子



漢字に親しもう5

新しく習う漢字 306ページ

1 ア～ウのうち、――線部の読みが違うものを選んで読み方を書こう。

【漢字の読み】

① ア 暫定　イ 斬新　ウ 漸次　［　　］

② ア 征服　イ 証明　ウ 正確　［　　］

③ ア 鍛錬　イ 陳謝　ウ 練習　［　　］

2 次の熟語を読み、音訓の組み合わせをア～エの中から選ぼう。

【熟語の読み方】

① 座禅［　　］（　　）　② 蚊柱［　　］（　　）

③ 朱色［　　］（　　）　④ 胃袋［　　］（　　）

⑤ 渋柿［　　］（　　）　⑥ 瓦版［　　］（　　）

⑦ 石碑［　　］（　　）　⑧ 難癖［　　］（　　）

⑨ 建坪［　　］（　　）　⑩ 邦楽［　　］（　　）

ア 音＋音（例 同僚）　イ 訓＋訓（例 岩肌）

ウ 音＋訓（例 歩幅）　エ 訓＋音（例 奥地）

3 次の――線部は〈土〉が部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。

【同じ部首の漢字】

① 塑像［　　］　② 金塊［　　］

③ 堕落［　　］　④ 垣根［　　］

4 次の熟語を読み、構成が同じものを線で結ぼう。

【熟語の構成】

① 忘恩［　　］・　・ア 貸与

② 花園［　　］・　・イ 退職

③ 今昔［　　］・　・ウ 深浅

④ 引率［　　］・　・エ 雄姿

新しく習う音訓　・は中学校で学習する音訓 317ページ

新出漢字

226 蚊（カ）　226 坪（つぼ）　226 堕（ダ）

226 暫（ザン）　226 朱（シュ）　226 邦（ホウ）　226 垣（かき）

226 征（セイ）　226 柿（かき）　226 塑（ソ）

226 錬（レン）　226 瓦（かわら）（分）　226 塊（カイ かたまり）

226 禅（ゼン）　226 碑（ヒ）

漢字一覧表



学びを深める

文法　一、二年生の復習 …… 228
文法1　文法を生かす …… 230
文法2　文法のまとめ …… 233
小学校六年生で学習した漢字一覧 …… 240
国語の力試し …… 242
語彙ブック …… 247

文法

一、二年生の復習

1 言葉の単位

文は、次のような単位に分けられる。

・文 ・文節 ・単語

文 ［山の 上に 涼しい 風が 吹く。］
文節 ［山の］［上に］［涼しい］［風が］［吹く］。
単語 山 の 上 に 涼しい 風 が 吹く 。

文は、さまざまな働きをする文節が相互に関係をもつことで組み立てられている。文を組み立てる部分となる文節や連文節を、**文の成分**という。

文節どうしの関係
- **主・述の関係**……**主語・述語（主部・述部）**
- **修飾・被修飾の関係**……**修飾語（修飾部）**
- **接続の関係**……**接続語（接続部）**
- **独立の関係**……**独立語（独立部）**

文の成分（ ）内は連文節の場合
- **主語・述語（主部・述部）**
- **修飾語（修飾部）**
- **接続語（接続部）**
- **独立語（独立部）**

2 文の組み立て

山の（修）上に（修）涼しい（主）風が（主）吹く。（述）

●**文** 一まとまりの内容を表す一続きの言葉。最後に「。（句点）」を付ける。

●**文節** 発音や意味のうえで不自然にならないように、文をできるだけ短く区切ったまとまり。間に「ね」などを入れて区切れるかどうかを確認する。

●**単語** 文法上、意味や働きをもつ言葉としては、最小の単位。

●**主・述の関係**［主語（部）・述語（部）］
主語（部）＝「何（誰）が」を表す。
述語（部）＝「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」「ない」を表す。

●**修飾・被修飾の関係**［修飾語（部）］
他の文節を説明したり、内容を補ったりする。

●**接続の関係**［接続語（部）］
文と文、文節と文節をつなぐ。
・寒かった。だから、行かなかった。
・寒かったから、行かなかった。

●**独立の関係**［独立語（部）］
他の文節とは直接関係がない。
・おや、つばめだ。 ・はい、田中です。

3 単語の分類

単語は、**自立語**と**付属語**、**活用の有無**で大きく分類できる。そのうえで、どんな文の成分になるか、言い切りの形は何かなどの基準で詳しく分類したものを、**品詞**という。

・**自立語・付属語** ・**活用の有無** ・**品詞**

自立語／付属語	活用の有無	
山	無	自立
の	無	付属
上	無	自立
に	無	付属
涼しい	有	自立
風	無	自立
が	無	付属
吹く	有	自立

●**自立語** 単独で文節を作ることができる。
活用する……動詞・形容詞・形容動詞（用言）
※用言の活用の種類と活用形は次を参照。
237ページ 口語動詞活用表
237ページ 口語形容詞活用表・口語形容動詞活用表
活用しない…名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞

●**付属語** 単独では文節を作ることができない。
活用する……助動詞
238ページ 口語助動詞活用表
活用しない…助詞
239ページ 主な助詞

【品詞分類表】

- 単語
  - 自立語
    - 活用する
      - 述語になる（用言）
        - ウ段で終わる ― 動詞 ― 動作・作用・存在を表す 〈例〉歌う・ある
        - 「い」で終わる ― 形容詞 ― 状態・性質を表す 〈例〉楽しい・美しい
        - 「だ・です」で終わる ― 形容動詞 ― 状態・性質を表す 〈例〉変だ・きれいだ
      - 主語になる（体言） ― 名詞 ― 人・物・事柄などを表す 〈例〉生徒・犬・机・それ
    - 活用しない
      - 修飾語になる
        - 主に連用修飾語になる ― 副詞 ― 主に用言を修飾する 〈例〉ゆっくり・もし
        - 連体修飾語になる ― 連体詞 ― 体言だけを修飾する 〈例〉この・大きな
      - 接続語になる ― 接続詞 ― 主に文と文をつなぐ 〈例〉だから・しかし
      - 独立語になる ― 感動詞 ― 感動・呼びかけ・応答を表す 〈例〉あら・はい
  - 付属語
    - 活用する ― 助動詞 ― 〈例〉たい・た・です
    - 活用しない ― 助詞 ― 〈例〉が・は・を・に

ぶんぽう 文法 1

文法を生かす

1 文法を生かして伝え合う

文章を推敲していて不自然だと感じたら、その部分が文法に則しているかどうかを確認してみるとよい。推敲するときに特に気をつけたいのが、文節や連文節の対応と、意味のまとまりである。

1 文節・連文節の対応

文は、文節や連文節が次のような関係で結び付くことで成り立っている。

- **主・述の関係**
- **修飾・被修飾の関係**
- **接続の関係**
- **独立の関係**

例えば、主語（部）と述語（部）、修飾語（部）と修飾される文節（連文節）がうまく対応していない文は、読む人に不自然な印象を与える。

推敲するときは、どの文節がどの文節に対応しているかを意識しよう。

× 司会をするとき、僕が意識するのは、常に論点を明確にする。
主 僕が意識するのは → × 述 明確にする

○ 司会をするとき、僕が意識するのは、常に論点を明確にすることだ。
主 僕が意識するのは → ○ 述 明確にすることだ

○ 司会をするとき、僕は、常に論点を明確にすることを意識する。
主 僕は ——→ ○ 述 意識する

▼次の文の文節や連文節の対応を整えて、読みやすくなるように書き直そう。

① 私の夢は、人の役に立つ仕事がしたいです。

② 兄が何かおもしろいことを言って、妹に笑わせている。

③ 僕には、加山さんが問題を深刻に捉えすぎているように思う。

④ 私が絵を習い始めたきっかけは、親友に絵を褒めてもらったことと、美術館で見たゴッホの絵に感激したことが、きっかけです。

推敲のポイント

- ある文節とそれに対応する文節が、自然につながるかどうかを確認する。

2 意味のまとまり

文節・連文節が複雑に関係し合った文の場合、どこからどこまでを一まとまりと捉えてよいか、わからないことがある。

推敲するときは、読む人が意味のまとまりを明確に把握できるよう、文節の関係を整理しよう。

推敲のポイント

- 読点を打ったり、文を分けたり、文節の順序を入れ替えたりして、意味のまとまりを明確にする。

読点を入れる

A 試合に出る 田中さんの 弟が 来た。
B 試合に出る 田中さんの 弟が 来た。
↓
A 試合に出る、田中さんの、弟が来た。
B 試合に出る、田中さんの弟が来た。

A 試合に出る 田中さんの 弟が 来た。
B 試合に出る 田中さんの 弟が 来た。
↓
A 試合に出るのは「田中さん」。
B 試合に出るのは「田中さんの弟」。

文を分ける・文節の順序を入れ替える

A 田中さんは試合に出る。彼の弟が来た。
B 田中さんの弟が来た。彼は試合に出る。

▼次の文は、二通りの解釈ができる。それぞれの解釈がわかりやすく伝わるように、読点を打ったり、文節の順序を入れ替えたりして直してみよう。

① 上野さんは高橋さんと松本さんに町の歴史をきいた。

② 私は兄のようにスポーツが得意ではない。

③ 昨日完成した卒業アルバムが職員室に届いた。

④ 水谷さんは図書館にある本を運んだ。

3 呼応の副詞

呼応の副詞は、その副詞に対応する語で受けなければならない。呼応の副詞だけを単独で使うと、文が成り立たない場合があるので注意しよう。

呼応の副詞の例

- たとえ……ても（でも）……。
- もし……なら（ば）……。
- 決して……ない。
- まるで……ようだ。
- なぜ……か。
- たぶん……だろう。

▼——線部の呼応の副詞に対応する言葉を□に入れ、……に合う内容を考えて短文を作ろう。

① まるで絵画の□……。

② たとえ月日が流れ□、私は決して……□。

練習問題

2 文法を生かして読み味わう

与謝蕪村

さみだれや大河を前に家二軒

文学作品は、選び抜かれた言葉で構成されている。この句を、次の例と比べてみよう。

〈例〉さみだれや大河の前に家二軒

助詞一語を入れ替えただけでも、句の印象は大きく変わる。

……を前に　「……を前にして」の省略。前後で述べられる二つのものの対比が強調される。

〈例〉△学校を前に（して）文具店がある。

○全校生徒を前に（して）、彼女は語った。

……の前に　「……」の前に何かがある状態を表す。位置や場所を説明している。

〈例〉○学校の前に文具店がある。

×全校生徒の前に、彼女は語った。

「を」と「の」のどちらの助詞を使っても、さみだれで水かさが増した大河の前に家が二軒ある状況は等しく読み取れる。しかし、蕪村作の「大河を前に」の句は、状況の説明にとどまらず、家二軒が大河に対峙するような存在として浮かび上がってくるのではないだろうか。僅かな言葉の違いで、作品の世界は大きく変わる。同じ働きをもつ別の言葉に置き換えたり、その言葉が別の文でどのように使われるかを考えたりすることによって、その言葉が選ばれた理由が理解できる。

▼次の――線部の助詞を［　］内の助詞と置き換えて比較し、意味や表現効果について考えよう。

①米洗ふ前に蛍の二つ三つ　作者未詳　［を・へ］

②六月を奇麗な風の吹くことよ　正岡子規　［に・は］

▼次の（　）の中に［　］内の助詞を入れ、それぞれの使い分けについて考えよう。

①僕は校庭（　）走った。　［へ・で・を］

②明日（　）晴れるだろう。　［は・も・こそ］

文法 2

文法のまとめ

1 言葉の単位

▼次の文を、〈例〉にならって文節ごとに／で区切り、単語ごとに――線を引こう。

〈例〉明け方に／雨が／降った。

□❶カップに温かい紅茶を注ぐ。

□❷新鮮な魚を手早く調理する。

□❸郵便ポストに手紙を出しに行く。

□❹バスの出発時刻を確かめておく。

□❺選手たちは一斉にプールに飛び込んだ。

□❻妹ばかりでなく、弟まで僕に反対した。［　］

ア 主・述の関係　イ 修飾・被修飾の関係
ウ 補助の関係　エ 並立の関係

練習問題

2 文の組み立て

▼次の文の――線部の文節どうしの関係を、後の［　］から選んで、記号で答えよう。

□❶自転車で河原に行ってみる。［　］

□❷合唱団の歌声が講堂に響き渡った。［　］

□❸飛行船がゆっくりと上空を通過した。［　］

□❹日が傾いて、空も海も赤く染まった。［　］

□❺祖父は繰り返し平和の尊さを語った。［　］

3 単語の分類

▼次の文の――線部ア～チの単語について、後の問いに記号で答えよう。

ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ
●手をきれいに洗い、それから昼食を取った。
コ サ シ ス セ ソ タ チ
●ああ、あの美しい山にいつか登りたい。

□❶自立語を全て選ぼう。［　］

□❷付属語を全て選ぼう。［　］

□❸活用する単語を全て選ぼう。［　］

□❹活用しない単語を全て選ぼう。［　］

4 自立語

▼❶〜❽がそれぞれ同じ品詞のグループになるように、［　］に入る単語を後の［　］から選ぼう。

□ ❶ ドア　北海道　一つ　［　　］
□ ❷ 回る　味わう　植える　［　　］
□ ❸ しかし　そして　だが　［　　］
□ ❹ ああ　おはよう　さあ　［　　］
□ ❺ もし　ゆっくり　さらさら　［　　］
□ ❻ 爽やかだ　無理だ　急だ　［　　］
□ ❼ この　あらゆる　おかしな　［　　］
□ ❽ 寒い　みずみずしい　新しい　［　　］

だから　とても　いいえ　窓
どの　浅い　変わる　のどかだ

▼次の――線部の品詞を〈　〉から選んで、記号で答えよう。

□ ❶ ア 小さな花が咲いている。　［　　］
イ 上着に小さい穴が空く。　［　　］
〈a 形容詞　b 連体詞〉

□ ❷ ア いろんな国を旅したい。　［　　］
イ いろいろな絵はがきを集める。　［　　］
〈a 形容動詞　b 連体詞〉

□ ❸ ア それは私の宝物です。　［　　］
イ その絵は僕が描いたものです。　［　　］
〈a 名詞　b 連体詞〉

□ ❹ ア 彼らは楽しそうに笑い、歌った。　［　　］
イ 兄はかすかな笑いを浮かべた。　［　　］
〈a 名詞　b 動詞〉

□ ❺ ア 子孫のために地球の自然を守る。　［　　］
イ あの監督は自然な表情を撮るのがうまい。　［　　］
〈a 名詞　b 形容動詞〉

□ ❻ ア あなたとまた会いたいと思います。　［　　］
イ 彼女は画家であり、また詩人でもある。　［　　］
〈a 副詞　b 接続詞〉

□ ❼ ア あれが私の通っている学校です。　［　　］
イ あれ、田中さんはどこに行ったのかな。　［　　］
〈a 名詞　b 感動詞〉

5 用言の活用

▼次の――線部の動詞について、Ⓐ活用の種類と、Ⓑ活用形を後の［　］から選んで、記号で答えよう。

□ ❶ まもなく彼が来る時間だ。　Ⓐ［　　］　Ⓑ［　　］
□ ❷ もう少し落ち着いて話せ。　Ⓐ［　　］　Ⓑ［　　］
□ ❸ 校門の前で友達を待つ。　Ⓐ［　　］　Ⓑ［　　］
□ ❹ 人の嫌がることはしない。　Ⓐ［　　］　Ⓑ［　　］
□ ❺ 試合開始から三十分が過ぎた。　Ⓐ［　　］　Ⓑ［　　］
□ ❻ 窓を閉めれば、静かになる。　Ⓐ［　　］　Ⓑ［　　］

Ⓐ活用の種類
a 五段活用　b 上一段活用　c 下一段活用
d カ行変格活用　e サ行変格活用

Ⓑ活用形
ア 未然形　イ 連用形　ウ 終止形
エ 連体形　オ 仮定形　カ 命令形

6 付属語

▼次の文の助詞には――線を、助動詞には～～線を引こう。

□ ❶ 食卓にスプーンとフォークを並べた。
□ ❷ バスで行けば、すぐ着くはずだよ。
□ ❸ 時間が遅いので、今日は帰ります。
□ ❹ 明日こそ倉庫の掃除をしたいと思う。
□ ❺ 友達に急に声をかけて、驚かせてしまった。

▼次の――線部が、Ⓐ形容詞なら○を、形容動詞なら△を［　］に書こう。また、Ⓑ活用形を後の［　］から選んで、記号で答えよう。

□ ❶ この本は小学生には難しい。　［　　］　［　　］
□ ❷ 遠回りをしたほうが安全だろう。　［　　］　［　　］
□ ❸ 早ければ、正午に着くはずだ。　［　　］　［　　］
□ ❹ 夕方の商店街はにぎやかだった。　［　　］　［　　］
□ ❺ 真っ白な雲が浮かんでいる。　［　　］　［　　］
□ ❻ 詳しい地図で道順を確かめる。　［　　］　［　　］

ア 未然形　イ 連用形　ウ 終止形
エ 連体形　オ 仮定形

▼次の――線部の助詞と同じ働き・意味のものを選ぼう。

□ ❶ ノートの表紙に名前を書く。［　　］
ア 犬がそばに寄ってきた。
イ 電車の後、さらにバスに乗る。
ウ 先生は穏やかにお話しになった。

□ ❷ 晴れたから、洗濯物を外に干そう。［　　］
ア 北の方から風が吹いてきた。
イ 今日は疲れたから、早く寝よう。
ウ 牛乳からバターを作る。

□ ❸ 外は寒いが、部屋の中は暖かい。［　　］
ア 私が司会を務めます。
イ 兄は人を笑わせることが好きだ。
ウ よく考えたが、結論は出なかった。

□ ❹ 部屋の掃除は終わりましたか。［　　］
ア 何かおいしい物を食べましょう。
イ 参加するかしないか決めてください。
ウ 最近、どんな本を読みましたか。

▼次の――線部の助動詞と同じ働き・意味のものを選ぼう。

□ ❶ これは僕の腕時計だ。［　　］
ア このパソコンは持ち運びに便利だ。
イ 待ち合わせの時刻は午前十時だ。
ウ 皆眠っていて家の中は静かだ。

□ ❷ 彼の笑顔は太陽のようだ。［　　］
ア 池の水面がまるで鏡のようだ。
イ 赤ん坊はどうやら眠たいようだ。
ウ 熱戦に、観客は満足したようだ。

□ ❸ 電車はまもなく終点に着くそうだ。［　　］
ア 今夜は昨日よりも寒そうだ。
イ この人形は今にも動きそうだ。
ウ 練習の開始時間が変わるそうだ。

□ ❹ 明日は風が強いらしい。［　　］
ア 向こうから来るのは彼らしい。
イ 小鳥の鳴き声が愛らしい。
ウ 春らしい色のシャツを着る。

□ ❺ 先輩から励ましの声をかけられる。［　　］
ア 朝の風が快く感じられる。
イ 先生はもうすぐここに来られる。
ウ 向こうのドアからも外に出られる。
エ 監督に実力を認められる。

口語動詞活用表

活用の種類	五段活用				上一段活用		下一段活用		変格活用	
基本形	行く	笑う	運ぶ	ある	生きる	似る	答える	出る	カ変 来る	サ変 する
活用形＼後に付く主なもの＼語幹	い	わら	はこ	あ	い	［に］	こた	［て］	○	○
未然形 ―ない ―う／よう	か	わ おわ	ば	ろ（ら）	き	に	え	で	こ	し せ さ
連用形 ―ます ―た ―て	き	っ い っ	び ん	っ り	き	に	え	で	き	し
終止形 ―。	く	う	ぶ	る	きる	にる	える	でる	くる	する
連体形 ―とき ―ので	く	う	ぶ	る	きる	にる	える	でる	くる	する
仮定形 ―ば	け	え	べ	れ	きれ	にれ	えれ	でれ	くれ	すれ
命令形 ―。	け	え	べ	（れ）	きろ	にろ	えろ	でろ	こい	しろ

※表中に（　）で示した語形は、ほとんど用いられないか、用いられ方が限られるもの。
※カ変・サ変、全体で二音節しかない上一段・下一段の動詞（「似る」「出る」など）の場合、語幹と活用語尾は区別できない。表中には［　］で示した。

口語形容詞活用表

活用形＼後に付く主なもの＼語幹	基本形	未然形 ―う	連用形 ―た ―ない ―なる ―ございます	終止形 ―。	連体形 ―とき ―ので	仮定形 ―ば	命令形 ―。
明るい	あかる	かろ	かっ く う	い	い	けれ	○
早い	はや	かろ	かっ く	い	い	けれ	○
新しい	あたらし	かろ	かっ く	い	い	けれ	○

口語形容動詞活用表

活用形＼後に付く主なもの＼語幹	基本形	未然形 ―う	連用形 ―だっ ―で ―に	終止形 ―。	連体形 ―とき ―ので	仮定形 ―ば	命令形 ―。
明らかだ 重要だ	あきらか じゅうよう	だろ	だっ で に	だ	な	なら	○
明らかです 重要です	あきらか じゅうよう	でしょ	でし	です	（です）	○	○

口語助動詞活用表

意味	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	主な接続	用例
受け身・可能・尊敬・自発	れる	れ	れ	れる	れる	れれ	れろ／れよ	未然形（五段・サ変）	話を聞かれる。食べられる魚。先生が来られる。昔がしのばれる。
	られる	られ	られ	られる	られる	られれ	られろ／られよ	未然形（右以外）	
使役	せる	せ	せ	せる	せる	せれ	せろ／せよ	未然形（五段・サ変）	頭を働かせる。話をやめさせる。
	させる	させ	させ	させる	させる	させれ	させろ／させよ	未然形（右以外）	
希望	たい	たかろ	たく	たい	たい	たければ	○	連用形	あの曲をピアノで弾きたい。お菓子を食べたがる。
	たがる	たがろ	たがり	たがる	たがる	たがれば	○		
否定（打ち消し）	ない	なかろ	なく	ない	ない	なければ	○	未然形	彼のことは知らない。知らぬが仏。
	ぬ（ん）	○	ず	ぬ（ん）	ぬ（ん）	ね	○		
推量・意志・勧誘	う	○	（う）	う	う	○	○	未然形（五段・形容詞・形容動詞）	彼女も来るだろう。学校に行こう。いっしょにサッカーをしよう。
	よう	○	（よう）	よう	よう	○	○	未然形（右以外）	
過去・完了・存続・想起	た	たろ	た	た	た	たら	○	連用形	絵を描いた。本を読み終えた。
丁寧	ます	ませ／ましょ	まし	ます	ます	ますれ	（ませ）／（まし）	連用形	これから授業が始まります。
推定	らしい	○	らしかっ／らしく	らしい	らしい	○	○	体言・形容動詞の語幹・形容詞の終止形	外は雨らしい。
推定・比喩・例示	ようだ	ようだろ	ようだっ／ように	ようだ	ような	ようなら	○	連体形・体言＋「の」・連体詞「この」	雨が降るようだ。紅葉のような手。スミレのような春の花。
推定・様態	そうだ	そうだろ	そうだっ／そうに	そうだ	そうな	そうなら	○	連用形・形容詞・形容動詞の語幹	雨が降りそうだ。おいしそうだ。
伝聞	そうだ	そうで	そうで	そうだ	○	○	○	終止形	あの人は元気にやっているそうだ。
否定の意志・否定の推量	まい	○	○	まい	まい	（まい）	○	終止形（五段以外は未然形にも接続）	あそこには行くまい。
断定	だ	だろ	だっ／で	だ	な	なら	○	体言・助詞「の」※「です」は形容詞の終止形にも付く。	私は十四歳だ。ここが私たちの学校です。
	です	でしょ	でし	です	（です）	○	○		

※表中に（　）で示した語形は、ほとんど用いられないか、用いられ方が限られるもの。

主な助詞

格助詞	が	鳥が飛ぶ。［主語］
	を	本を読む。［対象］
	に	先生に話す。［相手］ 机に置く。［場所］ 六時に起きる。［時間］
	で	散歩に行く。［目的］ 紙で作る。［材料］ 風邪で学校を休む。［理由］ バスで行く。［手段］
	と	「賛成。」と言う。［引用］ 梨とぶどうを買う。［並立］
	から	大阪から来る。［起点］
	へ	南へ向かう。［方向］
	より	姉は私より長身だ。［比較の基準］
	の	木の名前。［連体修飾］ この本は彼のだ。［体言の代用］ 祖母の作った話。［後の動作や状態の主語］
	や	赤や青の絵の具。［並立］
副助詞	は	僕は知らない。［取り立て・限定］
	も	私も帰る。［他に同類がある］
	こそ	来年こそがんばろう。［強調］
	まで	子供にまで笑われる。［極端な例］
	でも	専門家でも知らない。［極端な例］
	だけ	好物だけ食べる。［限定］
	しか	私しか知らない。［否定と呼応する限定］
	さえ	行きさえすればよい。［限定］
	ばかり	テレビばかり見ている。［限定］
	きり	一度きりの学生生活。［限定］
	など	お茶などを飲む。［例示］
	とか	○○とか□□とか言う。［例示］
	ほど	一時間ほどたった。［程度］
	くらい（ぐらい）	このペンは五百円ぐらいする。［程度］
	か	どこかへ行きたい。［不確実］
	ずつ	あめを三個ずつ配る。［割り当て］
接続助詞	から	疲れたから、休もう。［理由］
	ので	走ったので、疲れた。［理由］
	て（で）	熱を出して、早退する。［原因・理由］
	ても（でも）	ご飯を食べて、歯を磨く。［先行］
	が	この部屋は広くて、あの部屋は狭い。［並立］
	けれども（けれど、けども）	雨が降れば、中止にする。［条件］
	ながら	日が落ちると、暗くなる。［順接］
	つつ	訪ねたが、いなかった。［逆接］
	し	試したけれど、できなかった。［逆接］
	ば	呼んだのに来ない。［逆接］
	と	たとえ今電話をかけても、出ないだろう。［仮定の逆接］
	が	歩きながら話す。［同時］
	のに	散歩をしつつ考える。［同時］
	ても（でも）	あの人は絵も描けるし、ピアノも弾ける。［並立］
	ながら	
	つつ	
	し	
終助詞	か	彼も行くのだろうか。［疑問］
	な	誰にも言うな。［禁止］
	なあ	きれいな空だなあ。［感動］
	ぞ	本当らしいぞ。［強調］
	かしら	今、何時かしら。［疑問］
	ね（ねえ）	本当に天気がよいですね。［感動］
	よ	林さんなら帰ったよ。［告知］
	の	どこに行くの。［疑問］
	わ	とても美しいわ。［感動］
	とも	知っているとも。［強調］
	さ	どうせ無理さ。［軽い断定］
	や	これは手厳しいや。［詠嘆］

小学校六年生で学習した漢字一覧（一九一字）

●片仮名は音読みを、平仮名は訓読みを、太字は送り仮名を示す。
●●は中学校で学習する音訓。
●●（ ）内は中学校では学習しもよい音訓。

あ行

胃 イ 胃胃胃胃
異 イ こと 異異異異
遺 イ ユイ 遺遺遺遺
域 イキ 域域域域
宇 ウ 宇宇宇宇
映 エイ うつる・うつす・はえる 映映映映映
延 エン のびる・のべる・のばす 延延延延
沿 エン そう 沿沿沿沿
恩 オン 恩恩恩恩
我 ガ われ・わが 我我我我
灰 カイ はい 灰灰灰灰
拡 カク 拡拡拡拡
革 カク かわ 革革革革
閣 カク 閣閣閣閣
割 カツ わる・わり・われる・さく 割割割割
干 カン ほす・ひる 干干干干
株 かぶ 株株株株
巻 カン まく・まき 巻巻巻巻
看 カン 看看看看
簡 カン 簡簡簡簡
危 キ あぶない・あやうい・あやぶむ 危危危危
机 キ つくえ 机机机机
揮 キ 揮揮揮揮
貴 キ たっとい・とうとい・たっとぶ・とうとぶ 貴貴貴貴
疑 ギ うたがう 疑疑疑疑
吸 キュウ すう 吸吸吸吸
供 キョウ（ク） そなえる・とも 供供供供
胸 キョウ むね・むな 胸胸胸胸
郷 キョウ ゴウ 郷郷郷郷
勤 キン（ゴン） つとめる・つとまる・いそしむ 勤勤勤勤
筋 キン すじ 筋筋筋筋
系 ケイ 系系系系
敬 ケイ うやまう 敬敬敬敬
警 ケイ 警警警警
劇 ゲキ 劇劇劇劇
激 ゲキ はげしい 激激激激
穴 ケツ あな 穴穴穴穴
券 ケン 券券券券
絹 ケン（キヌ） 絹絹絹絹
権 ケン（ゴン） 権権権権

か行

恩 オン 恩恩恩恩
我 ガ われ・わが 我我我我
灰 カイ はい 灰灰灰灰
拡 カク 拡拡拡拡
革 カク かわ 革革革革
閣 カク 閣閣閣閣
割 カツ わる・わり・われる・さく 割割割割
干 カン ほす・ひる 干干干干
株 かぶ 株株株株
巻 カン まく・まき 巻巻巻巻
看 カン 看看看看
簡 カン 簡簡簡簡
危 キ あぶない・あやうい・あやぶむ 危危危危
机 キ つくえ 机机机机
揮 キ 揮揮揮揮
貴 キ たっとい・とうとい・たっとぶ・とうとぶ 貴貴貴貴
疑 ギ うたがう 疑疑疑疑
吸 キュウ すう 吸吸吸吸
供 キョウ（ク） そなえる・とも 供供供供
胸 キョウ むね・むな 胸胸胸胸
郷 キョウ ゴウ 郷郷郷郷
勤 キン（ゴン） つとめる・つとまる・いそしむ 勤勤勤勤
筋 キン すじ 筋筋筋筋
系 ケイ 系系系系
敬 ケイ うやまう 敬敬敬敬
警 ケイ 警警警警
劇 ゲキ 劇劇劇劇
激 ゲキ はげしい 激激激激
穴 ケツ あな 穴穴穴穴
券 ケン 券券券券
絹 ケン（キヌ） 絹絹絹絹
権 ケン（ゴン） 権権権権
憲 ケン 憲憲憲憲
源 ゲン みなもと 源源源源
厳 ゲン（ゴン） おごそか・きびしい 厳厳厳厳
己 コ キ おのれ 己己己己
呼 コ よぶ 呼呼呼呼
誤 ゴ あやまる 誤誤誤誤
后 コウ 后后后后
孝 コウ 孝孝孝孝
皇 コウ オウ 皇皇皇皇
紅 コウ べに・くれない 紅紅紅紅
降 コウ おりる・おろす・ふる 降降降降
鋼 コウ はがね 鋼鋼鋼鋼
刻 コク きざむ 刻刻刻刻
穀 コク 穀穀穀穀
骨 コツ ほね 骨骨骨骨
困 コン こまる 困困困困
砂 サ すな 砂砂砂砂

さ行

座 ザ すわる 座座座座
済 サイ すむ・すます 済済済済
裁 サイ たつ・さばく 裁裁裁裁
策 サク 策策策策
冊 サツ（サク） 冊冊冊冊
蚕 サン かいこ 蚕蚕蚕蚕
至 シ いたる 至至至至
私 シ わたくし・わたし 私私私私
姿 シ すがた 姿姿姿姿
視 シ 視視視視
詞 シ 詞詞詞詞
誌 シ 誌誌誌誌
磁 ジ 磁磁磁磁
射 シャ いる 射射射射
捨 シャ すてる 捨捨捨捨
尺 シャク 尺尺尺尺
若 ジャク（ニャク） わかい・（もしくは） 若若若若
樹 ジュ 樹樹樹樹
収 シュウ おさめる・おさまる 収収収収
宗 シュウ ソウ 宗宗宗宗
就 シュウ（ジュ） つく・つける 就就就就
衆 シュウ（シュ） 衆衆衆衆
従 ジュウ（ショウ） （ジュ） したがう・したがえる 従従従従
縦 ジュウ たて 縦縦縦縦
縮 シュク ちぢむ・ちぢまる・ちぢめる・ちぢれる・ちぢらす 縮縮縮縮
熟 ジュク うれる 熟熟熟熟
純 ジュン 純純純純
処 ショ 処処処処
署 ショ 署署署署
諸 ショ 諸諸諸諸
除 ジョ のぞく 除除除除
承 ショウ うけたまわる 承承承承
将 ショウ 将将将将
傷 ショウ きず・いたむ・いためる 傷傷傷傷
障 ショウ（さわる） 障障障障
蒸 ジョウ むす・むれる・むらす 蒸蒸蒸蒸

た行

針 シン はり 針針針針
仁 ジン ニ 仁仁仁仁
垂 スイ たれる・たらす 垂垂垂垂
推 スイ おす 推推推推
寸 スン 寸寸寸寸
盛 セイ（ジョウ） もる・さかる・さかん 盛盛盛盛
聖 セイ 聖聖聖聖
誠 セイ まこと 誠誠誠誠
舌 ゼツ した 舌舌舌舌
宣 セン 宣宣宣宣
専 セン もっぱら 専専専専
泉 セン いずみ 泉泉泉泉
洗 セン あらう 洗洗洗洗
染 セン そめる・そまる・しみる・（しみ） 染染染染
銭 セン ぜに 銭銭銭銭
善 ゼン よい 善善善善
奏 ソウ（かなでる） 奏奏奏奏
窓 ソウ まど 窓窓窓窓
創 ソウ つくる 創創創創
装 ソウ ショウ （よそおう） 装装装装
層 ソウ 層層層層
操 ソウ（みさお） あやつる 操操操操
蔵 ゾウ くら 蔵蔵蔵蔵
臓 ゾウ 臓臓臓臓
存 ソン ゾン 存存存存
尊 ソン たっとい・とうとい・たっとぶ・とうとぶ 尊尊尊尊
退 タイ しりぞく・しりぞける 退退退退
宅 タク 宅宅宅宅
担 タン（かつぐ）（になう） 担担担担
探 タン さぐる・さがす 探探探探
誕 タン 誕誕誕誕
段 ダン 段段段段
暖 ダン あたたか・あたたかい・あたたまる・あたためる 暖暖暖暖
値 チ ね・あたい 値値値値
宙 チュウ 宙宙宙宙
忠 チュウ 忠忠忠忠
著 チョ あらわす・いちじるしい 著著著著
庁 チョウ 庁庁庁庁
頂 チョウ いただく・いただき 頂頂頂頂
腸 チョウ 腸腸腸腸
潮 チョウ しお 潮潮潮潮
賃 チン 賃賃賃賃
痛 ツウ いたい・いたむ・いためる 痛痛痛痛
敵 テキ かたき 敵敵敵敵
展 テン 展展展展
糖 トウ 糖糖糖糖
党 トウ 党党党党
討 トウ うつ 討討討討
届 とどける・とどく 届届届届

な行

乳 ニュウ ち 乳乳乳乳
難 ナン（かたい） むずかしい 難難難難
認 ニン みとめる 認認認認
納 ノウ ナッ （ナ）（ナン）（トウ） おさめる・おさまる 納納納納
脳 ノウ 脳脳脳脳
派 ハ 派派派派
拝 ハイ おがむ 拝拝拝拝
背 ハイ せい・そむく・そむける 背背背背
肺 ハイ 肺肺肺肺
俳 ハイ 俳俳俳俳
晩 バン 晩晩晩晩
否 ヒ（いな） 否否否否
批 ヒ 批批批批
秘 ヒ ひめる 秘秘秘秘
俵 ヒョウ たわら 俵俵俵俵
腹 フク はら 腹腹腹腹
奮 フン ふるう 奮奮奮奮
並 ヘイ なみ・ならべる・ならぶ・ならびに 並並並並
閉 ヘイ とじる・とざす・しめる・しまる 閉閉閉閉
片 ヘン かた 片片片片
補 ホ おぎなう 補補補補
暮 ボ くれる・くらす 暮暮暮暮
宝 ホウ たから 宝宝宝宝
訪 ホウ おとずれる・たずねる 訪訪訪訪
亡 ボウ（モウ）（ない） 亡亡亡
忘 ボウ わすれる 忘忘忘忘
棒 ボウ 棒棒棒棒
幕 マク 幕幕幕幕
枚 マイ 枚枚枚枚
密 ミツ 密密密密
盟 メイ 盟盟盟盟
模 ボ モ 模模模模
訳 ヤク わけ 訳訳訳訳
郵 ユウ 郵郵郵郵
優 ユウ やさしい・すぐれる 優優優優
預 ヨ あずける・あずかる 預預預預
幼 ヨウ おさない 幼幼幼幼
欲 ヨク（ほっする） ほしい 欲欲欲欲
翌 ヨク 翌翌翌翌
乱 ラン みだれる・みだす 乱乱乱乱
卵 ラン たまご 卵卵卵卵
覧 ラン 覧覧覧覧
裏 リ うら 裏裏裏裏
律 リツ（リチ） 律律律律
臨 リン のぞむ 臨臨臨臨
朗 ロウ ほがらか 朗朗朗朗
論 ロン 論論論論

国語の力試し

身につけた資質・能力を活用して、問題に取り組もう。



問題の構成

- 読む力……1 2
- 話す力・聞く力……1 2
- 書く力……1 2
- 知識・技能……1 2 3

時間の目安

40分

振り返りのヒント

行き詰まったときには、該当ページを見てみよう。

000ページ

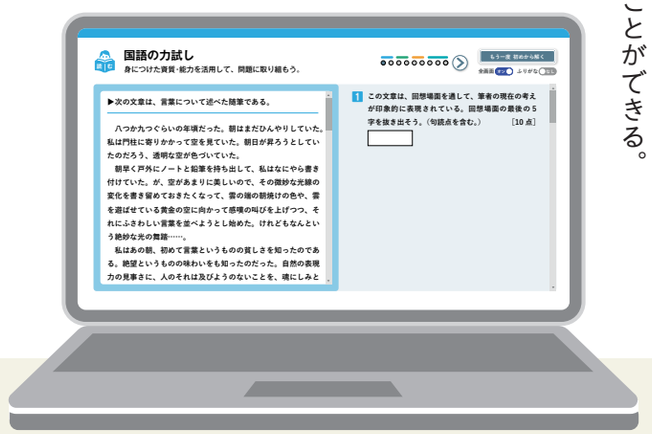
問題と関連する「学びのカギ」や、小教材・コラムを示している。

その問題で確かめる、資質・能力を示している。

タブレットやパソコンで問題に取り組もう

※スマートフォンでは使用できません。

- 右の二次元コードを読み取ると、ウェブサイトで問題を解くことができる。
- 解答表示や自己採点の機能を使い、身につけた力を確認しよう。
- 時間があれば、ウェブサイト用の発展問題にも挑戦してみよう。



読む力

▼左の文章は、言葉について述べた随筆である。

八つか九つぐらいの年頃だった。朝はまだひんやりしていた。私は門柱に寄りかかって空を見ていた。朝日が昇ろうとしていたのだろう、透明な空が色づいていた。

朝早く戸外にノートと鉛筆を持ち出して、私はなにやら書き付けていた。が、空があまりに美しいので、その微妙な光線の変化を書き留めておきたくなって、雲の端の朝焼けの色や、雲を遊ばせている黄金の空に向かって感嘆の叫びを上げつつ、それにふさわしい言葉を並べようとし始めた。けれどもなんという絶妙な光の舞踏……。

私はあの朝、初めて言葉というものの貧しさを知ったのである。絶望というものの味わいをも知ったのだった。自然の表現力の見事さに、人のそれは及びようのないことを、魂にしみとおらせた。打ちしおれる心と見事な自然の言葉に声を失う思いとを、共に抱き、涙ぐむようにしていると、父が出てきて、笑顔を向けてくれた。

何を話してくれたか、もう記憶にない。ただあのときの強い体験にふさわしいよううないたわりが、父から流れてきたことだけが残っている。空が白くなり、人間たちの朝が動いていく気配が満ちた。

いつのまにか文筆に関わって生きてきたけれど、言葉に対する私の感じ方の中には、あの朝の体験が深く広がっているようである。それは人間たちの深々とした生の営みの中で、言語化されている部分の小ささ、貧しさへの思いである。いや、まだ言葉になっていない広い領域のあることに対する、いとしさである。

言葉は朝焼けの中の八歳の少女のようだ。

（森崎和江「朝焼けの中で」）

119ページ 文学作品を批評する

135ページ 文章を批判的に読み、評価する

1 この文章は、回想場面を通して、筆者の現在の考えが印象的に表現されている。回想場面の最後の五字を抜き出そう。（句読点を含む。）

▼文章の展開のしかたを捉える。

2 ――線部に表れている、筆者の言葉に対する見方、考え方について、あなたはどのように考えるか。理由を含めて書こう。

▼文章を批判的に読み、文章に表れているものの見方や考え方について考える。

話す・聞く

話す力・聞く力

▼「SDGs（持続可能な開発目標）達成のために、私たちができること」について、調べ学習をすることになった。一班では、何をテーマにするかを話し合っている。

坂本　今のところ、「食品ロス」と「フェアトレード」がテーマの候補になっているね。取り組みやすさという観点から、「食品ロス」を推す人が多いかな。高橋さん、「フェアトレード」を取り上げようと思ったのは、どうして？

高橋　私たち中学生と同じ世代の子供たちのことを、広く考えてみたいと思ったんだ。

坂本　「フェアトレード」と子供には、どんな関係があるの？

高橋　世界フェアトレード機関が定める「フェアトレード10の指針」の中に、「児童労働および強制労働を排除する」という項目があって、これがSDGsのゴール8、ターゲット7に掲げられた「児童労働の禁止及び撲滅」とつながっているんだ。例えば、私たちが食べるバナナを育てるために、学校に行けない子供がいる。それは間違っていると思わない？

三谷　「フェアトレード」、とてもいいと思う。ここまで、「取り組みやすさ」という観点からの意見が多かったけれど、「私たちができること」を考えるときに、「自分たちと同じ世代の子供のために」という観点があれば、より切実な気持ちで取り組むことができるよね。

森　確かにいい観点だね。さっき、高橋さんがバナナの例を出してくれたけど、食べ物を一つ取り上げて、それに関連づける形にすれば、「食品ロス」も、合わせて考えていけるんじゃないかな。

坂本　では、この二つを合わせてテーマにするということでいいかな。

1 進行の役割をしているのは誰か。名前を書こう。

［　　］さん

2 三谷さんと森さんの発言は、合意形成をするうえで、どのような役割を果たしているか。それぞれ次から選び、記号を書こう。

ア　意見の根拠となる数値やデータを挙げることで、合意形成をねらう役割。
イ　これまでとは異なる新たなテーマを提案することで、合意形成を図る役割。
ウ　前の人の発言を受けて新たな観点を見いだし、合意形成へとつなげる役割。
エ　参加者の理解を深めるような質問を積極的に行い、合意形成へといざなう役割。
オ　他のテーマと関連づけて一つにまとめ、合意形成を促す役割。

三谷さん	
	森さん

⬇合意形成に向けて考えを深める。

187ページ 合意を形成する

書く

書く力

▼南中学校の給食委員会では、来春入学の一年生に向け、正しい箸の持ち方を説明するポスターを作成することになった。左のAとBは、ポスターに入れる図の案である。

A

❶ 
親指の根元で、1本の箸を持つ。

❷ 
薬指を軽く曲げ、箸を薬指の第一関節の上に置く。

❸ 
もう1本の箸は、親指と人さし指の腹で挟み、中指の第一関節で支える。

❹ 
小指を薬指にそわせ、下の箸を支える。

B

❶ 
正しい鉛筆の持ち方をするように、箸を1本持つ。

❷ 
下からもう1本の箸を入れ、親指の付け根と薬指の先で挟む。

❸ 
上の箸だけを動かす。下の箸は動かさない。

55ページ 論理の展開を考える
137ページ 論理の展開や表現を工夫する

1 AとB、それぞれの説明のしかたの特徴を、二十字程度で述べてみよう。（両者共通の特徴は除く。）

A　　B

⬇表現のしかたを考え、わかりやすく伝える。

2 あなたなら、AとB、どちらの図を使って説明するだろうか。説明のしかたに触れながら、次の書きだしに続く形で書こう。

私は、A（B）を選びます。なぜなら、

⬇多様な読み手を説得できる、論理の展開を考える。

知識・技能

知識・技能

▼次の文を読んで、問題に答えよう。

①［　　］だと言われないように、発表する前にしっかり検証しておこう。
②彼の失敗を［　　］として、気持ちを引き締めよう。
③［　　］のチャンスが訪れた。

1 ①～③の［　　］に入る、適切なことわざや故事成語、四字熟語を選ぼう。

①　ア　猫に小判　　イ　机上の空論　　ウ　座右の銘
②　ア　他山の石　　イ　対岸の火事　　ウ　餅は餅屋
③　ア　大器晩成　　イ　千載一遇　　ウ　本末転倒

①	
②	
③	

⬇ことわざや故事成語、四字熟語の意味を理解して、文章の中で使う。

122ページ 慣用句・ことわざ・故事成語

▼次の和歌を読んで、問題に答えよう。

春の園紅にほふ桃の花下照る道に出で立つをとめ
　大伴家持（「万葉集」から）
※「にほふ」は美しく照り映える意。

2 ――線部を、現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書こう。

［　　］

3 和歌の解説として適切なものはどれか。次から選ぼう。

□春になったことを喜ぶ乙女の気持ちが「紅にほふ」に込められている。
□桃の花がかぐわしく香るさまを詠み込んだ歌である。
□美しく咲き誇る桃の花と、たたずむ乙女の姿を描いた絵画的な歌である。
□「万葉集」の特徴が表れた、繊細で技巧的な歌である。

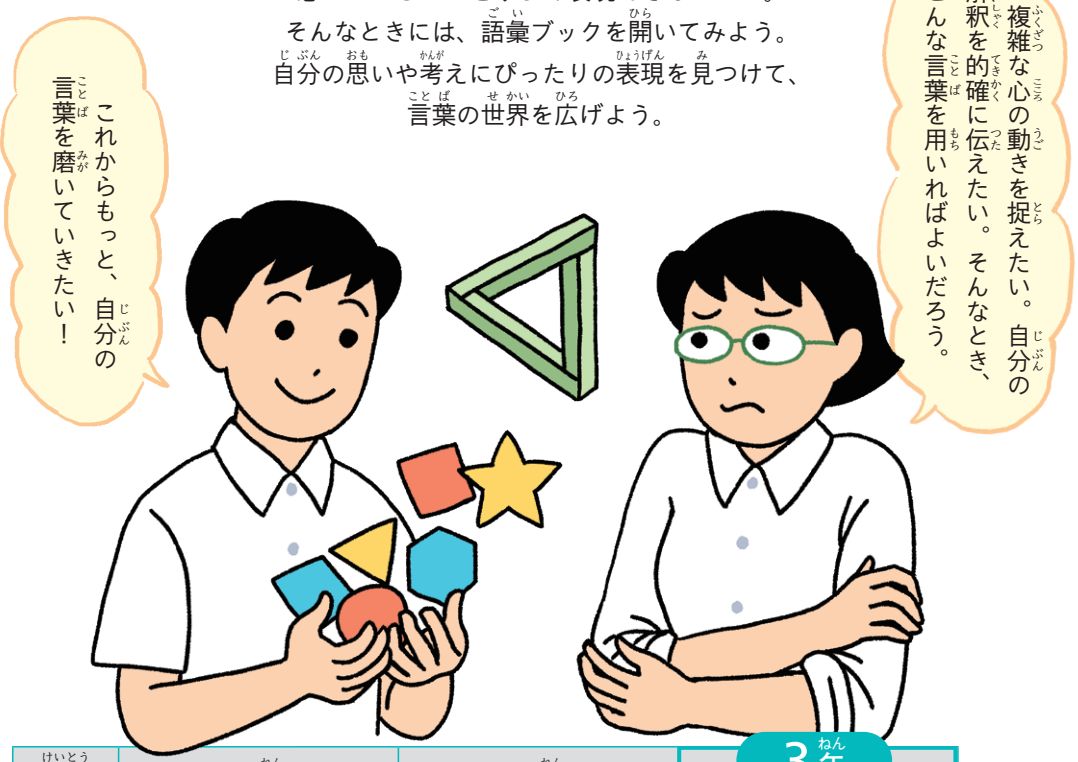
⬇和歌を読むことを通して、古典の世界に親しむ。

146ページ 和歌の世界

ぴったりの表現を見つけるために

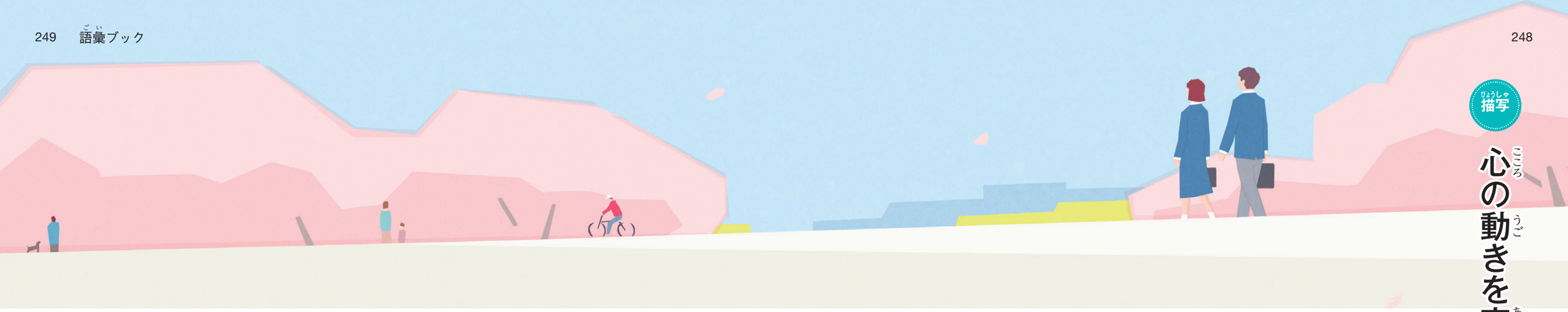
語彙ブック

思っていることをうまく表現できない……。
そんなときには、語彙ブックを開いてみよう。
自分の思いや考えにぴったりの表現を見つけて、
言葉の世界を広げよう。



系統	1年	2年	3年
描写	情景を表す言葉	感覚で捉えた言葉	心の動きを表す言葉
言動	心情・行為を表す言葉	人物を表す言葉	慣用句・ことわざ・四字熟語・故事成語
思考	思考するときの言葉	抽象的な概念を表す言葉	批評するときの言葉
コラム	辞典を活用して言葉を広げよう	結び付きに着目して言葉を広げよう	言葉と私

言葉の宝箱（小学校）
語彙ブック1・2年



描写

心の動きを表す言葉

中学校生活の中で、心が揺れ動く瞬間がたくさんあったことだろう。ここでは、心情に関わるさまざまな語句・表現や、これまでに学んだ作品や文章の描写を読み味わい、語彙を豊かにしよう。

● 喜ぶ・楽しむ・笑う

・天にも昇る心地・浮き立つ
・胸を弾ませる・**心が躍る**
・満足・ご満悦・愉快・楽観
・熱狂・興奮・狂喜乱舞・歓喜
・わくわく・口元がほころぶ
・ほほ笑む・大笑い・破顔

いちょう並木と時計。昨日、自分が立った場所を、レンは、絵の中に見た。思い切った色彩で描かれた風景に、心は躍った。

蜂飼 耳「はじまりの風」（一年）より

美しいちょうを見つけると、（略）とらえる喜びに息もつまりそうになり、しだいにしのび寄って、輝いている色の斑点の一つ一つ、透き通った羽の脈の一つ一つ、触角の細いとび色の毛の一つ一つが見えてくると、その緊張と歓喜ときたらなかった。

ヘルマン・ヘッセ／高橋健二 訳「少年の日の思い出」（一年）より

● 感じる・考える

・感動・感じ入る・没頭・専念
・傾倒・胸を打つ・じいん
・琴線に触れる・感情移入
・印象に残る・印象的
・**胸がいっぱいになる**
・葛藤・省みる・内省・熟考
・つらつら・思い巡らす
・沈思黙考・思索にふける

そのときの顔を、僕は今でも忘れません。強い顔でした。でも悲しい悲しい顔でした。僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。僕たち子供を必死で守ってくれる母の顔は、美しいです。僕はあのときのことを思うと、いつも胸がいっぱいになります。

米倉斉加年「大人になれなかった弟たちに……」（一年）より

● ためらう・迷う

・緊張・**気恥ずかしい**
・圧倒される・うろたえる
・狼狽・動揺する・後悔

もしかしたら、日頃気恥ずかしくて演じられない父親を、手紙の中でやってみたのかもしれない。

向田邦子「字のない葉書」（二年）より

● 悔やむ・ひるむ・おずおず

・気がかり・**ぎこちない**
・遠慮・不安・心配・とまどう
・心細い・悲観

そのとたん、私は自分の心臓がどこにあるのかがはっきりわかった。どきどき鳴る胸をなだめるように一つ息を吸ってはくと、ぎこちなく足をふみ出した。

安東みきえ「星の花が降るころに」（一年）より

● 怒る・悲しむ・嘆く

・憤慨・不満・不機嫌・**激怒**
・頭に血が上る・かちん
・腹を立てる・気にさわる
・逆鱗に触れる・わなわな
・悲嘆にくれる・**天を仰ぐ**
・挫折・くじける・絶望・失望
・意気消沈・落胆
・気落ちする・落ち込む
・**打ちひしがれる**・**うなだれる**
・涙ぐむ・泣き崩れる
・さめざめ・おいおい

メロスは激怒した。必ず、かの邪知暴虐の王を除かなければならぬと決意した。

（略）

メロスは幾度となくめまいを感じ、これではならぬと気を取り直しては、よろよろ二、三歩歩いて、ついに、がくりとひざを折った。立ち上がることができぬのだ。天を仰いで、くやし泣きに泣きだした。

太宰 治「走れメロス」（二年）より

私自身、このような状況を前にして、言葉の無力さに打ちひしがれることがある。確信をもって言葉を発せないこともある。だが、戦争の足音が遠くから響いてくる今、言葉の無力を前に、ただうなだれてばかりでおれない。

鷲田清一「それでも、言葉を」（三年）より

● 望む・求める

・願う・祈る・志す・夢・期待
・心待ち・悲願・願望・**希望**
・一縷の望み・憧れ・垂涎の的
・喉から手が出る・切望
・焦がれる・探求・探究

思うに希望とは、もともとあるものともいえぬし、ないものともいえない。それは地上の道のようなものである。もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。

魯迅／竹内 好 訳「故郷」（三年）より

慣用句・ことわざ・四字熟語・故事成語

げんどう 言動

伝えたいことを話したり、文章を書いたりするときに、ぴったりの言葉や表現があれば、使ってみよう。

精を出す

- 精を出して練習する。
- 骨身を惜しまないで努力する。
- 技術は、日進月歩だ。
- テニスの腕が上がる。



骨身を惜しまない

日進月歩

腕が上がる

胸をなで下ろす

- テストが無事に終わり、胸をなで下ろす。
- 思う存分、羽を伸ばす。
- 休息を十分に取って、心機一転、勉強に励む。



羽を伸ばす

心機一転

手を焼く

- 飼い猫の世話に、手を焼く。
- 言うことを聞かないので、頭を抱える。
- 体を洗うのにも、四苦八苦だ。



頭を抱える

四苦八苦

どぎもを抜く

- 斬新なアイデアで、皆のどぎもを抜いた。
- 前代未聞の計画。
- 計画は順風満帆だ。



前代未聞

順風満帆

慣用句

体や心に関する言葉を含む

- 頭をひねる
- 目から鼻へ抜ける
- 目に余る
- 鼻にかける
- 歯にきぬを着せない
- 肩の荷が下りる
- 胸が痛む
- 手に余る
- 手を尽くす
- へそを曲げる
- ほぞをかむ
- 揚げ足を取る
- 眉をひそめる
- 目が高い
- 小耳に挟む
- 口が重い
- 口が堅い
- 肩を持つ
- 胸がすく
- 手を引く
- 腹を割る
- 腰を据える
- 足がすくむ
- 浮き足立つ

生物に関する言葉を含む

- 虎の子
- 馬が合う
- とどのつまり
- 鶴の一声
- 猫をかぶる
- 虫がいい
- うり二つ
- 根も葉もない

生活・文化・歴史に関する言葉を含む

- 一目置く
- 板につく
- たかをくくる
- しのぎを削る
- 油を売る
- お茶を濁す
- さじを投げる
- 太鼓判を押す

ことわざ

生き物に関する言葉を含む

- 泣きっ面に蜂
- 亀の甲より年の功
- たで食う虫も好き好き
- 捕らぬたぬきの皮算用
- 立つ鳥跡を濁さず
- 猫に小判
- 二兎を追う者は一兎をも得ず

生活や文化に関する言葉を含む

- 医者の不養生
- 灯台下暗し
- 豆腐にかすがい
- 渡る世間に鬼はない
- 鉄は熱いうちに打て
- 朱に交われば赤くなる
- 袖振り合うも多生の縁

天候や自然に関する言葉を含む

- 石の上にも三年
- 寄らば大樹の陰
- 雨降って地固まる
- 待てば海路の日和あり
- 枯れ木も山のにぎわい

四字熟語

同じ字を含む

- 正真正銘
- 自業自得
- 半信半疑
- 適材適所
- 以心伝心
- 絶体絶命
- 自画自賛
- 徹頭徹尾

数字を含む

- 一網打尽
- 危機一髪
- 十人十色
- 千変万化
- 一挙両得
- 七転八倒
- 千差万別
- 千載一遇

漢字を誤りやすい

- 異口同音
- 厚顔無恥
- 単刀直入
- 意味深長
- 縦横無尽
- 因果応報
- 旧態依然
- 針小棒大
- 付和雷同
- 勧善懲悪
- 興味津々
- 巧言令色

故事成語

- 五里霧中
- 大器晩成
- 鶏口牛後
- 井の中の蛙大海を知らず
- 朝令暮改
- 朝三暮四
- 暗中模索

世界のことわざ

日本に多くのことわざがあるように、世界にも魅力的なことわざがさまざまある。

- 逃げるは恥だが役に立つ（ハンガリー）
  問題から逃げるのは恥ずかしいが、よい結果につながることもある。
- きゅうりとドリアン（マレーシア）
- 昼と夜（フランス）
- 月とすっぽん（日本）
  二つのものの違いが大きいこと。

広がる読書



「誰も知らない世界のことわざ」
エラ・フランシス・サンダース 前田まゆみ 訳

「ロバにスポンジケーキ」？世界中のユニークなことわざに触れてみよう。

思考

批評するときの言葉

物事を評価したり、ものの見方や情報を伝えたりするときに、ふさわしい言葉や表現を考える参考にしよう。

評価・判断を表す言葉

例えば作品を批評するとき、どう表現したらよいだろう。



この作品の価値／魅力は○○にある。例えば……

登場人物の○○の考え方に共感した。自分も……

読み手に○○という効果を与えている。

○○だからこそ普遍性があるのではないか。

● 意見について

- 共感できる
- 納得できる
- 積極的だ
- 前向きだ
- オリジナリティーがある
- 独創性がある
- 有益だ
- 本質をついている

- 支持できない
- 後ろ向きだ
- 消極的だ
- 偏っている
- 独断的だ
- 抽象的だ

● 論理性について

- 説得力がある
- 論理的だ
- 根拠が明確だ
- 筋が通っている
- 理にかなっている
- 多面的に論じている
- 合理的だ

- 根拠が弱い
- 一方的に決めつけている
- 矛盾している
- 不自然だ
- 曖昧だ

○○の根拠をもう少し丁寧に論じると、論旨が明快になると思う。



● 表現について

- 効果的だ
- 印象的だ
- 適切だ
- 巧みだ
- 心に響く
- 比喩的だ

- 稚拙だ
- ありふれている
- 陳腐だ
- 漠然としている
- ぎこちない
- 無味乾燥だ

前者は的を射てインパクトのある表現だ。いっぽう後者は、やや抽象的で……



ものの見方を表す言葉

この町は、環境保全に積極的だ。

具体的には……



つまり……

太陽光発電や植林に取り組み、ごみを減らす努力もしている。

● 焦点化する

- ○○に注目すると
- ○○という点では
- ○○に関しては
- ○○に絞ると
- 要点は

● 視野を広げる

- 俯瞰してみると
- 全体を見渡すと
- 全体のバランスは
- 長い目で見ると
- 長期的には

● 具体化する

- 例えば
- 具体的には

● 抽象化する

- つまり
- まとめると
- このように

● 緻密に考える

- 正確には
- 隅々まで見ると
- 論理的には
- 厳密には

● 本質に迫る

- そもそも
- 本を正せば
- その背景／根底には

● 視点を変える

- 言い換えると
- 見方を変えると
- ○○の視点に立つと

情報を読み取って伝える言葉

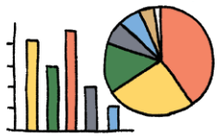
全校生徒の五十八パーセントが市立図書館を利用している。

多いな……

市立図書館を利用している生徒は、全体の六割近くに上る。

少ないな……

市立図書館を利用している生徒は、全体の六割に満たない。



● 情報の条件を示す

- ○○年の調査によると
- ○○が対象の調査から
- ○○が発表した情報では
- 広義（狭義）には

● グラフや表の数字を基に伝える

- ○○に満たない
- ○○に上る
- ○○に達する

● 本などの記述を基に伝える

- ○○と記されている
- ○○は□□と述べている
- ○○の考えでは□□だ

● 写真や絵を基に伝える

- ○○が写っている
- ○○が描かれている
- ○○が□□を表している
- ○○から□□が伝わる

● 情報を読み取る

- 全体の傾向として
- 最も大きな変化は
- ○○を境に

● 情報を組み合わせる

- ○○は□□に比べて
- ○○に□□を加味すると
- ○○と□□を満たすには

コラム

言葉と私

各界で活躍する人は、言葉をどのように捉えているのだろう。彼らの考えを参考に、自分にとっての「言葉」について考えてみよう。

谷川俊太郎（詩人）一九三一―二〇二四　東京都出身。

知っている言葉の量を増やすのも大事だけど、一つの言葉の質を深めるのも大切。遠くから見ていた山に自分の足で登ってみると、山という言葉の意味が広がって濃くなる。言葉は知識だけでなく経験を通して深まってゆく。



米津玄師（音楽家・イラストレーター）一九九一―　徳島県出身。

僕らはいつも言葉によって何かを考えており、言葉がなければ自分が今どこにいるのかもわかりません。知らない言葉を知るのはまだ知らない自分自身を知っていくこととほとんど同じでしょう。



池江璃花子（アスリート）二〇〇〇―　東京都出身。

たった一つの言葉が誰かの支えになることがあります。私はつらくなったとき、主治医の先生に言われた「今はトンネルの途中です。必ず出口があるので、がんばりましょう。」という言葉を思い出します。



中満泉（国際連合事務次長）一九六三―　東京都出身。

分断が進む世界だからこそ、希望を言葉にして語らなくてはなりません。対話を信じ、言葉を尽くすことが、人間どうしをつなげ、連帯に導くものになるからです。



三宮麻由子（エッセイスト）一九六六―　東京都出身。幼い頃に視力を失う。

鳥の囀りも音楽も人間の言語も、全ての表現が「言葉」だと思う。私は人の言葉を使う。ニュースから俳句までさまざまな形で、物事や心情の深奥を書く。言葉を使うとは、「本質を翻訳する」という楽しい作業なのだ。



言葉とあなた（中学三年生）［考えた日］　年　月　日



資料編

「学びのカギ」一覧　文学的な文章を読むために……256
「学びのカギ」一覧　説明的な文章を読むために……258
「学びのカギ」一覧　豊かに表現するために……260
●発想を広げる――表現テーマ例集……262
●グラフの見方／引用・出典……265
●話し合いの方法……267
二つの悲しみ……杉山龍丸……268
高瀬舟……森鷗外……272
古典芸能の世界――歌舞伎・浄瑠璃……284
古典・近代文学の名作……286
日本文学の流れ……292
郷土ゆかりの作家・作品……298
［発展］文語の活用……302
常用漢字表について……304
三年生で学習した漢字……306
三年生で学習した音訓……317
常用漢字表……318
常用漢字表　付表……332
［索引］学習のための用語一覧……334
ICT活用のヒント……337

※「●」が付いている資料は「資料編デジタル」にも収録

資料編デジタル

「学びのカギ」一覧

文学的な文章を読むために

ここには、文学的な文章を読んだり、書いたりするときに役立てよう。

3年「学びのカギ」

捉える

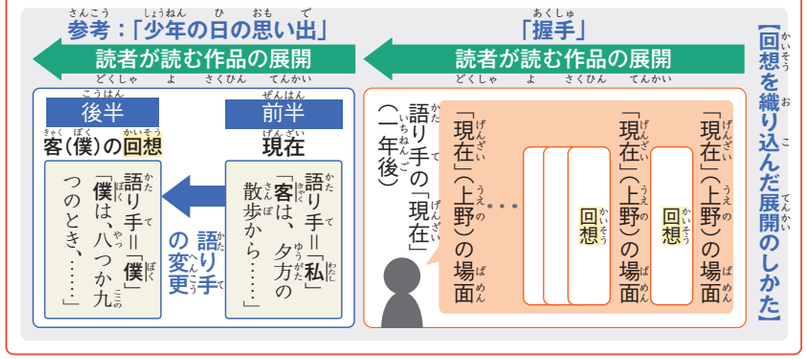
展開のしかたを捉える

27ページ

- 物語や小説は、時間の順序どおりに展開するとは限らない。回想を織り込むなど、多様な工夫がなされる。
- 展開を工夫することで、出来事の印象を強めたり、次の展開への期待を高めたりすることができる。
- 展開のしかたの目的や意図を考えることで、作品の理解が深まる。

【学習で用いる言葉】

回想　登場人物が以前に経験したことを、後から振り返って語ること。回想には、その出来事を語っているときの語り手の気持ちが表れている。



読み深める・考えをもつ

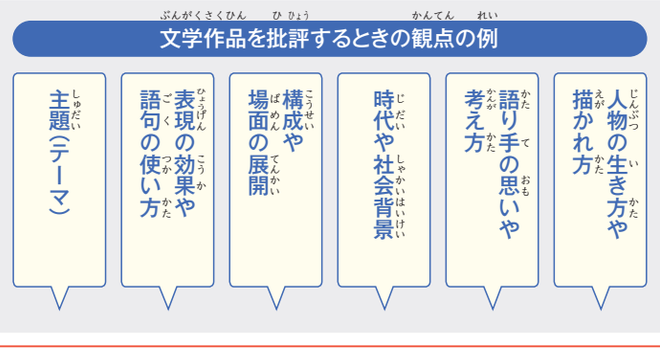
文学作品を批評する

119ページ

- 文学作品を批評するときには、描かれた内容をそのまま受け入れるのではなく、批判的な視点をもって読むことが大切だ。
- 文学を批判的に読むには、登場人物の言動の意味や人物像、作品の展開や表現の効果などを吟味したり、登場人物と自分の価値観を比較したりして、作品を客観的に評価するとよい。

【学習で用いる言葉】

批評　作品などについて、その特性や価値などを論じたり評価したりすること。



これまでに学習した観点

文章の種類

2ページ

- 散文…物語、小説、随筆　など
- 韻文…詩、短歌、俳句　など

題名

2ページ

- 舞台となる時や場所、登場人物の名前、作品を象徴する情景や事物、作者の思いなどに基づくものが多い。

登場人物の設定

- 通読の際に、登場人物や人物どうしの関係を捉えるとよい。
  - 名前（よび名）、年齢　・置かれている状況や立場
  - 外見や性格、言動などの特徴　・他の登場人物との関係

場面、場面の展開

27ページ・119ページ

- 場面…作品の中にある幾つかのまとまり。時や場所、登場人物の組み合わせが同じ部分を一場面とすることが多い。

【場面の展開】

①**状況設定（導入）**…作品の舞台となる時代背景や場所、登場人物やその置かれた状況などが示される。

出来事の発端…ある出来事が起こるきっかけが示される。

②**展開**…出来事の経緯が示される。

③**山場**…状況が動く場面。考え方も変化することが多い。

④**結末**…出来事のその後など。余韻を残すなどの工夫がされる。

描写

- 物事の様子や場面、登場人物の行動や心情などを、読み手が具体的に想像できるように描いたもの。
- 心情は、行動や風景の描写に託して表されることも多い。

語り手

27ページ・119ページ

- 物語や小説は、「語り手」が見聞きした出来事を語るという形でストーリーが展開していく。

例　一人称…「握手」の「わたし」、「故郷」の「私」

例　三人称…「高瀬舟」の「庄兵衛は」「喜助は」
→登場人物ではない第三者の客観的な視点。

- 描かれた出来事には語り手の価値観が表れる。そのため、誰の視点で描かれているかに注意して読む。
- 他の人物の視点から捉え直すと、作品を多面的に理解できる。

学びの地図

読む

「学びのカギ」一覧
説明的な文章を読むために

ここには、説明的な文章を読んだり、書いたりするときに役立てよう。

3年「学びのカギ」

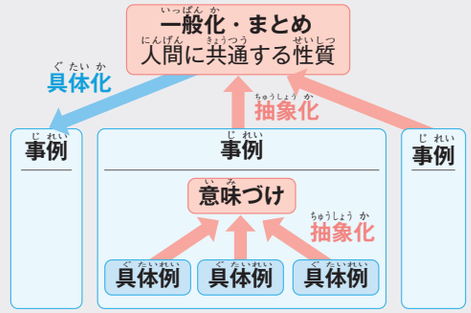
捉える

論理の展開を捉える
51ページ

- 論理の展開とは、結論や主張を導くための、筋道の通った考えの進め方のことである。
- 論理の展開を捉えるときには、文章を構成する部分が、どのような関係で結び付き、どのように主張や結論を支えているのかを考えるとよい。

例 原因と結果／意見と根拠／具体と抽象　など

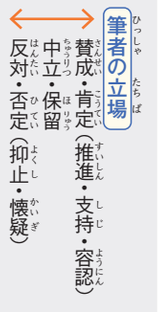
【学習で用いる言葉】
論説　自分の立場を明確にして、物事が理にかなっているかどうかを論じた文章。



読み深める

文章を批判的に読み、評価する
135ページ

- 文章を批判的に読むとは、内容をそのまま受け入れるのではなく、自分の知識や経験、他の人の考えと比べて、吟味・検討することを指す。
- 次の点を吟味・検討し、適切さやわかりやすさ、有効性などを評価する。
  - 筆者の立場　・論理の展開
  - 情報の信頼性　・叙述の適切さ
  - 筆者のものの見方や考え方
- 文章を比較すると、立場や考え方、述べ方の違いが捉えやすくなる。



論理の展開　無理や飛躍はないか。
- 因果関係　別の要因は考えられないか。
- 原因と結果　根拠として適切か。
- 意見と根拠　「理由づけ」に無理はないか。
- 具体と抽象　一般化に無理はないか。具体例は適切か。

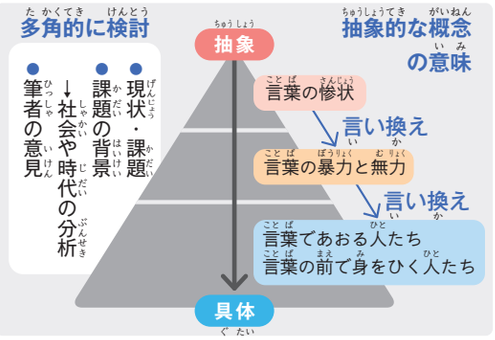
情報の信頼性
- 自分の知識や経験、他の人の考えと比較して、納得できるか。

叙述の適切さ
ものの見方・考え方

考えをもつ

文章を読んで、自分の意見をもつ
179ページ

- 抽象的な概念の意味を的確に捉える。
  - 言葉の定義、本来の意味を確かめる。
  - 筆者独自の表現は、その前後の文脈や言い換えから意味を類推する。
  - 事例などで具体化して理解する。
- 視点や視座を変え、筆者が提起した課題や提案を多角的に検討する。
- 筆者の見方に対して、例証や反証を試みる。



これまでに学習した観点

文章の種類
2ページ

- 事実や事柄を正確に伝える…説明、記録、報告、解説　など
- 根拠に基づき意見を述べる…意見、論説、評論、批評　など

段落の役割

- 段落の役割に着目すると、文章の内容や構成、中心が捉えやすくなる。

例 導入、話題提示
問いと答え、理由、例示
まとめ、筆者の主張

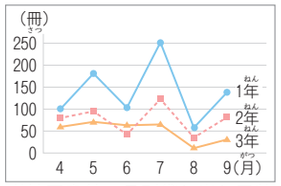
文章の構成

- 文章全体の構成を捉えると、内容の整理や要旨の把握に役立つ。
- 説明的な文章は、典型的な構成の型を踏まえて書かれることが多い。

例 初め・中・終わり／序論・本論・結論

図表の読み取り
265ページ

- 特徴的な数値…最大値や最小値、ある部分にだけ見られる数値など。
- 変化…増加・減少、変化の大きさ、変化のしかたなど。
- 違い…項目（学年、分野、月など）の比較によって見える傾向など。



学校図書館の月別貸し出し冊数

要旨と要約

- 要旨…文章の内容や、筆者の考えの中心となる事柄のこと。「結論」のまとまりに表れることが多い。
- 要約…目的や必要に応じて文章の内容を短くまとめること。題名や、キーワード、キーセンテンスなどを中心にまとめる。文章の要点や、筆者の主張の核が明確になる。

引用
264ページ

- 他の文章や統計調査から、文や数値などのデータを引いてくること。
- 「　」などで地の文とは区別される。
- 事実の説明や意見を補強したり補足したりする役割がある。

「学びのカギ」一覧 豊かに表現するために

ここには、話したり、聞いたり、書いたりするための基本的な観点をまとめてある。身につけた力を確認し、学習や日常生活に生かそう。

学びの地図

話すこと・聞くこと

組み立てる（話す）

相手を説得するために構成を工夫する

- 聞き手の知識や関心がどの程度かを想定して構成する。
- 多様な考えをもつ聞き手を説得できるように、提示する情報の順序など、話の構成を工夫する。
- 信頼性の高い情報を選ぶ。
- 種類の異なる複数の根拠を示す。

【信頼性の高い情報の選び方】
[発信者・出典]
・情報源は信用できるか。
・発信時期は適切か。
[調査方法]
・調査対象の選択や数に問題はないか。

33ページ

伝え合う（聞く）

質問で相手の思いに迫る

- 相手の立場に寄り添って聞く。
- 自分の知識や経験などと結び付け、話の展開を予測する。
- 相手の反応や表情に注意する。
- 用意した質問にとらわれず、臨機応変な質問をする。

【相手の思いに迫る質問】
・「具体的にはどういうことか、教えてください。」（具体化する）
・「つまり、……ということですか。」（言い換える）
・「あなたにとって、○○とは何ですか。」（価値づける）

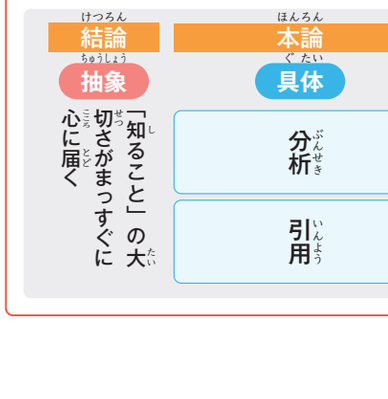
124ページ

伝え合う（話し合う）

合意を形成する

【提案を分類し、整理する】
- 論点や検討のポイントを可視化して共有する。
- 提案を検討する観点を決め、座標軸などを使って整理する。
- 提案（具体）を共通点で分類し、小見出しを付ける（抽象化）。

【提案を絞り込み、まとめる】
- 提案を吟味し、取捨選択して、よりよい案に絞り込む。
- 互いの意見のよいところを組み合わせて新たに提案する。



187ページ

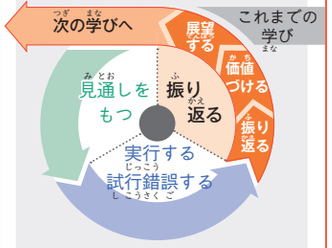
振り返る

これからの学びを展望する

- 振り返った内容から共通点を見つけ、抽象化することで、「これまで」の学びの意義や価値を考える。
- 抽象化した「これまで」の学びを基に、「これから」の見通しをもつ。
  - どう学びを深めていくか。
  - 日常生活でどう生かすか。
  - 今後の目標と、達成に向けた行動。

221ページ

学びのサイクル



振り返りのステップ
[振り返る] 学習活動を思い起こし、自分が身につけた力を確かめる。
[価値づける] 身につけた力が、他の場面でどう役立っているかを考える。
[展望する] 学んだことを、今後どう生かしていくか、見通しをもつ。

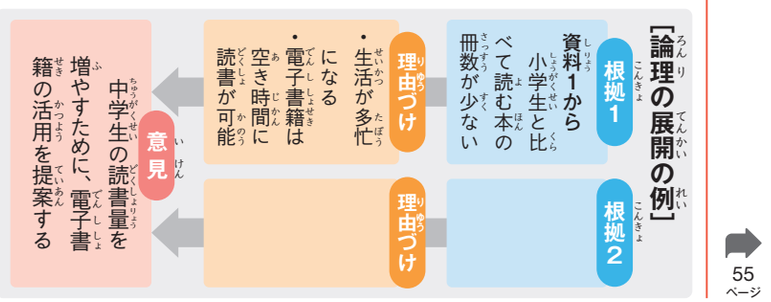
書くこと

集める・整理する・組み立てる

論理の展開を考える

- 意見や主張を導くための、論理の展開（筋道の通った考えの進め方）を明確に示すことで文章の説得力が高まる。
- 論理の展開を考えるときは、意見と根拠、意見と根拠を結び付ける「理由づけ」を整理する。
  - 軸となる意見を決める。意見そのものや論理の展開に、独自性を出せるものが望ましい。
  - 正確で客観的な事実を根拠とする。
  - 無理のない「理由づけ」（意見と根拠の結び付き）をすることで意見の説得力を高める。

【論理の展開の例】



55ページ

表現する・共有する

論理の展開や表現を工夫する

- 目的や意図に応じて論理の展開や表現のしかたを工夫することで、わかりやすく自分の考えを伝えることができる。

【論理の展開】
- 「具体と抽象」……具体的事実から一般化し、意見の妥当性へと結び付ける。

【表現のしかた】
- 文体（常体・敬体）や文末表現、語句、表現技法などを検討する。
- 目的に応じて引用する資料を選ぶ。

137ページ

発想を広げる——表現テーマ例集

ここには、話したり書いたりするときの手がかりとなるテーマ例が示してある。この例を参考に、自分の発想を大きく広げていこう。



説明・紹介・記録・報告

自分・生活
- 私が長く続けていること
- お世話になった先生のこと
- 自分史を書く

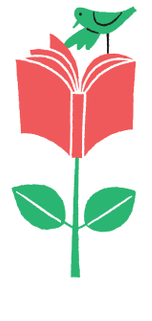
自然・環境
- さまざまな自然エネルギー
- 再生紙を使った製品の紹介
- 世界の環境問題への取り組み
- 生物多様性とは何か



意見・主張・討論

自分・生活
- 子供に個室は必要か
- 学校行事を通して学んだこと
- 読書は人を成長させるか

自然・環境
- 省エネについて私たちにできること
- 大気汚染を防ぐために
- 地球を守るためにすべきこと
- 循環型社会を目ざすには



感想・随筆・創作・批評

自分・生活
- 自分が生まれた日の新聞を読んで
- 中学生活でいちばんの思い出
- 部活動の試合に出場して
- 座右の銘を考える
- 自分を変えた人との出会い

自然
- 日本の森林の変遷について
- もし自分が○○の動物だったら

文化・芸術
- 友達と美術館を訪れて
- アジアの文化に触れて
- 森鷗外の作品を読んで
- 文化遺産を訪ねて
- 日常の出来事を題材にした随筆の創作
- 感動を題材にした俳句の創作
- 芭蕉の俳句「古池や」の批評
- 音楽や美術作品を題材にした批評
- 昔の日本の景色を写した写真を見て
- 一度は見てみたい世界の絶景



案内・手紙

連絡・案内
- 部員に電話連絡をするためのメモ
- 他校の生徒を文化祭に招く招待状
- 海外からの観光客に向けた町の案内

依頼・お礼
- 講演者に対する依頼状
- 講演者に対するお礼状

挨拶・メッセージ
- 小学校時代の恩師に近況を報告する
- 新聞に自分の意見を投書する
- 新入生に中学生活の楽しさを伝えるメッセージカード

人間関係・生き方
- 地域の人とのつながりの中で
- 進路について考える
- 後輩に伝えたいこと

文化
- 日本語の将来について考える
- 日本と○○国の文化の違い

情報
- 情報化社会を考える
- 商品のマークやロゴについて

福祉
- 十年後の福祉について
- 高齢社会について考える

国際
- 日本の農業と世界の農業
- 先進国と開発途上国について

社会
- 現代社会における豊かさとは
- ○○の広告について
- 社会的に問題になっている○○について



文化
- 地域の伝統行事
- 町内の歴史
- 世代によって異なる言葉遣い
- 知らない季語について調べる
- 家の中にある古い道具
- 外国に紹介したい日本の食べ物

情報
- 修学旅行先を事前に調べる
- 自転車の交通ルール
- ○○の職業に就くためには

福祉
- パラリンピックの歴史について
- ユニバーサルデザインとは何か

国際
- 世界で活躍している日本人
- 日本再発見

× SDGs

- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう
- 12 つくる責任つかう責任

話す・聞く

書く

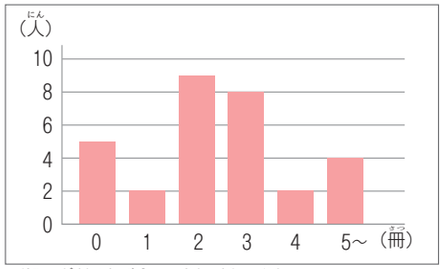
グラフの見方／引用・出典

情報を正しく読み取り、その信頼性を判断するために、また、相手にわかりやすく説得力をもって情報を伝えるために、グラフの見方や、引用のしかた、出典の示し方を学ぼう。

グラフの種類と特徴

棒グラフ

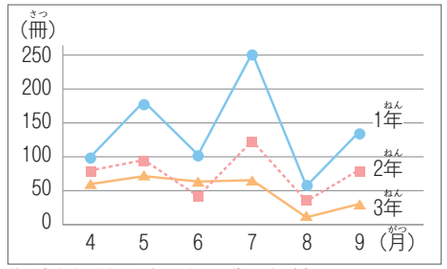
- 棒の長さによって、数量を示す。
- 数量の大小を比較しやすい。



7月の読書冊数（3年1組30人）

折れ線グラフ

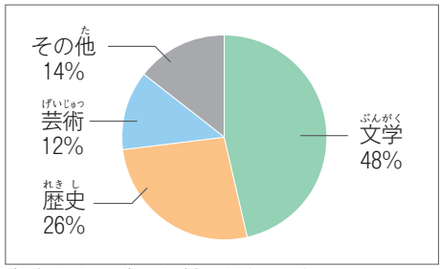
- 時間の推移による変化を示す。
- 数量の変化を捉えやすい。



学校図書館の月別貸し出し冊数

円グラフ

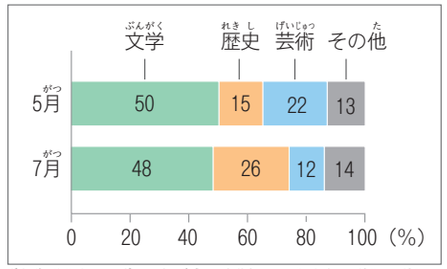
- 円全体に対する各項目の割合を示す。
- 全体に占める割合を捉えやすい。



分野別貸し出し冊数の割合（7月）

帯グラフ

- 帯全体に対する各項目の割合を示す。
- 割合の違いを比較しやすい。



分野別貸し出し冊数の割合の比較（5月、7月）

- グラフを読み取るときの**着眼点** 54ページ 論理の展開を意識して書こう
  - 特徴的な数値……最大値や最小値、ある部分にだけ見られる数値など。
  - 変化……増加・減少、変化の大きさ、変化のしかたなど。
  - 違い……項目（学年、分野、月など）の比較によって見える傾向など。
- グラフを読み取るときの**留意点**
  - 統計の取り方……調査の時期、対象者、対象全体の数は適切か。
  - 軸や目盛り……単位は一定か。目盛りが大きすぎたり、小さすぎたりしないか。
  - 数値……文字の大きさや色で、特定の数値を目立たせてはいないか。

著作権について

- **著作権とは何か**
  文章や絵画、音楽などの著作物を使用する権利。著作者（作った人）が保有する。
  - 著作物を許可なく転載したり、コピーして配布したり、自分の作品に使ったりすること、また、内容を勝手に変えることは法律で禁じられている。
  - 著作者以外の人が著作物を使用するときは、原則、著作者の許可を得る。
  - 著作者がなくなっている場合は、著作権継承者の許可を得る。
- **著作権者（著作者、著作権継承者）の許可が必要ない場合**
  - ルールを守って引用するとき。
  - 個人的に使用したり、授業の中だけで使用したりするとき。
  - 著作権の保護期間（著作者の死後70年間）が過ぎているとき。

引用のしかた

120ページ［推敲］論理の展開を整える

- **次のような方法で、引用部分と自分の文章を区別する。**

引用部分に「　」を付けて示す方法

> 夏目漱石は、「吾輩は猫である」（○○社、□□□□年）という小説の中で、「人間の心理ほど解しがたいものはない。」（p.□）と書いている。

引用部分の前後に行を空け、1、2字下げて示す方法

> 夏目漱石は、人間の心理について、次のように書いている。
>
> 人間の心理ほど解しがたいものはない。（中略）猫などはそこへ行くと単純なものだ。（夏目漱石「吾輩は猫である」○○社、□□□□年、p.□）

- **誤字や脱字がないよう正確に抜き出し、出典を明記する。**
- **引用部分は、必要最低限の範囲に絞る。**

出典の示し方

- **著作物を引用したときには、出典を明確に示す。**

著作物	出典として示す主な情報
本や資料	著者名、書名、発行所名、発行年、引用部分のページなど
新聞	新聞の名称、発行日、朝刊・夕刊の別など
ウェブサイト	制作者名、ウェブサイトの名称、アドレス、閲覧日など

話し合いの方法

186ページ 合意形成に向けて話し合おう

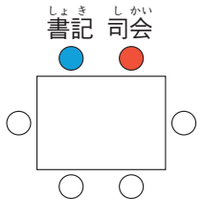
話し合いの目的や人数に応じて、適切な方法を選ぼう。

話し合いの目的	人数・規模	話し合いの方法（例）
アイデアを広げたいとき	グループ	1 ブレーンストーミング
	全体	2 ワールド・カフェ
一定の結論を出したいとき	グループ	3 グループ・ディスカッション
	全体	4 会議
多角的に捉え、考えを深めたいとき	二つの立場	5 ディベート
	三つ以上の立場	6 パネルディスカッション

1 ブレーンストーミング

アイデアを広げるための話し合い。案をたくさん出すのが目的なので、思いついたことを自由に述べ、互いの案を否定しない。

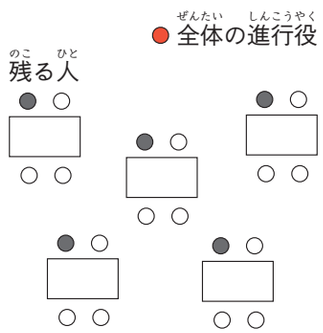
手順
① 司会と書記を決め、議題を確認する。
② 参加者は簡潔にアイデアを述べる。全員がなるべく多く提案する。
③ 提案を整理・分類する。



2 ワールド・カフェ

グループに分かれ、一つのテーマについて、メンバーを替えながら話し合う。アイデアを広げたりつなげたりして、新たな考えを生み出す。

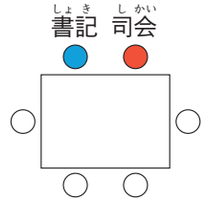
手順
① グループでテーマについて話し合う。
② 各グループに一人を残し、他はそれぞれ別のグループに移動する。
③ 新しいグループで話し合う。
④ 元のグループに戻り、再び話し合う。
⑤ 全体で話し合い、新たな考えを生み出す。



3 グループ・ディスカッション

グループでの話し合い。一人一人の意見をしっかり聞き取ることができる。「何かを決める」「解決策を探る」「考えを深める」など、さまざまな目的で行える。

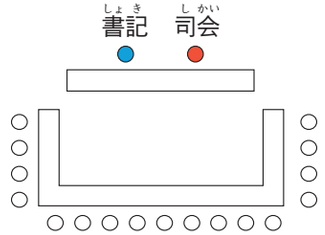
手順
① グループごとに司会と書記を決める。
② グループ全員が順に意見を述べる。
③ さらに意見を出し合ったり、意見を結び付けたりして、結論をまとめる。



4 会議

決定や課題解決など、合意を形成しながら集団としての結論を導く話し合い。

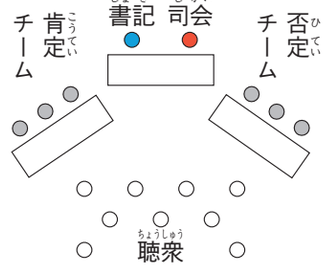
手順
① 司会と書記を決める。
② 議題について審議する。
③ 挙手や投票などで採決を行う。
④ 決定事項を確認する。



5 ディベート

テーマに対して、対立する二つの立場から相手を説得し合う。立場を絞ることで、意見が出しやすくなる。

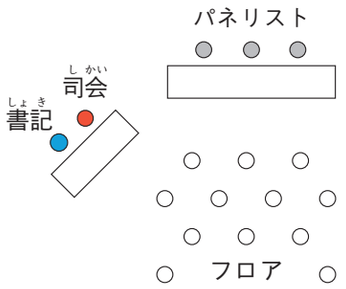
手順
① 肯定チーム・否定チームが立論する。
② 作戦タイム。
③ 反対尋問とそれに対する応答を行う。
④ 作戦タイム。
⑤ 両者の最終弁論。聴衆が勝敗を判定。



6 パネルディスカッション

数名のパネリスト（発表者）が発表し、討論した後、フロア（聴衆）が議論に加わる。似た形式に専門家を招いて行う**シンポジウム**がある。こちらは専門家による発表後、聴衆からの質問に答え、全体で議論する。

手順
① パネリストが順に自分の意見を発表する。
② パネリストどうしが、フロアの前で討論し、論点を明らかにする。
③ フロアも加わり、議論を深める。



二つの悲しみ

杉山 龍丸

私たちは、❶第二次大戦から二十年たった今、直接被害のないベトナムの戦いを見て、私たちが失ったもの、その悲しみを、新しく考えることが必要だと思います。

これは、私が経験したことです。

第二次大戦が終わり、多くの日本の兵士が帰国してくる復員の事務に就いていた、ある暑い日の出来事であった。

私たちは、毎日毎日訪ねてくる留守家族の人々に、あなたの息子さんは、ご主人は、なくなった、死んだ、死んだ、死んだと伝える苦しい仕事をしていた。

留守家族の多くの人は、ほとんど痩せ衰え、ぼろに等しい服装が多かった。

あるとき、ずんぐり太った、立派な服装をした紳士が隣の友人のところへ来た。

隣は、❸ニューギニア派遣の係であった。

その人は、

「ニューギニアに行った、私の息子は。」

と、名前を言って尋ねた。

友人は、帳簿をめくって、

「あなたの息子さんは、ニューギニアの❹ホーランジヤで戦死されておられます。」

と答えた。

その人は、その瞬間、目をかっと開き、口をぴくっと震わして、黙って立っていたが、くるっと向きを変えて帰っていかれた。

人が死んだと言うことは、いくら経験しても、また繰り返しても、慣れるということはない。

言うことも、またそばで聞くことも、自分自身の内部に恐怖が走るものである。

それは、意識以外の生理現象である。

友人は言った後、しばらくして、パタンと帳簿を閉じ、頭を抱えた。

私は黙って便所に立った。

階段のところに来たとき、さっきの人が、階段の曲がり角の踊り場の隅の暗がりに、白い❺パナマの帽子を顔に当てて壁板にもたれるように立っていた。



瞬間、私は気分が悪いのかと思い、声をかけようとして足を一段階段に下ろした。そのとき、その人の肩が、ぶるぶる震え、足元に、したたり落ちた水滴のたまりがあるのに気づいた。

その水滴は、パナマ帽からあふれ、したたり落ちていた。

肩の震えは、声を上げたいのを必死にこらえているものであった。

どれだけたったかわからないが、私はそっと自分の部屋に引き返した。

次の日、久しぶりにほとんど留守家族が来ないので、やれやれとしているとき、ふと気がつくと、私の机から頭だけ見えるくらいの少女がちょこんと立って、私の顔をまじまじと見つめていた。

私が姿勢を正して、何かを問いかけようとすると、

「あたし、小学校二年生なの。お父ちゃんは、❻フイリッピン



筆者 杉山龍丸 一九一九（大正八）――一九八七（昭和六二） 福岡県出身。
著書 「飢餓を生きる人々」など。
出典 「生きるかなしみ」所収の「ふたつの悲しみ」

読む

注
❶第二次大戦から二十年たった今＝この文章は、ベトナム戦争に反対する世論が高まった一九六五年頃に書かれた。
❷ベトナムの戦い＝一九六〇年頃～七五年。南ベトナム解放民族戦線および北ベトナム軍と、南ベトナム政府軍およびアメリカ軍などとの間で続いた戦争。
❸ニューギニア＝太平洋西部、オーストラリア大陸の北方にある島。第二次世界大戦時、日本と連合国軍との激戦地の一つとなった。
❹ホーランジヤ＝ニューギニア島北部沿岸にある、インドネシアの都市ジャヤプラの旧称。
❺パナマの帽子＝パナマソウの繊維を平編みにした夏用の帽子。
❻フイリッピン＝現在のフィリピン共和国。大小七千六百以上の島々から成る。第二次世界大戦当時は日本の占領下にあった。

に行ったの。お父ちゃんの名は、○○○○なの。家には、おじいちゃんと、おばあちゃんがいるけど、食べ物が悪いので、病気して、寝ているの。それで、それで、あたしに、この手紙を持って、お父ちゃんのことをきいておいでと言うので、あたし、来たの。」

顔中から汗をしたたらせて、ひと息にこれだけ言うと、大きく肩で息をした。

私は黙って、机の上に差し出した小さい手からはがきを見ると、復員局からの通知書があった。

住所は、東京都の中野であった。

私は帳簿をめくって、氏名のところを見ると、フィリピン諸島の一つ、❼ルソン島のバギオで戦死になっていた。

「あなたのお父さんは……。」

と言いかけて、私は少女の顔を見た。

痩せた真っ黒な顔、伸びたおかっぱの下に切れの長い目をいっぱいに開いて、私の唇を見つめていた。

私は少女に答えねばならぬ。答えねばならぬと体の中に走る戦慄を精いっぱい抑えて、どんな声で答えたかわからない。

「あなたのお父さんは、戦死しておられるのです。」

と言って、声が続かなくなった。

瞬間、少女は、いっぱいに開いた目をさらにぱっと開き、そして、ワッと、べそをかきそうになった。

涙が目いっぱいにあふれそうになるのを必死にこらえていた。

それを見ているうちに、私の目に涙があふれて、ほほを伝わり始めた。

私のほうが声を上げて泣きたくなった。しかし、少女は、

「あたし、おじいちゃまから言われて来たの。お父ちゃまが、戦死していたら、係のおじちゃまに、お父ちゃまの戦死した所と、戦死した、じょうきょう、じょうきょうですね、それを、書いてもらっておいで、と言われたの。」

私は黙ってうなずいて、紙を出して書こうとして、うつむいた瞬間、紙の上にぽた、ぽた、涙が落ちて、書けなくなった。

少女が、不思議そうに、私の顔を見つめていたのに困った。

やっと書き終わって、封筒に入れ、少女に渡すと、小さい手でポケットに大切にしまい込んで、腕で押さえて、うなだれた。

涙一滴、落とさず、ひと声も声を上げなかった。

肩に手をやって、何か言おうと思い、顔をのぞき込むと、下唇を血が出るようにかみしめて、かっと目を開いて肩で息をしていた。

私は、声をのんで、しばらくして、

「お一人で、帰れるの。」

ときいた。

読む



少女は、私の顔を見つめて、

「あたし、おじいちゃまに、言われたの、泣いては、いけないって。おじいちゃまから、おばあちゃまから電車賃をもらって、電車を教えてもらったの。だから、行けるね、と何度も、何度も、言われたの。」

と、改めて、自分に言い聞かせるように、こっくりと、私にうなずいてみせた。

私は、体中が熱くなってしまった。

帰る途中で、私に話した。

「あたし、妹が二人いるのよ。お母さんも、死んだの。だから、あたしが、しっかりしなくては、ならないんだって。あたしは、泣いてはいけないんだって。」

小さい手を引く私の頭の中を、その言葉だけが何度も何度もぐるぐる回っていた。

どうなるのであろうか、私はいったい何なのか、何ができるのか。

戦争は、大きな、大きな、何かを奪った。

悲しみ以上の何か、かけがえのないものを奪った。

私たちは、この二つのことから、この悲しみから、何を考えるべきであろうか。

私たちは何をすべきであろうか。

声なき声は、そこにあると思う。

木内達朗・絵

❼ルソン島のバギオ＝ルソン島はフィリピン諸島最大の島で、バギオはその北西にある都市。

※この文章は、戦後に千葉市稲毛の「引揚援護庁復員局」（兵士の帰国に関する事務を行う役所）で働いていたときの体験を基に書かれた。

高瀬舟

森鷗外

作者　森鷗外　一八六二（文久二）――一九二二（大正一一）　島根県出身。小説家・軍医。
著書　「舞姫」「雁」「山椒大夫」「渋江抽斎」など。
出典　「鷗外全集　第十六巻」

高瀬舟は京都の高瀬川を上下する小舟である。徳川時代に京都の罪人が遠島を申し渡されると、本人の親類が牢屋敷へ呼び出されて、そこでいとま乞いをすることを許された。それから罪人は高瀬舟に乗せられて、大阪へ回されることであった。それを護送するのは、京都町奉行の配下にいる同心で、この同心は罪人の親類のうちで主だった一人を、大阪まで同船させることを許す慣例であった。これは上へ通ったことではないが、いわゆる大目に見るのであった、黙許であった。

当時、遠島を申し渡された罪人は、もちろん重い科を犯したものと認められた人ではあるが、決して盗みをするために人を殺し火を放ったというような、獰悪な人物が多数を占めていたわけではない。高瀬舟に乗る罪人の過半は、いわゆる心得違いのために、思わぬ科を犯した人であった。ありふれた例を挙げてみれば、当時、相対死といった情死を図って、相手の女を殺して、自分だけ生き残った男というような類いである。

そういう罪人を乗せて、入相の鐘の鳴る頃にこぎ出された高瀬舟は、黒ずんだ京都の町の家々を両岸に見つつ、東へ走って、加茂川を横切って下るのであった。この舟の中で、罪人とその親類の者とは夜通し身の上を語り合う。いつもいつも悔やんでもかえらぬ繰り言である。護送の役をする同心は、そばでそれを聞いて、罪人を出した親戚眷族の悲惨な境遇を細かに知ることができた。所詮町奉行所の白洲で表向きの口供を聞いたり、役所の机の上で口書を読んだりする役人の、夢にもうかがうことのできぬ境遇である。

同心を勤める人にもいろいろの性質があるから、このときただうるさいと思って、耳を覆いたく思う冷淡な同心があるかと思えば、また、しみじみと人の哀れを身に引き受けて、役柄ゆえ気色には見せぬながら、無言のうちにひそかに胸を痛める同心もあった。場合によって非常に悲惨な境遇に陥った罪人とその親類とを、特に心弱い、涙もろい同心が宰領してゆくことになると、その同心は不覚の涙を禁じ得ぬのであった。

そこで、高瀬舟の護送は、町奉行所の同心仲間で不快な職務として嫌われていた。

いつの頃であったか。たぶん江戸で白河楽翁侯が政柄を執っていた寛政の頃でもあっただろう。知恩院の桜が入相の鐘に散る春の夕べに、これまで類のない、珍しい罪人が高瀬舟に乗せられた。

それは名を喜助といって、三十歳ばかりになる、住所不定の男である。もとより牢屋敷に呼び出されるような親類はないので、舟にもただ一人で乗った。

護送を命ぜられて、いっしょに舟に乗り込んだ同心羽田庄兵衛は、ただ喜助が弟殺しの罪人だということだけを聞いていた。さて牢屋敷から桟橋まで連れてくる間、この痩せ肉の、色の青白い喜助の様子を見るに、いかにも神妙に、いかにもおとなしく、自分をば公儀の役人として敬って、何事につけても逆らわぬようにしている。しかもそれが、罪人の間に往々見受けるような、温順をよそおって権勢にこびる態度ではない。

庄兵衛は不思議に思った。そして舟に乗ってからも、単に役目の表で見張っているばかりでなく、絶えず喜助の挙動に細かい注意をしていた。

その日は暮れ方から風がやんで、空一面を覆った薄い雲が月の輪郭をかすませ、ようよう近寄ってくる夏の暖かさが、両岸の土からも、川床の土からも、もやになって立ち上るかと思われる夜であった。下京の町を離れて、加茂川を横切った頃からは、辺りがひっそりとして、ただ、へさきに割かれる水のささやきを聞くのみである。

読む

注

1. 高瀬川＝京都市東部を流れる鴨川の西岸沿いに、二条大橋の上流より分水して南流する川。下流で宇治川に合流し、宇治川は西流して淀川に合流する。
2. 町奉行＝江戸時代、幕府の直轄する主要都市（江戸・京都・大阪・堺・長崎など）に置かれ、町政をつかさどり、訴訟を裁断した役職。
3. 同心＝雑務、警察の仕事に携わった下級の役人。
4. 獰悪＝凶悪で乱暴な性質。
5. 入相の鐘＝夕暮れ時（暮れ六つ）に、寺で鳴らされる鐘。
6. 加茂川＝鴨川のこと。
7. 白洲＝罪人を取り調べ、裁きを下した場所。
8. 口供＝口頭で罪状を申し述べること。
9. 口書＝口供を筆記し、記録に残したもの。
10. 宰領＝物事の取り締まりや処理をすること。また、荷物などを運送する指揮・警衛に当たること。
11. 白河楽翁侯＝松平定信（一七五八―一八二九）のこと。奥州白河藩主。幕府の老中として「寛政の改革」を推し進めた。
12. 政柄＝政治を行う権力。
13. 知恩院＝京都市東山区にある浄土宗の総本山。
14. 下京＝当時は、京都の町の内の二条通り以南の地を指した。

夜舟で寝ることは罪人にも許されているのに、喜助は横になろうともせず、雲の濃淡にしたがって、光の増したり減じたりする月を仰いで黙っている。その額は晴れやかで、目にはかすかな輝きがある。

庄兵衛はまともには見ていぬが、始終、喜助の顔から目を離さずにいる。そして、不思議だ、不思議だと、心の内で繰り返している。それは喜助の顔が、縦から見ても、横から見ても、いかにも楽しそうで、もし役人に対する気兼ねがなかったなら、口笛を吹き始めるとか、鼻歌を歌いだすとかしそうに思われたからである。

庄兵衛は心の内に思った。これまで、この高瀬舟の宰領をしたことは幾度だか知れない。しかし乗せてゆく罪人は、いつもほとんど同じように、目も当てられぬ気の毒な様子をしていた。それに、この男はどうしたのだろう。遊山船にでも乗ったような顔をしている。罪は弟を殺したのだそうだが、よしや、その弟が悪いやつで、それをどんな行きがかりになって殺したにせよ、人の情としていい心持ちはせぬはずである。この色の青い痩せ男が、その人の情というものが全く欠けているほどの、世にもまれな悪人であろうか。どうも、そうは思われない。ひょっと気でも狂っているのではあるまいか。いやいや。それにしては、何一つつじつまの合わぬ言葉や挙動がない。この男はどうしたのだろう。庄兵衛がためには、喜助の態度が考えれば考えるほどわからなくなるのである。

しばらくして、庄兵衛はこらえ切れなくなって呼びかけた。

「喜助。おまえ何を思っているのか。」

「はい。」と言って、辺りを見回した喜助は、何事をかお役人に見とがめられたのではないかと気遣うらしく、居ずまいを直して庄兵衛の気色をうかがった。

庄兵衛は、自分が突然問いを発した動機を明かして、役目を離れた応対を求める言い訳をしなくてはならぬように感じた。そこでこう言った。「いや。別に、訳があってきいたのではない。実はな、おれはさっきからおまえの島へ行く心持ちがきいてみたかったのだ。おれはこれまで、この舟で大勢の人を島へ送った。それはずいぶんいろいろな身の上の人だったが、どれもどれも島へ行くのを悲しがって、見送りに来て、いっしょに舟に乗る親類の者と夜通し泣くに決まっていた。それに、おまえの様子を見れば、どうも島へ行くのを苦にしてはいないようだ。いったいおまえはどう思っているのだい。」

喜助はにっこり笑った。「御親切におっしゃってくだすって、ありがとうございます。なるほど島へ行くということは、ほかの人には悲しいことでございましょう。その心持ちは、

読む



私にも思いやってみることができます。しかしそれは、世間で楽をしていた人だからでございます。京都は結構な土地ではございますが、その結構な土地で、これまで私のいたしてまいったような苦しみは、どこへ参ってもなかろうと存じます。お上のお慈悲で、命を助けて島へやってくださいます。島は、よしやつらい所でも、鬼のすむ所ではございますまい。私はこれまで、どこといって自分のいていい所というものがございませんでした。今度お上で、島にいろとおっしゃってくださいます。そのいろとおっしゃる所に落ち着いていることができますのが、まず何よりもありがたいことでございます。それに私は、こんなにか弱い体ではございますが、ついぞ病気をいたしたことはございませんから、島へ行ってから、どんなつらい仕事をしたって、体を痛めるようなことはあるまいと存じます。それから今度、島へおやりくださるにつきまして、二百文の鳥目をいただきました。それをここに持っております。」こう言いかけて、喜助は胸に手を当てた。遠島をおおせつけられる者には、鳥目二百銅を遣わすというのは、当時のおきてであった。

喜助は言葉を継いだ。「お恥ずかしいことを申しあげなくてはなりませぬが、私は今日まで、二百文というお足を、こうしてふところに入れて持っていたことはございませぬ。どこかで仕事に取りつきたいと思って、仕事を尋ねて歩きまして、それが見つかりしだい、骨を惜しまずに働きました。そして、もらった銭は、いつも右から左へ人手に渡さなくてはなりませなんだ。それも、現金で物が買って食べられるときは、私の工面のいいときで、たいていは借りたものを返して、またあとを借りたのでございます。それが、お牢に入ってからは、仕事をせずに食べさせていただきます。私はそればかりでも、お上に対してすまないことをいたしているようでなりませぬ。それに、お牢を出るときに、この二百文をいただきましたのでございます。こうして、相変わらずお上の物を食べていてみますれば、この二百文は私が使わずに持っていることができます。お足を自分の物にして持っているということは、私にとっては、これが初めてございます。島へ行ってみますまでは、どんな仕事ができるかわかりませんが、私は、この二百文を島でする仕事の元手にしようと楽しんでおります。」こう言って、喜助は口をつぐんだ。

庄兵衛はかれこれ初老に手の届く年になっていて、もう女房に子供を四人生ませている。それに老母が生きているので、家は七人暮らしである。平生、人には[17]吝嗇といわれるほどの倹約な生活をしていて、衣類は自分が役目のために着るものは、寝巻きしかこしらえぬくらいにしている。しかし不幸なことには、妻をいい身代の商人の家から迎えた。そこで女房は、夫のもらう[18]扶持米で暮らしを立ててゆこうとする善意はあるが、豊かな家にかわいがられて育った癖があるので、夫が満足するほど手元を引き締めて暮らしてゆくことができない。ややもすれば、月末になって勘定が足りなくなる。すると女房が、ないしょで里から金を持ってきて帳尻を合わせる。それは、夫が借財というものを毛虫のように嫌うからである。そういうことは所詮夫に知れずにはいない。庄兵衛は[19]ごせつ五節句だといっては里方から物をもらい、子供の七五三の祝いだといっては里方から子供に衣類をもらうのでさえ心苦しく思っているのだから、暮らしの穴を埋めてもらったのに気がついては、いい顔はしない。格別平和を破るようなことのない羽田の家に、おりおり波風の起こるのは、これが原因である。

庄兵衛は今、喜助の話を聞いて、喜助の身の上を我が身の上に引き比べてみた。喜助は仕事をして給料を取っても、右のほか、寝巻きしかこしらえぬくらいにしている。しかし不幸なことには、妻をいい身代の商人の家から迎えた。そこで女房は、夫のもらう[18]扶持米で暮らしを立ててゆこうとする善意はあるが、豊かな家にかわいがられて育った癖があるので、夫が満足するほど手元を引き締めて暮らしてゆくことができない。ややもすれば、月末になって勘定が足りなくなる。すると女房が、ないしょで里から金を持ってきて帳尻を合わせる。それは、夫が借財というものを毛虫のように嫌うからである。そういうことは所詮夫に知れずにはいない。庄兵衛は[19]ごせつ五節句だといっては里方から物をもらい、子供の七五三の祝いだといっては里方から子供に衣類をもらうのでさえ心苦しく思っているのだから、暮らしの穴を埋めてもらったのに気がついては、いい顔はしない。格別平和を破るようなことのない羽田の家に、おりおり波風の起こるのは、これが原因である。

庄兵衛は今、喜助の話を聞いて、喜助の身の上を我が身の上に引き比べてみた。喜助は仕事をして給料を取っても、右から左へ人手に渡してなくしてしまうと言った。いかにも哀れな、気の毒な[20]境界である。しかし一転して我が身の上を顧みれば、彼と我との間に、はたしてどれほどの差があるか。自分も上からもらう扶持米を、右から左へ人手に渡して暮らしているにすぎぬではないか。彼と我との相違は、いわばそろばんの桁が違っているだけで、喜助のありがたがる二百文に相当する貯蓄だに、こっちはないのである。

さて桁を違えて考えてみれば、鳥目二百文をでも、喜助がそれを貯蓄とみて喜んでいるのに無理はない。その心持ちは、こっちから察してやることができる。しかし、いかに桁を違えて考えてみても、不思議なのは喜助の欲のないこと、足ることを知っていることである。

喜助は世間で仕事を見つけるのに苦しんだ。それを見つけさえすれば、骨を惜しまずに働いて、ようよう[21]口を糊することのできるだけで満足した。そこで牢に入ってからは、今まで得がたかった食が、ほとんど天から授けられるように、働かずに得られるのに驚いて、生まれてから知らぬ満足を覚え

読む

[15]二百文＝当時の旅館一泊分の代金にほぼ相当する。
[16]鳥目＝江戸時代の銅銭の別称。中央に穴が空き、鳥の目に形が似ていたことからよばれた。
[17]吝嗇＝極度にけちなこと。
[18]扶持米＝武士に給与として支給された米または金のこと。
[19]五節句＝人日（一月七日）・上巳（三月三日）・端午（五月五日）・七夕（七月七日）・重陽（九月九日）の節句。
[20]境界＝境遇のこと。
[21]口を糊する＝やっと生活する。

たのである。

庄兵衛はいかに桁を違えて考えてみても、ここに彼と我との間に、大いなる懸隔のあることを知った。自分の扶持米で立ててゆく暮らしは、おりおり足らぬことがあるにしても、たいてい出納が合っている。手いっぱいの生活である。しかるに、そこに満足を覚えたことはほとんどない。常は幸いとも不幸とも感ぜずに過ごしている。しかし心の奥には、こうして暮らしていて、ふいとお役が御免になったらどうしよう、大病にでもなったらどうしようという㉒疑懼が潜んでいて、おりおり妻が里方から金を取り出してきて穴埋めをしたことなどがわかると、この疑懼が意識の閾の上に頭をもたげてくるのである。

いったいこの懸隔はどうして生じてくるだろう。ただうわべだけを見て、それは喜助には身に係累がないのに、こっちにはあるからだといってしまえばそれまでである。しかしそれはうそである。よしや自分が独り者であったとしても、どうも喜助のような心持ちにはなられそうにない。この根底はもっと深いところにあるようだと、庄兵衛は思った。

庄兵衛はただ漠然と、人の一生というようなことを思ってみた。人は身に病があると、この病がなかったらと思う。その日その日の食がないと、食ってゆかれたらと思う。万一のときに備える蓄えがないと、少しでも蓄えがあったらと思う。蓄えがあっても、また、その蓄えがもっと多かったらと思う。かくのごとくに先から先へと考えてみれば、人はどこまで行って踏み止まることができるものやらわからない。それを今、目の前で踏み止まって見せてくれるのがこの喜助だと、庄兵衛は気がついた。

庄兵衛は、今さらのように驚異の目をみはって喜助を見た。このとき庄兵衛は、空を仰いでいる喜助の頭から㉔毫光が差すように思った。

庄兵衛は喜助の顔を守りつつまた、「喜助さん。」と呼びかけた。今度は「さん」と言ったが、これは十分の意識をもって称呼を改めたわけではない。その声が我が口から出て我が耳に入るやいなや、庄兵衛はこの称呼の不穏当なのに気がついたが、今さら既に出た言葉を取り返すこともできなかった。

「はい。」と答えた喜助も、「さん」と呼ばれたのを不審に思うらしく、恐る恐る庄兵衛の気色をうかがった。

庄兵衛は少し間の悪いのをこらえて言った。「いろいろのことをきくようだが、おまえが今度島へやられるのは、人をあやめたからだということだ。おれに、ついでに、その訳を話して聞かせてくれぬか。」

喜助はひどく恐れ入った様子で、「かしこまりました。」と言って、小声で話しだした。「どうもとんだ心得違いで、恐ろしいことをいたしまして、なんとも申しあげようがございませぬ。あとで思ってみますと、どうしてあんなことができたかと、自分ながら不思議でなりませぬ。全く夢中でいたしましたのでございます。私は小さいときに二親が時疫㉕でなくなりまして、弟と二人あとに残りました。初めは、ちょうど軒下に生まれた犬の子にふびんをかけるように町内の人たちがお恵みくださいますので、近所中の走り使いなどをいたしまして、飢え凍えもせずに育ちました。しだいに大きくなりまして職を探しますにも、なるたけ二人が離れないようにいたして、いっしょにいて、助け合って働きました。去年の秋のことでございます。私は弟といっしょに、㉖西陣の織り場に入りまして、㉗空引きということをいたすことになりました。そのうち、弟が病気で働けなくなったのでございます。その頃私どもは、㉘北山の掘っ立て小屋同様の所に寝起きをいたして、㉙紙屋川の橋を渡って織り場へ通っておりましたが、私が暮れてから食べ物などを買って帰ると、弟は待ち受けていて、私を一人で稼がせてはすまないすまないと申しておりました。ある日、いつものように何心なく帰ってみますと、弟はふとんの上に突っ伏していまして、周りは血だらけなのでございます。私はびっくりいたして、手に持っていた竹の皮包みや何かを、そこへおっぽり出して、そばへ行って『どうしたどうした。』と申しました。すると弟は真っ青な顔の、両方の頬から顎へかけて血に染まったのを上げて、私を



読む

㉒疑懼＝疑って不安に思うこと。
㉓意識の閾＝意識されていることと無意識界との境。ここでは、無意識の中にあったものが意識されてくること。
㉔毫光＝仏の眉間にある白い毛から放たれるといわれる光。
㉕時疫＝流行病のこと。
㉖西陣＝京都市上京区の地名。西陣織の産地として有名。
㉗空引き＝昔、紋様を織り出すために使われた織機の一種。ここでは「空引き」を使う職人になること。
㉘北山＝京都市北方の山々の総称。また、その付近の地をいう。
㉙紙屋川＝京都市の北西部を流れる川。

見ましたが、ものを言うことができませぬ。息をいたすたびに、傷口でヒュウヒュウという音がいたすだけでございます。私にはどうも様子がわかりませんので、『どうしたのだい、血を吐いたのかい。』と言って、そばへ寄ろうといたすと、弟は右の手を床について、少し体を起こしました。左の手はしっかり顎の下の所を押さえていますが、その指の間から黒い、早く抜いてくれ、頼む。』と言うのでございます。私は血の塊がはみ出しています。弟は目で私のそばへ寄るのを止めるようにして口をききました。ようようものが言えるようになったのでございます。『すまない。どうぞ堪忍してくれ。どうせ治りそうにもない病気だから、早く死んで少しでも兄貴に楽がさせたいと思ったのだ。㉚笛を切ったらすぐ死ねるだろうと思ったが、息がそこから漏れるだけで死ねない。深く深くと思って力いっぱい押し込むと、横へ滑ってしまった。刃はこぼれはしなかったようだ。これをうまく抜いてくれたらおれは死ねるだろうと思っている。ものを言うのが切なくっていけない。どうぞ手を貸して抜いてくれ。』と言うのでございます。弟が左の手を緩めるとそこからまた息が漏ります。私はなんと言おうにも、声が出ませんので、黙って弟の喉の傷をのぞいてみますと、なんでも右の手に剃刀を持って、横に笛を切ったが、それでは死に切れなかったので、そのまま剃刀を、えぐるように深く突っ込んだものと見えます。柄がやっと二寸ばかり傷口から出ています。私はそれだけのことを見て、どうしようという思案もつかずに、弟の顔を見ました。弟はじっと私を見つめています。私はやっとのことで、『待っていてくれ、お医者を呼んでくるから。』と申しました。弟は恨めしそうな目つきをいたしましたが、また左の手で喉をしっかり押さえて、『医者がなんになる、ああ苦しい、早く抜いてくれ、頼む。』と言うのでございます。私は途方に暮れたような心持ちになって、ただ弟の顔ばかり見ております。こんなときは、不思議なもので、目がものを言います。弟の目は『早くしろ、早くしろ。』と言って、さも恨めしそうに私を見ています。私の頭の中では、なんだかこう車の輪のような物がぐるぐる回っているようでございましたが、弟の目は恐ろしい催促をやめません。それに、その目の恨めしそうなのがだんだん険しくなってきて、とうとう敵の顔をでもにらむような、憎々しい目になってしまいます。それを見ていて、私はとうとう、これは弟の言ったとおりにしてやらなくてはならないと思いました。私は『しかたがない、抜いてやるぞ。』と申しました。すると弟の目の色がからりと変わって、晴れやかに、さもうれしそうになりました。私はなんでもひと思いにしなくてはと思って、膝をつくようにして体を前へ乗り出しました。弟はついていた右の手を離して、今まで喉を押さえていた手の肘を床について、横になりました。私は剃刀の柄をしっかり握って、ずっと引きました。

このとき、私の内から締めておいた表口の戸を開けて、近所のばあさんが入ってきました。留守の間、弟に薬を飲ませたり何かしてくれるように、私の頼んでおいたばあさんなのでございます。もうだいぶうちの中が暗くなっていましたから、私には、ばあさんがどれだけのことを見たのだかわかりませんでしたが、ばあさんはあっと言ったきり、表口を開け放しにしておいて駆け出してしまいました。私は剃刀を抜くとき、手早く抜こう、まっすぐに抜こうというだけの用心はいたしましたが、どうも抜いたときの手応えは、今まで切れていなかった所を切ったように思われました。刃が外の方へ向いていましたから、外の方が切れたのでございましょう。私は剃刀を握ったまま、ばあさんの入ってきてまた駆け出していったのを、ぼんやりして見ておりました。ばあさんが行ってしまってから、気がついて弟を見ますと、弟はもう息が切れておりました。傷口からはたいそうな血が出ておりました。それから㉛年寄衆がおいでになって、役場へ連れてゆかれますまで、私は剃刀をそばに置いて、目を半分開いたまま死んでいる弟の顔を見つめていたのでございます。」

少しうつ向きかげんになって庄兵衛の顔を下から見上げて話していた喜助は、こう言ってしまって、視線を膝の上に落としました。

喜助の話はよく条理が立っている。ほとんど条理が立ちすぎているといってもいいくらいである。これは半年ほどの間、当時のことを幾度も思い浮かべてみたのと、役場で問われ、町奉行所で調べられるそのたびごとに、注意に注意を加えてさらってみさせられたのとのためである。

庄兵衛はその場の様子を目のあたり見るような思いをして聞いていたが、これがはたして弟殺しというものだろうか、人殺しというものだろうかという疑いが、話を半分聞いたときから起こってきて、聞いてしまっても、その疑いを解くことができなかった。弟は、剃刀を抜いてくれたら死なれるだろうから、抜いてくれと言った。それを抜いてやって死なせたのだ、殺したのだとは言われる。しかしそのままにしておいても、どうせ死なくてはならぬ弟であったらしい。それが早く死にたいと言ったのは、苦しさに耐えなかったからである。喜助はその苦を見ているに忍びなかった。苦から救ってやろうと思って命を絶った。それが罪であろうか。殺したのは罪に相違ない。しかしそれが苦から救うためであったと

㉚笛＝喉笛。

㉛年寄衆＝町や村で、住民の長の役にあった人。

読む

思うと、そこに疑いが生じて、どうしても解けぬのである。

庄兵衛の心の内には、いろいろに考えてみた末に、自分より上のものの判断に任すほかないという念、㉜オオトリテエに従うほかないという念が生じた。庄兵衛はお奉行様の判断を、そのまま自分の判断にしようと思ったのである。そうは思っても、庄兵衛は、まだどこやらに腑に落ちぬものが残っているので、なんだかお奉行様にきいてみたくてならなかった。

しだいにふけてゆくおぼろ夜に、沈黙の人二人を乗せた高瀬舟は、黒い水の面を滑っていった。

蓬田やすひろ・絵



— ㉜オオトリテエ＝権威・権力者。 —

読む

森鷗外の生涯

少年時代の鷗外

鷗外は本名を森林太郎といい、石見国（今の島根県の一部）津和野に生まれた。代々藩医を務める森家の長男として、期待を背負って上京。人よりも二年早い十二歳で、東京医学校（東京大学医学部）予科に入学した。十代の鷗外は、自分より年齢も上で、体も大きい仲間と共に学問に打ち込んだ。



古い家並みの残る津和野の町

ドイツ留学

鷗外は大学を卒業後、陸軍軍医となる。一八八四（明治一七）年から約四年間、ドイツで医学研究に励むいっぽう、西洋の哲学や文学から多大な影響を受ける。帰国後、小説「舞姫」を発表。翻訳、評論、歴史小説など、幅広い分野で活躍する。

夏目漱石と共に、日本の近代文学を代表する文豪といわれる。



ドイツ留学時代の鷗外（左端）



鷗外の著書



「高瀬舟」の初版本

石見人 森林太郎

鷗外は遺言で「石見人森林太郎トシテ死セント欲ス。」と述べ、墓碑には「森林太郎墓」とだけ刻むよう厳命した。高い地位や名声を残すことよりも、一人の石見人として死ぬことを、鷗外は望んだのであろう。

古典芸能の世界
——歌舞伎・浄瑠璃

歌舞伎

●概要・歴史

歌舞伎は、演劇、舞踊、音楽を取り入れた総合的な舞台芸能である。その始まりは、一六〇三年に出雲阿国が京都で舞った「かぶき踊り」だとされる。

●隈取

歌舞伎の特徴の一つに、顔に赤や藍の模様を描く「隈取」がある。隈取は役柄や性格を表現しており、赤は正義や勇気、怒りを表す役などに、藍は大物の悪人や怨霊の役に使われる。



血気盛んな若者役の隈取。赤が力強い印象を与える。



身分の高い悪人役の隈取。藍が冷たく不気味な印象をかもし出す。

浄瑠璃

●概要・歴史

浄瑠璃は、太夫（語り手）が三味線に合わせ、独特の節回しで物語を語る芸能で、その起源は室町時代に遡る。

一六〇〇年前後になると、浄瑠璃の語りに乗せて、人形が物語を演じる人形浄瑠璃が生まれた。人形浄瑠璃は、最後まで残った一座の名称にちなんで、「文楽」ともよばれる。

●人形遣い

人形浄瑠璃では、人形一体を三人で操る。人形の体を支え頭部と右手を操る役（主遣い）、左手を操る役（左遣い）、両足を操る役（足遣い）が息を合わせることで、人形は生き生きと動く。



人形浄瑠璃の上演風景。主遣いが顔を出して演じるいっぽう、左遣いと足遣いは顔を隠す。

読む



歌舞伎の「義経千本桜」上演風景



人形浄瑠璃の「義経千本桜」上演風景

歌舞伎・人形浄瑠璃の演目

歌舞伎と人形浄瑠璃の演目には、次の二つの種類がある。

- 時代物……江戸時代以前の武士や公家の世界を描く。
- 世話物……江戸時代当時の町人の姿を描く。近松門左衛門の作品が特に有名である。

歌舞伎と人形浄瑠璃は、人気のある演目を互いに取り入れてきたため、共通する演目が多い。

ここでは、元は人形浄瑠璃の演目として書かれ、後に歌舞伎でも演じられるようになった時代物「義経千本桜」の上演風景を見比べてみよう。

「義経千本桜」（河連法眼館の段）のあらすじ

兄・源頼朝に謀反の疑いをかけられた源義経は、恋人・静御前に「初音の鼓」を渡し、家来の佐藤忠信に静を託して、都を離れる。

その後、忠信に再会した義経は、静の状況を尋ねるが、忠信には静を託された覚えがない。不審に思った義経のもとに、静ともう一人の忠信が到着する。忠信がなぜか二人いる状況に一行は驚く。すると、静の供をしていたほうの忠信が、実は自分はきつねで、鼓の皮にされた親ぎつねを思い、化けて鼓に付き添っていたと明かす。哀れに思った義経が、静を守った褒美に鼓を与えると、きつねは喜び、神通力を使って義経たちを敵から守ることを約束して姿を消す。

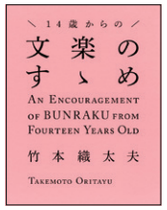
広がる読書



「最新版 歌舞伎の解剖図鑑」辻和子



「カブキブ！」（全七巻）榎田ユウリ



「14歳からの 文楽のすゝめ」竹本織太夫 監修

古典・近代文学の名作

166ページ「つながる古典」「古典名作選」

文学作品には、印象的な書きだしのものが多い。ここでは、古典や近代以降の文学作品の中から名作とよばれるものを取り上げ、その冒頭部分を抜粋した。表現の美しさやリズム、含蓄ある内容を味わおう。

伊勢物語

作者未詳

昔、男、初冠して、奈良の京春日の里に、しるよしして、狩りにいにけり。その里に、いとなまめいたる女はらから住みけり。この男かいまみてけり。思ほえず、ふる里にいとはしたなくてありければ、心地まどひにけり。男の、着たりける狩衣の裾を切りて、歌を書きてやる。


伊勢物語絵巻

昔、ある男が、元服をして、奈良の都の春日の里に、領地を有する縁で、狩りに出かけた。その里に、たいそう優美な姉妹が住んでいた。この男は、物の隙間から二人の姿を見てしまった。思いがけず、こんな旧都に、たいそう不似合いなさまで美しい女性たちがいたものだから、動揺してしまった。男は、着ていた狩衣の裾を切って、それに歌を書いて贈る。

男も書くものと聞いている日記というものを、女である私もやってみようと思って、書くのである。

某年の十二月の二十一日の午後八時頃に出発する。その旅の様子を、少しばかり、紙に書きつける。

ある人が、国司としての地方勤務の四年か五年の任期が終わって、通例の引き継ぎをすっかりし終えて、解由状（任務交代の証明書）などを受け取って、住んでいる官舎から出て、船に乗ることになっている場所へ行く。あの人やこの人、知っている人や知らない人が、みんなで見送りをする。

土佐日記

紀貫之（？―945？）

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり。それの年の師走の二十日あまり一日の日の、戌の時に門出す。そのよし、いささかにものに書きつく。

ある人、県の四年五年果てて、例のことども皆し終へて、解由など取りて、住む館より出でて、船に乗るべき所へ渡る。かれこれ、知る知らぬ、送りす。

文学作品には、印象的な書きだしのものが多い。ここでは、古典や近代以降の文学作品の中から名作とよばれるものを取り上げ、その冒頭部分を抜粋した。表現の美しさやリズム、含蓄ある内容を味わおう。

読む

源氏物語

紫式部（生没年未詳）

いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。初めより我はと思ひあがりたまへる御方々、めざましきものにおとしめそねみたまふ。（中略）

前の世にも御契りや深かりけん、世になく清らなる玉の男御子さへ生まれたまひぬ。いつしかと心もとながらせたまひて、急ぎ参らせて御覧ずるに、めづらかなるちごの御容貌なり。

どの帝の御代であったか、女御や更衣が何人もお仕えしておられた中に、たいして重々しい家柄ではない方で、特に帝のご寵愛を被っていらっしゃる方があった。宮仕えの初めより、我こそはと自負しておられた方々は、この方を、目に余る者と蔑み、憎みもなさる。（中略）

帝とこの更衣は前世においてもご宿縁が深かったのであろうか、世にまたとなく清らかに美しい玉のような皇子までがお生まれになった。帝は、その若宮をまだかまだかと待ち遠しくお思いになり、急ぎ宮中に参内させてご覧になると、見たこともないような若宮のご器量である。

更級日記

菅原孝標女（一〇〇八―？）

あづま路の道の果てよりも、なほ奥つ方に生ひ出でたる人、いかばかりかはあやしかりけむを、いかに思ひ始めけることにか、世の中に物語といふもののあんなるを、いかで見ばやと思ひつつ、つれづれなるひるま、宵居などに、姉、継母などやうの人々の、その物語、かの物語、光源氏のあるやうなど、ところどころ語るを聞くに、いとどゆかしさまされど、わが思ふままに、そらにいかでかおぼえ語らむ。

東国路の終着点（である常陸の国）よりも、もっと奥深い土地で育った人、そんな私はどんなにかみすぼらしくひなびてもいたろうに、何を思い始めたものか、「世間には物語というものがあるそうで。なんとかそれを読みたいものだ。」と、しきりに思うようになった。そんな折、することがない退屈な昼間とか、夜起きているときなどに、姉、継母などの大人たちが、あの物語だの、この物語だの、はては光源氏の暮らしぶりなどを、ところどころ話すのを聞いていると、私の物語への憧れは募るいっぽうなのだが、大人たちだって、私の心ゆくまで、その一部始終をそらんじて、どうして話してくれたりしようか。

方丈記

鴨長明（一一五五―一二一六）

ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。



鴨 長明

川は絶えることなく、いつも流れている。そのくせ、水は元の水ではない。よどんだ所に浮かぶ水の泡も、あちらで消えたり、こちらにできていたりして、いつまでもそのままということはない。世間の人や、その住居を見ても、やはりこのようだ。

日本永代蔵

井原西鶴（一六四二―一六九三）

天道もの言はずして国土に恵み深し。人は実あつて偽り多し。その心は本虚にして、物に応じて跡なし。これ、善悪の中に立つてすぐなる今の御代を豊かに渡るは、人の人たるがゆゑに常の人にはあらず。



井原西鶴

天は何も言わず国土に深い恩恵を施している。人間は、誠実でありつつそをつくことも多い。それは、人の心が本来は無であり、事物に反応するだけのものだからだ。このように、人間が善と悪との間で揺れ動きつつ生きる今の正しい時代をゆったりと生きてゆく人は、人の中の人ともいうべきで、あたりまえの人とは異なる。

読む

舞姫

森鷗外

石炭をば早や積み果てつ。中等室の卓のほとりはいと静かにて、熾熱燈の光の晴れがましきも徒なり。今宵は夜ごとにここに集い来る骨牌仲間も「ホテル」に宿りて、舟に残れるは余一人のみなれば。

森鷗外（一八六二―一九二二）
著書「高瀬舟」「雁」「山椒大夫」「渋江抽斎」など

草枕

夏目漱石

山路を登りながら、こう考えた。

智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。

住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟ったとき、詩が生まれて、画ができる。

人の世を作ったものは神でもなければ鬼でもない。やはり向こう三軒両隣にちらちらするただの人である。ただの人が作った人の世が住みにくいからとて、越す国はあるまい。

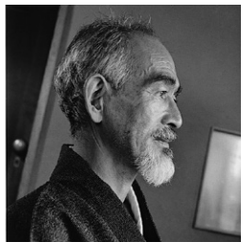


夏目漱石（一八六七―一九一六）
著書「吾輩は猫である」「坊っちゃん」「こころ」など

真鶴

志賀直哉

伊豆半島の年の暮れだ。日が入って風物すべてが青味を帯びて見られる頃だった。十二、三になる男の子が小さい弟の手を引き、物思わし気な顔つきをして、深い海を見下ろす海岸の高い道を歩いていた。弟は疲れ切っていた。子供ながらに不機嫌なしわを眉間に作って、さもいやいやに歩みを運んでいた。しかし兄のほうは独り物思いに沈んでいる。彼は恋という言葉を知らなかったが、今、その恋に思い悩んでいるのであった。



志賀直哉（一八八三―一九七一）
著書「網走まで」「小僧の神様」「暗夜行路」など

羅生門

芥川龍之介

ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。

広い門の下には、この男のほかに誰もいない。ただ、所々丹塗りの剝げた、大きな円柱に、蟋蟀が一匹とまっている。羅生門が、朱雀大路にある以上は、この男のほかにも、雨やみをする市女笠や揉烏帽子が、もう二、三人はありそうなものである。それが、この男のほかには誰もいない。



芥川龍之介（一八九二―一九二七）
著書「鼻」「芋粥」「地獄変」「蜜柑」「河童」など

山椒魚

井伏鱒二

山椒魚は悲しんだ。

彼は彼のすみかである岩屋から外へ出てみようとしたのであるが、頭が出口につかえて外に出ることができなかったのである。今はもはや、彼にとって永遠のすみかである岩屋は、出入り口の所がそんなに狭かった。そして、ほの暗かった。

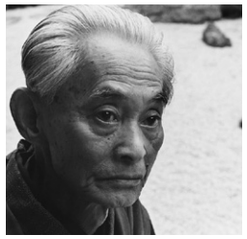
井伏鱒二（一八九七―一九九三）
著書「屋根の上のサワン」「黒い雨」など

伊豆の踊子

川端康成

道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思う頃、雨脚が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追ってきた。

私は二十歳、高等学校の制帽をかぶり、紺飛白の着物に袴をはき、学生カバンを肩に掛けていた。一人伊豆の旅に出てから四日目のことだった。修善寺温泉に一夜泊まり、湯ヶ島温泉に二夜泊まり、そして朴歯の高下駄で天城を登ってきたのだった。



川端康成（一八九九―一九七二）
著書「雪国」「山の音」「古都」など

斜陽

太宰治

朝、食堂でスウプを一さじ、すっと吸ってお母さまが、

「あ。」

とかすかな叫び声をおあげになった。

「髪の毛？」

スウプに何か、イヤなものでも入っていたのかしら、と思った。

「いいえ。」

お母さまは、何事もなかったように、またひらりと一さじ、スウプをお口に流し込み、すましてお顔を横に向け、お勝手の窓の、満開の山桜に視線を送り、そうしてお顔を横に向けたまま、またひらりと一さじ、スウプを小さなお唇の間に滑り込ませた。



太宰治（一九〇九―一九四八）
著書「富嶽百景」「津軽」「人間失格」など

潮騒

三島由紀夫

歌島は人口千四百、周囲一里にみたない小島である。

歌島に眺めの最も美しい場所が二つある。一つは島の頂近く、北西に向かって建てられた八代神社である。

ここからは、島がその湾口にくらいしている伊勢海の周辺がくまなく見える。北には知多半島が迫り、東から北へ渥美半島が延びている。西には宇治山田から津の四日市に至る海岸線が隠見している。

二百段の石段を昇って、一双の石の唐獅子に守られた鳥居の所で見返ると、こういう遠景に囲まれた古代さながらの伊勢の海が眺められた。



三島由紀夫（一九二五―一九七〇）
著書「花ざかりの森」「仮面の告白」「金閣寺」など

日本文学の流れ

・上代から現代までの時代ごとの文学の流れを示すとともに、「国語史」の欄で、その時代の国語の変遷を示した。
・「参考」欄には、時代ごとの主な出来事を示した。

時代	上代	中古	中世
	紀元前～七世紀	奈良時代	平安時代	鎌倉・南北朝・室町・安土桃山時代
日本文学	●口承文学の時代 神話・伝説・歌謡が、口から口へ語り継がれ、歌い継がれていた。 古事記［太安万侶］七二 日本書紀［舎人親王ら］七二〇 「古事記」「日本書紀」の編著者	●この頃、各地で「風土記」が編纂される。 （播磨・常陸・出雲・肥前・豊後など） 万葉集（奈良時代の末頃） 「万葉集」写本	●唐の文化の影響を受けて、漢詩文が盛んになる。 ●宮廷を中心とした、女流文学が盛んになる。 竹取物語 古今和歌集［紀貫之ら撰］九〇五 伊勢物語 「伊勢物語」より	●戦乱と生活不安のため、仏教的無常観が広がる。 新古今和歌集［藤原定家ら撰］一二三五 方丈記［鴨長明］一二一二 宇治拾遺物語　一三世紀頃 小倉百人一首［藤原定家撰］一三五頃 ●貴族文学から、武家・僧侶、さらに民衆の文学へと移り変わる。 ●力強い文体の軍記物語が生まれる。 ●連歌が盛んになる。 ●新しい芸能である能・狂言が武士階級によって育成される。 平家物語 徒然草［兼好法師］一三三一頃 太平記　一三七五頃 風姿花伝［世阿弥］一四〇〇頃 ●十四世紀末から、御伽草子（絵入りの短編物語）が民衆の間に流行する（鉢かづき・浦島太郎・物くさ太郎など）。	土佐日記［紀貫之］九三五頃 蜻蛉日記［藤原道綱母］九七四頃 枕草子［清少納言］一〇〇一頃 源氏物語［紫式部］一〇〇八頃 紫式部日記［紫式部］一〇一〇頃 和漢朗詠集［藤原公任撰］一〇一三頃 大鏡　一一二五頃 ●貴族文化が衰え、庶民の生活を描いた説話や歌謡が盛んになる。 今昔物語集　一一二〇頃 藤原道綱母	●片仮名が成立する。 ・漢文の送り仮名として、 ・漢字に添えて用いられる。 ・平仮名が成立する。 ・和歌・物語・随筆・日記などの和文に用いられる。 ・国語・漢和辞典・百科事典の要素をもつ「倭名類聚抄」（源順撰）が作られる。（九三四頃） ・漢字の和訓を示した辞典である「類聚名義抄」（編者未詳）が作られる。（一一〇〇頃） ●和漢混交文が発達する。 ・漢文体と和文体とが溶け合った文章が盛んに書かれる。 ・漢語が浸透する。
国語史	・漢字が伝来する。 ・漢字を用いて日本語が書かれる。 ・漢字の意味に日本語を当てた訓が成立する。 ・漢字の意味にかかわらず、漢字の音訓を借りて日本語の発音を表す万葉仮名が使われる。			
外国文学		イリアス・オデュッセイア［ホメロス］ イソップ物語［イソップ］ 論語 旧約聖書 史記［司馬遷］前九一頃 ・唐詩が盛んになる。 （孟浩然・李白・杜甫・王維ら）		ニーベルンゲンの歌 トリスタンとイゾルデ［ベルール、トマ］ ローランの歌　一〇五〇頃 アラビアンナイト 神曲［ダンテ］一三二一 デカメロン ［ボッカチオ］一三五三 水滸伝［施耐庵］ 唐詩選［李攀竜？］ 西遊記［呉承恩］ アーサー王の死 ［マロリー］一四五五
参考	春秋・戦国時代〈前七〇〇―前三〇三〉 秦、中国統一〈前二二一〉 大和政権成立〈六〇八〉 唐、中国統一〈六二四〉 大化の改新 平城京遷都〈七一〇〉 東大寺大仏開眼〈七五二〉	平安京遷都〈七九四〉 遣唐使停止〈八九四〉	院政始まる〈一〇八六〉 保元の乱〈一一五六〉 平治の乱〈一一五九〉 平清盛、太政大臣となる〈一一六七〉 平家滅ぶ〈一一八五〉 源頼朝、征夷大将軍となる〈一一九二〉 承久の乱〈一二二一〉 中国で元が成立〈一二七一〉 文永の役〈一二七四〉 弘安の役〈一二八一〉 建武の新政〈一三三三〉 明、中国統一〈一三六八〉 応仁の乱起こる〈一四六七〉 キリスト教の伝来〈一五四九〉 関ヶ原の合戦〈一六〇〇〉

時代　日本文学

近世（江戸時代）

●町人階級が経済的実力を握り、文学の担い手となる。
●この頃の文化は大きく前期・中期・後期に分けられる。
前期は元禄年間（一六八―一七〇四）を最盛期として、俳諧・浮世草子・浄瑠璃に優れた作品が生まれる。中・後期は、安永・天明年間（一七二―一七八九）以後に江戸固有の文化が成熟し、読本・歌舞伎・落語などが盛んになる。
日本永代蔵［井原西鶴］一六八八
おくのほそ道［松尾芭蕉］一六九四
曾根崎心中［近松門左衛門］一七〇三初演
義経千本桜［竹田出雲ら］一七四七初演
●この頃から、蘭学がしだいに盛んになる。
誹風柳多留［柄井川柳撰］一七六五
万葉考［賀茂真淵］一七六八頃
雨月物語［上田秋成］一七七六
新花摘［与謝蕪村］一七七七
古事記伝［本居宣長］一七九八
東海道中膝栗毛［十返舎一九］一八〇二
浮世床［式亭三馬］一八一三
南総里見八犬伝［曲亭馬琴］一八一四
おらが春［小林一茶］一八一九
東海道四谷怪談［鶴屋南北］一八二五初演



「南総里見八犬伝」

近世（国学）

●身分制度が確立し、階層によって言葉が分かれる。
●イエズス会宣教師らによって「日葡辞書」が作られる。（一六〇三）
●近代的辞書の萌芽ともいわれる「和訓栞」（谷川士清）の編纂が始まる。（全巻刊行は一八七七）
●識字層が拡大する。
・寺子屋などでの庶民教育が普及し、読み書きのできる人々が増加する。
・戯作が流行する。
・江戸固有の文化が成熟し、安永・天明年間以後、江戸の言葉を基にした多くの作品が書かれる。

近世（外国文学）

ハムレット［シェイクスピア］一六〇三頃
ドン・キホーテ［セルバンテス］一六〇五
失楽園［ミルトン］一六六七
聊斎志異［蒲松齢］一六七九
ロビンソン・クルーソー［デフォー］一七一九
ファウスト［ゲーテ］一八〇八
子どもと家庭の童話［グリム兄弟］一八一二
赤と黒［スタンダール］一八三〇
即興詩人［アンデルセン］一八三五
谷間のゆり［バルザック］一八三五
オリバー・トゥイスト［ディケンズ］一八三七
黒猫［ポー］一八四三
嵐が丘［E・ブロンテ］一八四七
レ・ミゼラブル［ユゴー］一八六二
父と子［ツルゲーネフ］一八六二
罪と罰［ドストエフスキー］一八六六

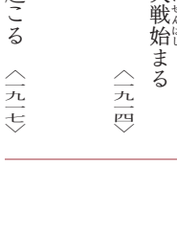
近世（参考）

徳川家康、征夷大将軍となる〈一六〇三〉
鎖国体制が始まる〈一六三九〉
清、中国統一〈一六四四〉
赤穂浪士の討ち入り〈一七〇二〉
享保の改革〈一七二六〉
アメリカ合衆国独立宣言〈一七七六〉
寛政の改革〈一七八七〉
フランス革命〈一七八九〉
天保の改革〈一八四一〉
ペリー来航〈一八五三〉
安政の大獄〈一八五八〉
大政奉還〈一八六七〉

読む

近代（大正時代）

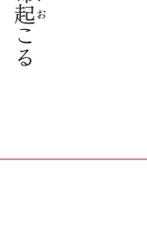
●小説と並んで、演劇や詩も盛んになる。
赤光［斎藤茂吉］一九一三
こころ［夏目漱石］一九一四
道程［高村光太郎］一九一四
羅生門［芥川龍之介］一九一五
高瀬舟［森鷗外］一九一六
月に吠える［萩原朔太郎］一九一七



「羅生門」

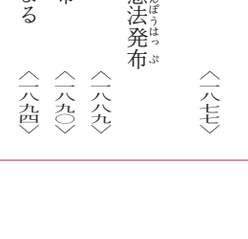
近代（明治時代）

●伝統文学が衰え、近代思想に基づくさまざまな文学運動が起こる。
小説神髄［坪内逍遥］一八八五
浮雲［二葉亭四迷］一八八七
舞姫［森鷗外］一八九〇
五重塔［幸田露伴］一八九一
たけくらべ［樋口一葉］一八九五
武蔵野［国木田独歩］一八九八
高野聖［泉鏡花］一九〇〇
みだれ髪［与謝野晶子］一九〇一
病牀六尺［正岡子規］一九〇二
吾輩は猫である［夏目漱石］一九〇五
海潮音［上田敏訳］一九〇五
破戒［島崎藤村］一九〇六
坊っちゃん［夏目漱石］一九〇六
邪宗門［北原白秋］一九〇九
田舎教師［田山花袋］一九〇九
一握の砂［石川啄木］一九一〇
遠野物語［柳田國男］一九一〇



「吾輩は猫である」


「みだれ髪」


「浮雲」

●翻訳語が作られる。
・西洋文化の流入に応じて、多数の翻訳語や言文一致体の文章が生まれる。
・新聞・雑誌が、相次いで創刊される。
・初の日刊紙「横浜毎日新聞」（一八七〇）など。
・学制が制定され、小・中学校教育が始まる。（一八七二）
・小学校では「綴字」「読本」、中学校では「国語学」などの科目が設けられる。
日本初の近代的国語辞典といわれる「言海」（大槻文彦編）が刊行される。（一八九一）
小学校令により小学校に国語科が設けられる。（一九〇〇）
国定教科書制度の成立。（一九〇三）
●共通語が確立する。
・言文一致が一般の文章に普及する。近代化の完成に伴って、書き言葉が整備される。
ラジオ放送が始まる。（一九二五）

近代（外国文学）

海底二万里［ヴェルヌ］一八六九
アンナ・カレーニナ
［トルストイ］一八七五
トム・ソーヤーの冒険
［トウェイン］一八七六
人形の家［イプセン］一八七九
宝島
［スティーブンソン］一八八三
どん底［ゴーリキー］一九〇二
桜の園［チェーホフ］一九〇三
ジャン・クリストフ
［ロマン・ロラン］一九〇四
最後の一葉
［オー・ヘンリー］一九〇五
車輪の下［ヘッセ］一九〇六
赤毛のアン
［モンゴメリ］一九〇八
青い鳥
［メーテルリンク］一九〇八
狭き門［ジイド］一九〇九
失われた時を求めて
［プルースト］一九一三
変身［カフカ］一九一六
月と六ペンス
［モーム］一九一九
ロボット
［チャペック］一九二〇

近代（参考）

東京遷都〈一八六九〉
西南戦争〈一八七七〉
大日本帝国憲法発布〈一八八九〉
教育勅語発布〈一八九〇〉
日清戦争始まる〈一八九四〉
日露戦争始まる〈一九〇四〉
清で辛亥革命起こる〈一九一一〉
中華民国成立〈一九一二〉
第一次世界大戦始まる〈一九一四〉
ロシア革命起こる〈一九一七〉

時代

近代

大正時代

日本文学

生まれ出づる悩み［有島武郎］一九一八
抒情小曲集［室生犀星］一九一八
友情［武者小路実篤］一九一九
形［菊池寛］一九二〇
暗夜行路［志賀直哉］一九二一
幽閉（後の「山椒魚」）［井伏鱒二］一九二三
春と修羅［宮沢賢治］一九二四
檸檬［梶井基次郎］一九二五
伊豆の踊子［川端康成］一九二六



［春と修羅］

●初期には大正時代の流れが継続されるが、軍国主義の台頭に伴い、言論表現の自由がしだいに奪われる。

虚子句集［高浜虚子］一九二八
夜明け前［島崎藤村］一九二九
蟹工船［小林多喜二］一九二九
機械［横光利一］一九三〇
山羊の歌［中原中也］一九三四
雪国［川端康成］一九三五
風立ちぬ［堀辰雄］一九三六
走れメロス［太宰治］一九四〇
銀河鉄道の夜［宮沢賢治］一九四一
山月記［中島敦］一九四三
無常といふ事［小林秀雄］一九四二
細雪［谷崎潤一郎］一九四三
俘虜記［大岡昇平］一九四八



［雪国］

［夜明け前］

「当用漢字表」が制定される。（一九四六）
「現代かなづかい」が制定される。（一九四六）
教育基本法・学校教育法が施行され、戦後の学校教育が始まる。（一九四七）
テレビ放送が普及する。
外来語が浸透する。
方言が衰退する。
「常用漢字表」が制定される。（一九八一）
コピー機が普及する。

国語史

外国文学

阿Q正伝［魯迅］一九二一
チボー家の人々［マルタン・デュ・ガール］一九二二
荒地［エリオット］一九二三
魔の山［トーマス・マン］一九二四
大地［パール・バック］一九三一
風と共に去りぬ［ミッチェル］一九三六
怒りの葡萄［スタインベック］一九三九
異邦人［カミュ］一九四二
星の王子さま［サン＝テグジュペリ］一九四三
自由への道［サルトル］一九四五
一九八四年［オーウェル］一九四九
第二の性［ボーヴォワール］一九四九
ライ麦畑でつかまえて［サリンジャー］一九五一
老人と海［ヘミングウェー］一九五二

参考

国際連盟成立〈一九二〇〉
ソビエト社会主義共和国連邦成立〈一九二二〉
関東大震災〈一九二三〉
満州事変〈一九三一〉
五・一五事件〈一九三二〉
二・二六事件〈一九三六〉
日中戦争始まる〈一九三七〉
第二次世界大戦始まる〈一九三九〉
太平洋戦争始まる〈一九四一〉
ポツダム宣言受諾〈一九四五〉
国際連合成立〈一九四五〉
日本国憲法公布〈一九四六〉
中華人民共和国成立〈一九四九〉
湯川秀樹、ノーベル物理学賞受賞〈一九四九〉
サンフランシスコ平和条約調印〈一九五一〉
日本、国際連合加盟〈一九五六〉
オリンピック東京大会〈一九六四〉
川端康成、ノーベル文学賞受賞〈一九六八〉
アポロ十一号、月着陸〈一九六九〉
冬季オリンピック札幌大会〈一九七二〉
世界的石油危機〈一九七三〉
日中平和友好条約調印〈一九七八〉
ソビエト連邦解体〈一九九一〉
大江健三郎、ノーベル文学賞受賞〈一九九四〉
阪神・淡路大震災〈一九九五〉
冬季オリンピック長野大会〈一九九八〉
東日本大震災〈二〇一一〉
カズオ・イシグロ、ノーベル文学賞受賞〈二〇一七〉
コロナウイルス感染症の世界的流行〈二〇二〇〉
オリンピック東京大会〈二〇二一〉

読む

現代

昭和時代

夕鶴［木下順二］一九四九
二十億光年の孤独［谷川俊太郎］一九五二
裸の王様［開高健］一九五七
樅ノ木は残った［山本周五郎］一九五八
雁の寺［水上勉］一九六一
沈黙［遠藤周作］一九六六
ユタと不思議な仲間たち［三浦哲郎］一九七一
限りなく透明に近いブルー［村上龍］一九七六
項羽と劉邦［司馬遼太郎］一九八〇
おとなになれなかった弟たちに……［米倉斉加年］一九八三
岳物語［椎名誠］一九八五
TUGUMI［吉本ばなな］一九八九
大地の子［山崎豊子］一九九一
蛇を踏む［川上弘美］一九九六
鉄道員（ぽっぽや）［浅田次郎］一九九七
パレード［吉田修一］二〇〇一
博士の愛した数式［小川洋子］二〇〇三
風が強く吹いている［三浦しをん］二〇〇六
八日目の蟬［角田光代］二〇〇七
あと少し、もう少し［瀬尾まいこ］二〇〇九
サラバ！［西加奈子］二〇一四
逆ソクラテス［伊坂幸太郎］二〇二〇

二十四の瞳［壺井栄］一九五二
金閣寺［三島由紀夫］一九五六
飼育［大江健三郎］一九五八
しろばんば［井上靖］一九六〇
黒い雨［井伏鱒二］一九六五
火垂るの墓［野坂昭如］一九六七
岬［中上健次］一九七五
螢川［宮本輝］一九七七
吉里吉里人［井上ひさし］一九八一
のはらうた［工藤直子］一九八四
サラダ記念日［俵万智］一九八七
指輪物語［トールキン］一九五四―一九五六
冷血［カポーティ］一九六六
アルジャーノンに花束を［キイス］一九六六
百年の孤独［ガルシア＝マルケス］一九六七
青い眼が欲しい［モリスン］一九七〇
モモ［エンデ］一九七三
ホテル・ニューハンプシャー［アーヴィング］一九八一
ムーン・パレス［オースター］一九八九
恥辱［クッツェー］一九九九
わたしを離さないで［カズオ・イシグロ］二〇〇五
アメリカーナ［アディーチェ］二〇一三

パソコンが普及する。
インターネットが普及する。
携帯電話が普及する。
「常用漢字表」が改定される。（二〇一〇）
スマートフォンが普及する。
SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）が普及する。
児童・生徒一人につき一台、タブレット端末が配備される。（二〇二一）

郷土ゆかりの作家・作品

ここには、各都道府県出身の作家の作品や、その地を舞台にした作品の一部を挙げた。
郷土ゆかりの作家について調べたり、その作品を読んだりしてみよう。
■は作者の出身地、■は作品の舞台となっていることを示す。

秋田県 石井露月（俳句）

材木や米代川の秋の風
暁や湖上をはしる青嵐

宮城県 土井晩翠「青葉城」より

秋はうつろふ樹々の色に
名のみなりけり青葉山
図南の翼風弱く
恨は永く名は高き
君が城あと今いかに。

山形県 斎藤茂吉（短歌）

みちのくの母のいのちを一目見ん一目みんとぞたまにそぐへる

福島県 高村光太郎「樹下の二人」より

あれが阿多多羅山、
あの光るのが阿武隈川。
こうやって言葉すくなに坐つてゐると、
うつとりねむるやうな頭の中に、
ただ遠い世の松風ばかりが薄みどりに吹き渡ります。

茨城県 長塚節「芋掘り」より

畑のへりの茶の木の花は白々と光を帯びている。
筑波山はみるみる濃い紫に染まってきた。秋の末の晩稲を刈る頃から夕日の差しかげんで筑波山は形容しがたい美しい紫を染め出す。

栃木県 松尾芭蕉（俳句）

あらたうと青葉若葉の日の光
暫時は滝にこもるや夏の初

※一句目は日光、二句目は裏見滝で詠まれた句。

群馬県 萩原朔太郎「竹」より

かたき地面に竹が生え、
地上にするどく竹が生え、
まつしぐらに竹が生え、
凍れる節節りんりんと
青空のもとに竹が生え、
竹、竹、竹が生え。

北海道 三浦綾子「塩狩峠」より

汽車はいま、塩狩峠の頂上に近づいていた。この塩狩峠は、天塩の国と石狩の国の国境にある大きな峠である。旭川から北へ約三十キロの地点にあった。深い山林の中をいく曲がりして越える、かなりけわしい峠で、列車はふもとの駅から後端にも機関車をつけ、あえぎあえぎ上るのである。

青森県 太宰治「津軽」より

「や！　富士。いいなあ。」と私は叫んだ。富士ではなかった。津軽富士とよばれている一千六百二十五メートルの岩木山が、満目の水田の尽きる所に、ふわりと浮かんでいる。

岩手県 宮沢賢治「高原」より

海だべがど、おら、おもたれば
やつぱり光る山だたぢやい
ホウ
髪毛　風吹けば
鹿踊りだぢやい

千葉県 伊藤左千夫「野菊の墓」より

野菊がよろよろと咲いている。民さんこれ野菊がと僕は我知らず足を留めたけれど、民子は聞こえないのかさっさと先へ行く。僕はちょっと脇へ物を置いて、野菊の花を一握り採った。

※矢切を舞台とした小説。

埼玉県 石井桃子「ノンちゃん雲に乗る」より

それに、まぶしいこと、まぶしいこと。上も下も右も左も、はてしない青の世界らしいのです。目をあいてもいられません。

「あたし、空におちちゃったんだ……もう東京へはいかれないのかしら……。」

東京都 夏目漱石「吾輩は猫である」より

吾輩は猫である。名前はまだない。

どこで生まれたか、とんと見当がつかぬ。なんでも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていたことだけは記憶している。

神奈川県 吉川英治「宮本武蔵」より

――どうなるものか、この天地の大きな動きが。

もう人間の個々の振舞いなどは、秋かぜの中の一片の木の葉でしかない。なるようになってしまえ。武蔵は、そう思った。

新潟県 小川未明「野ばら」より

ちょうど、国境のところには、だれが植えたということもなく、一株の野ばらがしげっていました。その花には、朝早くから、みつばちが飛んできて集まっていました。その快い羽音が、まだ二人の眠っているうちから、夢心地に耳に聞こえました。

富山県 宮本輝「螢川」より

雪は朝方やみ、確かに純白の光彩が街全体に敷きつめられた筈なのに、富山の街は、鈍い燻銀の光にくるまれて暗く煙っている。

石川県 室生犀星「犀川」より

うつくしき川は流れたり
そのほとりに我は住みぬ
春は春、なつはなつの
花つける堤に坐りて
こまやけき本のなさけと愛とを知りぬ

福井県 高見順「われは草なり」より

われは草なり
伸びんとす
伸びられるとき
伸びんとす

山梨県 太宰治「富嶽百景」より

三七七八米の富士の山と、立派に相対峙し、みじんも揺るがず、何と言うのか、金剛力草とでも言いたいくらい、けなげにすっくと立っていたあの月見草は、よかった。富士には、月見草がよく似合う。

長野県 島崎藤村「小諸なる古城のほとり」より

小諸なる古城のほとり
雲白く遊子悲しむ
緑なす繁蔞は萌えず
若草も藉くによしなし

岐阜県 朝井リョウ「世界地図の下書き」より

ゆうゆうと海の中を泳ぐクラゲのように、ランタンが空へと吸い込まれていく。

「ランタン？　なんで？」

二つ、三つ。戸惑う佐緒里をよそに、ランタンの数は増えていく。

静岡県 「伊勢物語」より

富士の山を見れば、五月のつごもりに、雪いと白うふれり。

時しらぬ山は富士の嶺いつとてか鹿子まだらに雪のふるらむ

愛知県　新美南吉「ごんぎつね」より

次の日も、その次の日も、ごんは、くりを拾っては兵十のうちへ持ってきてやりました。その次の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本、持っていきました。

三重県　梶井基次郎「城のある町にて」より

町を外れてまだ二里程の間は平坦な緑。Ｉ湾の濃い藍が、それの彼方に広がっている。裾のぼやけた、そして全体もあまりかっきりしない入道雲が水平線の上に静かにわだかまっている。――

※松阪を舞台とした小説。

和歌山県　佐藤春夫「ためいき」より

紀の国の五月なかばは
椎の木のくらき下かげ
うす濁るながれのほとり

滋賀県　柿本人麻呂・額田王（和歌）

近江の海夕波千鳥汝が鳴けば心もしのに古思ほゆ
柿本人麻呂

あかねさす紫草野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る
額田王

※二首目は琵琶湖の東岸蒲生野で詠まれた歌。

京都府　梶井基次郎「檸檬」より

いったい私はあの檸檬が好きだ。レモンエロウの絵の具をチューブから搾り出して固めたようなあの単純な色も、それからあの丈の詰まった紡錘形の格好も。

※京都の町を舞台にした小説。

大阪府　与謝野晶子（短歌）

海恋し潮の遠鳴りかぞへては少女となりし父母の家
ふるさとの和泉の山をきはやかに浮けし海より朝風そ吹く

奈良県　小野老・詠み人知らず（和歌）

あをによし奈良の都は咲く花の薫ふがごとく今盛りなり
小野老

ひさかたの天の香具山この夕霞たなびく春立つらしも
詠み人知らず

兵庫県　三木露風「赤蜻蛉」より

夕焼、小焼の
あかとんぼ
負われて見たのは
いつの日か。

鳥取県　尾崎放哉（俳句）

入れものが無い両手で受ける
春の山のうしろから烟が出だした

岡山県　内田百閒「古里を思ふ」より

私は古京町の生まれであって、古京町には後楽園がある。子供のときから朝は丹頂の鶴のけれい、けれいと鳴きわたる声で目を覚ました。

島根県　「古事記」より

八雲立つ出雲八重垣妻籠みに八重垣作るその八重垣を

※須佐之男命が詠んだとされる歌。

広島県　峠三吉「原爆詩集」より

ちちをかえせ　ははをかえせ
としよりをかえせ
こどもをかえせ
わたしをかえせ　わたしにつながる
にんげんをかえせ

にんげんの　にんげんのよのあるかぎり
くずれぬへいわを
へいわをかえせ

山口県　金子みすゞ「大漁」より

朝焼小焼だ
大漁だ
大羽鰮の
大漁だ。

読む

香川県　壺井栄「二十四の瞳」より

百戸余りの小さなその村は、入り江の海を湖のような形に見せる役をしている細長い岬の、そのとっぱなにあったので、対岸の町や村へ行くには小舟で渡ったり、うねうねと曲がりながら続く岬の山道をてくてく歩いたりせねばならない。

※小豆島を舞台とした小説。

徳島県　ヴェンセスラウ・デ・モラエス　岡村多希子　訳「徳島の盆踊り」より

数カ月前、夏の晴れた日に徳島の「ぼん・おどり」を見た。古典的な輝きにあふれ、あらゆる死者に捧げられた祭りらしい神秘的熱狂につつまれていた。

愛媛県　正岡子規・河東碧梧桐・高浜虚子（俳句）

鶏頭の十四五本もありぬべし　正岡子規
蕎麦白き道すがらなり観音寺　河東碧梧桐
金亀子擲つ闇の深さかな　高浜虚子

高知県　寺田寅彦「初旅」より

自分よりは一つ年上の甥のＲと二人で高知から室戸岬まで往復四、五日の遠足をした。その頃はもちろん自動車はおろか乗合馬車もなく、また沿岸汽船の交通もなかった。

福岡県　北原白秋「水路」より

ほうつほうつと蛍が飛ぶ……
しとやかな柳河の水路を、
定紋つけた古い提灯が、ぼんやりと、
その舟の芝居もどりの家族を眠らす。

佐賀県　下村湖人「次郎物語」より

次郎は、お浜の娘のお兼とお鶴とを相手に、地べたに蓆を敷いて、ままごと遊びをしている。場所は古ぼけた小学校の校庭だが、森閑として物音ひとつしない。

長崎県　遠藤周作「沈黙」より

炭小屋で我々は初めて自分たちが到着した場所がどこであったかを教えてもらいました。長崎から十六レグワの距離にあるトモギという漁村なのです。

熊本県　夏目漱石「二百十日」より

上がり口に白芙蓉が五六輪、夕暮れの秋を淋しく咲いている。見上げる向こうでは阿蘇の山がごうごうと遠くながら鳴っている。

大分県　福澤諭吉「学問のすゝめ」より

天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと言えり。されば天より人を生ずるには、万人は万人みな同じ位にして、生まれながら貴賤上下の差別なく、万物の霊たる身と心との働きをもって天地の間にあるよろずの物を資り、もって衣食住の用を達し、自由自在、互いに人の妨げをなさずしておのおの安楽にこの世を渡らしめ給うの趣意なり。

宮崎県　若山牧水（短歌）

幾山河越えさり行かば寂しさの終てなむ国ぞ今日も旅ゆく
ふるさとの尾鈴の山のかなしさよ秋もかすみのたなびきて居り

鹿児島県　梅崎春生「桜島」より

崖の上に、落日に染められた桜島岳があった。私が歩くにしたがって、樹々に見え隠れした、赤と青との濃淡に染められた山肌は、天上の美しさであった。

沖縄県　山之口貘「沖縄よどこへ行く」より

詩の島
踊りの島
唐手の島

発展

文語の活用

動詞・形容詞
形容動詞・助動詞

※このページは、中学校で学ぶ範囲を超えた発展的な内容で、必ずしも学習しなければならないものではない。

四段活用……文語動詞の活用の型の一つ。語尾が五十音図の四段（「ア・イ・ウ・ウ・エ・エ」）にわたって活用することから名づけられた。

ナ行変格活用…文語動詞の活用の型の一つ。語尾が「ナ・ニ・ヌ・ヌル・ヌレ・ネ」と活用する。連体形・★已然形の語尾が、四段活用と異なるところからナ行変格活用という。略して、ナ変という。「死ぬ」「往ぬ」の二語のみ。

ラ行変格活用…文語動詞の活用の型の一つ。語尾が「ラ・リ・リ・ル・レ・レ」と活用する。終止形の語尾が、四段活用と異なるところからラ行変格活用という。略して、ラ変という。

上二段活用……文語動詞の活用の型の一つ。語尾が「イ・イ・ウ・ウル・ウレ・イヨ」のように、イ段とウ段の二段にわたって活用する。

下二段活用……文語動詞の活用の型の一つ。語尾が「エ・エ・ウ・ウル・ウレ・エヨ」のように、エ段とウ段の二段にわたって活用する。

文語動詞活用表

	活用の種類	例語	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
			後に付く主なもの / 語幹						
口語の活用				—ず —む		—。	—とき	—ども	—。
四段活用	四段活用	話す	はな	さ	し	す	す	せ	せ
		思ふ	おも	わ	ひ	ふ	ふ	へ	へ
		運ぶ	はこ	ば	び	ぶ	ぶ	べ	べ
	ナ行変格活用	死ぬ	し	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
	ラ行変格活用	あり	あ	ら	り	り	る	れ	れ
五段活用	下一段活用	蹴る	（け）	け	け	ける	ける	けれ	けよ
上一段活用	上一段活用	居る	（ゐ）	ゐ	ゐ	ゐる	ゐる	ゐれ	ゐよ
		似る	（に）	に	に	にる	にる	にれ	によ
	上二段活用	生く	い	き	き	く	くる	くれ	きよ
		伸ぶ	の	び	び	ぶ	ぶる	ぶれ	びよ
下一段活用	下二段活用	受く	う	け	け	く	くる	くれ	けよ
		得	○	え	え	う	うる	うれ	えよ
		出づ	い	で	で	づ	づる	づれ	でよ
カ行変格活用	カ行変格活用	来	○	こ	き	く	くる	くれ	こよ
サ行変格活用	サ行変格活用	す	○	せ	し	す	する	すれ	せよ

※カ変とサ変の動詞は、語幹と語尾の区別がない。下二段の「得」などもその例である。また、上一段・下一段の動詞には区別しにくいものがある。

※下一段動詞は「蹴る」の一語、カ変動詞は「来」の一語のみである。

読む

文語形容詞活用表

	活用の種類	例語	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
			後に付く主なもの / 語幹	—ば —ず	—なる —き	—。	—とき —べし	—ども	—。
ク活用	早し	はや	く	く	く	し	き	けれ	かれ
			から	かり	かる		かる		
シク活用	楽し	たの	しく しから	しく しかり	しく しかる	し	しき しかる	しけれ	しかれ
		たの							

※文語の「楽しくば」という形は、古くはなかったものである。

文語形容動詞活用表

	活用の種類	例語	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
			後に付く主なもの / 語幹	—ず —む	—き —なる	—。	—とき —べし	—ども	—。
ナリ活用	静かなり	しづか	なら	なら	なり に	なり	なる	なれ	なれ
タリ活用	堂々たり	どうどう だだいだ	たら	たら	たり と	たり	たる	たれ	たれ

文語助動詞活用表

基本形	用例	活用形 未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	意味
る	思はる	れ	れ	る	るる	るれ	れよ	受け身 自発 可能 尊敬
らる	投げらる	られ	られ	らる	らるる	らるれ	られよ	
す	摘ます	さ	し	す	す	せ	せ	尊敬
す	養はす	せ	せ	す	する	すれ	せよ	使役
さす	求めさす	させ	させ	さす	さする	さすれ	させよ	
しむ	喜ばしむ	しめ	しめ	しむ	しむる	しむれ	しめよ	
たし	知りたし	たく たから	たく たかり	たし	たき たかる	たけれ	○	希望
まほし	行かまほし	まほしく まほしから	まほしく まほしかり	まほし	まほしき まほしかる	まほしけれ	○	
なり	山なり	なら	なり に	なり	なる	なれ	○	断定 （指定）
たり	君たり	たら	たり と	たり	たる	たれ	たれ	
なり	音すなり	○	なり	なり	なる	なれ	○	推定 伝聞
ごとし	降るごとし	ごとく	ごとく	ごとし	ごとき	○	○	比況
らし	行くらし	○	○	らし	らし （らしき）	（らし）	○	推定 推量 （意志）
む	なからむ	○	○	むず	むず	め	○	
まし	知らまし	ましか （ませ）	○	まし	まし	まし	○	
べし	定むべし	べく べから	べく べかり	べし	べき べかる	べけれ	○	
らむ	待つらむ	○	○	らむ	らむ	らめ	○	
けむ	ありけむ	○	○	けむ	けむ	けめ	○	
めり	急ぐめり	○	めり	めり	める	めれ	○	
じ	あらじ	○	じ	じ	じ	○	○	打ち消し 推定 打ち消し 意志
まじ	あるまじ	（まじく）	まじく まじかり	まじ	まじき	まじけれ	○	
ず	知らず	ずざら （な）	ずざり （に）	ず	ぬざる	ねざれ	ざれ	打ち消し
たり	書きたり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	完了
つ	思ひつ	て	て	つ	つる	つれ	てよ	
ぬ	暮れぬ	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね	
り	降れり	ら	り	り	る	れ	れ	
き	なかりき	（せ）	き	し	しか	○	○	過去
けり	ありけり	（けら）	けり	ける	ける	けれ	○	過去・詠嘆

※表中で（ ）で示した語形は、用いられた時代が限られるものである。

※助動詞「る」「らる」のうち、自発と可能には命令形がない。

★已然形 文語の活用形の一つ。既にそうなっているという意味を表す。

常用漢字表について

常用漢字表や日本で作られた漢字について知識を広げ、文章を読んだり書いたりするときの参考にしていこう。

常用漢字表の性格

常用漢字表は、「法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安」として政府が定めたものである。総字数は二一三六字である。

常用漢字には、日常生活の中で頻繁に目にするものが多いが、なかには、次のように、普段はあまり用いられないものもある。（――線部の漢字は、この教科書の新出漢字として扱われていないもの。）

●度量衡の単位や数字などを表す漢字
・斗・升・斤・厘・匁・弐　など

●天皇や皇族、外国の貴族などに用いる漢字
・朕・妃（皇太子妃）・侯（王侯）・爵（伯爵）
・璽（玉璽）・戴（戴冠）・詔勅　など

●普通は仮名で書き表す漢字
・且つ・但し・又　など

●法律や官庁などの専門用語に使われる漢字
・曹（法曹）・款（約款）・赦（恩赦）・附（寄附）
・嫡（嫡流）・嗣（嗣子）・抄（戸籍抄本）
・窃（窃盗）・拐（誘拐）・毀（毀損）・錮（禁錮）
・尉（少尉）・帥（元帥）　など

●医療の分野で用いる漢字
・咽（咽喉）・腺（汗腺）・痘（種痘）
・痢（赤痢）・妊娠　など

常用漢字表に含まれている漢字には、造語力の強いものが多いが、なかには、次のように、意味や用法がある程度限られている漢字もある。（――線部の漢字は、この教科書の新出漢字として扱われていないもの。）

・拷（拷問）・屯（駐屯）・虜（捕虜）・盲（盲点）
・斥（排斥）・矯（矯正）・硝（硝酸）・蛮（蛮勇）
・貞淑・痴（愚痴）・逓（逓信）・隻（一隻）
・翁（老翁）・叔（叔父）・婆（老婆）・奴（奴隷）
・孔（鼻孔）・糧（食糧）・虞・塚・尼・丙
・淫（邪淫）・韓（大韓民国）・憬（憧憬）
・舷（右舷）・醒（覚醒）・踪（失踪）・酎（焼酎）

・妖（妖怪）・拉（拉致）・賂（賄賂）・畝
・賭け事・弥（弥生）・瑠璃・刹（刹那）・艦艇
・儒（儒教）・囚（囚人）・殉（殉職）・逝（逝去）
など

特別な読み方をする語

常用漢字表の「付表」には、特別な読み方をする語として百十六語が示されている。次に掲げるのはその一部である。それぞれ、常用漢字表の読み方と比べてみよう。

・小豆・意気地・海原・乳母・浮つく
・叔父（伯父）・叔母（伯母）・お巡りさん
・為替・早乙女・五月・早苗・時雨
・尻尾・芝生・草履・立ち退く・波止場
・最寄り・若人

日本で作られた漢字（国字・国訓）

晩秋から初冬にかけて吹く、冷たくて強い北風を「木枯らし」という。この「木枯らし」を漢字一字で書き表すと「凩」となる。これは、日本で作られた漢字で、「八（かぜ）」と「木」を組み合わせた会意文字である。木の間を冷たい風が通り抜けていく様子を表す。このような、日本で作られた漢字を「国字」という。

主な国字には、常用漢字表の中にも入っている、

・働・込・畑・峠・枠

などの他、次のようなものがある。

・俤（おもかげ）・樫（かし）・榊（さかき）
・袴（かみしも）・雫（しずく）・躾（しつけ）
・畠（はたけ）・鰯（いわし）・鱈（たら）

また、中国から入ってきた漢字であっても、次のように、日本と中国とで表す意味が異なるものがある。

・「太」ふとい（日本）はなはだ（中国）
・「咲」さく（日本）わらう（中国）

このような、日本独特の読み方を「国訓」という。これも、ある意味では日本独自の漢字と考えることができる。

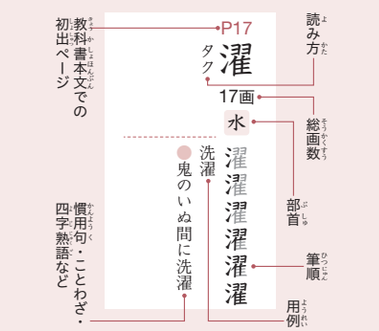
※二〇一〇年に追加された常用漢字のうち、「餌」「遡」「遜」「謎」「餅」は、「餌」「遡」「遜」「謎」「餅」の形も認められているが、教科書では従来の漢字の形との統一を図り、「食」「辶」の形を用いた。

漢字

三年生で学習した漢字

（総字数三二一字）

ここには、三年生で学習した漢字を提出順に示した。最初に覚えた読み方の他に、どのような音訓があるだろうか。漢字の形、読み方や用例を関連させながら覚えていこう。



- 部首・総画数・筆順は、辞書によって異なることがある。
- 読み方については、片仮名は音読みを、平仮名は訓読みを、太字は送り仮名を示す。（ ）内は、中学校では学習しなくてもよい音訓を示す。
- 中学校二年生までに学習していない漢字および音訓を使った語には、［ ］内で読み方を示す。
- 〈 〉内は、手書きの楷書の習慣による字体。総画数・筆順はこの字体に合わせて示す。

読む 握手

P17
濯 17画 水
タク
洗濯
● 鬼のいぬ間に洗濯

P18
穏 16画 禾
オン
穏健　穏便
不穏　平穏
おだやか
表情が穏やかだ
穏やかな天気

鶏 19画 鳥
ケイ
鶏舎　鶏卵
養鶏
にわとり
鶏小屋

爪 4画 爪
つめ
爪を切る
● 爪に火をともす
つま
爪先

監 15画 皿
カン
監査　監察
監視　監修

墾 16画 土
コン
開墾　墾田

督 13画 目
トク
督促　総督
家督
監督［かんとく］

胎 9画 肉
タイ
胎児　胎動
母胎
● 換骨奪胎

酌 10画 酉
シャク
酌量　晩酌
（くむ）
媒酌

沙 7画 水
サ
沙汰［さた］

汰 7画 水
タ
沙汰［さた］

漏 14画 水
ロウ
もる
もれる
もらす
漏水　漏電
水が漏れる
光が漏れる
秘密を漏らす
● 細大漏らさず

濁 16画 水
ダク
にごる
にごす
清濁　濁音　濁流
池の水が濁る
言葉を濁す
● お茶を濁す

湾 12画 水
ワン
湾岸　湾内
港湾　湾曲

却 7画 卩
キャク
却下　退却
売却　返却
冷却　棄却

閥 14画 門
バツ
学閥　財閥
派閥

賠 15画 貝
バイ
賠償

轄 17画 車
カツ
管轄　所轄
直轄　統轄

迭 8画 辶
テツ
更迭

勲 15画 力
クン
勲功　勲章
武勲

幽 9画 幺
ユウ
幽閉　幽霊
● 深山幽谷［しんざんゆうこく］

P19
帝 9画 巾
テイ
皇帝　帝王
帝国

泥 8画 水
（デイ）
どろ
泥遊び　泥はね
泥んこ　泥まみれ
● 顔に泥を塗［ぬ］る

傲 13画 人
ゴウ
傲然　傲慢

捜 10画 手
ソウ
さがす
捜査　捜索
落とし物を捜す
人捜し

P21
呉 7画 口
ゴ
呉音　呉服
● 呉越同舟

読む 学びて時に之を習ふ ——「論語」から

読む 作られた「物語」を超えて

P38
巡 6画 川
ジュン
めぐる
巡回　巡業
巡礼　一巡
月日が巡る
堂々巡り

P44
凶 4画 凵
キョウ
凶悪　凶器
凶作　凶事
元凶

銃 14画 金
ジュウ
銃口　銃声
猟銃

P45
壮 6画 士
ソウ
壮観　壮健
壮大　壮年
勇壮
● 大言壮語

漢字に親しもう 1

P23
姓 8画 女
セイ
ショウ
姓名
改姓　同姓同名
素姓

P24
怖 8画 心
フ
こわい
恐怖
暗闇が怖い
● 怖いもの見たさ

忌 7画 心
キ
忌中　禁忌
年忌
（いむ）
（いまわしい）

腫 13画 肉
シュ
はれる
はらす
腫瘍［しゅよう］
手が腫れる
● 腫れ物に触るまぶたを腫らす

P28
酬 13画 酉
シュウ
応酬　報酬

葬 12画 艹
ソウ
（ほうむる）
葬式　埋葬　葬列
● 冠婚葬祭

瘍 14画 疒
ヨウ
潰瘍

P47
惨 11画 心
サン
惨劇　惨事
惨状　悲惨
（ザン）
（みじめ）

欧 8画 欠
オウ
欧州　欧文
欧米　西欧
北欧

P48
紛 10画 糸
フン
まぎれる
まぎらす
まぎらわす
まぎらわしい
内紛　紛失
人ごみに紛れる
悲しみを紛らす
気を紛らわす
紛らわしい地図

漢字に親しもう 1 熟語の読み方

P58
頓 13画 頁
トン
整頓　頓着
頓挫

獣 16画 犬
ジュウ
獣医　海獣
鳥獣　野獣
けもの
獣道
獣の鳴き声

頒 13画 頁
ハン
頒布

堀 11画 土
ホリ
外堀　釣［つ］り堀

袖 10画 衣
（シュウ）
そで
半袖　袖口

枕 8画 木
まくら
枕木　枕元
● 枕を高くして寝る

釜 10画 金
かま
釜飯　茶釜
● 同じ釜の飯を食う

脇 10画 肉
わき
両脇　脇腹
脇道　脇役

棟 12画 木
トウ
上棟　病棟
● 汗牛充棟
むね
一棟　棟上げ
（むな）

P59
枠 8画 木
わく
枠組み　窓枠
時間枠

峡 9画 山
キョウ
峡 峡 峡 峡 峡 峡 峡 峡 峡
海峡　山峡
峡谷［きょうこく］

藍 18画 艹
（ラン）
あい
藍 藍 藍 藍 藍 藍 藍 藍 藍
藍色　藍染め
●青は藍よりいでて藍より青し

瀬 19画 水
せ
瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬
瀬戸物　浅瀬
●立つ瀬がない

錦 16画 金
キン
にしき
錦 錦 錦 錦 錦 錦 錦 錦 錦 錦 錦 錦 錦 錦 錦 錦
錦秋　錦絵
●故郷に錦を飾る

粋 10画 米
スイ
いき
粋 粋 粋 粋 粋 粋 粋 粋 粋 粋
純粋　抜粋
無粋　粋な計らい

瞳 17画 目
ドウ
ひとみ
瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳
瞳孔［どうこう］
つぶらな瞳

謁 15画 言
エツ
謁 謁 謁 謁 謁 謁 謁 謁 謁 謁 謁 謁 謁 謁 謁
謁見　拝謁

繭 18画 糸
（ケン）
まゆ
繭 繭 繭 繭 繭 繭 繭 繭 繭 繭 繭 繭 繭 繭 繭 繭 繭 繭
蚕の繭　繭玉

患 11画 心
カン
わずらう
患 患 患 患 患 患 患 患 患 患 患
患者　患部
急患

碁 13画 石
ゴ
碁 碁 碁 碁 碁 碁 碁 碁 碁 碁 碁 碁 碁
囲碁　碁石
碁盤　碁を打つ

乙 1画 乙
オツ
乙
甲乙
乙なことを言う
●甲乙つけがたい

治 7画 氵
ヤ
治 治 治 治 治 治 治
陶治　治金

硫 12画 石
リュウ
硫 硫 硫 硫 硫 硫 硫 硫 硫 硫 硫 硫
硫酸

僧 13画 人
ソウ
僧 僧 僧 僧 僧 僧 僧 僧 僧 僧 僧 僧 僧
僧院　高僧
●門前の小僧習わぬ経を読む

偉 12画 人
イ
えらい
偉 偉 偉 偉 偉 偉 偉 偉 偉 偉 偉 偉
偉業　偉人
偉大　偉い人
偉そうな態度

舶 11画 舟
ハク
舶 舶 舶 舶 舶 舶 舶 舶 舶 舶 舶
船舶　舶来

倹 10画 人
ケン
倹 倹 倹 倹 倹 倹 倹 倹 倹 倹
勤倹　倹約
節倹

哺 10画 口
ホ
哺 哺 哺 哺 哺 哺 哺 哺 哺 哺
哺乳類

懇 17画 心
コン
ねんごろ
懇 懇 懇 懇 懇 懇 懇 懇 懇 懇 懇 懇 懇 懇 懇 懇 懇
懇意　懇願
懇親　懇切
懇談

槽 15画 木
ソウ
槽 槽 槽 槽 槽 槽 槽 槽 槽 槽 槽 槽 槽 槽 槽
水槽　浴槽

漢字に親しもう 2

某 9画 木
ボウ
某 某 某 某 某 某 某 某 某
某氏　某所

泡 8画 水
ホウ
泡 泡 泡 泡 泡 泡 泡 泡
気泡　水泡
発泡
●水泡に帰する

睦 13画 目
ボク
睦 睦 睦 睦 睦 睦 睦 睦 睦 睦 睦 睦 睦
親睦　和睦

療 14画 人
リョウ
療 療 療 療 療 療 療 療 療 療 療 療 療 療
医療　官療
同僚　療友

臭 9画 自
シュウ
くさい
におう
臭 臭 臭 臭 臭 臭 臭 臭 臭
異臭　臭気
防臭　無臭
照れ臭い
●臭い物に蓋をする
生ごみが臭う

幣 15画 巾
ヘイ
幣 幣 幣 幣 幣 幣 幣 幣 幣 幣 幣 幣 幣 幣 幣
貨幣　紙幣
造幣

侶 9画 人
リョ
侶 侶 侶 侶 侶 侶 侶 侶 侶
僧侶［そうりょ］
伴侶

傲 10画 人
ホウ
（ごう）
傲 傲 傲 傲 傲 傲 傲 傲 傲 傲
模傲

偽 11画 人
ギ
いつわる
（にせ）
偽 偽 偽 偽 偽 偽 偽 偽 偽 偽 偽
偽証　偽善　偽装
偽造　真偽
身分を偽る

読む 俳句の可能性

膝 15画 肉
ひざ
膝 膝 膝 膝 膝 膝 膝 膝 膝 膝 膝 膝 膝 膝 膝
膝頭
●膝を交える

釣 11画 金
（チョウ）
つる
釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣
魚を釣る
釣り銭
●えびでたいを釣る

読む 言葉の釣り糸を垂らす

言葉2 和語・漢語・外来語

侍 8画 人
ジ
さむらい
侍 侍 侍 侍 侍 侍 侍 侍
侍医　侍従
若い侍

宵 10画 宀
（ショウ）
よい
宵 宵 宵 宵 宵 宵 宵 宵 宵 宵
宵の口
宵の明星

滝 13画 水
たき
滝 滝 滝 滝 滝 滝 滝 滝 滝 滝 滝 滝 滝
滝つぼ

桑 10画 木
（ソウ）
くわ
桑 桑 桑 桑 桑 桑 桑 桑 桑 桑
桑の実　桑畑

訟 11画 言
ショウ
訟 訟 訟 訟 訟 訟 訟 訟 訟 訟 訟
訴訟

債 13画 人
サイ
債 債 債 債 債 債 債 債 債 債 債 債 債
国債　債券
債権　債務
負債

綻 14画 糸
タン
ほころびる
綻 綻 綻 綻 綻 綻 綻 綻 綻 綻 綻 綻 綻 綻
破綻
ズボンが綻びる

俸 10画 人
ホウ
俸 俸 俸 俸 俸 俸 俸 俸 俸 俸
減俸　年俸
俸給

蔽 15画 艹
〈蔽〉
ヘイ
蔽 蔽 蔽 蔽 蔽 蔽 蔽 蔽 蔽 蔽 蔽 蔽 蔽 蔽 蔽
隠蔽　遮蔽

捗 11画 手
〈捗〉
チョク
捗 捗 捗 捗 捗 捗 捗 捗 捗 捗 捗
進捗

卸 9画 卩
おろす
おろし
卸 卸 卸 卸 卸 卸 卸 卸 卸
品物を卸す
卸値　卸売り

串 7画 丨
くし
串 串 串 串 串 串 串
串刺し
串焼き

情報×SDGs 実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう

刃 3画 刀
（ジン）
は
刃 刃 刃
刃先　刃物
●付け焼き刃

需 14画 雨
ジュ
需 需 需 需 需 需 需 需 需 需 需 需 需 需
需給　需要
内需　必需品

昆 8画 日
コン
昆 昆 昆 昆 昆 昆 昆 昆
昆虫　昆布

措 11画 手
ソ
措 措 措 措 措 措 措 措 措 措 措
挙措　措置

請 15画 言
セイ
（シン）
（こう）
うける
請 請 請 請 請 請 請 請 請 請 請 請 請 請 請
請求　申請　要請
仕事を請ける

柵 9画 木
サク
柵 柵 柵 柵 柵 柵 柵 柵 柵
鉄柵
球場の柵

読む 故郷

閑 12画 門
カン
閑 閑 閑 閑 閑 閑 閑 閑 閑 閑 閑 閑
安閑　閑散
閑職　閑静
森閑
●忙中閑あり

紺 11画 糸
コン
紺 紺 紺 紺 紺 紺 紺 紺 紺 紺 紺
紺色　濃紺

艶 19画 色
（エン）
つや
艶 艶 艶 艶 艶 艶 艶 艶 艶 艶 艶 艶 艶 艶 艶 艶 艶 艶 艶
色艶　艶消し

溺 13画 水
〈溺〉
デキ
おぼれる
溺 溺 溺 溺 溺 溺 溺 溺 溺 溺 溺 溺 溺
溺愛
欲に溺れる

畜 10画 田
チク
畜 畜 畜 畜 畜 畜 畜 畜 畜 畜
家畜　畜産
畜舎　牧畜

塀 12画 土
ヘイ
塀 塀 塀 塀 塀 塀 塀 塀 塀 塀 塀 塀
板塀　土塀

遇 12画 辶
グウ
遇 遇 遇 遇 遇 遇 遇 遇 遇 遇 遇 遇
境遇　処遇
待遇　優遇
客として遇する
●千載一遇

那 7画 邑
（阝）
ナ
那 那 那 那 那 那 那
旦那［だんな］

旦 5画 日
タン
ダン
旦 旦 旦 旦 旦
一旦　元旦
旦那［だんな］

駄 14画 馬
ダ
駄 駄 駄 駄 駄 駄 駄 駄 駄 駄 駄 駄 駄 駄
駄菓子　駄作
駄賃

乏 4画 ノ
ボウ
とぼしい
乏 乏 乏 乏
欠乏　貧乏
季節感が乏しい
経験が乏しい

塗 13画 土
ト
ぬる
塗 塗 塗 塗 塗 塗 塗 塗 塗 塗 塗 塗 塗
塗装　塗布
塗料
●塗炭の苦しみ
絵の具を塗る

炉 8画 火
ロ
炉 炉 炉 炉 炉 炉 炉 炉
暖炉　溶鉱炉
囲炉裏
●夏炉冬扇

漢字

墨 14画 土 墨墨墨墨墨墨墨墨墨墨墨墨墨墨
ボク
水墨画　白墨
墨汁　墨絵
すみ

P115

麻 11画 麻 麻麻麻麻麻麻麻麻麻麻
マ
麻酔　亜麻［あま］
●快刀乱麻を断つ
麻糸
あさ

P117

崇 11画 山 崇崇崇崇崇崇崇崇崇崇崇
スウ
崇高　崇拝

言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語

砕 9画 石 砕砕砕砕砕砕砕砕砕
サイ
砕石　砕氷　粉砕
●粉骨砕身
野望を砕く
岩が砕ける
くだく
くだける

P122

猿 13画 犬 猿猿猿猿猿猿猿猿猿猿猿猿猿
エン
猿人　類人猿
●犬猿の仲
親猿　猿まね
さる

P123

唾 11画 口 唾唾唾唾唾唾唾唾唾唾唾
ダ
唾液　唾がたまる
つば

駒 15画 馬 駒駒駒駒駒駒駒駒駒駒駒駒駒駒駒
こま
すごろくの駒
●ひょうたんから駒

虎 8画 虍 虎虎虎虎虎虎虎虎
コ
虎穴［こけつ］
猛虎
●虎の子
虎の尾を踏む
とら

顧 21画 頁 顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧顧
コ
愛顧　一顧　回顧
顧客　顧問
●三顧の礼
背後を顧みる
かえりみる

漢字2 漢字の造語力

遍 12画 辶 遍遍遍遍遍遍遍遍遍遍遍遍
ヘン
普遍
遍在　遍歴

P127

契 9画 大 契契契契契契契契契
ケイ
契機　契約
（ちぎる）

猶 12画 犬 猶猶猶猶猶猶猶猶猶猶猶猶
ユウ
猶予

枢 8画 木 枢枢枢枢枢枢枢枢
スウ
枢軸　枢要
中枢

廃 12画 广 廃廃廃廃廃廃廃廃廃廃廃廃
ハイ
退廃　廃案
廃棄　廃止
文化が廃れる
名が廃る
すたれる
すたる

伎 6画 人 伎伎伎伎伎伎
キ
歌舞伎

耗 10画 耒 耗耗耗耗耗耗耗耗耗耗
モウ（コウ）
消耗

P128

隷 16画 隶 隷隷隷隷隷隷隷隷隷隷隷隷隷隷隷隷隷隷
レイ
隷書　隷属

克 7画 儿 克克克克克克克
コク
克己　克服
克明　相克

侮 8画 人 侮侮侮侮侮侮侮侮
ブ
侮辱［ぶじょく］
軽侮
（あなどる）

併 8画 人 併併併併併併併併
ヘイ
併合　併設
併用　合併
併せ持つ
あわせる

殊 10画 歹 殊殊殊殊殊殊殊殊殊殊
シュ
殊勝　特殊
殊の外
今朝は殊に寒い
こと

嬢 16画 女 嬢嬢嬢嬢嬢嬢嬢嬢嬢嬢嬢嬢嬢嬢嬢嬢
ジョウ
令嬢

逮 11画 辶 逮逮逮逮逮逮逮逮逮逮逮
タイ
逮捕

叙 9画 又 叙叙叙叙叙叙叙叙叙
ジョ
自叙伝　叙景
叙事　叙述
叙情

隆 11画 阜 隆隆隆隆隆隆隆隆隆隆隆
リュウ
興隆　隆起
隆盛

（下）

漸 14画 水 漸漸漸漸漸漸漸漸漸漸漸漸漸漸
ゼン
漸次　漸進
漸減　漸増

辱 10画 辰 辱辱辱辱辱辱辱辱辱辱
ジョク
雪辱　恥辱
●すごろくの駒
ひょうたんから駒
（はずかしめる）

庸 11画 广 庸庸庸庸庸庸庸庸庸庸庸
ヨウ
中庸　凡庸

逐 10画 辶 逐逐逐逐逐逐逐逐逐逐
チク
逐一　逐次
駆逐　放逐

庶 11画 广 庶庶庶庶庶庶庶庶庶庶庶
ショ
庶民　庶務

祥 10画 示 祥祥祥祥祥祥祥祥祥祥
ショウ
清祥　発祥地
不祥事

罷 15画 罒 罷罷罷罷罷罷罷罷罷罷罷罷罷罷罷
ヒ
罷業　罷免

鎮 18画 金 鎮鎮鎮鎮鎮鎮鎮鎮鎮鎮鎮鎮鎮鎮鎮鎮鎮鎮
チン
重鎮　鎮圧
鎮火　鎮静
（しずめる）
（しずまる）

津 9画 水 津津津津津津津津津
（シン）
つ
●津波
●津々浦々

読む 複数の意見を読んで、考えよう

循 12画 彳 循循循循循循循循循循循循
ジュン
循環

P131

洪 9画 水 洪洪洪洪洪洪洪洪洪
コウ
洪水

酷 14画 酉 酷酷酷酷酷酷酷酷酷酷酷酷酷酷
コク
過酷　酷使
酷評　残酷
冷酷

豪 14画 豕 豪豪豪豪豪豪豪豪豪豪豪豪豪豪
ゴウ
豪雨　豪快
豪語　富豪
文豪

犠 17画 牛 犠犠犠犠犠犠犠犠犠犠犠犠犠犠犠犠犠
ギ
犠牲
犠打

P132

牲 9画 牛 牲牲牲牲牲牲牲牲牲
セイ
犠牲［ぎせい］

貢 10画 貝 貢貢貢貢貢貢貢貢貢貢
コウ
（ク）
（みつぐ）
朝貢
貢献［こうけん］

献 13画 犬 献献献献献献献献献献献献献
ケン
献血　献上
文献
献立　一献
コン

漢字に親しもう 3

塞 13画 土 塞塞塞塞塞塞塞塞塞塞塞塞塞
サイ
ソク
ふさぐ
ふさがる
要塞
閉塞
穴を紙で塞ぐ
傷口が塞がる

P140

葛 11画 艹 葛葛葛葛葛葛葛葛葛葛葛
〈葛〉
カツ
（くず）
葛藤［かっとう］

藤 18画 艹 藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤
トウ
ふじ
葛藤［かっとう］
藤色　藤棚

懐 16画 心 懐懐懐懐懐懐懐懐懐懐懐懐懐懐懐懐
カイ
懐疑　懐古
懐中時計
（ふところ）
（なつかしい）
（なつかしむ）
（なつく）
（なつける）

籍 20画 竹 籍籍籍籍籍籍籍籍籍籍籍籍籍籍籍籍籍籍籍籍
セキ
移籍　国籍
戸籍　在籍
書籍

衷 9画 衣 衷衷衷衷衷衷衷衷衷
チュウ
苦衷　折衷案
衷心
●和洋折衷

粛 11画 聿 粛粛粛粛粛粛粛粛粛粛粛
シュク
厳粛　自粛
粛正　静粛

膳 17画 言 膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳膳
トウ
膳部
膳本

曽 11画 曰 曽曽曽曽曽曽曽曽曽曽曽
ソウ
ソ
曽祖父　曽孫
未曽有

辣 14画 辛 辣辣辣辣辣辣辣辣辣辣辣辣辣辣
ラツ
辛辣　辣腕

鬱 29画 鬯 鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱鬱
ウツ
鬱血　鬱積
憂鬱

憤 15画 心 憤憤憤憤憤憤憤憤憤憤憤憤憤憤憤
フン
義憤　発憤
憤激　憤然
（いきどおる）

甚 9画 甘 甚甚甚甚甚甚甚甚甚
（ジン）
はなはだ
はなはだしい
甚だ残念だ
誤解も甚だしい

羞 11画 羊 羞羞羞羞羞羞羞羞羞羞羞
シュウ
羞恥心

匠 6画 匚 匠匠匠匠匠匠
ショウ
意匠　師匠
名匠

賦 15画 貝 賦賦賦賦賦賦賦賦賦賦賦賦賦賦賦
フ
月賦　天賦
賦課　賦与

扶 7画 手 扶扶扶扶扶扶扶
フ
扶助　扶養

寡 14画 宀 寡寡寡寡寡寡寡寡寡寡寡寡寡寡
カ
寡作　寡聞
寡黙　多寡
●衆寡敵せず

宜 8画 宀 宜宜宜宜宜宜宜宜
ギ
時宜　適宜
便宜

寮 15画 宀 寮寮寮寮寮寮寮寮寮寮寮寮寮寮寮
リョウ
学生寮　寮生

宰 10画 宀 宰宰宰宰宰宰宰宰宰宰
サイ
宰相　宰領
主宰

読む 君待つと ——万葉・古今・新古今

緒 14画 糸 緒緒緒緒緒緒緒緒緒緒緒緒緒緒
ショ
チョ
お
緒言　緒戦
緒論
情緒
鼻緒

P154

読む
夏草 ——「おくのほそ道」から

漢字3 漢字のまとめ

賄 13画 貝
ワイ
まかなう
収賄　贈賄
予算内で賄う
賄い付き

悦 10画 心
エツ
悦楽　喜悦
●悦に入[い]る

怨 9画 心
（エン）
オン
怨念

慰 15画 心
イ
なぐさめる
なぐさむ
慰問　慰留
慰労
友達を慰める
心が慰む

詐 12画 言
サ
詐欺　詐取
詐称

訃 9画 言
フ
訃報

詮 13画 言
セン
所詮　詮索

佝 8画 手
コウ
佝僂[くる]病
佝僂[せむし]

掌 12画 手
ショウ
合掌　掌中
車掌

効 8画 力
ガイ
効能
効果

坑 7画 土
コウ
坑道　炭坑
廃坑[はいこう]

軒 10画 車
ケン
のき
軒数　一軒家
軒先　軒下
軒並み

牙 5画 牙
（ガ）
きば
象牙
動物の牙
●牙をむく

融 16画 虫
ユウ
金融　融解
融合　融通
融和

P180
梗 11画 木
コウ
梗概
脳梗塞[のうこうそく]

桁 10画 木
けた
桁違い　橋桁

桟 10画 木
サン
桟道　桟橋

貪 11画 貝
ドン
むさぼる
貪欲
利益を貪る

P157
荘 9画 艹
ソウ
山荘　荘重
別荘

悦 悦悦悦悦悦悦悦悦悦

怨 怨怨怨怨怨怨怨怨怨

慰 慰慰慰慰慰慰慰慰慰慰慰慰慰慰慰

詐 詐詐詐詐詐詐詐詐詐詐詐詐

訃 訃訃訃訃訃訃訃訃訃

詮 詮詮詮詮詮詮詮詮詮詮詮詮詮詮

佝 佝佝佝佝佝佝佝佝

掌 掌掌掌掌掌掌掌掌掌掌掌掌

効 効効効効効効効効

坑 坑坑坑坑坑坑坑

軒 軒軒軒軒軒軒軒軒軒軒

牙 牙牙牙牙牙

融 融融融融融融融融融融融融融融融融融融

梗 梗梗梗梗梗梗梗梗梗梗梗

桁 桁桁桁桁桁桁桁桁桁

桟 桟桟桟桟桟桟桟桟桟

貪 貪貪貪貪貪貪貪貪貪貪貪

賄 賄賄賄賄賄賄賄賄賄賄賄賄賄賄賄賄賄

悦 悦悦悦悦悦悦悦悦悦悦

怨 怨怨怨怨怨怨怨怨怨

慰 慰慰慰慰慰慰慰慰慰慰慰慰慰慰慰

詐 詐詐詐詐詐詐詐詐詐詐詐詐

訃 訃訃訃訃訃訃訃訃訃

詮 詮詮詮詮詮詮詮詮詮詮詮詮詮詮

佝 佝佝佝佝佝佝佝佝

掌 掌掌掌掌掌掌掌掌掌掌掌掌

効 効効効効効効効効

坑 坑坑坑坑坑坑坑

軒 軒軒軒軒軒軒軒軒軒軒

牙 牙牙牙牙牙

融 融融融融融融融融融融融融融融融融融融

P181
嫉 13画 女
シツ
嫉妬

畏 9画 田
イ
おそれる
畏敬　畏怖[いふ]
畏れ多い

賜 15画 貝
（シ）
たまわる
祝辞を賜る
ほうびを賜る

唄 10画 口
うた
小唄　長唄

窮 15画 穴
キュウ
（きわめる）
（きわまる）
窮地　困窮
●窮すれば通ず

紐 9画 糸
キュウ
紐合　紐明
紐弾
紛紐[ふんきゅう]

玩 8画 玉
ガン
玩具　愛玩

P182
褐 13画 衣
カツ
褐色　茶褐色

畔 10画 田
ハン
河畔　湖畔

尻 5画 尸
しり
帳尻　目尻
尻込み
●頭隠して尻隠さず

畿 15画 田
キ
畿内　近畿

藩 18画 艹
ハン
藩士　藩主

弄 7画 廾
ロウ
もてあそぶ
翻弄
策を弄する
ビー玉を弄ぶ

嫉 嫉嫉嫉嫉嫉嫉嫉嫉嫉嫉嫉嫉嫉

畏 畏畏畏畏畏畏畏畏畏

賜 賜賜賜賜賜賜賜賜賜賜賜賜賜賜賜賜

唄 唄唄唄唄唄唄唄唄唄唄

窮 窮窮窮窮窮窮窮窮窮窮窮窮窮窮窮窮

紐 紐紐紐紐紐紐紐紐紐

玩 玩玩玩玩玩玩玩玩

褐 褐褐褐褐褐褐褐褐褐褐褐褐褐

畔 畔畔畔畔畔畔畔畔畔

尻 尻尻尻尻尻

畿 畿畿畿畿畿畿畿畿畿畿畿畿畿畿畿

藩 藩藩藩藩藩藩藩藩藩藩藩藩藩藩藩藩藩藩

弄 弄弄弄弄弄弄弄

漢字に親しもう 4

炎 8画 火
エン
炎炎炎炎炎炎炎炎
胃炎　炎上
炎天下　火炎
●気炎を上げる
炎が上がる

亜 7画 二
ア
亜亜亜亜亜亜亜
亜鉛　亜熱帯
亜流　白亜

勾 4画 勹
コウ
勾勾勾勾
勾配　勾留

騰 20画 馬
トウ
騰騰騰騰騰騰騰騰騰騰騰騰騰騰騰騰騰騰騰騰騰騰
急騰　高騰
騰貴　暴騰

旋 11画 方
セン
旋旋旋旋旋旋旋旋旋旋旋
旋回　旋風
旋律

詠 12画 言
エイ
（よむ）
詠詠詠詠詠詠詠詠詠詠詠詠
詠歌　詠唱
詠嘆　朗詠
吟詠

麓 19画 鹿
ロク
ふもと
麓麓麓麓麓麓麓麓麓麓麓麓麓麓麓麓麓麓麓麓麓
山麓
麓の村

読書
本は世界への扉

読む
アラスカとの出会い

読む
わたしを束ねないで

P190
摂 13画 手
セツ
摂摂摂摂摂摂摂摂摂摂摂摂摂
摂氏　摂取
摂理

杯 8画 木
ハイ
杯杯杯杯杯杯杯杯
乾杯　金杯
苦杯　祝杯
●一杯食わす
銀の杯

惰 12画 心
ダ
惰惰惰惰惰惰惰惰惰惰惰惰
惰弱　惰性
惰眠　怠惰

愁 13画 心
シュウ
（うれえる）
（うれい）
愁愁愁愁愁愁愁愁愁愁愁愁愁
郷愁　愁傷
旅愁　哀愁

悼 11画 心
トウ
（いたむ）
悼悼悼悼悼悼悼悼悼悼悼
追悼　哀悼

悚 10画 心
シ
悚悚悚悚悚悚悚悚悚悚
恐悚

慄 13画 心
リツ
慄慄慄慄慄慄慄慄慄慄慄慄慄
戦慄　慄然

P213
悔 9画 心
カイ
くいる
くやむ
くやしい
悔悔悔悔悔悔悔悔悔
後悔　悔恨
失敗を悔いる
散財を悔やむ
悔しい思い

P216
稲 14画 禾
トウ
いね
いな
稲稲稲稲稲稲稲稲稲稲稲稲稲稲
水稲　陸稲
稲刈り
稲作　稲穂[いなほ]

穂 15画 禾
スイ
ほ
穂穂穂穂穂穂穂穂穂穂穂穂穂穂穂
穂先　落ち穂
稲穂[いなほ]

焦 12画 火
ショウ
こげる
こがす
（こがれる）
（あせる）
焦焦焦焦焦焦焦焦焦焦焦焦
焦点　焦土
魚が焦げる
ご飯を焦がす
待ち焦がれる

P226
暫 15画 日
ザン
暫暫暫暫暫暫暫暫暫暫暫暫暫暫暫
暫時　暫定

征 8画 彳
セイ
征征征征征征征征
征服　遠征
征伐

錬 16画 金
レン
錬錬錬錬錬錬錬錬錬錬錬錬錬錬錬錬
錬金術　錬成
精錬
●百戦錬磨

禅 13画 示
ゼン
禅禅禅禅禅禅禅禅禅禅禅禅禅
座禅　禅宗
禅寺　禅問答

蚊 10画 虫
カ
蚊蚊蚊蚊蚊蚊蚊蚊蚊蚊
蚊柱　やぶ蚊

朱 6画 木
シュ
朱朱朱朱朱朱
朱色　朱印船
朱肉　朱筆
●朱に交われば赤くなる

瓦 5画 瓦
（ガ）
かわら
瓦瓦瓦瓦瓦瓦瓦瓦瓦瓦
瓦屋根　瓦版

柿 9画 木
かき
柿柿柿柿柿柿柿柿柿
柿色　柿の葉

碑 14画 石
ヒ
碑碑碑碑碑碑碑碑碑碑碑碑碑碑
記念碑　石碑
碑文　墓碑

坪 8画 土
つぼ
坪坪坪坪坪坪坪坪
建坪　坪数

邦 7画 邑
（下）
ホウ
邦邦邦邦邦邦邦
邦楽　邦人
邦訳　本邦
連邦

塑 13画 土
ソ
塑塑塑塑塑塑塑塑塑塑塑塑塑
塑像

漢字

焦 焦焦焦焦焦焦焦焦焦焦焦

暫 暫暫暫暫暫暫暫暫暫暫暫暫暫暫

征 征征征征征征征征

錬 錬錬錬錬錬錬錬錬錬錬錬錬錬錬錬

禅 禅禅禅禅禅禅禅禅禅禅禅禅

蚊 蚊蚊蚊蚊蚊蚊蚊蚊蚊

朱 朱朱朱朱朱朱

瓦 瓦瓦瓦瓦瓦瓦瓦瓦瓦

柿 柿柿柿柿柿柿柿柿柿

碑 碑碑碑碑碑碑碑碑碑碑碑碑碑

坪 坪坪坪坪坪坪坪坪

邦 邦邦邦邦邦邦邦

塑 塑塑塑塑塑塑塑塑塑塑塑塑

塊 13画 土
カイ
金塊　土塊
かたまり
氷塊　塩の塊

堕 12画 土
ダ
堕落

垣 9画 土
かき
生け垣　石垣
垣根　人垣

本文で扱っていない常用漢字
➡ 304ページ 常用漢字表について

斗 4画 斗
ト
一斗
北斗七星

升 4画 十
ショウ　ます
一升の米
升目

斤 4画 斤
キン
斤量
一斤の食パン

厘 9画 厂
リン
九分九厘

壱 7画 士
イチ
壱万円

弐 6画 弋
ニ
弐万円

朕 10画 月
チン
朕

妃 6画 女
ヒ
王妃　妃殿下

侯 9画 人
コウ
王侯　諸侯

爵 17画 爪
シャク
公爵　爵位
男爵

勅 9画 力
チョク
勅語　勅使
勅命

詔 12画 言
ショウ　（みことのり）
詔書
詔勅［しょうちょく］

戴 17画 戈
タイ
戴冠

璽 19画 玉
ジ
玉璽　国璽

但 7画 人
ただし
但し書き

且 5画 一
かつ
必要且つ十分

曹 11画 曰
ソウ
軍曹　重曹
法曹

款 12画 欠
カン
借款　定款
約款　落款

赦 11画 赤
シャ
恩赦　容赦

附 8画 阜（阝）
フ
寄附　附属

嫡 14画 女
チャク
嫡子　嫡出
嫡流

嗣 13画 口
シ
後嗣　嗣子

抄 7画 手
ショウ
抄本　抄訳
抄録

窃 9画 穴
セツ
窃取　窃盗

腺 13画 肉
セン
汗腺　涙腺

咽 9画 口
イン
咽喉

帥 9画 巾
スイ
元帥　総帥
統帥

尉 11画 寸
イ
尉官　少尉
大尉　中尉

錮 16画 金
コ
禁錮

毀 13画 殳
キ
毀損　毀誉

拐 8画 手
カイ
拐帯　誘拐

痘 12画 疒
トウ
種痘　水痘

痢 12画 疒
リ
下痢　赤痢

妊 7画 女
ニン
妊婦
懐妊［かいにん］

娠 10画 女
シン
妊娠［にんしん］

拷 9画 手
ゴウ
拷問

屯 4画 屮
トン
屯田兵　駐屯

虜 13画 虍
リョ
捕虜
虜囚［りょしゅう］

盲 8画 目
モウ
盲従　盲腸
盲点　盲導犬

斥 5画 斤
セキ
斥候　斥力
排斥

矯 17画 矢
キョウ　（ためる）
矯正

硝 12画 石
ショウ
硝酸　硝石

蛮 12画 虫
バン
南蛮　蛮行
蛮勇　野蛮

貞 9画 貝
テイ
貞潔　貞節

淑 11画 水
シュク
私淑

痴 13画 疒
チ
音痴　愚痴

逓 10画 辶
テイ
逓信　逓減
逓増

隻 10画 隹
セキ
一隻の船

翁 10画 羽
オウ
老翁
●塞翁［さいおう］が馬

叔 8画 又
シュク
叔父　叔母

婆 11画 女
バ
老婆

奴 5画 女
ド
農奴
奴隷［どれい］

孔 4画 子
コウ
眼孔　気孔
鼻孔［びこう］

糧 18画 米
リョウ　（ロウ）　（かて）
食糧　糧食

虞 13画 虍
おそれ
大雨の虞がある

塚 12画 土
つか
一里塚　貝塚

尼 5画 尸
（二）　あま
尼寺

丙 5画 一
ヘイ
●甲乙丙丁［こうおつへいてい］

淫 11画 水
〈淫〉　イン　（みだら）
邪淫

韓 18画 韋
カン
大韓民国

憬 15画 心
ケイ
憧憬

舷 11画 舟
ゲン
右舷　舷側

醒 16画 酉
セイ
覚醒

踪 15画 足
ソウ
失踪

酎 10画 酉
チュウ
焼酎

妖 7画 女
ヨウ　あやしい
妖怪　妖精
妖しく光る

拉 8画 手
ラ
拉拉拉拉拉拉拉
拉致

賂 13画 貝
ロ
賂賂賂賂賂賂賂
賄賂［わいろ］

畝 10画 田
うね
畝畝畝畝畝畝畝
畑の畝

賭 15画 貝
賭（ト）
かける
賭賭賭賭賭賭賭賭賭賭賭賭賭賭賭
賭け事

弥 8画 弓
や
弥弥弥弥弥弥弥弥
弥生［やよい］

瑠 14画 玉
ル
瑠瑠瑠瑠瑠瑠瑠瑠瑠瑠瑠瑠瑠瑠
瑠璃［るり］色

璃 14画 玉
リ
璃璃璃璃璃璃璃璃璃璃璃璃璃璃
浄瑠璃［じょうるり］

刹 8画 刀
（サツ）
セツ
刹刹刹刹刹刹刹刹
利那［せつな］

艦 21画 舟
カン
艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦艦
艦船　艦隊
軍艦　戦艦

艇 13画 舟
テイ
艇艇艇艇艇艇艇艇艇艇艇艇艇
舟艇　艇身

儒 16画 人
ジュ
儒儒儒儒儒儒儒儒儒儒儒儒儒儒儒儒儒儒
儒学　儒教
儒者

囚 5画 口
シュウ
囚囚囚囚囚
囚獄　囚人

殉 10画 歹
ジュン
殉殉殉殉殉殉殉殉殉殉
殉死　殉職

逝 10画 辶
セイ
（ゆく）
（いく）
逝逝逝逝逝逝逝逝逝逝
急逝　逝去

漢字

三年生で学習した音訓

ここには、三年生で学習した新出音訓（小学校で学習した漢字の新しい読み方）を提出順に示した。小学校で学習した読み方と合わせて読めるようにしておこう。

●漢字の上の数字は、教科書本文での初出ページを示す。
●各欄で、漢字、新しく学習した読み方、用例を示す。
・読み方については、片仮名は音読みを、平仮名は訓読みを、太字は送り仮名を示す。

17 **代** しろ　代物
22 **割** カツ　割愛　分割
遺 ユイ　遺言
28 **谷** コク　渓谷
研 **とぐ**　研ぎ澄ます
商 **あきなう**　野菜を商う
己 おのれ　己の姿
省 **かえりみる**　言動を省みる
公 おおやけ　公の資料
競 **きそう**　競い合う
38 **極** **きわめる**　極めて高い
きわまる　感極まる
きわみ　感激の極み
39 **危** **あやうい**　危うく助かる
あやぶむ　成功を危ぶむ
59 **千** **ひる**　干潟　干物
反 タン　一反　反物

60 **発** ホツ　発端
宗 ソウ　宗家
兄 ケイ　長兄　父兄
石 コク　一石　石高
出 スイ　出納
納 トウ　出納
88 **鋼** はがね　鋼の意志
91 **提** **さげる**　かばんを提げる
107 **結** **ゆう**　髪を結う
ゆわえる　縄で結わえる
111 **財** サイ　財布
123 **穴** ケツ　墓穴
127 **上** **のぼせる**　話題に上せる
のぼす　記録に上す
128 **静** ジョウ　静脈
机 キ　机上
胸 むな　胸騒ぎ　胸算用

131 **著** **いちじるしい**　著しい進歩
140 **滋** ジ　滋養
150 **今** キン　古今
151 **貴** **たっとい**　貴い体験
とうとい　貴い体験
たっとぶ　真実を貴ぶ
とうとぶ　門松を立てる
157 **門** かど　門松を立てる
180 **紅** くれない　紅の炎
眼 まなこ　眼を開く
蔵 くら　お蔵入り
舌 ゼツ　筆舌
耳 ジ　耳目　牛耳る
値 **あたい**　値千金
助 **すけ**　助太刀
縄 ジョウ　縄文
媛 エン　才媛

氏 うじ　氏神様
次 シ　次第
夕 セキ　一朝一夕
若 ジャク　若干　泰然自若
得 **うる**　名声を得る
生 **おう**　生い立ち
181 **費** **ついやす**　時間を費やす
ついえる　財産が費える
初 **そめる**　夜が明け初める
辞 **やめる**　仕事を辞める
州 す　三角州　中州
黄 こ　黄金色
神 かん　神主
外 ゲ　外科医
修 シュ　修行
敵 かたき　目の敵にする
討 **うつ**　あだを討つ

災 **わざわい**　口は災いの元
郷 ゴウ　郷土
戦 いくさ　勝ち戦
銭 ぜに　小銭
182 **守** **もり**　お守り　子守り
声 こわ　声色　声高
室 むろ　岩室
190 **鼻** ビ　耳鼻科　酸鼻
損 **そこなう**　健康を損なう
そこねる　気分を損ねる
226 **忘** ボウ　忘恩　忘却
貸 タイ　貸借　賃貸
園 その　花園　学びの園
昔 シャク　今昔
浅 セン　深浅　浅学非才

漢字

常用漢字表

二〇一〇年改定
総字数二一三六字（五十音順）

常用漢字は、一般の社会生活で使用する漢字の目安として定められたもので、中学校修了までに一般的な読み方を全て学習することになっている。

中学校三年生の段階では、一年生から三年生までに学習した漢字をしっかり読めるようにしておこう。また、小学校で学習した漢字は、正確に書けるように練習しよう。特に、六年生で習った漢字は、書き慣れるまで意識して使っていくように心がけたい。

なお、◆を付けたものは、用法の限られた漢字である。教科書では304・305ページの「常用漢字表について」で紹介している。

小学校五年生までに学習した漢字
小学校六年生で学習した漢字
◎ 胃 イ
① 扱 あつかう
中学校一年生で学習した漢字
② 哀 アイ あわれ あわれむ
中学校二年生で学習した漢字
182 亜 ア
中学校三年生で学習する漢字
① 彙 イ 〈彙〉
数字は教科書本文での初出ページを示す。
〈 〉内は手書きの楷書の習慣による字体
◆ 尉 イ

この教科書では新出漢字として扱っていない漢字

漢字の下の片仮名は音読みを、平仮名は訓読みを、太字は送り仮名を示す。
● は中学校三年生で学習する音訓　○ は中学校一・二年生で学習した音訓
（ ）内は中学校では学習しなくてもよい音訓

あ

182 亜 ア
② 哀 アイ あわれ あわれむ
② 挨 アイ
② 愛 アイ
② 曖 アイ
悪 アク（オ） わるい
② 握 アク にぎる
圧 アツ
① 扱 あつかう
② 宛 あてる
② 嵐 あらし
安 アン やすい
案 アン
暗 アン くらい

い

位 イ くらい
② 為 イ
① 依 イ（エ）
囲 イ かこむ かこう
◎ 胃 イ
◆ 尉 イ
委 イ ゆだねる
◎ 異 イ こと
移 イ うつる うつす
① 維 イ
① 緯 イ
◎ 域 イキ
① 違 イ ちがう ちがえる
180 慰 イ なぐさめる なぐさむ
◎ 遺 イ ユイ●
一 イチ イツ ひと ひとつ
◆ 壱 イチ
② 逸 イツ
① 稲 イネ
◎ 茨 イバラ
② 芋 イモ
引 イン ひく ひける
印 イン しるし
因 イン（よる）
◆ 咽 イン
② 姻 イン
員 イン
院 イン
◆ 淫 イン（みだら）
① 陰 イン かげ かげる
飲 イン のむ
① 隠 イン かくす かくれる
① 韻 イン

う

右 ウ ユウ みぎ
◎ 宇 ウ
羽 ウ はね
雨 ウ あめ あま
181 唄 うた
140 鬱 ウツ
◆ 畝 うね
② 浦 うら
運 ウン はこぶ
雲 ウン くも

え

永 エイ ながい
泳 エイ およぐ
英 エイ
◎ 映 エイ うつる うつす はえる○
栄 エイ さかえる さかえ（はえ） はえる
営 エイ いとなむ
◎ 沿 エン そう
① 閲 エツ
59 謁 エツ
① 越 エツ こす こえる
180 悦 エツ
駅 エキ
液 エキ
益 エキ（ヤク）
② 疫 エキ（ヤク）
易 エキ イ やさしい
② 衛 エイ
② 鋭 エイ するどい
① 影 エイ かげ
182 詠 エイ（よむ）
◎ 延 エン のびる のべる のばす
① 円 エン まるい
① 演 エン
塩 エン しお
① 鉛 エン なまり
107 艶 エン つや
① 縁 エン ふち
123 猿 エン さる
遠 エン（オン） とおい
① 煙 エン けむる けむり けむい
園 エン その●
① 援 エン
媛 エン●
② 宴 エン
180 怨 エン オン
182 炎 エン ほのお

お

① 汚 オ けがす けがれる けがす けがらわしい よごす よごれる きたない
岡 おか
屋 オク や
億 オク
② 憶 オク
② 臆 オク
◆ 虞 おそれ
59 乙 オツ
① 俺 おれ
応 オウ こたえる
央 オウ
往 オウ
王 オウ
② 凹 オウ
① 押 オウ おす おさえる
① 旺 オウ
47 欧 オウ
② 殴 オウ なぐる
桜 オウ さくら
◆ 翁 オウ
① 奥 オウ おく
横 オウ よこ
◎ 恩 オン
音 オン イン○ おと ね
73 卸 おろす おろし
① 俺 おれ
59 乙 オツ
◆ 虞 おそれ
② 臆 オク
② 憶 オク
226 塊 カイ かたまり
② 階 カイ
開 カイ ひらく ひらける あく あける
128 懐 カイ（ふところ） なつ なつかしい（なつ） かしむ（なつ） なつく なつける
① 壊 カイ こわす こわれる
② 潰 カイ つぶす つぶれる
解 カイ（ゲ） とく とかす とける
② 諧 カイ
貝 かい
180 劾 ガイ
外 ガイ ゲ● そと ほか はずす はずれる
① 崖 ガイ がけ
② 涯 ガイ
街 ガイ カイ○ まち
① 蓋 ガイ ふた
② 該 ガイ
② 概 ガイ
② 骸 ガイ
◎ 拡 カク
角 カク かど つの
226 柿 かき
226 垣 かき
◎ 革 カク かわ○
格 カク（コウ）
① 核 カク
害 ガイ

か

下 カ ゲ した しも もと○ さげる さがる くだす くだる くださる おろす おりる
化 カ ケ ばける ばかす
火 カ ひ（ほ）
加 カ くわえる くわわる
可 カ
① 菓 カ
② 華 カ（ケ） はな
荷 カ に○
家 カ ケ いえ や
① 架 カ かける かかる
夏 カ ゲ○ なつ
科 カ
① 苛 カ
① 河 カ かわ
② 佳 カ
花 カ はな
何 カ なに なん○
仮 カ ケ○ かり
貨 カ
① 渦 カ うず
過 カ すぎる すごす すぎ（あやまつ） （あやまち）
② 嫁 カ よめ とつぐ
② 価 カ（あたい）
果 カ はたす はたして はて
② 禍 カ
① 暇 カ ひま
① 介 カイ
② 餓 ガ
① 雅 ガ
賀 ガ
芽 ガ め
画 ガ カク
◎ 我 ガ われ われ○
226 瓦 ガ（カ） かわら
180 牙 ガ（ゲ） きば
226 蚊 か
課 カ
① 稼 カ かせぐ
歌 カ うた うたう
② 箇 カ
140 寡 カ
① 靴 カ（クツ）
回 カイ（エ） まわる まわす
◎ 灰 カイ○ はい
会 カイ（エ） あう
快 カイ こころよい
① 戒 カイ いましめる
改 カイ あらためる あらたまる
② 怪 カイ あやしい あやしむ
◆ 拐 カイ
213 悔 カイ くいる くやむ くやしい
① 皆 カイ みな
界 カイ
海 カイ うみ
絵 カイ エ
械 カイ
① 介 カイ
① 暇 カ ひま
② 嫁 カ よめ とつぐ
② 価 カ（あたい）
果 カ はたす はたして はて
② 禍 カ

牛 ギュウ うし
去 キョ コ さる
居 キョ いる
巨 キョ
拒 キョ こばむ
拠 キョ コ
挙 キョ あげる あがる
虚 キョ コ
許 キョ ゆるす
距 キョ
魚 ギョ うお さかな
御 ギョ ゴ おん
漁 ギョ リョウ
共 キョウ ども
凶 キョウ 44
叫 キョウ さけぶ
狂 キョウ くるう くるおしい

京 キョウ ケイ○
享 キョウ
供 キョウ ク そなえる ども ◎
協 キョウ
況 キョウ
峡 キョウ 59
挟 キョウ はさむ はさまる
狭 キョウ せまい せばめる せばまる
恐 キョウ おそれる おそろしい
恭 キョウ うやうや- しい
胸 キョウ むね むな ◎
脅 キョウ おびや- かす おど おどかす
強 キョウ ゴウ○ つよい つよまる つよめる しいる○

教 キョウ おしえる おそわる
郷 キョウ ゴウ ◎
境 キョウ ケイ○ さかい
橋 キョウ はし
鏡 キョウ かがみ
◆矯 キョウ ため める
競 キョウ ケイ きそう せる ●
響 キョウ ひびく
驚 キョウ おどろく おどろかす
仰 ギョウ コウ あおぐ あおせ ◎
暁 ギョウ あかつき ◎
業 ギョウ ゴウ わざ○
凝 ギョウ こる こらす ◎
曲 キョク まがる まげる
局 キョク

極 キョク ゴク○ きわめる きわまる きわみ ● ●
玉 ギョク たま
巾 キン
均 キン
◆斤 キン
近 キン ちかい
金 キン コン かね かな
菌 キン ◎
勤 キン ゴン つとめる つとまる ◎
琴 キン こと ◎
僅 キン わずか 〈僅〉 ◎
筋 キン すじ ◎
禁 キン

緊 キン ①
錦 キン にしき 59
謹 キン つつしむ ②
襟 キン えり ①
吟 ギン ②
銀 ギン
く
区 ク
句 ク
苦 ク くるしい くるしむ くるしめる にがい にがる
駆 ク かける かる ①
具 グ
惧 グ 〈惧〉 ②
愚 グ おろか ②

空 クウ そら あく あける から ◎
偶 グウ ①
遇 グウ 114
隅 グウ ①
串 くし 77
掘 クツ ほる ①
屈 クツ ②
窟 クツ ②
熊 くま
繰 くる ①
君 クン きみ
訓 クン
勲 クン 28
薫 クン かおる ②
軍 グン
郡 グン

群 グン むれる むら
け
兄 ケイ キョウ ● あに
刑 ケイ ②
形 ケイ ギョウ かた かたち
型 ケイ かた
契 ケイ ちぎる 127
係 ケイ かかる かかり
径 ケイ
系 ケイ ◎
茎 ケイ くき ①
恵 ケイ エ めぐむ ①
計 ケイ はかる はからう
掲 ケイ かかげる ①
啓 ケイ ②

渓 ケイ ①
経 ケイ キョウ へる ○
蛍 ケイ ほたる ②
敬 ケイ うやまう ◎
景 ケイ
軽 ケイ かるい かろやか ○
傾 ケイ かたむく かたむける ②
携 ケイ たずさえる たずさわる ②
継 ケイ つぐ ①
詣 ケイ もうでる ①
慶 ケイ ②
◆憬 ケイ
稽 ケイ ①
憩 ケイ いこい いこう ②
警 ケイ ◎
鶏 ケイ にわとり 18
芸 ゲイ

迎 ゲイ むかえる ①
鯨 ゲイ くじら ②
隙 ゲキ すき ②
撃 ゲキ ①
劇 ゲキ ◎
激 ゲキ はげしい ◎
桁 ケタ 180
欠 ケツ かける かく
穴 ケツ あな ◎
血 ケツ ち
決 ケツ きめる きまる
結 ケツ むすぶ ゆう ゆわえる ●
潔 ケツ いさぎよ- い
月 ゲツ ガツ つき
傑 ケツ ①
犬 ケン いぬ

件 ケン
見 ケン みる みえる みせる
券 ケン ◎
肩 ケン かた ①
建 ケン コン たてる たつ
研 ケン とぐ ●
県 ケン
倹 ケン 60
兼 ケン かねる ②
剣 ケン つるぎ ②
拳 ケン こぶし ②
軒 ケン のき 180
健 ケン すこやか ○
険 ケン けわしい
圏 ケン ②

堅 ケン かたい ①
検 ケン
嫌 ケン ゲン きらう いや ①
献 ケン コン 132
絹 ケン きぬ ◎
遣 ケン つかう つかわす ①
権 ケン ゴン ◎
憲 ケン ◎
賢 ケン かしこい ②
謙 ケン ②
顕 ケン ②
験 ケン ゲン
懸 ケン ケ かける かかる ①

殻 カク から ②
郭 カク ②
覚 カク おぼえる さます さめる
楽 ガク ラク たのしい たのしむ
額 ガク ひたい
顎 ガク あご ①

確 カク たしか たしかめる
閣 カク ◎
隔 カク へだてる へだたる ①
較 カク ①
獲 カク える ①
嚇 カク ①
穫 カク ②
岳 ガク たけ ②
学 ガク まなぶ
楽 ガク ラク たのしい たのしむ

括 カツ ①
喝 カツ ①
活 カツ
滑 カツ コツ すべる なめらか ②
葛 カツ 〈葛〉 くず 140
割 カツ わる わり われる さく ◎ ●
渇 カツ かわく ①
褐 カツ 182
轄 カツ 28
且 ◆ かつ
株 かぶ ◎
釜 かま 58

掛 かける かかる かかり ①
潟 かた
刈 かる ①
干 カン ほす ひる ◎ ●
刊 カン
甘 カン あまい あまえる あまやかす ①
缶 カン ①
汗 カン あせ ①
完 カン
肝 カン きも ①
官 カン
冠 カン かんむり ②
巻 カン まく まき ◎
看 カン ◎
陥 カン おちいる おとしいれる ①
乾 カン かわく かわかす ①

鎌 かま ②
勘 カン ②
患 カン わずらう 59
貫 カン つらぬく ①
寒 カン さむい
喚 カン ②
堪 カン たえる ②
換 カン かえる わる ①
敢 カン ②
棺 カン ①
款 カン ◆
間 カン ケン あいだ ま
閑 カン 105
勧 カン すすめる ②
寛 カン ②
幹 カン みき
感 カン

漢 カン
慣 カン なれる ならす
管 カン くだ
関 カン せき かかわる
歓 カン ②
監 カン 18
緩 カン ゆるい ゆるやか ゆるむ ゆるめる ②
館 カン やかた
環 カン ①
簡 カン ◎
観 カン
韓 カン ◆
艦 カン ◆
鑑 カン かんが- みる 〈鑑〉 ②

還 カン ①
憾 カン ②
願 ガン ねがう
顔 ガン かお
頑 ガン ①
眼 ガン ゲン まなこ ●
岩 ガン いわ
玩 ガン 181
岸 ガン きし
含 ガン ふく ふくむ ふくめる ①
丸 ガン まる まるい まるめる

き
企 キ くわだてる ①
伎 キ 127
危 キ あぶない あやうい あやぶむ ◎ ● ●
机 キ つくえ ◎ ●
気 ケ キ

岐 キ。
希 キ
忌 キ いむ い- まわしい 24
汽 キ
奇 キ ①
祈 キ いのる ①
季 キ
紀 キ
軌 キ ②
既 キ すでに ②
記 キ しるす
起 キ おきる おこる おこす
飢 キ うえる ②
鬼 キ おに ②
帰 キ かえる かえす ②

基 キ もと。 もとい
寄 キ よる よせる
規 キ
亀 キ かめ ①
喜 キ よろこぶ
幾 キ いく ①
揮 キ ◎
期 キ ご
棋 キ ②
貴 キ たっとい とうとい たっとぶ とうとぶ ◎ ● ● ● ●
器 キ うつわ ○
旗 キ はた
毀 キ ◆
棄 キ ②
輝 キ かがやく ①

機 キ はた。
騎 キ ②
技 ギ わざ ○
宜 ギ 140
偽 ギ いつわる にせ 60
欺 ギ あざむく ②
義 ギ
疑 ギ うたがう ◎
儀 ギ ②
戯 ギ たわむ- れる ①
擬 ギ ①
議 ギ
犠 ギ 132
菊 キク ②
吉 キチ キツ ①
喫 キツ ①

詰 キツ つめる つまる つむ ②
却 キャク 28
客 キャク カク ○
脚 キャク あし ②
虐 ギャク しいた- げる ②
逆 ギャク さか さからう
久 キュウ ク ひさしい
九 キュウ ク ここの ここのつ
及 キュウ およぶ および およぼす ①
弓 キュウ ○ ゆみ
丘 キュウ おか ①
旧 キュウ
休 キュウ やすむ やすまる やすめる
吸 キュウ すう ◎
朽 キュウ くちる ②
求 キュウ もとめる
臼 キュウ うす ②
究 キュウ きわめる ○
泣 キュウ ○ なく
急 キュウ いそぐ
級 キュウ
糾 キュウ 181
宮 キュウ グウ ○ ク- みや
救 キュウ すくう
球 キュウ たま
給 キュウ
嗅 キュウ かぐ ②
窮 キュウ きわめる きわまる 181

元 ゲン もと
古 コ ふるい ふるす
呼 ◎ コ よぶ
固 コ かためる かたまる かたい
股 ② コ また
虎 123 コ とら
弧 ② コ
孤 ② コ
故 ② コ ゆえ◦
枯 ② コ かれる からす
個 コ
庫 コ（ク）
湖 コ みずうみ
雇 ② コ やとう
誇 ② コ ほこる
鼓 ① コ（つづみ）
錮 ◆ コ
顧 123 コ かえりみる
五 ゴ いつ つ
互 ① ゴ たがい
午 ゴ
呉 28 ゴ
後 ゴ コウ のち うしろ あと おくれる◦
娯 ② ゴ
悟 ① ゴ さとる
碁 59 ゴ
語 ゴ かたる かたらう
誤 ◎ ゴ あやまる
護 ゴ
口 コウ ク くち
工 コウ ク
公 コウ おおやけ●
勾 182 コウ
孔 ◆ コウ
功 コウ（ク）
巧 ① コウ たくみ
広 コウ ひろい ひろまる ひろめる ひろがる ひろげる
甲 ① コウ カン
交 コウ まじわる まじえる まじる まざる まぜる かう◦ かわす◦
光 コウ ひかる ひかり
向 コウ むく むける むかう むこう
后 ◎ コウ
好 コウ この◦む すく
江 ① コウ え
考 コウ かんがえる
行 コウ ギョウ（アン） いく ゆく おこなう
坑 180 コウ
抗 ② コウ
孝 ◎ コウ
攻 ① コウ せめる
更 ① コウ さら（ふける）（ふかす）
効 コウ きく
幸 コウ さいわい さち◦ しあわせ
拘 180 コウ
肯 ① コウ
侯 ◆ コウ
厚 コウ あつい◦
恒 ② コウ
洪 131 コウ
皇 ◎ コウ オウ
紅 ◎ コウ ク◦ べにくれない●
荒 ① コウ あらい あれる あらす
香 コウ◦（キョウ） かおり かおる
郊 ② コウ
候 コウ（そうろう）
校 コウ
耕 コウ たがやす
航 コウ
降 ◎ コウ おりる おろす ふる
貢 132 コウ（ク）（みつぐ）
高 コウ たか たかい たかまる たかめる
康 コウ
梗 180 コウ
控 ② コウ（ひかえる）
喉 ① コウ のど
黄 コウ◦ オウ き こ●
慌 ② コウ（あわてる あわ－ ただしい）
港 コウ みなと
硬 ② コウ かたい
絞 ① コウ（しぼる） しめる しまる
項 ① コウ
溝 ① コウ みぞ
鉱 コウ
構 コウ かまえる かまう
綱 ② コウ つな
酵 ① コウ
稿 ② コウ
興 コウ キョウ（おこる）（おこす）
衡 ② コウ
鋼 ◎ コウ はがね●
講 コウ
購 ② コウ
乞 ② こう
傲 19 ゴウ
剛 ② ゴウ
拷 ◆ ゴウ
合 ゴウ ガッ カッ あう あわす あわせる
号 ゴウ
克 128 コク
豪 131 ゴウ
告 コク つげる
谷 コク たに●
刻 ◎ コク きざむ
国 コク くに
黒 コク くろ くろい
穀 ◎ コク
酷 131 コク
獄 ② ゴク
骨 ◎ コツ ほね
駒 123 こま
今 コン キン いま●
頃 ① ころ
込 ① こむ こめる
困 ◎ コン こまる
昆 80 コン
恨 ② コン うらむ うらめしい
根 コン ね
婚 ① コン
混 コン まじる まざる まぜる こむ
痕 ② コン あと
紺 106 コン
魂 ① コン たましい
墾 18 コン
懇 60 コン（ねんごろ）
砂 ◎ サ シャ◦ すな
査 サ
沙 28 サ
佐 サ
左 サ ひだり
差 ② サ さす
唆 ② サ（そそのかす）
詐 180 サ
鎖 ② サ くさり
座 ◎ ザ すわる◦
挫 ① ザ
才 サイ
再 サイ ふたたび
災 サイ わざわい●
妻 サイ つま
采 ① サイ
砕 122 サイ くだく くだける
宰 140 サイ
栽 ② サイ
彩 ① サイ（いろどる）
採 サイ とる
済 ◎ サイ すむ ます
祭 サイ まつる まつり
斎 ① サイ

細 サイ ほそい こまか こまかい
菜 サイ な
最 サイ もっとも
裁 ◎ サイ さばく
債 72 サイ
催 ② サイ もよおす
塞 140 サイ ソク ふさぐ ふさがる
歳 ① サイ セイ
載 ① サイ のせる のる
際 サイ（きわ）
埼 さい
在 ザイ ある
材 ザイ
剤 ② ザイ
財 ザイ サイ●
罪 ザイ つみ
崎 さき
作 サク サ つくる
削 ① サク けずる
昨 サク
柵 81 サク
索 ① サク
策 ◎ サク
酢 ① サク す
錯 ① サク
搾 ① サク しぼる
咲 ① さく
冊 ◎ サツ（サク）
札 サツ ふだ
刷 サツ する
殺 サツ（サイ）（セツ） ころす
察 サツ
撮 ② サツ とる
擦 ① サツ する すれる
雑 ザツ ゾウ
皿 さら
三 サン み みっ つ
山 サン やま
参 サン まいる
桟 180 サン
蚕 ◎ サン かいこ
産 サン うむ うまれる うぶ
惨 47 サン（ザン） みじめ
傘 ② サン（かさ）
散 サン ちる ちらす ちらかす ちらかる
算 サン
酸 サン すい
賛 サン
残 ザン のこる のこす
斬 ① ザン きる
暫 226 ザン
し
士 シ
子 シ こ
支 シ ささえる
止 シ とまる とめる
氏 シ うじ●
仕 シ（ジ） つかえる
史 シ
司 シ
四 シ よ よっ つ よっ つ よん
市 シ いち
矢 シ（ジ） や
旨 ① シ（むね）
死 シ しぬ
糸 シ いと
至 ◎ シ いたる
伺 ② シ うかがう
志 シ こころざす こころざし
私 ◎ シ わたくし わたし
使 シ つかう
刺 ① シ さす さ さる
始 シ はじめる はじまる
姉 シ あね◦
枝 シ（ジ） えだ
祉 ② シ
肢 ② シ
思 シ おもう
姿 ◎ シ すがた
指 シ ゆび さす
師 シ
施 ① シ（セ） ほどこす
恣 182 シ
紙 シ かみ
脂 ① シ あぶら
視 ◎ シ
紫 ② シ むらさき
詞 ◎ シ
歯 シ は
嗣 ◆ シ
試 シ こころみる ためす◦
資 シ
詩 シ
飼 シ かう
誌 ◎ シ
雌 ② シ めす
賜 181 シ（ス） たまわる
諮 ② シ はかる
示 シ◦ しめす
字 ジ あざ◦
寺 ジ てら
次 ジ● つぐ つぎ
耳 ジ み●
自 ジ シ みずから
似 ジ◦ にる
児 ジ ニ◦
事 ジ（ズ） こと
侍 72 ジ さむらい
治 ジ チ おさめる おさまる なおる なおす
持 ジ もつ
時 ジ とき
滋 ジ●
辞 ② ジ やめる●
慈 ② ジ（いつく－ しむ）
磁 ◎ ジ
璽 ◆ ジ〈重〉
餌 ① ジ（え）
識 シキ
式 シキ
鹿 しか
七 シチ なな なな つ なの
軸 ① ジク
叱 ② シツ〈叱〉 しかる
失 シツ うしなう
室 シツ むろ●
疾 ② シツ
執 ② シツ シュウ とる
湿 ② シツ しめる しめす
漆 ② シツ うるし
質 シツ シチ◦（チ）
実 ジツ み みのる
写 シャ うつ うつす うつる
芝 ② しば
舎 シャ
車 シャ くるま
社 シャ やしろ
者 シャ もの
射 ◎ シャ いる
捨 ◎ シャ すてる
赦 ◆ シャ
斜 ① シャ なな め
煮 ② シャ（にる） にえる にやす
遮 ① シャ さえぎる
謝 シャ あやまる◦
邪 ② ジャ
蛇 ① ジャ ダ へび
尺 ◎ シャク
借 シャク かりる
酌 28 シャク（くむ）
釈 ① シャク
爵 ◆ シャク
若 ◎ ジャク●（ニャク） わか い（もし くは）
弱 ジャク よわ い よわる よわまる よわめる
寂 ② ジャク（セキ） さび さびしい さびれる
手 シュ て た◦
主 シュ（ス） ぬし おも
守 シュ ス まも もり●
朱 226 シュ
取 シュ とる
狩 ① シュ かる かり
首 シュ くび
殊 128 シュ こと
珠 ② シュ
酒 24 シュ さけ さか
腫 シュ は れる はらす

種 シュ たね
趣 ②シュ おもむき
寿 ①ジュ ことぶき
受 ジュ うける・かる
呪 ②ジュ のろう
授 ジュ さずける○・さずかる○
需 79 ジュ
儒 ◆ジュ
樹 ◎ジュ
収 ◎シュウ おさめる・おさまる
囚 ◆シュウ
州 シュウ す●
舟 シュウ ふね・ふな
秀 ①シュウ（ひいでる）
周 シュウ まわり
宗 ◎シュウ ソウ●
拾 シュウ○ ジュウ○ ひろう

秋 シュウ あき
臭 60 シュウ くさい・におう
修 シュウ● おさめる・おさまる
習 シュウ ならう
羞 140 シュウ
終 シュウ おわる・おえる
袖 58 シュウ（そで）
就 ◎シュウ（ジュ） つく○・つける○
週 シュウ
集 シュウ あつまる・あつめる・あつどう○
衆 ◎シュウ（シュ）
従 ◎ジュウ（ショウ）（ジュ） したがう・したがえる
重 ジュウ（チョウ） え・おもい・かさねる・かさなる
柔 ①ジュウ ニュウ やわらか・やわらかい
住 ジュウ すむ・すまう
充 ②ジュウ（あてる）
汁 ②ジュウ しる
十 ジュウ ジッ とお・と
襲 ①シュウ おそう
蹴 ②シュウ ける

縦 ◎ジュウ たて
叔 ◆シュク
祝 シュク（シュウ） いわう
宿 シュク やど・やどる・やどす
淑 ◆シュク
縮 ◎シュク ちぢむ・ちぢまる・ちぢめる・ちぢれる・ちぢらす
粛 128 シュク
塾 ①ジュク
熟 ◎ジュク うれる○
出 シュツ スイ● でる・だす
述 ジュツ のべる
術 ジュツ
俊 ②シュン
春 シュン はる

瞬 ①シュン（またたく）
旬 ②ジュン
巡 38 ジュン めぐる
盾 ①ジュン たて
准 ②ジュン
殉 ◆ジュン
純 ◎ジュン
循 131 ジュン
順 ジュン
準 ジュン
潤 ②ジュン うるおう・うるおす・うるむ
遵 ①ジュン
処 ◎ショ
初 ショ はじめ・はじめて・はつ（うい）・そめる●
所 ショ ところ

升 ◆ショウ ます
少 ショウ すくない・すこし
召 ①ショウ めす
匠 140 ショウ
床 ②ショウ とこ・ゆか
抄 ◆ショウ
肖 ②ショウ
尚 ②ショウ
招 ショウ まねく
昇 ①ショウ のぼる
承 ◎ショウ うける・うけたまわる○
松 ショウ まつ
序 ジョ
叙 128 ジョ
徐 ②ジョ
除 ◎ジョ のぞく
助 ②ジョ たすける・たすかる・すけ●
女 ジョ（ニョ）（ニョウ） おんな・め○
如 ②ジョ（ニョ）
諸 ◎ショ
緒 154 ショ チョ お
署 ◎ショ
暑 ショ あつい
庶 128 ショ
書 ショ かく

称 ①ショウ
証 ショウ
詔 ◆ショウ（みことのり）
象 ショウ ゾウ
傷 ◎ショウ きず・いたむ○・いためる○
照 ショウ てる・てらす・てれる
奨 ②ショウ
彰 ②ショウ
詳 ①ショウ くわしい
賞 ショウ
償 ①ショウ つぐなう
粧 ①ショウ
祥 128 ショウ
笑 ショウ わらう○・えむ○
唱 ショウ となえる
商 ショウ あきなう●
焼 ショウ○ やく・やける
硝 ◆ショウ
症 ②ショウ
焦 216 ショウ こげる・こがす・こがれる（あせる）
衝 ②ショウ
憧 ②ショウ あこがれる
障 ◎ショウ（さわる）
掌 180 ショウ
晶 ②ショウ
将 ◎ショウ
宵 72 ショウ（よい）
消 ショウ きえる・けす
勝 ショウ かつ・まさる○
訟 72 ショウ
紹 ①ショウ
章 ショウ
渉 ②ショウ
礁 ②ショウ
償 ①ショウ つぐなう
衝 ②ショウ
賞 ショウ
情 ジョウ（セイ） なさけ
場 ジョウ ば
畳 ②ジョウ たたむ

蒸 ◎ジョウ むす○・むれる○・むらす○
縄 ジョウ なわ●
壌 ②ジョウ
嬢 128 ジョウ
錠 ②ジョウ
譲 ②ジョウ ゆずる
醸 ②ジョウ（かもす）
色 ショク シキ いろ
拭 ①ショク（シ） ふく・ぬぐう
食 ショク（ジキ） くう（くらう）・たべる
植 ショク うえる・うわる
殖 ①ショク ふえる・ふやす
飾 ②ショク かざる
触 ①ショク ふれる・さわる
嘱 ②ショク

織 ショク（シキ） おる
職 ショク
辱 128 ジョク（はずかしめる）
尻 181 しり
心 シン こころ
申 シン○ もうす
伸 ①シン のびる・のばす・のべる
辛 ①シン から・い
芯 ①シン
臣 シン ジン
侵 ②シン おかす
身 シン み
津 128 シン つ
信 シン
神 シン ジン かみ● かん●（こう）

唇 ①シン（くちびる）
娠 ◆シン
振 ①シン ふる・ふるう・ふれる
浸 ②シン ひたす・ひたる
真 シン ま
針 ◎シン はり
深 シン ふか・ふかい・ふかまる・ふかめる
紳 ②シン
進 シン すむ・すすめる
森 シン もり
診 ②シン みる
寝 ②シン ねる・ねかす
慎 ②シン つつしむ
新 シン あたら・しい・あらた・にい

審 ①シン
震 ①シン ふるう・ふるえる
薪 ②シン たきぎ
親 シン おや・したしい・したしむ
人 ジン ニン ひと
刃 77 ジン（は）
仁 ◎ジン ニ○
尽 ①ジン つくす・つきる・つかす
迅 ②ジン
甚 140 ジン（はなはだ・はなは・だしい）
陣 ②ジン
腎 ①ジン
尋 ①ジン たずねる

須 ②ス
図 ズ トはかる○
水 スイ みず
吹 ①スイ ふく
垂 ◎スイ たれる・たらす
炊 ②スイ たく
帥 ◆スイ
粋 59 スイ いき
衰 ①スイ おとろえる
推 ◎スイ おす○
酔 ②スイ よう
遂 ①スイ とげる
睡 ②スイ
随 ①ズイ
髄 ②ズイ

枢 127 スウ
崇 117 スウ
数 スウ（ス） かず・かぞえる
寸 ◎スン
杉 ①スギ
据 ①すえる・すわる
是 ②ゼ
瀬 59 せ

星 セイ ショウ○ ほし
牲 132 セイ
省 セイ ショウ かえりみる● はぶく
凄 ②セイ
逝 ◆セイ（ゆく）（いく）
清 セイ（ショウ） きよい・きよまる・きよめる
盛 ◎セイ○（ジョウ） もる・さかる○・さかん○
婿 ②セイ（むこ）
晴 セイ はれる・はらす
聖 ◎セイ
誠 ◎セイ まこと○
精 セイ ショウ○
製 セイ

誓 ②セイ ちかう
静 セイ（ジョウ）● しず・しずか・しずまる・しずめる
請 81 セイ（シン）（こう） うける
整 セイ ととのえる・ととのう
醒 ◆セイ
税 ゼイ
夕 ◆セキ ゆう
斥 ◆セキ
石 セキ シャク コク● いし
赤 セキ（シャク） あか・あかい・あからむ・あからめる
昔 セキ（シャク）● むかし
析 ①セキ

席 セキ
脊 ①セキ
隻 ◆セキ
惜 ②セキ おしい・おしむ
戚 ①セキ
跡 ①セキ あと
責 セキ せめる
積 セキ つむ・つもる
籍 128 セキ
績 セキ
切 セツ サイ○ きる・きれる
折 セツ おる・おり・おれる
拙 ②セツ つたない
窃 ◆セツ
接 セツ（つぐ）

設 セツ もうける
雪 セツ ゆき
節 セツ（セチ） ふし
摂 190 セツ
説 セツ（ゼイ） とく
舌 ◎ゼツ した●
絶 ゼツ たえる・たやす・たつ
千 セン ち
川 センン かわ
仙 ②セン
占 ②セン しめる・うらなう
先 セン さき
宣 ◎セン
専 ◎セン もっぱら○
泉 ◎セン いずみ
浅 セン● あさい

洗 ◎セン あらう
染 ◎セン○ そめる・そまる・（しみる）（しみ）
扇 ②セン おうぎ
栓 ①セン
旋 182 セン
船 セン ふね・ふな
戦 セン いくさ● たたかう
煎 ②セン（煎）いる
羨 ②セン（羨）うらやむ・うらやましい
腺 ◆セン
詮 180 セン
践 ②セン
箋 ①セン（箋）

◎銭 セン ぜに●
②潜 セン ひそむ もぐる
線 セン
②遷 セン
選 セン えらぶ
②薦 セン すすめる
①繊 セン
①鮮 セン あざやか
全 ゼン まったく すべて
前 ゼン まえ
◎善 ゼン よい
然 ゼン ネン
226 禅 ゼン
128 漸 ゼン
②膳 ゼン
①繕 ゼン つくろう

そ

②狙 ソ ねらう
②阻 ソ（はばむ）
祖 ソ
②租 ソ
素 ソス○
81 措 ソ
①粗 ソ あらい
①鼠 ソ（ねずみ）
②遡 ソ（さかのぼる）
226 塑 ソ
①訴 ソ うったえる
①疎 ソ（うとい）（うとむ）
組 ソ くむ くみ
②粗 ソ あらい
①双 ソウ ふた
45 壮 ソウ

早 ソウ サッ○ はやい はやまる はやめる
争 ソウ あらそう
走 ソウ はしる
①喪 ソウ も
◎創 ソウ つくる
◎窓 ソウ まど
②爽 ソウ さわやか
②霜 ソウ（そう）も
②燥 ソウ
◎操 ソウ（みさお） あやつる○
◆踪 ソウ
60 槽 ソウ
②遭 ソウ あう
総 ソウ
◎層 ソウ
想 ソウ（そう）
60 僧 ソウ
◎装 ソウ ショウ○（よそおう）
24 葬 ソウ（ほうむる）
②痩 ソウ（やせる）
①喪 ソウ も
◎創 ソウ つくる
②爽 ソウ さわやか
①騒 ソウ さわぐ
②藻 ソウ も
②造 ゾウ つくる
像 ゾウ
増 ゾウ ます ふえる ふやす
①憎 ゾウ にくむ にくい にくらしい にくしみ
◎蔵 ゾウ くら●
①贈 ゾウ おくる
◎臓 ゾウ
①即 ソク
①束 ソク たば
足 ソク あし たりる たす
①促 ソク うながす
則 ソク

①捉 ソク とらえる
①息 ソク いき
速 ソク はや はやい はやめる はやまる すみやか○
側 ソク がわ
測 ソク はかる
②俗 ゾク
族 ゾク
属 ゾク
①賊 ゾク
続 ゾク つづく つづける
卒 ソツ
率 ソツ○ リツ ひきいる
◎存 ソン ゾン
村 ソン むら
孫 ソン まご

た

◎尊 ソン たっとい とうとい たっとぶ とうとぶ
②遜 ソン
損 ソン そこなう● そこねる●
他 タ ほか
多 タ おおい
汰 タ
②妥 ダ
打 ダ うつ
②惰 ダ
111 駄 ダ
太 タイ ふとい ふとる
対 タイ ツイ○

体 タイ テイ○ からだ
②耐 タイ たえる
待 タイ まつ
②怠 タイ おこたる なまける
28 胎 タイ
◎退 タイ しりぞく しりぞける
②帯 タイ おびる おび
①泰 タイ
②堆 タイ
隊 タイ
②貸 タイ● かす
②替 タイ かえる かわる
128 逮 タイ
①袋 タイ（ふくろ）
②堆 タイ
①択 タク
◎宅 タク
72 滝 たき
題 ダイ
第 ダイ
台 ダイ タイ
代 ダイ タイ かわる かえる よ しろ●
大 ダイ タイ おお おおい おおきい に

◆但 ただし
達 タツ
①端 タン はし（は） はた
72 綻 タン ほころびる
◎誕 タン
②鍛 タン きたえる
団 ダン（トン）
男 ダン ナン おとこ
◎段 ダン
断 ダン たつ○ ことわる
①弾 ダン ひく はずむ たま
◎暖 ダン あたたか あたたかい あたたまる あたためる
談 ダン
①壇 ダン（タン）

ち

地 ジ チ

①脱 ダツ ぬぐ ぬげる
①奪 ダツ うばう
①棚 たな
①誰 だれ
①丹 タン
112 旦 タン ダン
◎担 タン（かつぐ）（になう）
単 タン
炭 タン すみ
①胆 タン
◎探 タン さぐる○ さがす
②嘆 タン なげく なげかわしい
短 タン みじかい
②淡 タン あわい
①担 タン（かつぐ）（になう）
112 旦 タン ダン
①丹 タン
①誰 だれ
①棚 たな
①奪 ダツ うばう
①脱 ダツ ぬぐ ぬげる

①択 タク
①沢 タク さわ
②卓 タク
②拓 タク
②託 タク
濯 タク
②諾 ダク
28 濁 ダク にごる にごす

①滞 タイ とどこおる
②態 タイ
◆戴 タイ

池 チ いけ
知 チ しる
◎値 チ ねたい●
①恥 チ はじる はじ はじらう はずかしい
②致 チ いたす
①遅 チ おくれる おくらす おそい
◆痴 チ
②稚 チ
置 チ おく
②緻 チ
竹 チク たけ
108 畜 チク
128 逐 チク
①蓄 チク たくわえる
築 チク きずく

着 チャク（ジャク） きる きせる つく つける
茶 チャ サ○
②窒 チツ
②秩 チツ

◆嫡 チャク
仲 チュウ なか○
中 チュウ ジュウ なか
虫 チュウ むし
◎宙 チュウ
沖 チュウ（おき）
柱 チュウ はしら
注 チュウ そそぐ
昼 チュウ ひる
②抽 チュウ
◎忠 チュウ
128 衷 チュウ

◎著 チョ あらわす○ いちじるしい●
①駐 チュウ
②鋳 チュウ いる
◆酎 チュウ

貯 チョ
丁 チョウ テイ○
②弔 チョウ とむらう
◎庁 チョウ
①徴 チョウ
②嘲 チョウ〈嘲〉 あざける
①聴 チョウ きく

①挑 チョウ いどむ
長 チョウ なが い
帳 チョウ
町 チョウ まち
兆 チョウ（きざす）（きざし）
①彫 チョウ ほる
張 チョウ はる
①眺 チョウ なが める

69 釣 チョウ つる
鳥 チョウ とり
◎頂 チョウ いただく いただき
朝 チョウ あさ
②貼 チョウ はる
◎腸 チョウ
①超 チョウ こえる こす
②跳 チョウ はねる とぶ
①澄 チョウ すむ すます
◎潮 チョウ しお
調 チョウ しらべる ととのう○ ととのえる○

①懲 チョウ こりる こらす こらしめる
直 チョク ジキ ただちに なおす なおる
◆勅 チョク
72 捗 チョク〈捗〉
②沈 チン しずむ しずめる
①珍 チン めずらしい
◎賃 チン
②陳 チン
◆朕 チン
128 鎮 チン（しずめる）（しずまる）

通 ツウ（ツ） とおる とおす かよう
◎痛 ツウ いたい いたむ いためる

つ

①追 ツイ おう
①椎 ツイ
①墜 ツイ

定 テイ ジョウ さだめる さだまる（さだか）
底 テイ そこ
②抵 テイ
②邸 テイ
②亭 テイ
◆貞 テイ
19 帝 テイ
①訂 テイ
庭 テイ にわ
◆逓 テイ
①偵 テイ
停 テイ
②堤 テイ つつみ
提 テイ さげる●
程 テイ ほど○
◆艇 テイ

②締 テイ しまる しめる
①諦 テイ あきらめる
19 泥 テイ（デイ）どろ
的 テキ まと
笛 テキ ふえ
①摘 テキ つむ
②滴 テキ しずく（したたる）
適 テキ
◎敵 テキ かたき●
107 溺 デキ おぼれる〈溺〉
鉄 テツ
②哲 テツ
28 迭 テツ
②撤 テツ
①徹 テツ
天 テン（あめ） あま

典 テン
店 テン みせ
点 テン
◎展 テン
①添 テン そえる そう
転 テン ころがる ころげる ころがす ころぶ
②塡 テン〈塡〉
田 デン た
伝 デン つた わる つたえる つたう
②殿 デン テン との どの
電 デン

と

◆斗 ト
①怒 ド いかる おこる
刀 トウ かたな
冬 トウ ふゆ
度 ド（ト） タク○ たび○
◆奴 ド
努 ド つとめる
土 ド ト つち
◆賭 ト〈賭〉 かける
①途 ト
徒 ト
①妬 ト ねたむ
②吐 ト はく

灯 トウ（ひ）
当 トウ あたる あてる
投 トウ なげる
豆 トウ ズ まめ
東 トウ ひがし
②到 トウ
②逃 トウ にげる にがす のがす のがれる
①倒 トウ たおれる たおす
①凍 トウ こおる こごえる
①唐 トウ から
島 トウ しま
①桃 トウ もも
◎討 トウ うつ●
①透 トウ すく すかす すける
◎党 トウ

◎晩 バン
番 バン
◆蛮 バン
②盤 バン
ひ
比 ヒ くらべる
皮 ヒ かわ
◆妃 ヒ
◎否 ヒ（いな）
◎批 ヒ
①彼 ヒ かれ かの
①披 ヒ
肥 ヒ こえる こえ こやす こやし
②卑 ヒ（いやしい）（いや・しむ）（しめる）
非 ヒ
①微 ビ
美 ビ うつくしい
備 ビ そなえる そなわる
②眉 ビ（ミ） まゆ
①尾 ビ お
②避 ヒ さける
128 罷 ヒ
226 碑 ヒ
費 ヒ ついやす・ついえる●
①扉 ヒ（ヒ） とびら
悲 ヒ かなしい かなしむ
①被 ヒ こうむる
◎秘 ヒ ひめる○
①疲 ヒ つかれる
飛 ヒ とぶ とばす
63 膝 ひざ
鼻 ビ● はな
◎並 ヘイ なみ ならべる ならぶ ならびに
128 併 ヘイ あわせる
兵 ヘイ ヒョウ
平 ヘイ ビョウ たいら ひら
◆丙 ヘイ
へ
分 ブン フン ブ わける わかれる わかる わかつ
文 ブン モン ふみ○
聞 ブン（モン） きく きこえる
◎奮 フン ふるう
①柄 ヘイ（がら） え
◎陛 ヘイ
②餅 ヘイ もち
◎閉 ヘイ とじる とざす○ しめる しまる
米 ベイ マイ こめ
②弊 ヘイ
60 幣 ヘイ
109 塀 ヘイ
72 〈蔽〉 ヘイ
①癖 ヘキ くせ
①璧 ヘキ
②壁 ヘキ かべ
①別 ベツ わかれる
①蔑 ベツ さげすむ
◎片 ヘン かた○
辺 ヘン あたり べ
返 ヘン かえす かえる
ほ
①捕 ホ とらえる とらわれる とる つかまえる つかまる
60 哺 ホ
保 ホ たもつ
②舗 ホ
◎補 ホ おぎなう
母 ボ は
①墓 ボ はか
②慕 ボ したう
◎暮 ボ くれる くらす
②簿 ボ
方 ホウ かた
包 ホウ つつむ
◎宝 ホウ たから
②奉 ホウ ブ（たてまつ・る）
226 邦 ホウ
②芳 ホウ（かんば・しい）
法 ホウ（ハッ）（ホッ）
①抱 ホウ だく いだく かかえる
放 ホウ はなす はなつ はなれる ほうる

①腐 フ くさる くされる くさらす
②敷 フ しく
①譜 フ
140 賦 フ
②膚 フ
①舞 ブ まう まい
部 ブ
武 ブム
128 侮 ブ（あなど・る）
②封 フウ ホウ
②風 フウ（フ） かぜ かざ
①伏 フク ふせる ふす
服 フク
副 フク
①幅 フク はば
①普 フ
①符 フ
婦 フ
①浮 フ うく うかれる うかぶ うかべる
②赴 フ おもむく
負 フ まける まかす おう
180 訃 フ
◆附 フ
阜 フ
24 怖 フ こわい
府 フ
140 扶 フ
ふ
不 フ ブ
付 フ つける つく
父 フ ちち
夫 フ フウ○ おっと
①瓶 ビン
②敏 ビン
②頻 ヒン
②賓 ヒン
貧 ヒン○ ビン まずしい
①浜 ヒン はま
品 ヒン しな
①猫 ビョウ（ねこ）
①描 ビョウ えがく かく
病 ビョウ（ヘイ） やむ○ やまい
①漂 ヒョウ ただよう
評 ヒョウ
票 ヒョウ
◎俵 ヒョウ たわら
表 ヒョウ おもて あらわす あらわれる
氷 ヒョウ こおり（ひ）
①姫 ひめ
筆 ヒツ ふで
②泌 ヒツ（ヒ）
必 ヒツ かならず
①匹 ヒツ ひき
②肘 ひじ
①苗 ビョウ（なえ） なえ なわ
①標 ヒョウ
秒 ビョウ

①盗 トウ ぬすむ
182 悼 トウ（いた・む）
①陶 トウ
①塔 トウ
②搭 トウ
58 棟 トウ むね（むな）
湯 トウ ゆ
登 トウ のぼる
答 トウ こたえる こたえ
等 トウ ひとしい
①筒 トウ つつ
統 トウ（す・べる）
216 稲 トウ いね いな
①踏 トウ ふむ ふまえる
◎糖 トウ
◆痘 トウ
②洞 ドウ ほら
同 ドウ おなじ
182 騰 トウ
①闘 トウ たたかう
140 藤 トウ ふじ
128 謄 トウ
頭 トウ ズ（ト） あたま かしら○
①峠 とうげ
②匿 トク
特 トク
得 トク える う る●
②督 トク
徳 トク
②篤 トク
①堂 ドウ
童 ドウ わらべ○
①胴 ドウ
動 ドウ うごく うごかす
道 ドウ（トウ） みち
働 ドウ はたらく
銅 ドウ
導 ドウ みちびく
59 瞳 ドウ ひとみ
◆屯 トン
②豚 トン ぶた
◎届 とどける とどく
②突 トツ つく
②凸 トツ
栃 とち
読 ドク トク トウ よむ
毒 ドク
独 ドク ひとり
①媒 バイ
①陪 バイ
②培 バイ（つちかう）
梅 バイ うめ
倍 バイ
売 バイ うる れる
①輩 ハイ
廃 ハイ すたれる すたる
127 敗 ハイ やぶれる
①貿 バイ かう
28 賠 バイ
白 ハク（ビャク） しろ しら しろい
①伯 ハク
①拍 ハク ヒョウ
①泊 ハク とまる とめる
①迫 ハク せまる
◆屯 トン
②肌 はだ
畑 はた はたけ
①漠 バク
麦 バク むぎ○
①薄 ハク うすい うすめる うすまる うすらぐ うすれる
博 ハク（バク）
60 舶 ハク
②剝 〈剥〉 ハク はがす はがれる はぐ はげる
八 ハチ やや やっつ ようか
①縛 バク しばる
①爆 バク
箱 はこ
①箸 はし 〈著〉
南 ナン（ナ） みなみ
②軟 ナン やわらか やわらかい
◎難 ナン（かた・い） むずかしい
112 那 ナ
奈 ナ
内 ナイ ダイ うち
梨 なし
②謎 なぞ
②鍋 なべ
②井 どんぶり どん
①曇 ドン くもる
②鈍 ドン にぶい にぶる
180 貪 ドン むさぼる
58 頓 トン
◆尼 ニ（あま）
◆弐 ニ
肉 ニク
①虹 にじ
日 ニチ ジツ ひ か
②尿 ニョウ
◎乳 ニュウ ち ちち○
入 ニュウ いる れる はいる はいれる
◆妊 ニン
②忍 ニン しのぶ しのばせる
◎認 ニン○ みとめる
②寧 ネイ
①濃 ノウ こい
農 ノウ
◎脳 ノウ
能 ノウ
◎納 ノウ ナッ○ （ナ） トウ● おさめる おさまる
①悩 ノウ なやむ なやます
熱 ネツ あつい
年 ネン とし
念 ネン
①捻 ネン ねばる
②粘 ネン もえる もやす もす
②燃 ネン
58 棟 トウ むね（むな）
湯 トウ ゆ
登 トウ のぼる
答 トウ こたえる こたえ
等 トウ ひとしい
①筒 トウ つつ
統 トウ（す・べる）
216 稲 トウ いね いな
①踏 トウ ふむ ふまえる
◎糖 トウ
の
②把 ハ
波 ハ なみ
◎派 ハ
破 ハ やぶる やぶれる
①覇 ハ
馬 バ うま ま
◆婆 バ
②罵 バ ののしる
◎拝 ハイ おがむ
182 杯 ハイ さかずき
◎背 ハイ せい そむく○ そむける○
②排 ハイ
配 ハイ くばる
◎俳 ハイ
◎肺 ハイ
は
敗 ハイ やぶれる
127 廃 ハイ すたれる すたる
①輩 ハイ
②匿 トク
特 トク
得 トク える う る●
②督 トク
徳 トク
②篤 トク
①堂 ドウ
童 ドウ わらべ○
①胴 ドウ
動 ドウ うごく うごかす
道 ドウ（トウ） みち
働 ドウ はたらく
銅 ドウ
導 ドウ みちびく
59 瞳 ドウ ひとみ
◆屯 トン
②豚 トン ぶた
◎届 とどける とどく
②突 トツ つく
②凸 トツ
栃 とち
読 ドク トク トウ よむ
毒 ドク
独 ドク ひとり
①媒 バイ
①陪 バイ
②培 バイ（つちかう）
梅 バイ うめ
倍 バイ
売 バイ うる れる
①輩 ハイ
廃 ハイ すたれる すたる
127 敗 ハイ やぶれる
①貿 バイ かう
28 賠 バイ
白 ハク（ビャク） しろ しら しろい
①伯 ハク
①拍 ハク ヒョウ
①泊 ハク とまる とめる
①迫 ハク せまる
◆屯 トン
②肌 はだ
畑 はた はたけ
①漠 バク
麦 バク むぎ○
①薄 ハク うすい うすめる うすまる うすらぐ うすれる
博 ハク（バク）
60 舶 ハク
②剝 〈剥〉 ハク はがす はがれる はぐ はげる
八 ハチ やや やっつ ようか
①縛 バク しばる
①爆 バク
箱 はこ
①箸 はし 〈著〉
南 ナン（ナ） みなみ
②軟 ナン やわらか やわらかい
◎難 ナン（かた・い） むずかしい
112 那 ナ
奈 ナ
内 ナイ ダイ うち
梨 なし
②謎 なぞ
②鍋 なべ
②井 どんぶり どん
①曇 ドン くもる
②鈍 ドン にぶい にぶる
180 貪 ドン むさぼる
58 頓 トン
◆尼 ニ（あま）
◆弐 ニ
肉 ニク
①虹 にじ
日 ニチ ジツ ひ か
②尿 ニョウ
◎乳 ニュウ ち ちち○
入 ニュウ いる れる はいる はいれる
◆妊 ニン
②忍 ニン しのぶ しのばせる
◎認 ニン○ みとめる
②寧 ネイ
①濃 ノウ こい
農 ノウ
◎脳 ノウ
能 ノウ
◎納 ノウ ナッ○ （ナ） トウ● おさめる おさまる
①悩 ノウ なやむ なやます
熱 ネツ あつい
年 ネン とし
念 ネン
①捻 ネン ねばる
②粘 ネン もえる もやす もす
②燃 ネン
に
二 ニ ふた ふたつ
な
①鉢 ハチ（ハツ）
発 ハツ ホツ●
①髪 ハツ かみ
①伐 バツ
①抜 バツ ぬく ぬける ぬかす ぬかる
①罰 バツ バチ
28 閥 バツ
反 ハン（ホン） タン● そる そらす
半 ハン なかば
②氾 ハン
犯 ハン おかす○
①帆 ハン ほ
②汎 ハン
②伴 ハン バン ともなう
判 ハン バン
181 藩 ハン
①繁 ハン
①範 ハン
58 頒 ハン
②煩 ハン（ボン） わずら う わずらわす
②搬 ハン
飯 ハン めし
①斑 ハン
①販 ハン
①般 ハン
182 畔 ハン
◎班 ハン
版 ハン
板 ハン バン いた
阪 ハン○
坂 ハン（バン） さか

泡 ホウ あわ 60
胞 ホウ 1
俸 ホウ 72
傲 ホウ（ごう） 60
峰 ホウ みね 2
砲 ホウ 1
崩 ホウ くずれる くずす 2
訪 ホウ おとずれる たずねる ◎
豊 ホウ ゆたか
飽 ホウ あきる あかす 2
褒 ホウ（ほう） ほめる 2
縫 ホウ ぬう 2
報 ホウ むくいる ◎
蜂 ホウ はち 1
忙 ボウ いそがしい 1
乏 ボウ とぼしい 111
亡 ボウ（モウ）（ない） ◎
坊 ボウ 1
妨 ボウ さまたげる 2
忘 ボウ わすれる ◎
防 ボウ ふせぐ
房 ボウ ふさ 1
肪 ボウ 1
某 ボウ 60
冒 ボウ おかす 1
剖 ボウ 2
紡 ボウ（つむぐ） 1
望 ボウ のぞむ モウ ◎
傍 ボウ（かたわら） 2
帽 ボウ 1
棒 ボウ ◎
貿 ボウ
貌 ボウ 2
暴 ボウ バク（あばく） あばれる ◎
膨 ボウ ふくらむ ふくれる 2
謀 ボウ（ム）（はかる） 2
頬 ホオ 1 〈頬〉
北 ホク きた
木 ボク モク き こ
朴 ボク 2
牧 ボク まき ボク ◎
睦 ボク 60
僕 ボク 1
墨 ボク すみ 115
撲 ボク 1
没 ボツ 2
勃 ボツ 2
本 ホン もと 58
奔 ホン 2
翻 ホン（ひるがえる） ひるがえす 2
凡 ボン（ハン） 2
盆 ボン 2
麻 マ あさ 117
摩 マ 1
磨 マ みがく 1
魔 マ 1
毎 マイ
妹 マイ いもうと ◎
枚 マイ ◎
昧 マイ 2
堀 ほり 58
埋 マイ うめる うまる うもれる 1
幕 マク バク ◎
膜 マク 2
枕 まくら 58
又 また 2
末 マツ（バツ） すえ
抹 マツ 1
万 マン バン ◎
満 マン みちる みたす
慢 マン 1
漫 マン 1
未 ミ
味 ミ あじ あじわう
魅 ミ 1
岬 みさき 2
密 ミツ ◎
蜜 ミツ 2
脈 ミャク
妙 ミョウ 1
民 ミン たみ ◎
眠 ミン ねむる ねむい 2
矛 ム ほこ 1
務 ム つとめる つとまる
無 ブ ない
夢 ム ゆめ
霧 ム きり 2
娘 むすめ 1
名 メイ ミョウ な
命 メイ ミョウ いのち ◎
明 メイ ミョウ あかり あかるい あかるむ あかす あかり あける あく あくる あかす
迷 メイ まよう ◎
冥 メイ（ミョウ） 2
銘 メイ 1
盟 メイ ◎
免 メン（まぬかれる） 2
鳴 メイ なく なる ならす
滅 メツ ほろびる ほろぼす 2
面 メン おも おもて（つら） ◎
綿 メン わた
麺 メン 2
模 モ ボ ◎
茂 モ しげる 2
毛 モウ け
妄 モウ（ボウ） 2
盲 モウ ◆
耗 モウ（コウ） 128
猛 モウ 2
網 モウ あみ 1
目 モク ボク め ま ◎
黙 モク だまる 1
門 モン かど ●
問 モン とう とい とん
紋 モン 2
冶 ヤ 59
夜 ヤ よ よる
野 ヤ の
弥 ヤ ◆
厄 ヤク 1
役 ヤク エキ ◎
約 ヤク
訳 ヤク わけ ◎
薬 ヤク くすり
躍 ヤク おどる 1
闇 やみ 1
由 ユウ（ユイ）（よし）
油 ユ あぶら
喩 ユ 〈喩〉 1
愉 ユ 1
諭 ユ さとす 1
輸 ユ
癒 ユ いえる いやす 2
唯 ユイ（イ） 2
友 ユウ とも
有 ユウ ある ユウ ◎
勇 ユウ いさむ
幽 ユウ 28
悠 ユウ 2
郵 ユウ ◎
湧 ユウ わく 2
猶 ユウ 127
裕 ユウ 2
遊 ユウ あそぶ
雄 ユウ おす 2
誘 ユウ さそう 1
憂 ユウ うれえる うれい（ういう） 2
融 ユウ 180
優 ユウ やさしい すぐれる ◎
与 ヨ あたえる 1
予 ヨ
余 ヨ あまる あます
誉 ヨ ほまれ 2
預 ヨ あずける あずかる ◎
幼 ヨウ おさない ◎
用 ヨウ もちいる
羊 ヨウ ひつじ
妖 ヨウ あやしい ◆
洋 ヨウ

要 ヨウ かなめ いる ○
容 ヨウ
葉 ヨウ は
陽 ヨウ
庸 ヨウ 128
揚 ヨウ あげる あがる 1
揺 ヨウ ゆれる ゆる ゆらぐ ゆるぐ ゆする ゆさぶる ゆすぶる 1
溶 ヨウ とける とかす とく 2
腰 ヨウ（こし） 1
様 ヨウ さま
踊 ヨウ おどる おどり 1
瘍 ヨウ 24
窯 ヨウ（かま） 1
養 ヨウ やしなう
擁 ヨウ 2
謡 ヨウ（うたい）（うたう） 1
曜 ヨウ
抑 ヨク おさえる 1
沃 ヨク 2
浴 ヨク あびる あびせる
欲 ヨク（ほっする） ほしい ◎
翌 ヨク ◎
翼 ヨク つばさ 1
羅 ラ 2
裸 ラ はだか 2
拉 ラ ◆
来 ライ くる きたる きたす ○
雷 ライ かみなり 1
頼 ライ たのむ たのもしい たよる 1
絡 ラク（からむ）（からまる）（からめる） 1
落 ラク おちる おとす
酪 ラク 2
辣 ラツ 140
乱 ラン みだれる みだす ◎
卵 ラン（たまご） ◎
覧 ラン ◎
濫 ラン 2
藍 ラン（あい） 59
欄 ラン 2
利 リ（きく）
里 リ さと
吏 リ 2
理 リ
痢 リ ◆
裏 リ（うら） ◎
履 リ はく 1
璃 リ ◆
離 リ はなれる はなす 1
陸 リク
旅 リョ たび
虜 リョ ◆
隆 リュウ 128
粒 リュウ つぶ 2
竜 リュウ たつ 2
硫 リュウ 59
侶 リョ 60
了 リョウ 1
虜 リョ 1
両 リョウ
良 リョウ よい
料 リョウ
涼 リョウ すずしい すずむ 1
猟 リョウ 2
陵 リョウ（みささぎ） 2
量 リョウ はかる
僚 リョウ 60
領 リョウ
寮 リョウ 140
療 リョウ 2
瞭 リョウ 1
糧 リョウ（ロウ）（かて） ◆
力 リョク リキ ちから
緑 リョク（ロク） みどり
林 リン はやし
輪 リン わ
隣 リン となる となり 1
厘 リン ◆
倫 リン 2
両 リョウ
戻 レイ（もどす） もどる 1
例 レイ たとえる
冷 レイ つめたい ひえる ひやす ひやかす さめる さます
礼 レイ（ライ）
令 レイ
励 レイ はげむ はげます 2
麗 レイ（うるわしい） 1
齢 レイ 1
隷 レイ 128
霊 レイ（リョウ）（たま） 1
零 レイ 2
鈴 レイ リン すず 2
類 ルイ たぐい 1
塁 ルイ 1
累 ルイ 1
涙 ルイ なみだ 1
瑠 ル ◆
留 リュウ ル とめる とまる
流 リュウ（ル） ながれる ながす
柳 リュウ やなぎ 2
略 リャク
慮 リョ 1
虜 リョ ◆
了 リョウ 1
両 リョウ
良 リョウ よい
料 リョウ
涼 リョウ すずしい すずむ 1
猟 リョウ 2
陵 リョウ（みささぎ） 2
量 リョウ はかる
僚 リョウ 60
領 リョウ
寮 リョウ 140
療 リョウ 2
瞭 リョウ 1
糧 リョウ（ロウ）（かて） ◆
力 リョク リキ ちから
緑 リョク（ロク） みどり
林 リン はやし
輪 リン わ
隣 リン となる となり 1
厘 リン ◆
倫 リン 2
両 リョウ
戻 レイ（もどす） もどる 1
例 レイ たとえる
冷 レイ つめたい ひえる ひやす ひやかす さめる さます
礼 レイ（ライ）
令 レイ
励 レイ はげむ はげます 2
麗 レイ（うるわしい） 1
齢 レイ 1
隷 レイ 128
霊 レイ（リョウ）（たま） 1
零 レイ 2
鈴 レイ リン すず 2
類 ルイ たぐい 1
塁 ルイ 1
累 ルイ 1
涙 ルイ なみだ 1
瑠 ル ◆
留 リュウ ル とめる とまる
流 リュウ（ル） ながれる ながす
柳 リュウ やなぎ 2
略 リャク
虜 リョ ◆
漏 ロウ もる もれる もらす 28
楼 ロウ 2
廊 ロウ 1
浪 ロウ 2
朗 ロウ ほがらか ◎
郎 ロウ 2
弄 ロウ もてあそぶ 181
労 ロウ
老 ロウ おいる（ふける）
露 ロ ロウ つゆ 1
路 ロ じ
賂 ロ ◆
炉 ロ 114
呂 ロ 2
廉 レン 2
練 レン ねる
錬 レン 226
連 レン つらなる つらねる つれる
恋 レン こう こい こいしい 2
裂 レツ さく さける 2
烈 レツ 1
劣 レツ おとる 1
列 レツ
歴 レキ
暦 レキ こよみ 2
籠 ロウ（かご） こもる 1
六 ロク むつ むっつ むい
録 ロク
麓 ロク ふもと 182
論 ロン ◎
和 ワ（オ） やわらぐ やわらげる なごむ なごやか ○
話 ワ はなす はなし
賄 ワイ まかなう 180
脇 わき 58
枠 わく 59
惑 ワク まどう 1
湾 ワン 28
腕 ワン うで 1
理 リ
痢 リ ◆
裏 リ（うら） ○
履 リ はく 1
璃 リ ◆
離 リ はなれる はなす 1
陸 リク
旅 リョ たび
虜 リョ ◆
隆 リュウ 128
粒 リュウ つぶ 2
竜 リュウ たつ 2
硫 リュウ 59
侶 リョ 60
了 リョウ 1
虜 リョ 1
両 リョウ
良 リョウ よい
料 リョウ
涼 リョウ すずしい すずむ 1
猟 リョウ 2
陵 リョウ（みささぎ） 2
量 リョウ はかる
僚 リョウ 60
領 リョウ
寮 リョウ 140
療 リョウ 2
瞭 リョウ 1
糧 リョウ（ロウ）（かて） ◆
力 リョク リキ ちから
緑 リョク（ロク） みどり
林 リン はやし
輪 リン わ
隣 リン となる となり 1
厘 リン ◆
倫 リン 2
両 リョウ
戻 レイ（もどす） もどる 1
例 レイ たとえる
冷 レイ つめたい ひえる ひやす ひやかす さめる さます
礼 レイ（ライ）
令 レイ
励 レイ はげむ はげます 2
麗 レイ（うるわしい） 1
齢 レイ 1
隷 レイ 128
霊 レイ（リョウ）（たま） 1
零 レイ 2
鈴 レイ リン すず 2
類 ルイ たぐい 1
塁 ルイ 1
累 ルイ 1
涙 ルイ なみだ 1
瑠 ル ◆
留 リュウ ル とめる とまる
流 リュウ（ル） ながれる ながす
柳 リュウ やなぎ 2
略 リャク
虜 リョ ◆
漏 ロウ もる もれる もらす 28
楼 ロウ 2
廊 ロウ 1
浪 ロウ 2
朗 ロウ ほがらか ◎
郎 ロウ 2
弄 ロウ もてあそぶ 181
労 ロウ
老 ロウ おいる（ふける）
露 ロ ロウ つゆ 1
路 ロ じ
賂 ロ ◆
炉 ロ 114
呂 ロ 2
廉 レン 2
練 レン ねる
錬 レン 226
連 レン つらなる つらねる つれる
恋 レン こう こい こいしい 2
裂 レツ さく さける 2
烈 レツ 1
劣 レツ おとる 1
列 レツ
歴 レキ
暦 レキ こよみ 2
籠 ロウ（かご） こもる 1
六 ロク むつ むっつ むい
録 ロク
麓 ロク ふもと 182
論 ロン ◎
和 ワ（オ） やわらぐ やわらげる なごむ なごやか ○
話 ワ はなす はなし
賄 ワイ まかなう 180
脇 わき 58
枠 わく 59
惑 ワク まどう 1
湾 ワン 28
腕 ワン うで 1

常用漢字表 付表

漢字

明日　小学校で学習した語
①田舎　初出が一年生の語
②笑顔　初出が二年生の語
305 小豆　初出が三年生の語
数字は教科書での初出ページを示す。
◆息吹　中学校では学習しなくてもよい語

	明日	あす							
305	小豆	あずき	◆	海女・海士	あま				
59	硫黄	いおう	305	意気地	いくじ	①	田舎	いなか	
◆	息吹	いぶき	①	田舎	いなか	305	海原	うなばら	
305	乳母	うば	◆	浮気	うわき	305	浮つく	うわつく	
②	笑顔	えがお	②	叔父・伯父	おじ				
	大人	おとな	59	乙女	おとめ	②	叔母・伯母	おば	
305	お巡りさん	おまわりさん	◆	お神酒	おみき	◆	母屋・母家	おもや	
◆	母さん	かあさん	◆	神楽	かぐら	◆	河岸	かし	
59	鍛冶	かじ	①	風邪	かぜ	①	固唾	かたず	
①	仮名	かな	◆	蚊帳	かや				
305	為替	かわせ	284	河原・川原	かわら	181	昨日	きのう	
◆	今日	きょう	◆	玄人	くろうと				
◆	果物	くだもの	◆	今朝	けさ	◆	景色	けしき	
①	心地	ここち	◆	居士	こじ	◆	今年	ことし	
305	早乙女	さおとめ	◆	雑魚	ざこ	◆	桟敷	さじき	
①	差し支える	さしつかえる	299	五月	さつき	305	早苗	さなえ	
59	五月雨	さみだれ	①	時雨	しぐれ	①	尻尾	しっぽ	
181	竹刀	しない	181	老舗	しにせ				
305	芝生	しばふ		清水	しみず	181	砂利	じゃり	
◆	数珠	じゅず		上手	じょうず	②	白髪	しらが	
◆	素人	しろうと	◆	師走	しわす・しはす	◆	数寄屋・数奇屋	すきや	
①	相撲	すもう	305	草履	ぞうり	◆	山車	だし	
②	太刀	たち	305	立ち退く	たちのく	①	足袋	たび	
	七夕	たなばた	◆	稚児	ちご		一日	ついたち	
◆	築山	つきやま	①	梅雨	つゆ	181	凸凹	でこぼこ	
	手伝う	てつだう	◆	伝馬船	てんません		二日	ふつか	
59	吹雪	ふぶき		眼鏡	めがね	◆	猛者	もさ	
①	木綿	もめん	①	紅葉	もみじ	181	最寄り	もより	
◆	八百長	やおちょう		八百屋	やおや	①	大和	やまと	
305	弥生	やよい	◆	浴衣	ゆかた	196	行方	ゆくえ	
◆	寄席	よせ	305	若人	わこうど				
◆	割烹	わりぽう							

伝統的な言語文化

あ
- 東歌……152
- 一・二点……41
- 置き字……41
- 送り仮名［漢文］……41

か
- 返り点……41
- 掛詞……155
- 歌舞伎……284
- 句読点［漢文］……41
- 限取……284
- 訓読……41

さ
- 防人 歌……152
- 三十六歌仙……147
- 時代物……285
- 上・下点……41
- 浄瑠璃……284
- 序詞……155
- 世話物……285

た
- 長歌……151
- 勅撰和歌集……146

な
- 人形浄瑠璃……284

は
- 俳諧……164
- 白文……41
- 反歌……151
- 文楽……284
- 発句……164

ま
- 枕詞……155

ら
- レ点……41
- 連句……164
- 六歌仙……147

わ
- 和歌……146

文法・言葉・漢字

か
- 外来語……73
- カ行変格活用（カ変）……237
- 活用……229・237
- 活用形……237
- 仮定形……237
- 上一段活用……237
- 漢語……72
- 感動詞……229
- 慣用句……122
- 敬語……36
- 形容詞……229
- 形容動詞……229
- 呼応の副詞……231
- 語幹……237
- 故事成語……123
- 五段活用……237
- ことわざ……123
- 混種語……73

さ
- サ行変格活用（サ変）……237
- 下一段活用……237
- 終止形……237
- 修飾語……228
- 修飾・被修飾の関係……228
- 修飾部……228
- 重箱読み……58
- 熟語……58
- 熟字訓……59
- 主語……228
- 主・述の関係……228
- 述語……228
- 述部……228
- 主部……228
- 助詞……229・239
- 助動詞……229
- 自立語……229
- 接続語……228
- 接続詞……229
- 接続の関係……228
- 接続部……228

た
- 体言……229
- 単語……228
- 動詞……229
- 独立語……228
- 独立の関係……228
- 独立部……228

は
- 品詞……229
- 副詞……229
- 付属語……229
- 文……228
- 文節……228・230
- 文の成分……228
- 翻訳語……126

ま
- 未然形……237
- 名詞……229
- 命令形……237

や
- 湯桶読み……58
- 用言……229

ら
- 連体形……237
- 連体詞……229
- 連文節……228・230
- 連用形……237

わ
- 和語……72

［索引］学習のための用語一覧

教科書で学習する主な用語を、領域ごとに五十音順にまとめた。数字は、用語について主に解説しているページを示す。必要に応じて活用し、言葉の力を身につけよう。

話すこと・聞くこと／書くこと

あ
- ICT……12・337
- アンソロジー……14
- 意見……30・55
- 引用……137

か
- 会議……186・266
- グラフ……56
- グループ・ディスカッション……266
- 合意形成……187
- 構成……33
- 根拠……55

さ
- 質問……124
- 小論文……54
- シンポジウム……266
- 推敲……120
- スピーチ……32
- 説得……33

た
- 対談……124
- ディベート……266

は
- パネルディスカッション……266
- 批評文……136
- 評価……14・30
- ブレーンストーミング……186・267
- 文章の種類……220

ら
- 論理の展開……55・120・137

わ
- ワールド・カフェ……267

読むこと

あ
- 韻文……63・256

か
- 回想……27・256
- 語り手……257
- 季語……62
- 切れ字……63

さ
- 歳時記……63
- 散文……62・256
- 自由律俳句……64
- 序論・本論・結論……258
- 図表……259

た
- 段落の役割……258
- 展開……27
- 登場人物の設定……256

は
- 俳句……62
- 場面……256
- 場面の展開……256
- 批判的に読む……135
- 批評……119・257
- 評価……135
- 描写……257
- 文章の構成……258

ま
- 無季俳句……64

や
- 有季定型……63
- 要旨……259
- 要約……259

ら
- 論説……51・258
- 論理の展開……51

情報／読書

あ
- 引用……264
- 円グラフ……265
- 帯グラフ……265
- 折れ線グラフ……265

か
- 具体……52
- 具体化……52

さ
- 実用的な文章……76
- 出典……264
- 情報の信頼性……84

た
- 抽象……52
- 抽象化……52
- 著作権……264

は
- ブックレビュー……86
- 棒グラフ……265
- 報道文……78

ま
- メディア……84

編集委員
甲斐睦朗　元国立国語研究所所長
阿辻哲次　京都大学名誉教授
飯田 良　秀明大学特任教授
池上 彰　ジャーナリスト
井上一郎　前京都女子大学教授
甲斐利恵子　軽井沢風越学園教諭
河合章男　俳句図書館 鳴弦文庫館長
佐藤洋一　愛知教育大学名誉教授
宗我部義則　お茶の水女子大学附属中学校副校長
田中牧郎　明治大学教授
冨山哲也　十文字学園女子大学教授
仁田義雄　大阪大学名誉教授
藤森裕治　文教大学教授
松野洋人　山梨学院短期大学特任教授
森山卓郎　早稲田大学教授
髙木まさき　横浜国立大学名誉教授
阿部 昇　秋田大学名誉教授
幾田伸司　鳴門教育大学大学院教授
石野正彦　前上越教育大学教授
植田恭子　前大阪市立昭和中学校教諭
上谷順三郎　鹿児島大学教授
岸田正幸　和歌山信愛大学教授
佐渡島紗織　前早稲田大学教授
高橋 伸　札幌国際大学教授
田中洋一　東京女子体育大学名誉教授
中村 浩　山口短期大学教授
萩中奈穂美　福井大学准教授
舟橋秀晃　大和大学教授
三浦登志一　山形大学学術研究院教授
渡邉光輝　お茶の水女子大学附属中学校教諭

カラーユニバーサルデザインに関する校閲
市原恭代　工学院大学准教授 NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構（CUDO）理事
特別支援教育に関する校閲
氏間和仁　広島大学大学院教授
学習のユニバーサルデザインに関する校閲
小貫 悟　明星大学教授
人権に関する校閲
出口真紀子　上智大学教授
外国人児童生徒等教育に関する校閲
浜田麻里　京都教育大学教授
防災教育に関する校閲
木村玲欧　兵庫県立大学教授

光村図書出版株式会社　編集部

文章・校閲　阿部彩子／鈴木宏枝／竹田青嗣／東野泰子／横田順子
挿絵・図　秋葉あきこ／新井陽次郎／碇 優子／川口澄子（水登舎）／川崎由紀／ジェイ・マップ／白井 匠／スケラッコ／図工室／タラジロウ／津田蘭子／ながしまひろみ／ねもときょうこ／花松あゆみ／坂内 拓／平田利之
写真　アフロ／アマナイメージズ／出光美術館／ACジャパン／お茶の水女子大学附属中学校／ゲッティ・イメージズ／国立劇場／国立国会図書館／国立文楽劇場／国立歴史民俗博物館／さいたま文学館／Cynet Photo／シーピーシー／Shutterstock／新津保建秀／竹沢うるま／多太神社 実盛之兜保存会／垂見健吾／中尊寺／TNM Image Archives／天理大学附属天理図書館／東京国立博物館／東京新聞／東京スポーツ／長岡博史／中尾松泉堂書店／鍋島報效会／日刊工業新聞社／日本近代文学館／林 忠彦／藤田記念館／堀田芳香／湊 和雄／明治大学図書館／藤田三男編集事務所／文京区立森鷗外記念館／堀田芳香／湊 和雄／明治大学図書館／藤田三男編集事務所／文京区立森鷗外
動画・音声　NHK財団／福永大輔
協力　朝日新聞社／オフィスムーブ／共同通信社／講談社／千葉信胤／東宝芸能／PMS・ペシャワール会／文藝春秋／毎日新聞社／読売新聞社／REISSUE RECORDS
硬筆・毛筆　滝口雅弘／宮澤正明
表紙　宮原葉月「変容」
巻頭写真　古性のち「花時」（岡山県）
アート・ディレクション／デザイン　ディグ（松本知彦／成宮 成／山崎綾子／峰村沙那／坂本弓華／永田理沙子）

国語3
38光村　国語038-92　中学校国語科用
令和八年二月一日印刷
令和八年二月五日発行
（令和六年三月一日検定済）
定価　文部科学大臣が認可し公示した定価（右記の定価は、各教科書特約供給所及び取次供給所に表示します。）

著作者
甲斐睦朗（ほか三十六名別記）
発行者
光村図書出版株式会社
代表者　吉田直樹
東京都品川区上大崎二-十九-九
印刷者
協和オフセット印刷株式会社
代表者　稲垣健一
東京都港区浜松町一-三-一
株式会社加藤文明社
代表者　加藤文男
東京都千代田区神田三崎町二十五-六
発行所
光村図書出版株式会社
東京都品川区上大崎二-十九-九
電話（〇三）三四九三-二一一一（代表）

この教科書に基づくワークブック・解説書、ならびにこれに類するものの無断発行を禁じます。

ISBN978-4-8138-0426-0

［協力・国際連合］　The content of this publication has not been approved by the United Nations and does not reflect the views of the United Nations or its officials or Member States. (https://www.un.org/sustainabledevelopment/)

［協力・プリンストン大学出版局］　Used with permission of Princeton University Press, from Beyond Global Warming : How Numerical Models Revealed the Secrets of Climate, Syukuro Manabe and Anthony J. Broccoli,2020; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.

ICT活用のヒント

国語の学習の中で、ICT機器を活用すると効果的な場面を示している。使用してよいかどうかを確かめたうえで、主体的に活用しよう。

ICT ICTを活用すると効果的な学習場面。　二次元コードから学習の参考資料を閲覧できる。

ICTの活用場面

話すこと・聞くこと

書くこと

読むこと

見通しをもつ

右表❶学びの地図　デジタル版「学びのカギ」一覧。
これから学ぶこと、これまでに学んだことが、いつでも確認できる。

知識・技能の習得

1 集める・整理する

ICTを活用して、情報を集めたり整理したりしよう。
右表❸「話す・聞く」表現テーマ例集
何を話すか迷ったら参考にしよう。

1 集める・整理する

右表❹書くことのミニレッスン
書く前の準備運動。これまでに学んだ基礎・基本を思い出そう。



1 捉える

文章の構成と内容を確かめよう。
右表❽漢字の練習／漢字一覧表
その教材で学ぶ新出漢字・新出音訓の読み方を確認しよう。
右表❼朗読音声
古典の文章の読み方を確認し、読み慣れるまで音読しよう。

情報収集 情報整理

自分の考えを深める

2 組み立てる 3 伝え合う

動画や音声を視聴し、効果的な話し方や話し合いのしかたを確かめよう。

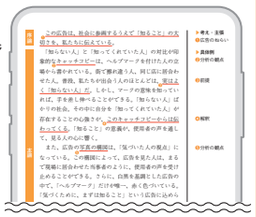


右表❷「話す・聞く」動画・音声
話し合いで出た提案を思考ツールで評価し、参加者で共有するのも効果的だ。
ICT 話し合いを可視化する ➡187ページ

2 組み立てる 3 表現する

ICT機器を使うと、構成の変更や推敲、下書き段階での情報共有がしやすい。

ICT 批評文 ➡139ページ



右表❹書くことのミニレッスン
推敲する ➡120ページ（推敲の練習問題）

2 読み深める

示された図表や写真、動画や音声などと関連づけながら、理解を深めよう。
右表❻「読むこと」教材の資料



ドラミングをするゴリラ
動画

3 自分の考えをもつ

著者の考えと比べながら、自分の考えをもとう。



右表❻「読むこと」教材の資料

考えを表現する

友達との交流・共有

4 共有する

録音・録画した活動を視聴し、確認しよう。
ICT 録画して振り返る ➡34ページ

4 共有する

ICTを活用して、助言や感想を交流しよう。
ICT 文章を共有し、助言する ➡138ページ

振り返る

右表❶学びの地図
ここで学んだことが、今後どのような学習に生かせるかを確かめ、次につなげよう。

右表❶国語の力試し
身につけた資質・能力を生かして、問題に取り組もう。タブレットやパソコンでも解答できる。



二次元コード一覧

資料デジタル目次

教科書の該当ページに示されている二次元コードから、学習の参考となる資料を読み取ることができる。インターネットの環境によっては、通信料が発生する場合があるので注意しよう。

❶見通しをもつ・振り返る
27他 学びの地図
※全ての「学びのカギ」から閲覧可能。
242 国語の力試し

❷「話す・聞く」動画・音声
29 スピーチを聞く（問題）
34 スピーチをする
124 対談をする
183 話し合いを効果的に進める（問題）
188 会議を開く
244 国語の力試し（問題）

❸「話す・聞く」表現テーマ例集
32 「スピーチ」のテーマ例
186 「会議」のテーマ例

❹書くことのミニレッスン（ワーク）
54 グラフを読み取る
120 推敲する
136 多角的に分析する

❺「書くこと」表現テーマ例集
54 「小論文」のテーマ例
136 「批評文」のテーマ例

❻「読むこと」教材の資料
45 ドラミングをするゴリラ
49 山極寿一さんインタビュー記事
67 句会の様子
130 気候変動に関する基礎資料
伊勢武史さん・堅達京子さん インタビュー

❼朗読音声
38 論語
142 初恋
148 古今和歌集 仮名序
150 万葉・古今・新古今
156 おくのほそ道

❽新出漢字・新出音訓
25他 漢字の練習／漢字一覧表
※全ての新出漢字・新出音訓欄から閲覧可能。漢字教材は一覧表のみ。

❾「文法への扉」ワーク／練習問題
31 文法への扉 1
230 文法 1
141 文法への扉 2
233 文法 2

❿言葉／語彙教材の資料
247 言葉の宝箱（小学校）
247 語彙ブック 1・2年

⓫資料編
255 資料編デジタル
・発想を広げる―表現テーマ例集
・グラフの見方／引用・出典
・話し合いの方法
・インタビューをする
・インターネットの活用
・いろいろな通信文
・歴史的仮名遣いの読み方
・漢文の訓読
・読書感想文の書き方
・文章の推敲・原稿用紙の使い方
・平仮名と片仮名（五十音図）
・ローマ字一覧表
・キーボード配列表